

病院年報

第 28 号（平成 27 年度）



八尾市立病院

基本理念

- 一．地域住民の健康な生活を守るため、高度で良質な医療を提供します。
- 一．信頼される市の中核病院として、地域に密着した医療を推進します。
- 一．市民に誇れる公立病院として、品格ある病院運営を実践します。

基本方針

- 1．医療安全を重視し、医療ニーズに対応した高度医療・急性期医療を充実させます。
- 2．地域の医療機関との連携の強化と、保健・福祉分野との役割分担により、地域完結型の医療を確立します。
- 3．救急医療、小児・周産期医療、災害医療などの政策医療を確保します。
- 4．患者の意思と権利を尊重し、市民に信頼される病院をめざします。
- 5．良心に基づく運営と公民協働による健全経営の維持により、職員が誇れる病院を追求します。
- 6．医療従事者の教育・研修の充実により、医療水準の向上に努めます。

患者の権利章典

- 1．個人の人格および価値観は尊重され、だれでも等しく安全で良質な医療を受ける権利があります。
- 2．自分の受ける医療について、必要な情報が提供され、十分な説明を受けた上で、自分の意思で治療方法などを選択し、決定する権利があります。
- 3．自分の受ける医療について、納得できるまで質問でき、さらに不明の点があれば診療情報の提供やカルテ開示を求める権利があります。
- 4．個人情報および診療情報は厳密に保護され、プライバシーを尊重される権利があります。
- 5．自分の受ける医療について、他の医師の意見を聞いたり（セカンドオピニオンを含む）、他の医療機関を受診する権利があります。
- 6．自分の健康に関する情報を正しく伝えるとともに、他の患者の診療を妨げないように配慮する責務があります。

平成 27 年度病院年報 挨拶

平成 14 年より内科系副院長として当院に赴任してから新病院開院準備を 2 年間行い、平成 16 年からは日本初の病院 P F I 事業として手探り状態での新病院の船出が始まった。平成 27 年 4 月に当院の診療・看護の体制が刷新され、病院長を拝命した。現在の我が国は世界にも類を見ない超高齢社会に突入し、医療への社会的ニーズが変化している。その状況を見極め、市立病院に求められる役割を実現していくため、就任にあたり病院職員に対し「3 本の矢を“市立病院チーム”一丸となり推進していく」というメッセージを発した。

1 本目の矢は「急性期病院機能の充実」である。国が進める地域包括ケアシステムの中で、当院が果たすべき役割として、高度で良質な医療を提供できる急性期病院機能を充実させることが重要と考えている。その実現のために医療提供体制や高度医療機器（放射線治療装置、血管造影装置など）の整備等を推進してきた。緩和ケア病棟の構築など地域医療構想が本格化する未来に向けての方向性の修正は今後の課題である。

2 本目の矢は「地域医療支援病院としての活動の継続」である。平成 24 年 11 月に地域医療支援病院の指定を受け、地域の医療機関の先生方との連携をさらに深めており、紹介率 50%以上・逆紹介率 70%以上を今年度も保持した。今後更なる取り組みとして、がん相談支援センターや緩和ケアセンターをはじめとする相談・患者サポート機能と情報提供機能、二次救急部門の充実等が必要になる。救急搬送の応需率は約 70%前後と過去最高となっているが、内科系診療科の更なる充実が必要であり、関係各大学への働きかけは長年の重要課題である。市民向けの情報提供としては、以前から行ってきた八尾市立病院公開講座を年 5 回行うとともに、今年度から市民の求める講演内容・場所に出前講座として当院スタッフが出向いて話題提供を行っており、これに対して平成 27 年末に職員表彰された。

3 本目の矢は「地域がん診療連携拠点病院としての活動の定着化」である。平成 27 年 4 月に府指定から国指定の連携拠点病院と格上げになったが、実績や機能についての要件のハードルが高く、活動の定着化には病院の総合力が問われる状況である。地域医療連携室・がん相談支援センター・緩和ケアセンターの統合的な強化が必須であり、がん診療連携拠点にふさわしい病院づくりを進めてきた。緩和ケア研修会を今年度も本院で行い、小生も病院長として研修会に参加し緩和ケアの現在の考え方に触れることができたのは大きな収穫であった。院内に地域がん診療連携拠点病院運営委員会を新しく発足させ病院内の情報共有化とめざすべき方向性を明確にして有機的な統合を図ることにより、種々の課題を解決すべく一層の努力が今後も必要である。

当院では平成 27 年 4 月から病院の「基本理念」「基本方針」を新しくし、「患者の権利章典」を見直した。「高度で良質な医療の提供」「地域に密着した医療の推進」「品格ある病院運営の実践」といった病院の基本理念の実現のためには、3 本の矢を束ねる組織力が必要である。平成 27 年度まで連続 5 年間黒字化を達成してきたが、従来から進めてきたチーム医療・TQM活動を発展させ、職員一同さらに団結して市民が誇れる病院をめざしていきたい。

病院長 星田 四朗

目 次

病院の沿革

病院の沿革	1
-------	---

病院の現況

概要	5
認定・指定	6
機構	7
院内管理体制	8
院内会議・委員会	9
病院職員	
1. 病院職員	14
2. 人員配置表	18
八尾市立病院自衛消防組織編成表	20

診療局の現況

診療局の現況	21
内科の現況	22
血液内科の現況	26
消化器内科の現況	27
循環器内科の現況	29
外科の現況	
一般外科・消化器外科	31
呼吸器外科	33
乳腺外科の現況	35
脳神経外科の現況	36
整形外科の現況	38
形成外科の現況	39
産婦人科の現況	40
小児科の現況	42
新生児集中治療部の現況	44
眼科の現況	46
耳鼻咽喉科の現況	47
泌尿器科の現況	49
皮膚科の現況	52
リハビリテーション科の現況	54
麻酔科の現況	55
放射線科の現況	
放射線科・放射線診断科	56
放射線治療科	58
歯科口腔外科の現況	59
病理診断科の現況	61
集中治療部の現況	63
救急診療科の現況	64
中央手術部の現況	66
通院治療センターの現況	67
内視鏡センターの現況	69
糖尿病センターの現況	71
健診センターの現況	73
中央検査部の現況	74
MEセンターの現況	77
がん相談支援センターの現況	79

緩和ケアセンターの現況	82
栄養科の現況	84
薬剤部の現況	86
臨床研究センターの現況	93
地域医療連携室の現況	96
診療情報管理室の現況	98
医療安全管理室の現況	104
看護部の現況	
看護部の現況	106
1. 看護部委員会活動状況	108
2. 認定看護師の活動状況	111
3. 院外活動状況	116
4. 体験学習受け入れ	116
事務局の現況	
事務局企画運営課の現況	117
P F I 事業の現況	
八尾医療 P F I 株式会社（S P C）の現況	122
経営状況	
1. 収益費用明細書	
（1）収益の部	124
（2）費用の部	125
2. 資本的収入及び支出明細書	
（1）資本的収入の部	126
（2）資本的支出の部	126
3. 比較貸借対照表	126
4. 経営分析表	127
5. 財務分析表	128
業務状況	
1. 患者状況	
（1）外来患者数	129
（2）入院患者数	129
（3）外来・入院別、診療科別、月別患者数	130
（4）地域別患者数	132
（5）診療科別救急取扱患者数	133
（6）紹介率	135
（7）逆紹介率	136
（8）逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数	137
2. 診療収益状況	
（1）医業収益（外来）	138
（2）医業収益（入院）	138
（3）診療科別診療収益	139
3. T Q M活動	140
4. チーム医療活動	141
5. 大規模災害発生時のトリアージセンター立ち上げ・応急救護訓練	142
6. 自衛消防訓練	142
7. 八尾市立病院公開講座	143
8. 八尾地域医療合同研究会	144
9. 業績集	145

病 院 の 沿 革

病 院 の 沿 革

昭和 21 年	5 月	日本医療団八尾病院開設、八尾町西郷
昭和 23 年	4 月	八尾市誕生、市立八尾市民病院と名称変更
昭和 24 年	8 月	八尾市太子堂(現 南太子堂)に木造 2 階建、延324坪の新築工事着工
昭和 25 年	2 月	市立八尾市民病院開院、内科・外科・産婦人科・歯科・放射線科の 5 科を設置 病床数32床
	8 月	皮膚泌尿器科開設、中央館完成、20床増床、病床数52床
昭和 26 年	10 月	結核病棟完成、50床増床、病床数102床
昭和 28 年	2 月	八尾市民病院の名称を廃止、八尾市立病院と呼称、小児科開設
	4 月	眼科・耳鼻咽喉科開設(診療科 9 科)
	6 月	本館棟完成、76床増床、病床数178床
	9 月	中央館第 1 病棟 7 床増床、病床数185床
昭和 29 年	12 月	看護婦宿舍増築及び中央館改造工事完成、2 床増床、病床数187床
昭和 31 年	1 月	整形外科独立(診療科10科)
	10 月	平屋建一般病棟新築竣工(新館と呼称、後に南館と名称変更) 40床増床、病床数227床
昭和 32 年	2 月	円形伝染病棟竣工、鉄筋 3 階建370坪、66床
	5 月	円形看護婦宿舍竣工
	8 月	総合病院の承認を受ける
昭和 33 年	11 月	基準看護『1 類』、基準給食の実施の承認を受ける
昭和 34 年	4 月	市立 4 診療所(西郡、大正、南高安、高安)市立病院に統合 (その後35、36年にいずれも民間移管或いは廃止)
昭和 36 年	1 月	中央検査科独立
	10 月	全病棟に基準寝具実施
	12 月	新館(北館)・玄関棟・レントゲン棟竣工、病床数309床
昭和 39 年	1 月	泌尿器科独立
	4 月	昭和39年度会計から企業会計方式採用(地方公営企業法一部適用)
昭和 41 年	4 月	歯科廃止
	7 月	南館病室増築工事完成
	10 月	中館新築工事完成、病床数339床
昭和 42 年	4 月	社会保険診療報酬点数表『乙表』に切り替え
昭和 44 年	1 月	放射線科 X 線テレビ装置購入
昭和 47 年	2 月	基準看護『特類』承認、リハビリ棟新築、看護婦宿舍増築工事竣工
昭和 48 年	3 月	アイソトープ治療装置購入
	8 月	本館、北館及びコバルト60棟改築工事完成 病床数412床(一般346床、伝染66床)
昭和 49 年	10 月	基準看護『特 2 類』実施
昭和 50 年	1 月	公立病院特例債借入(668, 400千円)
昭和 52 年	12 月	中館 2 階分娩室改修工事完了
昭和 53 年	3 月	X 線新型テレビ装置設置
	4 月	八尾市立病院院内学級開設
	11 月	スプリンクラー設置
昭和 54 年	11 月	病院事業経営健全化団体指定の認可
昭和 55 年	9 月	南館病棟増改築工事完成。病床数446床(一般380床、伝染66床)
昭和 56 年	11 月	理学療法科開設
昭和 57 年	12 月	コバルト60線源入替え
昭和 58 年	3 月	病院事業経営健全化措置実施要領による経営健全化完了
	9 月	全身用コンピュータ X 線断層撮影装置設置
昭和 59 年	9 月	多項目自動血球計数装置設置
昭和 60 年	9 月	医事業務を中心にコンピュータ導入
昭和 62 年	10 月	X 線テレビ撮影装置(ジャイロ)入替え、カセットレス X 線テレビ装置設置
	11 月	人間ドック開設
昭和 63 年	5 月	内科改装
	7 月	中館 2 階病棟基準看護『特 3 類』実施
	11 月	病棟科別再編成

平成	元 年	5 月	外科・整形外科・皮膚科改装
平成	2 年	1 月	循環器X線検査システム及びD S A装置設置
		5 月	小児科・泌尿器科改装
		7 月	コバルト60線源入替え
		12 月	内視鏡ビデオ情報システム設置
平成	3 年	3 月	東側駐車場増設整備
		5 月	産婦人科・眼科改装
平成	4 年	5 月	耳鼻咽喉科改装
平成	5 年	1 月	C T装置新機種に更新設置
		4 月	内科、外科、小児科以外の診療科につき土曜日休診を実施 内科において、午後の一般外来診療を開始
		8 月	来院者用駐車場有料化実施
		9 月	中館3階、南館3階病棟『特3類』実施 病棟科別病床再編成
		12 月	北館4階病棟『特3類』実施
平成	6 年	4 月	産婦人科 土曜日の外来診療を開始 医局を診療局と改称し、診療局長を置く。看護科は医局より独立
		8 月	M R I 装置設置
		10 月	内視鏡室改装
平成	7 年	5 月	南館1階・2階病棟『特3類』実施
		7 月	新看護2.5対1、A加算、13対1看護補助に移行 病棟科別病床再編成
平成	8 年	2 月	適時適温給食実施 病診連携窓口設置
		3 月	八尾市立病院建設基金条例施行
		4 月	病衣貸与実施 看護相談窓口開設
		7 月	J R 八尾駅に広告看板を設置
		12 月	理学療法科をリハビリテーション科と改称
平成	9 年	3 月	中館2階病棟詰所及び新生児室他改修
		4 月	病院建設準備室設置
		5 月	正面玄関増改築
		6 月	新看護2対1、A加算に移行 薬の相談窓口設置
平成	10 年	1 月	夜間小児急病診療開始(平日の火曜日・木曜日午後5時から午後12時まで) 入院患者(内科、整形外科、眼科)に対する服薬指導実施
		3 月	コバルト60線源入替え
		4 月	救急告示認定(内科・外科・産婦人科) 産婦人科の土曜日休診を実施
		8 月	貸与病衣の使用料徴収開始
平成	11 年	1 月	外来患者に対する薬剤情報提供の実施
		3 月	伝染病床廃止、病床数380床
		9 月	入院患者に対する服薬指導の拡大 (耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科の患者にも拡大)
		12 月	伝染病棟取り壊し、跡地を駐車場利用
平成	12 年	1 月	夜間小児急病診療の拡大 (第2、4、5土曜日午後5時から午後12時までについても実施)
		3 月	新病院建設用地の購入 中館2階病棟、分娩室改修 新市立病院建設事業に伴う久宝寺遺跡発掘調査着手
		6 月	夜間小児急病診療の拡大 (第2、4金曜日午後5時から午後12時までについても実施)
		7 月	市立病院創立50周年記念行事「健康バンザイ」開催 NHK総合テレビジョン「関西クローズアップ」で市立病院新人看護職員の 看護体験放映
平成	13 年	2 月	医療事故防止マニュアルの発行
		3 月	八尾市医師会地域医療情報ネットワークに参画

	8 月	新病院起工式
	10 月	市民参加の患者サービス検討会議設置
平成 14 年	2 月	北館 4 階病棟に24時間監視体制の病室(HCU)を設置
	4 月	院外処方箋の全面実施
	9 月	P F I 事業(新病院維持管理・運営事)実施方針の公表
平成 15 年	4 月	臨床研修病院の指定(医科)
	11 月	新病院定礎式(21日)
	12 月	新病院建物の引き渡し(26日)
平成 16 年	3 月	八尾医療 P F I 株式会社との契約締結(26日)
	4 月	新病院竣工式(21日)
		新病院市民見学会(24、25日)
	5 月	新病院開院(1日)新たに循環器科、神経内科、脳神経外科、歯科口腔外科を設置し、全16診療科となる。病床数380床
		小児救急診療を輪番制(火曜日・木曜日・土曜日)で開始
		地域医療連携室設置
		総合医療情報システムを導入
		新しく高度医療機器(結石破碎装置、磁気共鳴画像診断装置、放射線治療装置、血管造影撮影装置、X線テレビシステム、X線CT、ガンマカメラ、骨密度測定検査装置、乳房X線撮影装置)を導入
		I CU、HCU、N I CUを完備
		新病院外来診療開始(7日)
	7 月	P F I 事業に関し、モニタリング委員会、事業評価部会を設置
		大阪府自治体病院開設者協議会会長就任
	8 月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 4 認定(一般病院)
	11 月	女性専門外来開始
平成 17 年	2 月	自治体病院協議会見学会
	3 月	病院建設準備室が解散
	5 月	新病院移転一周年記念講演会開催
	10 月	分娩休止
		病院各委員会見直し・再編
		まちなかステーションにインターネットコーナー設置
平成 18 年	3 月	まちなかステーションに住民票等自動交付機設置
		旧病院解体工事着手
	4 月	分娩再開
		院内敷地内全面禁煙開始
	5 月	ナースキャップ廃止
	10 月	2階フロアに市民ギャラリー設置
	11 月	旧病院解体工事完了
平成 19 年	4 月	病院事務局機構改革(一課へ統合)
		診療情報管理室設置
	5 月	小児病棟にプレイルーム設置
		N I CU増床(3床→6床)
	10 月	臨床研修病院の指定(歯科)
平成 20 年	11 月	大阪府地域周産期母子医療センターの認定
	2 月	がん相談支援センター設置
	4 月	クレジットカードによる診療費の精算開始
		医療安全管理室設置
	5 月	I CU施設基準届出
	6 月	7 : 1 入院基本料に移行
	7 月	乳がん検診の拡大(土曜日)
		D P C(診断群分類別包括評価)開始
	11 月	従来の16科に、形成外科・病理診断科を加え、全18診療科となる
平成 21 年	2 月	八尾市立病院改革プラン策定
	3 月	院内保育開始
	4 月	地方公営企業法全部適用体制への移行(病院事業管理者を設置)
		大阪府がん診療拠点病院指定
	5 月	新型インフルエンザ発生のため拠点型発熱外来を設置
	6 月	女性専門外来休止

平成 22 年	7 月	八尾市立病院 P F I 事業検証のための実態調査・分析実施
	8 月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 6.0 認定
	1 月	太陽光発電システム設置
	2 月	M R I 装置を増設
	3 月	陰圧病床設置 医局拡張工事実施
平成 23 年	7 月	心臓オンコール開始
	9 月	八尾市災害医療センターとして、大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施
	10 月	八尾市立病院開院60周年記念講演会開催
	12 月	八尾市立病院開院60周年記念誌発行
	3 月	J R 久宝寺駅 2 階部分ベデストリアンデッキ接続に伴い、2 階南エントランス開通 東日本大震災の被災地(宮城県石巻市)に看護協会を通じて看護師を派遣
平成 24 年	4 月	従来の18科に、消化器内科・腫瘍内科を加え、全20診療科となる
	5 月	東日本大震災の被災地(岩手県大槌町)に日本医師会災害医療チーム（J M A T） として医療チーム（医師 2 名、看護師 2 名、薬剤師 2 名、事務員 2 名）を派遣 登録医制度、開放病床の運用開始
	6 月	電子カルテシステムを更新（サーバ、パッケージ、端末機器、ネットワーク）
	2 月	八尾市立病院経営計画策定
	4 月	従来の20科に、血液内科、乳腺外科を加え、神経内科を取り下げ、全21診療科と なる ボランティア「スマイル」活動開始 糖尿病センター設置 中河内地域感染防止対策協議会立ち上げ
平成 25 年	10 月	大阪府がん診療拠点病院指定更新 せせらぎの運用開始
	11 月	地域医療支援病院承認
	12 月	病院・診療所・薬局連携ネットワークシステム稼動
	3 月	マンモグラフィ機器を更新 C T 装置を更新（16列から80列へ） 院内インターネット環境整備
	8 月	薬剤師の病棟への常駐配置開始 市立病院看護師による健康相談の開始
平成 26 年	10 月	海外招請講演会（MEET THE EXPERTS）を開催 がんばれ八尾市立病院応援寄付金制度の創設
	12 月	肝臓がんよろず専門外来開設
	1 月	機能拡充のための施設整備に向けた駐輪場の解体
	4 月	緩和ケアセンター設置 臨床研究センター設置 市立病院出前講座開始
	5 月	市立病院薬剤師によるお薬相談の開始 市立病院機能拡充工事開始
平成 27 年	6 月	第36回日本癌局所療法研究会を開催
	8 月	日本医療機能評価機構機能評価3rdG:Ver. 1.0認定
	12 月	新型インフルエンザ等対応訓練を実施
	2 月	八尾市立病院経営計画（Ver. II）策定
	3 月	北館工事完成、北館内覧会実施 がんシンポジウム開催（中河内がん診療ネットワーク協議会主催）
平成 28 年	4 月	基本理念、基本方針の改訂 地域がん診療連携拠点病院指定 医師事務作業補助業務者運営委員会設置 専門研修プログラム連絡協議会設置 臨床倫理管理委員会設置 救急対策チーム設置
	6 月	ICU増床（5床から6床へ）、外来化学療法室増床（9床から16床へ）
	7 月	患者サポート・ケアセンター設置
	8 月	駐輪場ラック設置
	9 月	血管撮影装置を更新 市立病院機能拡充工事竣工
平成 28 年	2 月	放射線治療装置を更新
	3 月	がんシンポジウム開催（中河内がん診療ネットワーク協議会主催）

病 院 の 現 況

概 要

1. 施設の概要

位 置	八尾市龍華町1丁目3番1号
敷 地 面 積	14,999.98 m ²
建 物 延 面 積	40,470.38 m ² (駐車場・駐輪場含む) (本館 39,160.28 m ² 、北館 1,310.10 m ²)

2. 診療科目

内科・血液内科・消化器内科・循環器内科・腫瘍内科・外科・乳腺外科・脳神経外科・
整形外科・形成外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・
リハビリテーション科・麻酔科・放射線科・歯科口腔外科・病理診断科

3. 受付時間

外 来 診 療	(初診・再診)	平日	午前8時45分～11時30分
	(予約のある方)	平日	午前8時45分～午後2時30分
	休診日	土曜日・日曜日・祝日・年末年始	
救 急 診 療	内科・外科 (24時間受付)		
小児救急診療	火曜日・土曜日 (午前9時～翌午前8時)		

4. 病 床 数

380 床	
内訳	特別室 7 室 (7 床)、個室 81 室 (81 床)、4 床室 66 室 (264 床)、 HCU 7 室 (14 床)、NICU (6 床)、ICU (6 床)、無菌病室 (2 床)

5. 病 棟

8階病棟 (東)	外科
8階病棟 (西)	内科 (消化器・一般)
7階病棟 (東)	泌尿器科、形成外科、眼科、皮膚科、内科 (腫瘍・血液、透析)
7階病棟 (西)	内科 (循環器・血液・腫瘍)
6階病棟 (東)	整形外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
6階病棟 (西)	小児科
6階病棟 (NICU)	新生児集中治療部
5階病棟 (東)	内科 (呼吸器・糖尿・感染・一般)、脳神経外科、(救急病床)、外科
5階病棟 (西)	産婦人科、外科、内科
3階病棟 (ICU)	集中治療部

6. 外 来 等

[本館]	4 階	リハビリテーション科、通院治療センター
	3 階	手術部門、ICU、検査部門、管理諸室
	2 階	総合待合、一般外来、医事部門、放射線部門、生理検査部門、 がん相談支援センター、健診センター、地域医療連携室、 患者サポート・ケアセンター
	1 階	救急部門、糖尿病センター、放射線治療、核医学検査、SPD部門、 滅菌・消毒部門、薬剤部門、栄養部門、防災センター、まちなかステーション
	地下1階	駐車場
[北館]		院内保育ルーム、防災備蓄倉庫、大会議室、図書室

認 定 ・ 指 定

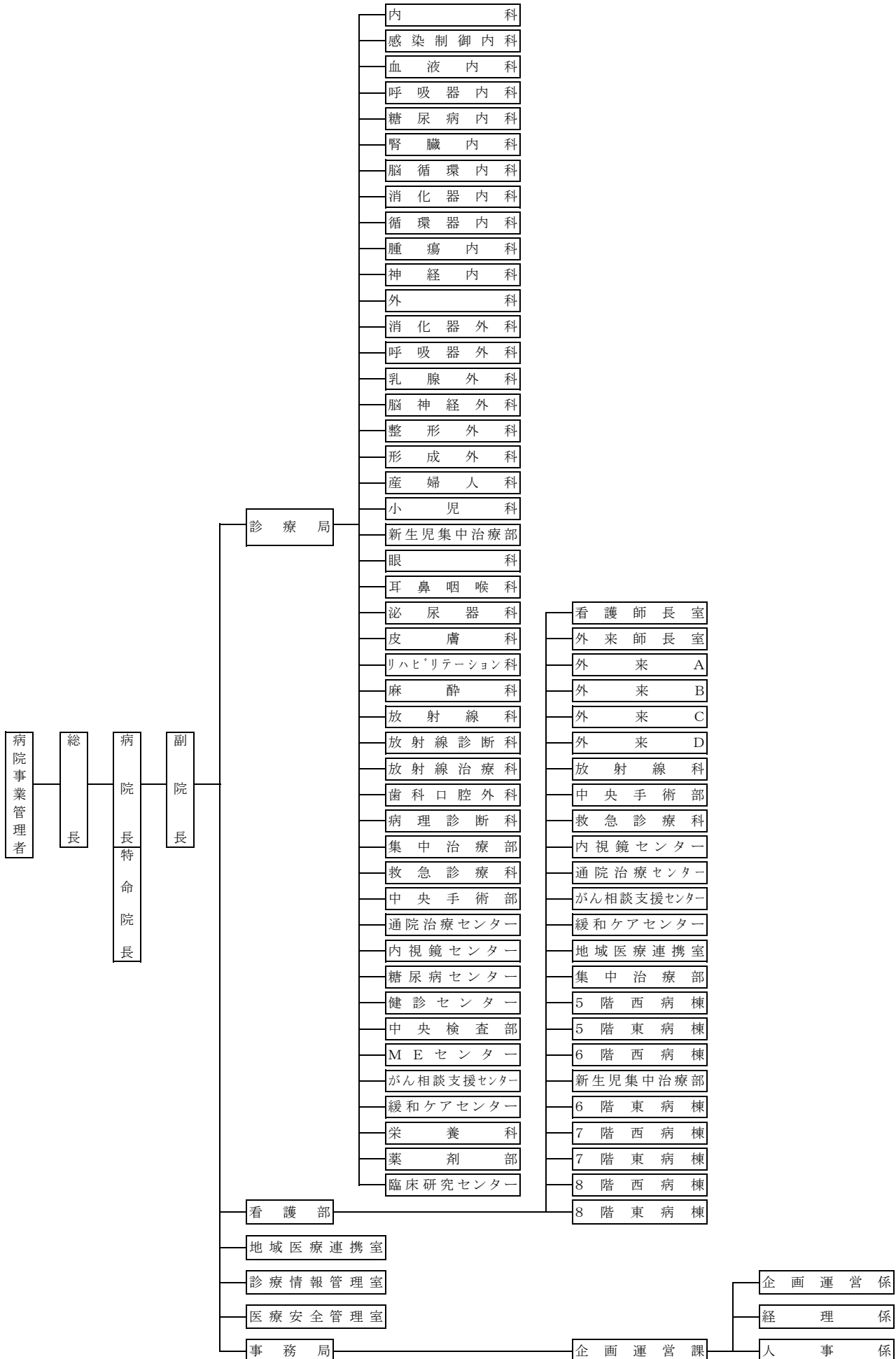
<各種学会認定（専門）医制による研修施設>

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医制度研修施設
日本泌尿器科学会専門医制度教育施設
日本小児科学会専門医制度研修施設
日本小児科学会専門医研修支援施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本内科学会認定医教育関連病院
日本麻酔科学会研修施設
日本皮膚科学会認定専門医制度研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本周産期・新生児医学会
周産期（新生児）専門医制度暫定研修施設
日本周産期・新生児医学会
母体・胎児専門医制度補完研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本透析医学会専門医制度認定施設
母体保護法指定医師研修機関
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本老年医学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本肝臓学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導認定施設
日本消化器内視鏡学会指導認定施設
日本静脈経腸栄養学会N S T稼動認定施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設（B認定）
日本形成外科学会認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設
呼吸器外科専門医制度基幹施設関連施設
日本病理学会専門医制度認定病院
日本糖尿病学会教育関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

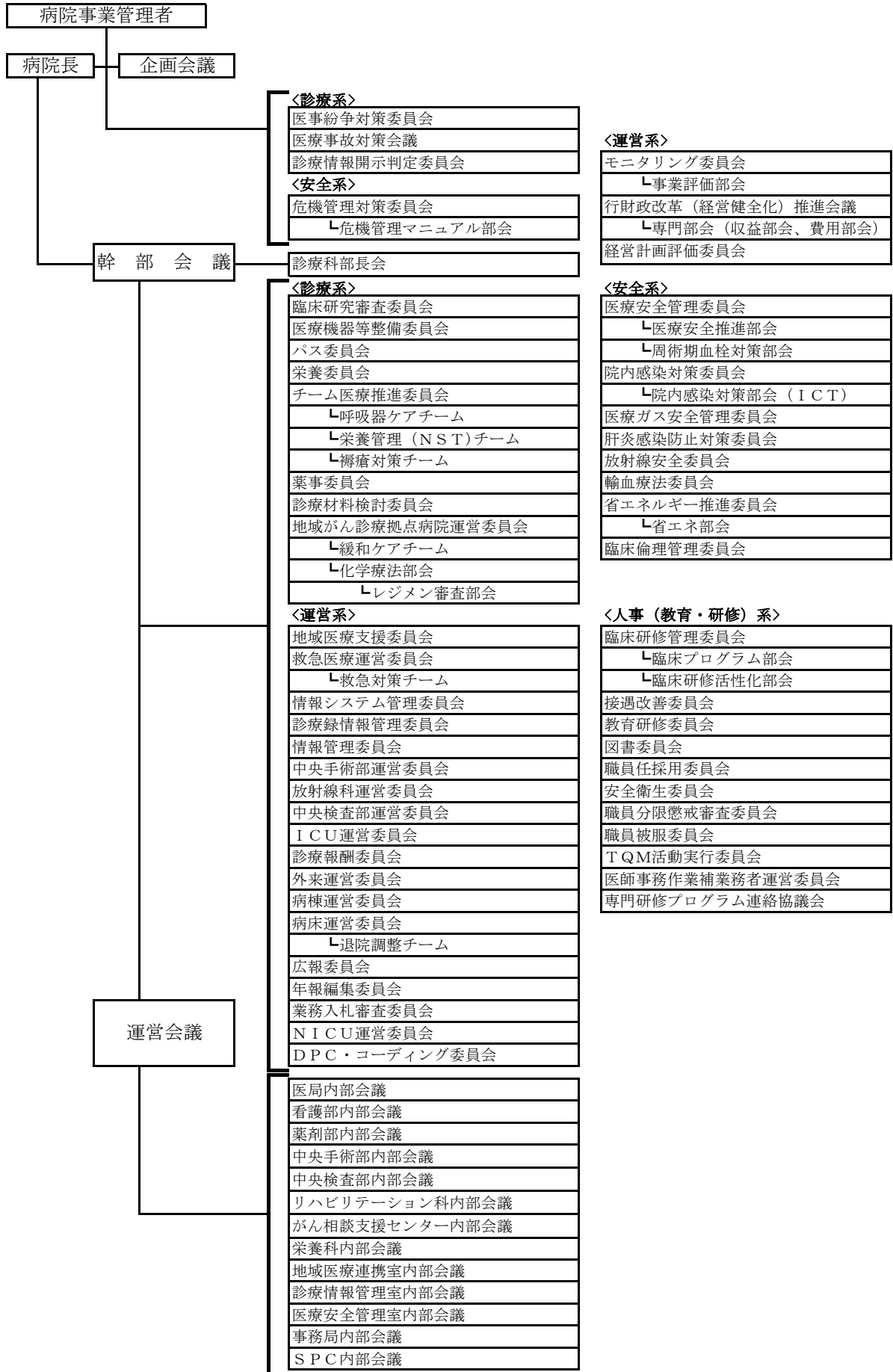
<指定医療機関>

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院（医科）
臨床研修指定病院（歯科）
保険医療機関
労災保険指定医療機関
労災保険二次健診等給付医療機関
大阪府結核指定医療機関
生活保護法指定医療機関
障害者指定自立支援医療機関
障害者指定自立支援医療機関（精神通院医療）
児童福祉法育成医療指定医療機関
未熟児養育医療指定養育医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
救急告示指定病院
母体保護法指定医療機関
指定難病医療費助成制度指定医療機関
小児慢性特定疾病医療費助成制度指定医療機関
妊婦一般健康診査取扱機関
乳児一般健康診査取扱機関
B型肝炎母子感染防止事業取扱機関
国民健康保険療養取扱機関
母子保健法指定医療機関
児童福祉施設（助産施設）
公害健康被害補償法公害医療機関
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
大阪府特定給食施設
新生児聴性脳幹反応（A B R）実施病院
日本静脈経腸栄養学会・N S T稼動認定施設
日本栄養療法推進協議会認定N S T稼動施設
大阪府地域周産期母子医療センター認定医療機関
地域がん診療連携拠点病院指定医療機関
地域医療支援病院
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設

機 構



院内管理体制



院内会議・委員会

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
1	企画会議	基本理念、基本方針、診療機能等、病院経営における重要かつ基本的事項について、病院幹部職員の円滑な意思形成に基づいた確かな意思決定を期する	必要の都度	植田武彦 病院事業管理者	星田四朗、兒玉 憲、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、門井洋二、山内雅之
2	幹部会議	病院事業の充実・発展と効率的運用を期する	毎週木曜日	星田四朗 病院長	植野茂明、植田武彦、佐々木洋、兒玉 憲、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、門井洋二、山内雅之
3	運営会議	円滑な管理運営を期するために連絡・調整を行う	第4水曜日	福井弘幸 副院長	植野茂明、植田武彦、佐々木洋、星田四朗、兒玉 憲、田中一郎、西山謹司、森明富美子、山田智子、千種保子、山内雅之、朴井 晃、井上真一、山崎 肇、平井良介、浅岡伸光、岩崎 悟、黒田昇平、原田美永子、山中トモエ、北村尚洋、上水流雅人、上田高志、大和裕香、中生浩之、井出義人、福島幸男、蔵 昌宏、門井洋二、橋本将延、古東文夫
4	医療事故対策会議	医療事故の適切な対応を図る	必要の都度	星田四朗 病院長	田中一郎、西山謹司、福井弘幸、植田武彦、森明富美子、植野茂明、山中トモエ、山崎 肇、門井洋二、朴井 晃
5	医事紛争対策委員会	医事紛争等の問題対策を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	佐々木洋、植田武彦、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、朴井 晃
6	診療情報開示判定委員会	診療情報の開示に係る事務を適正かつ迅速に処理する	必要の都度	星田四朗 病院長	植田武彦、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明
7	業務入札審査委員会	委託業務等に関し、入札業者指名等の決定等を行う	必要の都度	植野茂明 事務局長	星田四朗、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、山内雅之、朴井 晃
8	行財政改革(経営健全化)推進会議	市財政改革推進本部による「新しい行財政改革大綱」に基づき、八尾市立病院の運営および財政改革並びに経営の健全化を推進する	必要の都度	植田武彦 病院事業管理者	星田四朗、佐々木洋、兒玉 憲、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、山崎 肇、浅岡伸光、平井良介、千種保子、山内雅之、朴井 晃、井上真一、小枝伸行、門井洋二、橋本将延
9	経営健全化推進会議専門部門(収益部会)	病院経営健全化を推進する上で、増収に向けての内容について検討する	必要の都度	田中一郎 副院長	西山謹司、植野茂明、山内雅之、千種保子、浅岡伸光、平井良介、門井洋二、橋本将延、朴井 晃、宮田克爾、大和篤史
10	経営健全化推進会議専門部門(費用部会)	病院経営健全化を推進する上で、コスト削減に向けての内容について検討する	必要の都度	福井弘幸 副院長	西山謹司、植野茂明、山内雅之、森明富美子、山崎 肇、井上真一、小枝伸行、門井洋二、橋本将延、朴井 晃、小山修司
11	職員任用採用委員会	八尾市立病院に勤務する企業職員の任用採用に関して必要な事項を定める	必要の都度		
12	職員分限懲戒審査委員会	職員の分限懲戒に関して適正を期する	必要の都度		
13	臨床研究審査委員会	医薬品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の為に治験、使用成績調査、特定使用成績調査、製造販売後臨床試験および副作用・感染症報告および医療行為について倫理的な観点から審議する	年8回(4・5・7・8・10・11・1・2月)の第4金曜日	西山謹司 副院長	山田嘉彦、森本 卓、高木圭一、森明富美子、山中トモエ、山崎 肇、鈴木慎也、植野茂明、山本恵郎、鶴飼万貴子、井上幸子、西田一明、辻 京子
14	モニタリング委員会	維持管理・運営事業の実施にともない、PFI事業に関する事業評価を適正に行う	年4回	植野茂明 事務局長	佐々木洋、兒玉 憲、星田四朗、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、山内雅之、朴井 晃
15	事業評価部会	業務ごとの個別のモニタリング評価を行う	第3火曜日	井上真一 事務局参事	横山茂和、大江洋介、山崎 肇、黒田昇平、山中トモエ、山田智子、森佳代子、浅岡伸光、平井良介、宮田克爾、門井洋二
16	教育研修委員会	八尾市立病院の理念を踏まえ、病院職員の資質と能力の向上を図り、安全で高度な医療サービスを提供する	必要の都度	福井弘幸 副院長	森本 卓、大江洋介、森明富美子、丸山明子、小川充恵、浅岡伸光、河野和男、井上真一、中田亮太
17	専門研修プログラム連絡協議会	専門医の研修達成状況など研修プログラムの精度を検証し、その質を維持向上させる	必要の都度	星田四朗 病院長	田中一郎、大江洋介、宮城琢也、渡部徹也、横山茂和、森本 卓、小多田英貴、福島幸男、山田嘉彦、上田 卓、三岡智規、都築 貴、三宅ヨシカズ、牧野一雄、川島貴之、高木圭一、池本慎一、荒木 裕、竹田雅司、服部英喜

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
18	臨床研修管理委員会	医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設と共に臨床研修病院群として行う	必要の都度	星田四朗 病院長	田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、久保研二、柏井洋平、塩野 茂、梅本清嗣、下山弘展、田中規文、元村正明
19	臨床プログラム部会	臨床研修に関する情報収集及びプログラムを作成する	必要の都度	田中一郎 副院長	福井弘幸、大江洋介、宮城琢也、渡部徹也、横山茂和、森本 卓、小多田英貴、福島幸男、山田嘉彦、上田 卓、三岡智規、都築 貴、三宅ヨシカズ、牧野一雄、川島貴之、高木圭一、池本慎一、荒木 裕、竹田雅司、服部英喜、柏井洋平、塩野 茂、梅本清嗣、下山弘展、田中規文、元村正明
20	臨床研修活性化部会	臨床研修に関するプログラムの内容を検討する	必要の都度	福井弘幸 副院長	田中一郎、宮城琢也、福島幸男、松山 仁、渡部徹也、大江洋介、小多田英貴、山本陽子、前川佑樹
21	接遇改善委員会	八尾市立病院の理念を踏まえた患者サービスの向上を図る	第2木曜日	田中一郎 副院長	山中トモエ、桑山真輝、山崎 肇、平井良介、浅岡伸光、朴井 晃、吉田正雄、門井洋二、山本恵郎
22	TQM活動実行委員会	TQM活動研修会や発表会の開催を通して、TQM活動の活性化と定着化に向けた啓発を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	植野茂明、森明富美子、山田智子、畑中邦子、杉村美貴、藤島陽子、長谷圭悟、政岡佳久、山内雅之、小枝伸行、門井洋二、橋本将延
23	職員被服委員会	八尾市立病院に勤務する職員に対する被服の種類および貸与数量等の変更に関して、意見の調整を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	森明富美子、平井良介、浅岡伸光、黒田昇平、森本美百、井上真一
24	倫理問題検討委員会	日常診療の中で起こる様々な倫理的問題を、医学的、倫理的及び社会的観点から公正な立場で協議、助言する	年4回(3、6、9、12月) 第2月曜日	田中一郎 副院長	山中トモエ、蔵 昌宏、福島幸男、池田嘉一、池岡邦泰、神田ゆか、吉野知子、香川雅一、宮田克爾
25	情報管理委員会	病院で取り扱う個人情報を含む全ての情報管理や院内の情報機器、外部記録ネットワーク媒体(USBメモリ等)、ネットワーク及び外部とのデータ通信等における保安全管理、セキュリティ及び適切な運用を図る	必要の都度	植野茂明 事務局長	星田四朗、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、朴井 晃、井上真一、門井洋二、橋本将延
26	情報システム管理委員会	システム運用に係る院内の全体調整や方針の策定、システム機器の管理に関する検討、およびシステム利用に係る管理運営を行う	第3月曜日	三岡智規 部長	小枝伸行、西山謹司、大江洋介、横山茂和、千種保子、近藤純代、小川充恵、山本恵郎、坂本清蔵、竹内良平、平井良介
27	診療録情報管理委員会	診療録の管理を適切に行うことにより病院機能の向上を図る	月1回	福井弘幸 副院長	小枝伸行、山本恵郎、原田美永子、中山麻祐子、幸田怜子、芹川千智、宮崎 薫、西野淳子、山田智子
28	パス委員会	診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	第2火曜日	都築 貴 部長	上田高志、森佳代子、佐藤美代子、佐藤浩二、小枝伸行、浅岡伸光、黒田昇平
29	診療報酬委員会	保険診療の適正化を図る	第4月曜日	星田四朗 病院長	三岡智規、高木圭一、柏山康江、森佳代子、宮田克爾、山本恵郎、原田美永子
30	DPC・コーディング委員会	DPC請求にかかる検討を行う	第4火曜日	星田四朗 病院長	福井弘幸、千種保子、山崎 肇、西野淳子、原田美永子、藤谷彩香、宮田克爾、門井洋二、山本恵郎
31	広報委員会	地域各医療機関や市民等に広く病院事業の広報を行う	必要の都度	門井洋二 GM	田中一郎、山田智子、山内雅之、畑中博文、坂本清蔵
32	年報編集委員会	病院運営の記録の保存を行う	必要の都度	田中一郎 副院長	山内雅之、大江洋介、上水流雅人、長谷圭悟、平井良介、千種保子、坂手亜衣子、山本恵郎、原田美永子
33	薬事委員会	薬品の購入および適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する薬品の合理的運営を図る	年6回(偶数月) で第3水曜日	星田四朗 病院長	山崎 肇、上田 卓、高木圭一、横山茂和、福井弘幸、山田嘉彦、北野こずえ、小枝伸行、門井洋二、廣瀬 淳、奥田浩也、千種保子
34	診療材料検討委員会	診療材料の採用・取消および適正価格・適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する材料の合理的管理運営を図る	第2火曜日	福井弘幸 副院長	上水流雅人、渡部徹也、橋本安司、山中トモエ、植村佳子、門井洋二、廣瀬 淳、奥田浩也
35	図書委員会	図書の適切な購入と管理を行う	必要の都度	西山謹司 副院長	横山茂和、大江洋介、森本千穂、岩崎 浩、政岡佳久、佐藤美代子、神田ゆか、山本恵郎
36	医療機器等整備委員会	資産購入および適正使用に関する事項を検討し、その合理的運用を図る	奇数月の 第1火曜日	星田四朗 病院長	植田武彦、兒玉 憲、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、池本慎一、荒木 裕、森明富美子、山崎 肇、平井良介、浅岡伸光、植野茂明、山内雅之、門井洋二

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
37	外来運営委員会	外来診療部門の運営の円滑化、効率化および患者サービスの向上を図る	第2金曜日	大江洋介 部長	渡部徹也、松山 仁、山田智子、森佳代子、佐藤美代子、中尾由美子、藤本史朗、小枝伸行、橋本将延、畑中博文
38	救急医療等運営委員会	救急医療の円滑な推進を図る	第3金曜日	福島幸男 部長	渡部徹也、大江洋介、中村昌司、横山茂和、上田 卓、三岡智規、都築 貴、池田嘉一、山田智子、森佳代子、中尾由美子、佐藤美代子、長谷川和恵、松村圭司、山内雅之、門井洋二
39	救急対策チーム	救急患者の症例検討を行い、救急医療の技術向上をめざす	第1・3金曜日	中村昌司 副院長	廣瀬 創、福岡秀忠、道下新太郎、前川佑樹、伊藤資世、山本陽子、米井辰一、奥野未佳、吉田朋世、中尾由美子
40	病棟運営委員会	病棟の業務の円滑な推進を図る	偶数月の 第4月曜日	池本慎一 診療局次長	宮城琢也、三岡智規、横山茂和、千種保子、柏山康江、杉村美貴、青木美加子、山田まゆみ、中谷成美、黒田昇平、小枝伸行、山本恵郎、藤谷彩香、山本恭子
41	ICU運営委員会	ICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	年4回(5、8、11、2月) 第1月曜日	池田嘉一 部長	大江洋介、渡部徹也、福島幸男、都築 貴、藪田浩一、千種保子、松川麻由美、長谷圭悟、長山俊明、永江哲郎
42	NICU運営委員会	NICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	奇数月の 第4月曜日	田中一郎 副院長	道之前八重、山田嘉彦、山田まゆみ、生藤由紀子、安田幸代、井澤初美、森本千穂、長山俊明、廣瀬 淳
43	中央手術部運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各診療科の調整を行う	年1回	上水流雅人 部長	神田ゆか、森本 卓、都築 貴、宮城琢也、横山茂和、三岡智規、山田嘉彦、川島貴之、牧野一雄、池本慎一、三宅ヨシカズ、濱口裕弘、小多田英貴、山崎 肇、山本佳司、青木ひとみ
44	中央検査部運営委員会	業務運営の円滑かつ効率的な運用を行う	偶数月の 第1月曜日	服部英喜 部長	浅岡伸光、福井弘幸、福島幸男、上田 卓、千種保子、山本佳司、鈴木慎也、鎗山かほる
45	放射線科運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各部局間の調整を行う	年6回(奇数月)の第1月曜日	荒木 裕 部長	平井良介、西山謹司、松村圭司、河野和男、渡部徹也、橋本安司、池本慎一、山田智子、小山修司
46	放射線安全委員会	所轄の機器、施設整備等に関する調査、研究、調整を行い、所轄業務内容の変更等に伴う各部局間の調整を行う	必要の都度	西山謹司 副院長	荒木 裕、山中トモエ、小林信道、平井良介、岩崎 浩、黒木好深
47	病床運営委員会	病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	偶数月の 第1月曜日	千種保子 看護部科長	福井弘幸、横山茂和、大江洋介、柏山康江、青木美加子、佐藤美代子、北村尚洋、宮田克爾、山本佳司、山本恵郎
48	退院調整チーム	退院困難な要因を有する入院中の患者への退院支援計画を検討する	必要の都度	佐藤美代子 看護師長	北村尚洋、片山 愛、廣岡 球、竹丸信子、蓬郷千里、仲村繁美、木村亜紀、深谷若菜、森本千穂、宮田克爾
49	医師事務作業補助業務運営委員会	医師の事務作業負担を軽減することを目的として医師事務作業補助者を配置するにあたり、その業務の内容と役割分担を整理把握する体制を確保する	必要の都度	田中一郎 副院長	川島貴之、森佳代子、佐藤美代子、巽 理、横山茂和、佐々木高綱、濱口裕弘、宮田克爾
50	栄養委員会	給食業務および臨床栄養業務が病院の本義に則したものととして、適切に推進され、かつ円滑な運用を行う	奇数月の 第3金曜日	田中一郎 副院長	黒田昇平、木戸里佳、山田嘉彦、安田幸代、千種保子、井澤初美、柏山康江、山本佳司、橋本将延、楠本和馬、北山博文
51	省エネルギー推進委員会	院内における省エネルギー活動を効率的に推進する	必要の都度	植野茂明 事務局長	田中一郎、森明富美子、朴井 晃、門井洋二、永江哲郎、前川直義
52	省エネ部会	院内のエネルギー使用状況や具体的対策等について適切な運用を図る	必要の都度	森明富美子 看護部長	大石 馨、楠本 恵、渡壁淳子、沢井ゆかり、西村勢津子、林 正美、奥田清美、播本靖子、西本恵美子
53	危機管理対策委員会	危機管理の対策を行う	必要の都度	星田四朗 病院長	植田武彦、兒玉 憲、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、山内雅之、朴井 晃、門井洋二
54	危機管理マニュアル部会	危機管理の対策に関するマニュアル作成を行う	必要の都度	田中一郎 副院長	千種保子、福島幸男、甲斐幸代、松川麻由美、中尾由美子、平井良介、山崎 肇、山内雅之、朴井 晃、永江哲郎
55	安全衛生委員会	労働安全衛生法の規定に基づき、職場における安全および衛生の維持向上並びに職員の健康保持増進を図る	第4月曜日	植野茂明 事務局長	山崎 肇、山本俊明、上水流雅人、森明富美子、平井良介、森本美百、中尾由美子、蓬郷千里、川筋晶子、徳上美智子

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
56	肝炎感染防止対策委員会	病院内の肝炎の感染防止に関する予防対策の監視と指導、職員へのワクチン接種及び接種計画、感染が生じた場合の感染の原因についての疫学調査を実施する	必要の都度	福井弘幸 副院長	山本俊明、長谷圭悟、浅岡伸光、森佳代子
57	医療安全管理委員会	患者が安心して医療を受けられる環境整備を促進し、患者が医師および医療機関を信頼するとともに、医療提供者が安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2月曜日	池本慎一 診療局次長	山中トモエ、尾山明美、安田幸代、田中一郎、篠田幸紀、東 浩司、三岡智規、山田智子、山崎 肇、長山俊明、浅岡伸光、平井良介、宮田克爾、門井洋二
58	医療安全推進部会	医療安全管理委員会における事故の発生原因、再発防止策の検討結果・決裁事項の職員への周知、毎月1回の院内ラウンドの実施、内部監査の実施、および危険予知トレーニングを実施する	第4月曜日	安田幸代 看護師長	松川麻由美、山中トモエ、東 浩司、中谷成美、鎗山かほる、松村圭司、岩崎 悟、長山俊明、黒田昇平、佐藤雅子、石田真美、瀬古佳奈、加藤圭美、白石麻有美、東原有紀、山崎香名、吉井孝子、牧瀬良子、岡田つづみ、古波蔵奈緒、吉本弘深、吉藤恵理子、井上真一、宮田克爾、永江哲郎
59	周術期血栓対策部会	周術期の血栓対策について検討する	必要の都度	上水流雅人 部長	東 浩司、横山茂和、平松久仁彦、松浦美幸、篠田幸紀、近藤純代、神田ゆか、松川麻由美、小川充恵、寺西ふみ子
60	医療ガス安全管理委員会	実施責任者に保守点検業務を実施させる。医療ガス設備に係る新設および増設工事、部分改造、修理等に当たっては臨床各部門にその旨、周知徹底を図るとともに、その使用に先立ち、厳正な試験および検査を行い、安全確認を行う	年1回	上水流雅人 部長	藪田浩一、佐藤浩二、神田ゆか、高草恒平、長山俊明、永江哲郎、佐藤直道
61	院内感染対策委員会	感染対策に関して、患者が安心して医療を受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3木曜日	服部英喜 部長	井崎和史、星田四朗、兒玉 憲、牛村彩子、山崎 肇、浅岡伸光、森明富美子、神田ゆか、甲斐幸代、植野茂明、永江哲郎、岩崎 悟、黒田昇平、平井良介
62	院内感染対策チーム(ICT)	病院内の感染症の防止、発生時に必要な対策に関する情報収集、院内の啓発活動、施設・設備の点検および改善、微生物学的検査を実施する	第3水曜日	服部英喜 部長	永井健一、藪田浩一、辻本和徳、長谷川和恵、川端祥子、松川麻由美、西原君代、甲斐幸代、永江哲郎
63	輸血療法委員会	輸血療法の安全性確保と適正化を図る	年6回(奇数月)の第4木曜日	服部英喜 部長	上水流雅人、木津 崇、水田裕久、山崎 肇、浅岡伸光、松本敦博、上岡いづみ、乾 美鈴、柏山康江、鈴木慎也、藤原美智代、川口珠恵、本多紀子
64	チーム医療推進委員会	医療の高度化、細分化に対応しつつ、医師及び各部門職員のパートナーシップのもとに質の高い医療を提供する	必要の都度	佐々木洋 総長	森明富美子、山崎 肇、兒玉 憲、橋村俊哉、井出義人、松山 仁、三宅ヨシカズ、服部英喜、蔵 昌宏、上水流雅人、佐藤美代子、中村昌司、甲斐幸代、横山敬子、西田明子、柚木原和子、小林啓子、中西千賀子、佐藤浩二、寺西ふみ子、北村尚洋、本多紀子、中尾由美子
65	呼吸器ケアチーム	安全な呼吸療法を行うためのスタッフへの教育、呼吸療法全般についての質の維持・向上、呼吸管理備品の整備、および呼吸管理の研究を行う	必要の都度	兒玉 憲 特命院長	橋村俊哉、渡部徹也、池田嘉一、津田 武、山本陽子、岡田つづみ、中西千賀子、岩崎綾子、永岡照美、坂中美奈子、長山俊明、中生浩之、
66	栄養管理チーム(NST)	栄養管理のための調査・研究、および、医療従事者への教育を行う	第2水曜日 第4水曜日	松山 仁 医長	藤本史朗、黒田昇平、近藤純代、森本 卓、巽 理、岸本幸次、西田明子、坂中美奈子、黒田昇平、早川裕起子
67	褥瘡対策チーム	褥瘡対策に関して、患者が安心して医療を受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第2木曜日	三宅ヨシカズ 医長	高木圭一、森 佳代子、横山敬子、福島幸男、大江洋介、甲斐幸代、西田明子、岩崎 悟、西野多江子、中谷成美、早川裕起子、福田路子
68	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	地域がん診療連携拠点病院に指定されたことを受け、八尾市立病院及び地域のがん診療の向上をめざす	必要の都度	佐々木洋 総長	星田四朗、兒玉 憲、西山謹司、福井弘幸、蔵 昌宏、井出義人、森明富美子、千種保子、佐藤美代子、井谷裕香、植野茂明、山崎 肇、朴井 晃、小枝伸行、門井洋二、原田美永子
69	緩和ケアチーム	緩和ケア医療を実践する	毎週水曜日	蔵 昌宏 部長	西山謹司、橋本安司、橋村俊哉、前川祐樹、義間友佳子、小林啓子、本多紀子、西村勢津子、長谷圭悟、大和裕香、外堀直子、大橋順子、江川 功

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長	委員構成
70	化学療法部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	奇数月の第3金曜日	井出義人 センター長	森本 卓、松山 仁、桑山真輝、木津 崇、町田裕一、水田裕久、佐野 奨、山田智子、森佳代子、柚木原和子、津江かおる、島田敏江、佐藤浩二、門井洋二
71	レジメン審査部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化を図り、管理する	必要の都度	井出義人 センター長	山崎 肇、桑山真輝、森本 卓
72	地域医療支援委員会	地域医療支援病院の承認に向けた取り組みについて、地域医療機関の意見を聞き、承認後は地域における医療の確保のための必要な支援業務を審議する	年4回	星田四朗 病院長	貴島秀樹、福井弘幸、田中一郎、森明富美子、植野茂明、富田高明、豊口雅子、西田一明、藤原正彦、高林弘の
73	経営計画評価委員会	八尾市立病院経営計画に基づく経営改善の取り組み状況の点検・評価を行う	年1回	植田武彦 病院事業管理者	星田四朗、佐々木洋、田中一郎、西山謹司、福井弘幸、森明富美子、植野茂明、門井洋二、貴島秀樹、谷田一久、津田慶子

病 院 職 員

1. 病院職員

病院事業管理者	植 田 武 彦
総 長	佐々木 洋
病 院 長	星 田 四 朗
特 命 院 長	兒 玉 憲
副 院 長	田 中 一 郎
副 院 長	西 山 謹 司
副 院 長	福 井 弘 幸
看護部 長	森 明 富美子
事務局 長	植 野 茂 明

(診療局)

診療科等	職 名	氏 名	備 考
	総 院 長 病 院 長 特 命 院 長 副 院 長 副 院 長 副 院 長	佐々木 洋 星 田 四 朗 兒 玉 憲 田 中 一 郎 西 山 謹 司 福 井 弘 幸	(兼診療局長) (兼放射線治療科部長・がん相談支援センター長・地域医療連携室長) (兼診療情報管理室長事務取扱)
内 科	部 長 副 医 長 嘱 託 員	大 江 洋 介 辻 本 和 徳 吉 田 朋 世	(後期研修医)
血 液 内 科	部 長 部 長	服 部 英 喜 桑 山 真 輝	(兼中央検査部医長)
消 化 器 内 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長 嘱 託 員 嘱 託 員	宮 城 琢 也 巽 理 木 津 崇 中 村 昌 司 前 川 祐 樹 伊 藤 資 世	H27. 4. 1 採用 H27. 4. 1 採用 (後期研修医)
循 環 器 内 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長 副 医 長	渡 部 徹 也 篠 田 幸 紀 池 岡 邦 泰 福 岡 秀 忠 乾 礼 興	(兼MEセンター医長) H27. 4. 1 採用
外科・消化器外科	部 長 医 長 医 長 医 長 医 長 医 長 嘱 託 員	横 山 茂 和 松 山 仁 井 出 義 人 橋 本 安 司 永 井 健 一 廣 瀬 創 山 本 陽 子	H28. 3. 31 退職 (兼通院治療センター長) H27. 4. 1 採用 H27. 4. 1 採用 H28. 3. 31 退職
呼 吸 器 外 科	医 長	馬 庭 知 弘	H27. 11. 1 採用
乳 腺 外 科	部 長 診療科特任顧問 医 長	森 本 卓 野 村 孝 道 下 新太郎	H28. 3. 31 退職 H27. 4. 1 採用
脳 神 経 外 科	部 長 医 長 医 長	都 築 貴 クー ウイ ミン 有 田 都史香	H27. 5. 31 退職 H27. 6. 1 採用
整 形 外 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長	三 岡 智 規 黒 田 昌 之 平 松 久仁彦 松 村 宣 政	(兼リハビリテーション科医長) H28. 3. 31 退職
形 成 外 科	医 長 副 医 長	三宅 ヨシカズ 仲 野 雅 之	H27. 4. 1 採用

診療科等	職名	氏名	備考
産婦人科	部長 医 医 医 医 副 嘱 嘱 医託 医託	山田嘉彦 水田裕久 吉澤順子 佐々木高綱 山口永子 松浦美幸 山田弘次 中野和俊	H27. 4. 1 採用
小児科	部長 部 医 医 医 医 副 嘱 医託 医託	上田卓 井崎和史 中野智巳 濱田匡章 佐伯しのぶ 能村賀子 近藤由佳 薮本仁美	H28. 3. 31 退職 H28. 3. 31 退職 H27. 4. 1 採用 H27. 4. 1 採用 H27. 9. 30 退職 H27. 4. 1 採用 H27. 4. 1 採用
新生児集中治療部	部長	道之前八重	
眼科	部長 医	牧野一雄 松本雄介	H28. 3. 31 退職 H28. 3. 31 退職
耳鼻咽喉科	部長 副 副 副 嘱 嘱 医託 医託	川島貴之 佐野奨子 日尾祥子 津田武 奥野未佳 米井辰一	H27. 4. 1 採用 H27. 7. 1 採用 H27. 6. 30 退職
泌尿器科	診療局次 医 副 医	池本慎一 町田裕一 村尾昌輝	(兼泌尿器科部長・医療安全管理室長)
皮膚科	部長	高木圭一	
リハビリテーション科	副 係 医	杉田憲彦 岩崎悟	H27. 4. 1 採用
麻酔科	部長 医 医 医 医 医 医 副 医	小多田英貴 土屋典生 東浩司 谷本敬哉 橋村俊哉 薮田浩一 山本奈穂 義間友佳子	(兼集中治療部医長)
放射線科	部長 部 技 係 係 師	荒木裕 吉田重幸 平井良介 河野和男 松村圭司	
放射線診断科	医	金澤達	H27. 4. 1 採用
放射線治療科	副 医	豊福隆将	H28. 2. 1 採用
歯科口腔外科	部長 副 嘱 医託 医託	濱口裕弘 牛村彩子 藤下陽平	H28. 3. 31 退職 H27. 7. 1 採用 H28. 2. 29 退職
病理診断科	部長 嘱 係 託	竹田雅司 西岡陽介 政岡佳久	
集中治療部	部長	池田嘉一	
救急診療科	部長	福島幸男	
中央手術部	部長	上水流雅人	(兼泌尿器科医長)
内視鏡センター	セ ン タ ー 長	上田高志	

診療科等	職名	氏名	備考
糖尿病センター	センター長 医長 副医長	木戸里佳 辻真由美 小川義高	
健診センター	診療科特任部長	山本俊明	
中央検査部	技師長	浅岡伸光	
がん相談支援センター	係長	大和裕香	
緩和ケアセンター	部長	蔵昌宏	(兼麻酔科医長)
栄養科	係長	黒田昇平	
薬剤部	診療局次長 薬剤部長補佐 係長 係長 係長	山崎肇 長谷圭悟 松本数博 中谷成美 森本千穂	(兼薬剤部長・臨床研究センター長)
臨床研究センター	センター長補佐	香川雅一	
診療局	嘱託員 嘱託員 嘱託員 嘱託員 嘱託員 嘱託員 嘱託員 嘱託員	新子祐介 岡本正幸 木田光則 山本匠真 井上創輝 桑原 冴 峯 健太郎 長岡達朗 島崎 覚理	(研修医) (研修医) (研修医) H28. 3. 31 退職 (研修医) (研修医) H27. 4. 1 採用 (研修医) H27. 4. 1 採用 (研修医) H27. 4. 1 採用 (研修医) H27. 4. 1 採用 (研修医) H27. 4. 1 採用 H28. 3. 31 退職
(看護部)			
診療科等	職名	氏名	備考
看護部	部長 科長 科長 科長 科長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護師長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長 看護係長	森明富美子 千種保子 山中トモエ 山田智子 斉藤せつ子 横山敬子 森佳代子 神田ゆか 尾山明美 佐藤美代子 松川麻由美 安田幸代 青木美加子 井澤初美 杉村美貴 柏山康江 畑中邦子 丸山明子 近藤純代 山田まゆみ 甲斐幸代 小崎博子 渡壁淳子 播本靖子 藤原美智代 北内美和 黒木好深 青木ひとみ 北村亜矢子 中尾由美子	看護師長室 看護師長室 看護師長室 (兼医療安全管理者) 看護師長室 (兼新生児集中治療部看護師長 (H27. 10～)) 看護師長室 H27. 8. 31 退職 看護師長室 外来師長室 中央手術部 地域医療連携室 地域医療連携室 (兼がん相談支援センター) 集中治療部 5階西病棟 5階東病棟 6階西病棟 6階東病棟 7階西病棟 7階東病棟 8階西病棟 8階東病棟 新生児集中治療部 H27. 8. 4 退職 看護師長室 外来師長室 外来A 外来B 外来C 外来D 放射線科 中央手術部 中央手術部 救急診療科

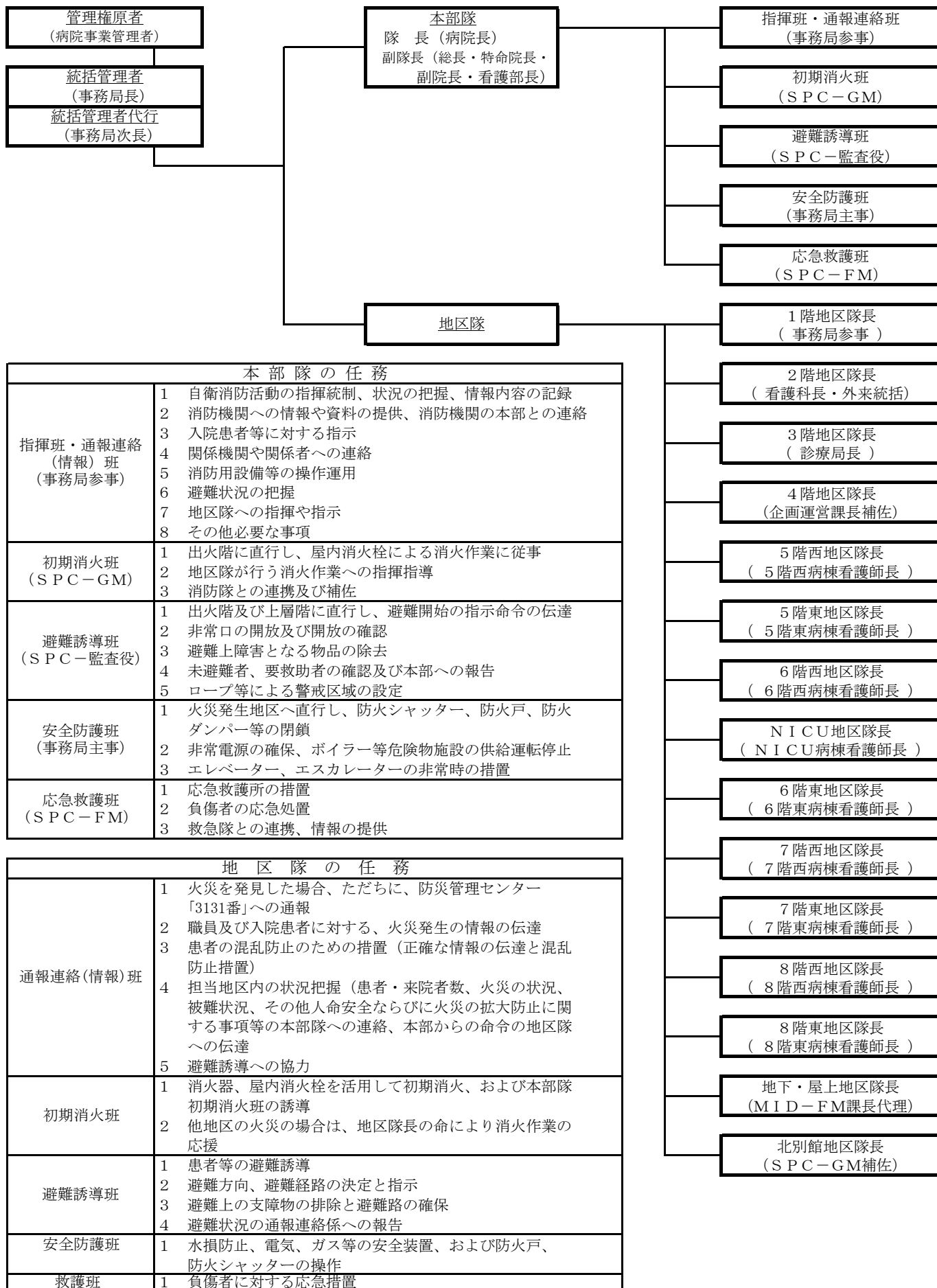
診療科等	職名	氏名	備考
	看護係長	蛭田澄枝	内視鏡センター
	看護係長	柚木原和子	通院治療センター
	看護係長	増田王代	糖尿病センター
	看護係長	小林啓子	緩和ケアセンター
	看護係長	上岡いづみ	集中治療部
	看護係長	西原君代	集中治療部
	看護係長	楠本恵	5階西病棟
	看護係長	細川富美	5階西病棟
	看護係長	大石馨	5階東病棟
	看護係長	浅井真由美	5階東病棟
	看護係長	石田弘美	6階西病棟
	看護係長	沢井ゆかり	6階西病棟
	看護係長	黒江みつ	6階東病棟
	看護係長	下田美鈴	6階東病棟
	看護係長	林正美	7階西病棟
	看護係長	蓬郷千里	7階西病棟
	看護係長	山下春美	7階東病棟
	看護係長	西村勢津子	7階東病棟
	看護係長	沖本桂子	8階西病棟
	看護係長	中西千賀子	8階西病棟
	看護係長	森本美百	8階東病棟
	看護係長	奥田清美	8階東病棟
	看護係長	西本恵美子	新生児集中治療部
	看護係長	生藤由紀子	新生児集中治療部
(事務局)			
課名	職名	氏名	備考
事務局 企画運営課	事務局長	植野茂明	(兼企業出納員)
	次長	山内雅之	
	課長	朴井晃	H28. 3. 31 市長部局へ異動 H27. 7. 13 市長部局へ異動
	参事	小枝伸行	
	参事	井上真一	
	課長補佐	水野佳胤	
	課長補佐	宮田克爾	
	企画運営係長	植村佳子	
	企画運営係長	高草恒平	
	経理係長	小山修司	
	人事係長	中田亮太	

(平成28年3月31日現在) (単位：人)

医療安全管理室兼(1)	診療局（臨床研修医）	診療局（医師事務作業補助者）	外来小計	看護師長室	外来師長室	外来A	外来B	外来C	外来D	外来小計	外来総計	集中治療部	5階西病棟	5階東病棟	6階西病棟	新生児集中治療部	6階東病棟	7階西病棟	7階東病棟	8階西病棟	8階東病棟	病棟計	事務局長	事務次長	企画運営課	企画運営課企画運営係	企画運営課企画運営係	企画運営課人事係	事務局	小計	合計
			80							0	80											0							0	80	103
	9		22							0	22											0							0	22	
			1							0	1											0							0	1	
			65							0	65											0			1				1	66	78
			7							0	7											0							0	7	
			0							0	0											0							0	0	
			5							0	5											0							0	5	335
兼(1)			43	7	4	1	1	1	1	15	58	21	23	28	26	兼(1) 17	23	26	22	23	27	236							0	294	
			8		4		1	1	3	9	17		2	1	1		1	3	2			10							0	27	
			2		1		1			2	4											0							0	4	
			3		1				1	2	5		1	1	1					1	1	5							0	10	12
			0			1	1	2		4	4											0							0	4	
			1		3			1	1	5	6	1										1							0	7	
			0							0	0											0							0	0	
			0		1					1	1											0							0	1	43
			0							0	0											0	1	1	3	4	3	4	16	16	
		5	5		6					6	11				1							1			1				1	13	
		1	1		2					2	3											0				2		2	4	7	
			0		6					6	6											0						1	1	7	19
			0							0	0											0							0	0	
			0		5					5	5											0							0	5	
			0		2					2	2											0							0	2	
			0		12					12	12											0							0	12	

0	0	0	188	7	4	2	2	3	1	19	207	21	23	28	26	17	23	26	22	23	27	236	1	1	4	4	3	4	17	460	590
0	9	5	43	5	13	0	1	2	4	25	68	1	2	1	2	0	1	3	2	0	0	12	0	0	1	0	0	0	1	81	
0	0	1	4	2	3	0	1	0	0	6	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4	14	
0	0	0	8	12	8	0	0	0	1	21	29	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	5	0	0	0	0	0	1	1	35	
0	9	6	243	26	28	2	4	5	6	71	313	22	26	30	29	17	24	29	25	24	27	253	1	1	5	6	3	7	23	590	590

八尾市立病院自衛消防組織編成表



診療局の現況

診療局の現況

平成 27 年度は診療局として 3 つの目標を掲げました。まず 1 つ目は逆紹介率 70%以上を達成すること、2 つ目は退院サマリの 2 週間以内作成率を 90%以上に維持すること、3 つ目は初期臨床研修医を新たに 4 名確保することでした。1 つ目の逆紹介率については、様々な取り組みを行った結果、累計 72%と目標をクリアすることができました。2 つ目の 2 週間以内の退院サマリ作成率は 1 年を通して毎月 90%を超え、こちらも目標を達成することができました。3 つ目の研修医の確保については、マッチングで 4 名、大阪市大との枠がけで 1 名が採用となりました。一方、今年度末で 4 名の初期研修医が無事に臨床研修を修了されましたが、このうち 3 名が、引き続き後期研修医として当院に勤務いただけることになりました。

主要な人事として、4 月から佐々木洋先生が総長に、星田四朗先生が病院長にそれぞれ就任されたほか、福井弘幸先生が副院長に就任され、病院として新たな体制がスタートしました。また、診療科部長人事では、4 月から宮城琢也先生が消化器内科部長として赴任されました。なお、4 月から当院の腫瘍内科医が不在となりましたが、他の医師がカバーすることで無事乗り切ることができました。

長らく病院の大きな目標の一つであった国指定の地域がん診療連携拠点病院ですが、佐々木総長はじめ関係者のご尽力により 4 月から新規の指定を受けることができました。他のがん診療連携拠点病院や大阪府指定のがん診療拠点病院と連携し、がん診療の水準向上に努めるとともに、緩和ケアの充実、在宅医療の支援、がん相談支援、がんに関する情報収集や提供などを行っていききたいと思います。

地域医療連携を推進する目的で、今年度も 5 月 9 日と 10 月 24 日の 2 度にわたり八尾地域医療合同研究会が開催されたほか、新たに奈良県の西和医療センターと共同で「サロン・ド・大和路ライン会」が開催されました。第 1 回の 6 月 22 日は地域医療連携室の取り組みについて、第 2 回の 12 月 15 日は院内感染対策についての発表があり、それぞれの病院の情報交換を行う場として発展させていきたいと思っています。

昨年度から進められていた病院機能拡充のための施設整備が今年度になって無事完了しました。病院北館が完成し、本館から院内保育ルームや図書室が移転したほか、会議室や災害に備えた備蓄倉庫などが設置されました。一方、病院本館では、I C U が 6 床に増床されたほか、手術室や医局の整備、通院治療センターの増床移転、患者サポートケアセンターの設置などが行われました。また、大型医療機器として血管撮影装置、放射線治療システムがそれぞれ更新され、当院の二本柱である循環器診療とがん診療のより一層の充実が期待されるところです。

内科の現況

1. スタッフ

部 長 大江 洋介
医 長 木戸 里佳、辻 真由美
副 医 長 辻本 和徳、小川 義高
嘱託医師 吉田 朋世
応援医師 米田 正太郎、北村 哲也、武田 景敏、竹内 潤、
正田 英雄、松本 伸治、小川 吉彦

2. 診療内容

1) 感染制御内科

平成 26 年度から感染制御内科として常勤医師が 1 人在籍するようになり、一部の重症感染症の入院加療や、嘱託医師とともに週 1 回の専門外来診療を行っている。また当院は呼吸器内科常勤医不在のため、肺がん、肺結核・肺非結核性抗酸菌症、びまん性肺疾患、喀血の診断治療目的で当科常勤医が気管支鏡検査を担当している。他に、難治性感染症や特殊感染症、不明炎症、急性間質性肺炎などの呼吸器疾患についてのコンサルテーションを受けている。

院内活動では感染対策チーム（I C T）の一員として、当科医師が加わり血液培養陽性症例やメロペネム投与例、広域抗生剤や抗 MRSA 薬の長期投与症例に対するカルテ上での介入、院内感染対策の立案・実施と教育・啓発、感染症アウトブレイク時の危機管理、職員の感染症に対する安全管理、耐性菌出現予防のための抗菌薬適正使用の推進などの活動も行っている。

2) 糖尿病内科

平成 24 年 4 月 1 日から 1 階に糖尿病センターを開設し、糖尿病専門外来を行っている。糖尿病専門医の他に、糖尿病センター専属の看護師、管理栄養士、医療秘書がスタッフとして常駐し、多職種から成る『糖尿病チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。平成 27 年 9 月からは、限定的ではあるがチームに臨床心理士も加わり、より多面的に糖尿病患者の指導を行うべく工夫を重ねている。また早期腎症以上の腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診・療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている（糖尿病透析予防指導）。必要に応じて腎臓内科医をはじめとする他科への紹介も積極的に行い、集学的治療を目指している。患者毎に胸部 X 線、心電図をはじめ、心臓・腹部・頸動脈の超音波検査などを定期予定検査として実施し、糖尿病患者に多くみられる大血管障害（動脈硬化）や悪性疾患の早期診断・治療にも取り組んでいる。合併症の進行した患者の足切断につながる足壊疽などの予防を目的に、看護師による足および神経障害のチェックを含めたフットケアも定期的実施している。下肢血流評価も実施し、必要に応じて循環器内科医および形成外科医と積極的な連携を図っている。

平成 25 年度から 1 型糖尿病あるいは妊婦をおもな対象とするインスリンポンプの導入を開始し、持続血糖モニター（C G M）も導入した。機器も年々進化しており、現在は個人用の C G M と連動する新たなインスリンポンプ（S A P）が主流となっている。これらの新しい機器も

含めて、対象となる患者には積極的に導入を勧め、チームでの管理・指導を継続して行っている。またインスリンポンプ導入症例を主な対象者として、おもに管理栄養士によるカーボカウント法の指導も行っている。このようにより専門的診療が可能になっており、他のメディカルスタッフとともによりよい糖尿病診療、とくにチーム医療の実践に取り組んでいる。糖尿病治療においては自己管理が非常に重要であり、とくに糖尿病教育に重点を置き、教育入院も積極的に行っている。

3) 腎臓内科

当科では応援医師の協力を得て、腎不全、水電解質代謝異常、原発性糸球体疾患、尿細管・間質疾患、全身性疾患による腎障害、高血圧および腎血管障害、腎・尿路感染症、遺伝性腎疾患などの腎臓内科疾患の外来診療を週1回行っている。

血液透析の必要な入院患者については、ICU医、循環器内科、泌尿器科に協力いただいている。また腎生検を含め腎炎などの入院加療は他院へ紹介している。透析導入は行っていない。

4) 脳循環内科

平成25年度から脳循環内科として独立したが、スタッフは変わらないため診療内容は大きな変化はない。脳梗塞急性期の入院治療と脳梗塞ハイリスク患者の外来診療を行っている。また、脳神経外科と緊密な連携をとっており、合同カンファレンスも随時行っている。院内発症の脳梗塞についてのコンサルテーションも受けている。

5) 神経内科

当科では神経系（大脳・小脳・脊髄・末梢神経）および、筋肉に生じる炎症、変性、血管障害などを中心に診療を行っている。常勤医師不在のため外来診療のみで、変性疾患・パーキンソン病・脊髄小脳変性症や、てんかん・頭痛などを診療している。9月末で武田景敏医師が退職となり、10月から竹内潤医師を迎えている。これに伴い、外来は金曜日午後に移動した。

入院患者のコンサルトにも対応している。

3. 診療体制

1) 感染制御内科

外来診療：水曜日の午後に気管支鏡検査を行っている。

金曜日の午前・午後に予約制の専門外来を行っている。

入院診療：入院患者のコンサルテーションについては随時受けている。

2) 糖尿病内科

外来診療：糖尿病センターにおいて、月曜日から金曜日の毎日、予約制の専門外来を行っている。初診外来は、月曜日、水曜日、金曜日の午前に予約制で診療している。平成27年1月から地域の医療機関より新規に患者をご紹介頂く際に使用できる新たな連絡票の運用を開始し、ご要望に対してより適切な対応を行うことで、さらなる地域連携の活性化を目指している。療養指導、フットケア、個別食事指導、服薬指導は、必要に応じて随時行っている。

入院診療：クリニカルパスを用いて糖尿病教育入院を行っている（原則月曜日あるいは火曜日入院）。教育入院症例には以前より管理栄養士による集団および個別の栄養指導を行っていたが、平成25年度から教育入院の内容を改訂し、医師、薬剤師、看護

師による集団指導も開始した。必要に応じて個別指導も入院中随時行っている。
他院から紹介の重症症例、糖尿病ケトアシドーシス（DKA）などの救急症例は随時緊急入院として受け入れている。妊婦症例を対象とした短期の教育入院も積極的に行っている。また限られた症例数ではあるが、一部内分泌疾患（下垂体機能低下、甲状腺疾患、副腎皮質機能低下など）の診療も行っている。

3) 腎臓内科

外来診療：金曜日の午前と午後に診療を行っている。

入院診療：行っていない。

4) 脳循環内科

外来診療：火曜日の午後（予約診）と水曜日（初診）を行っているが、待ち時間が長くなっている。かかりつけ医との病診連携を有効に活用したいと考えている。

入院診療：脳神経外科のバックアップを受けながら診療にあたっている。

検 査：CT/MRI/MR Angio/SPECT(脳血流シンチ)/頸動脈エコー/TCD(経頭蓋超音波)/心エコー/経食道心エコー/ホルター心電図・血圧計/血圧脈波/下肢血管エコー（動脈・静脈）/血管内非機能検査（FMD）などを活用している。

5) 神経内科

外来診療：水曜日午後の方の診察のため、院内、院外からの紹介に限定している。

入院診療：行っていない。

4. 診療実績

1) 感染制御内科

外来延患者数は876人であった。入院延患者数は1,283人。

2) 糖尿病内科

外来延患者数は3,979人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者は1,189人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者は210人、在宅療養指導料を算定した延患者は235人、在宅自己注射導入期加算を算定した延患者は359人であった。糖尿病教育入院患者数は163人であった。8月を除く毎月第3木曜日（13時～）に、医師・看護師・管理栄養士など糖尿病チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ多くの一般市民に参加頂いている。延参加者数は263人、月平均23.9人であった。

3) 腎臓内科

外来延患者数1,044人であった。

4) 脳循環内科

平成27年度の外来延患者数は806人であった（院内コンサルテーション件数は含めず）。

5) 神経内科

外来延患者数563人と前年より減少している（これとは別に院内紹介を受け入れている）。入院患者は受け入っていない。

5. 教育活動

- 1) 感染制御内科：I C Tとして、院内感染症研究会の企画立案、担当を行った。
- 2) 糖 尿 病 内 科：臨床研修医4名の入院患者を中心にした診療の研修を行った。
- 3) 脳 循 環 内 科：臨床研修医6名の病棟研修を行った。

血液内科の現況

1. スタッフ

部 長 服部 英喜（兼中央検査部医長）、桑山 真輝

2. 診療内容

血液内科は白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫をはじめとする造血器腫瘍、貧血一般、再生不良性貧血、血小板減少症などを診療対象疾患としている。中でも造血器腫瘍においては、寛解・治癒が望める症例では自己末梢血幹細胞移植をはじめとして積極的な化学療法を施行し、高齢者・合併症併発症例には長期延命のためQOL療法を図るなど、個々の患者の病態・年齢・背景に応じた治療を選択している。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：血液内科専門予約外来 服部英喜部長は月曜日午前、木曜日午後、金曜日午前を担当している。桑山真輝医長は月曜日午後、水曜日午後、木曜日午前を担当している。一般内科初診外来（火曜日、金曜日共に午前）で主に血液疾患初診対応を行っている。
- 2) 入院診療：7階西病棟にて原則的には無菌室2床、一般病床18床で運営している。

4. 診療実績

平成27年度に血液内科で診療した血液疾患新規入院患者数は84名であった。内訳は悪性リンパ腫36名、急性白血病8名、多発性骨髄腫8名、骨髄異形成症候群11名、特発性血小板減少性紫斑病5名、その他16名（ATL、慢性白血病、自己免疫性溶血性貧血、骨髄増殖性腫瘍など）であった。

入院症例の多い悪性リンパ腫の主なタイプの初発例での治療成績は以下の如くである（高齢・合併症などでQOL療法のみとなった症例などは省き、治療評価可能例に限る）。

びまん性大細胞型B細胞性 完全寛解率76.9%(10例/13例)、濾胞性 同83.3率%(5例/6例)、ホジキン型 同100率%(2例/2例)。また2例（悪性リンパ腫1名、骨髄腫1名）に自己末梢血幹細胞移植を施行、寛解を維持できている。

5. 教育活動

服部英喜部長が平成27年9月に「血液検査の読み方」、同年12月に「院内感染疾患」についての研修医レクチャーを行った。

消化器内科の現況

1. スタッフ

副 院 長 福井 弘幸（兼診療情報管理室長）
部 長 宮城 琢也
医 長 巽 理、木津 崇
副 医 長 中村 昌司
嘱託医師 前川 祐樹、伊藤 資世

2. 診療内容

外来業務は、初診再診を対象とした午前診を毎日2～4診、専門的な診察を行う専門外来を午後に毎日1～2診担当し、内視鏡検査・処置、超音波検査・処置などの検査処置も毎日担当している。病棟業務は、地域医療連携室経由の紹介患者や救急外来からの患者を含め最大50床程度を担当している。

電子カルテシステムの稼働により、内視鏡・超音波やCT・MRIなどの画像を電子カルテ上で患者に提示可能である。内視鏡・腹部超音波画像はファイリングシステムにおいても管理され効率的な診療に役立てている。

専用透視室を備えた内視鏡センターを運営し、内視鏡検査だけでなく、あらゆる内視鏡下治療処置（ESD/EMR・ESD/EMR・EIS/EVL・EST/EPBD・ERBD/ENBD・ステントなど）を施行している。超音波下治療手技であるPTCD・ステントなども専用透視室で施行している。

C型肝炎やB型肝炎に対する抗ウイルス治療を積極的に行っている。肝臓がんの予後をよくするためには、早期発見とその質的診断が非常に重要であり、当院に導入されている高性能CT・MRIと超音波技師と共に施行する造影腹部超音波検査を組み合わせることにより、肝臓がんの早期発見と的確な質的診断に取り組んでいる。肝臓がんの治療では、個々の症例に応じた適切な治療法の選択が非常に重要となってくるため、放射線科・外科と連携し、超音波下治療・血管内カテーテル治療・開腹手術あるいは抗がん剤治療などあらゆる治療選択肢を適切に組み合わせることにより、肝臓がんの予後改善に取り組んでいる。肝臓がんに対する治療選択肢の一つである経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）を施行している。

胆道系腫瘍や膵臓腫瘍に対して、外科や放射線科と連携を密にすることにより胆膵疾患の診療に対して従来にも増して積極的に取り組んでいる。

早期胃がんや早期大腸がんに対する内視鏡下治療では、従来の粘膜切除術（EMR）より進んだ治療である粘膜剥離術（ESD）を行っている。開腹手術をせずに早期胃がんや早期大腸がんを治癒させることが可能となっている。

食道がん・胃がんの診断には、NBI（Narrow Band Imaging）観察が可能な内視鏡システムは非常に有用であり、消化管のがん診療にもますます力を入れている。内視鏡下に胃腫瘍や膵腫瘍などの穿刺検査・治療を可能にする超音波内視鏡や、小腸の腫瘍・出血の精査治療に役立つ小腸内視鏡を有し、診療に役立てている。

胆石発作や急性膵炎、消化管出血など多くの救急疾患に対応している。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日までの毎日、消化器内科初診再診と消化器内科専門診との2～4診体制。
- 2) 入院診療：病床数は最大50床を担当。
- 3) 腹部超音波検査：月曜日から金曜日までの毎日施行。
消化管内視鏡検査：上部消化管内視鏡検査；月曜日から金曜日までの毎日施行。
下部消化管内視鏡検査；月曜日から金曜日までの毎日施行。
内視鏡下・超音波下処置：月曜日から金曜日までの毎日、午後に施行。

4. 診療実績

主要な検査・処置・治療件数

(単位：件)

経皮ラジオ波焼灼術 (RFA)	24
内視鏡下早期胃癌切除術 (ESD)	70
内視鏡下早期大腸癌切除術 (ESD)	9
上部消化管内視鏡検査	3,238
下部消化管内視鏡検査	1,435
内視鏡下逆行性胆管膵管造影 (ERCP)	28
超音波内視鏡 (EUS)	50
超音波内視鏡下穿刺生検 (EUS-FNA)	3
内視鏡下食道静脈瘤治療 (EVL・EIS)	39
C型肝炎DAA治療	103

5. 教育活動

臨床研修医1年目への研修教育：5名に対して各2か月間
臨床研修医2年目への研修教育：1名に対して3か月間
後期研修医向け教育講座の講師
病棟看護師院内研修の講師
8階西病棟看護師勉強会の講師

循環器内科の現況

1. スタッフ

病 院 長 星 田 四 朗
部 長 渡 部 徹 也（兼MEセンター長）
医 長 篠 田 幸 紀、池 岡 邦 泰
副 医 長 福 岡 秀 忠、乾 礼 興

2. 診療内容

当科は、平成 16 年 5 月の新病院移転時に内科より独立した。診療内容としては、心筋梗塞・狭心症といった虚血性心疾患を中心に、心不全、不整脈といったほぼ全ての循環器疾患を扱っている。外来診療でも 3 D 描出可能な心エコー図検査、冠動脈描出可能なマルチスライス CT、非侵襲的に虚血診断のできる R I といった最新鋭装置にて診断を行えるようになった。外来の検査にて冠動脈疾患が疑われた場合、入院していただきカテーテル検査や治療を行う。患者様の負担を減らすために従来は鼠径部から治療を行っていたが最近では多く手首から治療を行っている。再狭窄予防効果の強い薬剤流出性ステントが使用可能となり、長期的成績が著しく改善した。急性冠症候群（急性心筋梗塞・不安定狭心症）に対するカテーテル治療に関しては原則 24 時間対応を行っている。また、不整脈のカテーテルアブレーション治療や末梢血管治療にも力を入れ始め、心房細動や発作性上室性頻拍のカテーテルアブレーション治療、透析シャント治療や、総腸骨動脈、大腿動脈などのカテーテル治療も行うようになっている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日まで循環器内科の初診・紹介患者に対応するため循環器内科医師が少なくとも 1 名外来を行っている。循環器患者の再診外来も行っている。また、原則として毎月第 1 月曜日の午後にペースメーカー外来を行っている。運動負荷心電図（トレッドミル）は月曜日・木曜日、負荷心筋シンチは月曜日・木曜日・金曜日、エコー（経胸壁心エコー、経食道心エコー、頸動脈エコー、深部静脈エコー、下肢動脈エコー）は毎日行っている。
- 2) 入院診療：ベッド数は 24 床である。予定の心臓カテーテル検査・ペースメーカー・血管内治療は月曜日午・火曜日・水曜日全日、金曜日午前中に行っている。
- 3) 救急体制：循環器内科として可能なかぎり 24 時間、365 日オンコール体制を目標に急性疾患に対応している。

4. 診療実績

外来延患者数は、7,031人、入院延患者数は、9,239人であった。

代表的な手術・検査件数

(単位：件)

心臓カテーテル検査	346
経皮的冠動脈形成術（PCI）	201
ペースメーカー植え込み術	43
アブレーション	124
末梢血管形成術（EVT）	111
下大静脈フィルター	3
心エコー図	4,167
経食道心エコー図	98
心筋シンチ	604

新病院になってから5年目までは体勢も整い、いずれの検査治療数も増加していた。一時、医師数減少により治療件数も減少傾向であったが、平成22年7月より循環器医師4名体制となり内科（循環器系医師）2名と協力し心臓オンコール（24時間救急受け入れ体制）を開始した。それに伴い症例数は増加傾向である。平成23年度は循環器系医師の退職により医師数は半減したが症例数の維持に努めてきた。平成24年度より4名体制となり可能な限り心臓コールの受け入れを継続している。平成27年からは5名体制となった。心エコー図、心筋シンチ、ホルター心電図、運動負荷検査等、診療内容は充実しており、カテーテル治療件数も一昨年度の約3倍にまで増加している。今後、病診連携を広めつつ、病院全体としての救急充実を図り何れの数字も増加していくように努力していきたい。

5. 教育活動

臨床研修医4名が2か月間隔で研修を行った。また、内科と協力して症例検討会を開催した。毎週、火曜日に入院患者の症例検討会、金曜日にカテーテル検査・治療の検討会を行っている。

外科の現況（一般外科・消化器外科）

1. スタッフ

総 長 佐々木 洋
部 長 横山 茂和（平成 28. 3. 31 退職）
医 長 松山 仁、井出 義人（兼通院治療センター長）、
橋本 安司、永井 健一、廣瀬 創
嘱託医師 山本 陽子（平成 28. 3. 31 退職）

2. 診療内容

「一般外科」、「消化器外科」、「救急総合診療科」の3つを大きな診療分野の柱としている。食道・胃疾患を中心とする上部消化管疾患、大腸を中心とする下部消化管疾患、胆石症を含む肝臓・胆のう・膵臓疾患、主に消化器癌を対象とする化学療法などを専門に行っている。一般的な外科疾患である急性虫垂炎やヘルニア、イレウス、急性腹膜炎などは、外科医師全員で対応し、救急診療業務には、24 時間オンコールの体制で協力している。各種外科疾患の中でも、本院の診療の柱である「がんの診療」には外科医師全員が特に力を注いでいる。

3. 診療体制

上部消化管疾患は福島幸男救急診療科部長・松山仁医長・永井健一医長が、下部消化管疾患は井出義人部長・廣瀬創医長が、肝・胆・膵疾患は佐々木洋総長・横山茂和部長・橋本安司医長が担当している。初診・紹介患者を対象とした一般外科外来は毎日診療しており、その他、上部消化管外来、大腸外来、肝・胆・膵疾患外来、ストーマ外来などの専門外来も行っている。全身麻酔の手術は月曜日から金曜日の全日に、腰椎麻酔や局所麻酔の手術は月曜日午後・金曜日午前に行っている。ただし、手術日以外にも緊急手術や臨時手術を行うことも多い。検査関連では、上部消化管内視鏡検査は週 1 回、下部消化管内視鏡検査は週 2 回外科で分担実施している。また、通院治療センターでの業務についても、他科医師とともに外来患者の化学療法の実施に携わっている。

診療の特徴としては、①疾患別の専門的診療、②個々の患者の病態に見合った治療法の選択、③科学的根拠に基づいた医療（EBM）の実践、④緩和医療・終末期医療を含め、最後まで看る体制、⑤クリニカルパス導入による医療の標準化と効率化の実践などである。

4. 診療実績

総手術件数が 607 件であった。その内、455 件（75.0%）が全身麻酔手術で、腰椎麻酔手術は 101 件（16.6%）、腹腔鏡下手術は 250 件（41.2%）であった。また、緊急手術は 71 件（11.7%）であり、腹腔鏡下手術が 36 件含まれている。平成 27 年度に行った代表的な手術症例の内訳は下表のとおりである。

代表的疾患の手術件数

(単位：件)

食道癌（切除術）	10	肝臓癌（原発・転移性）	
胃癌		原発性肝癌	24
幽門側胃切除術	45	転移性肝癌	9
胃全摘術・噴門部切除・その他	22	胆管癌手術	6
その他	6	胆嚢癌手術	2
大腸癌		痔核・痔瘻	15
結腸切除術	85	ヘルニア	
直腸癌手術	36	成人ヘルニア	124
直腸前方切除術・ハルトマン手術	7	臍ヘルニア	1
直腸切断術	2	腹壁瘢痕ヘルニア	5
低位前方切除術	25	急性虫垂炎（虫垂切除術）	45
胆石症		腹腔鏡補助下結腸手術	79
開腹胆嚢摘出術	1	腹腔鏡補助下直腸手術	32
腹腔鏡下胆嚢摘出術	40	腹腔鏡補助下胃切除術	28
膵癌・十二指腸乳頭部癌・下部胆管癌		腹腔鏡下直腸脱手術	3
膵頭十二指腸切除術	8		
膵体尾部切除術	4		

5. 教育活動

臨床研修医3名に対して、計5か月間の外科臨床研修を指導した。また、大阪大学医学部5年生を対象にクリニカルクラークシップとして2名ずつ2週間の消化器外科実習を2グループ計4名に行った。

外科の現況（呼吸器外科）

1. スタッフ

特命院長 兒玉 憲
医 長 馬庭 知弘
嘱託医師 山本 陽子（平成 28. 3. 31 退職）

2. 診療内容

呼吸器外科では肺がん、転移性肺がん、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍（胸膜悪性胸膜中皮腫や孤立性線維性腫瘍など）、胸壁腫瘍などの腫瘍性病変、気胸、肺膿瘍、膿胸、胸部外傷など、ほぼすべての呼吸器外科疾患を治療している。

肺がんに対しては、サイズが 2 cm 以下で、高分解能 C T 上すりガラス状陰影が優位な早期がんに対しては、主として、胸腔鏡補助下に縮小手術を行い呼吸機能の温存に努めとともに、術中迅速肺切除マージン洗浄細胞診を行い、完全切除が行われたことを確認している。転移性肺腫瘍や多発肺がんに対しては適応を明確にしたうえで、両側同時手術も行っている。手術可能な悪性胸膜中皮腫に対しては胸膜肺全摘術を行っている。肺がんは今なお「難治性がん」の代表とされているがゆえに、その 1 次予防としての禁煙キャンペーンや、2 次予防としての早期発見に力を注いでいる。一方、進行肺がんに対しては、気管支形成術や拡大合併切除を行うと共に、化学療法、分子標的薬治療、放射線治療、免疫療法を組み入れた、いわゆる個別化医療 (personalized medicine) あるいは精密医療 (precision medicine) を進めている。

3. 診療体制

- 1) 外来診察：火曜日の午前、および木曜日の午前・午後に、初診、再診を問わず総合的に診察を行っているが、気胸や外傷など緊急処置が必要な場合は、緊急で随時受け入れている。また、紹介元より受診を急がれる場合は、地域医療連携室を通し、曜日を問わず可能な限り対応できるように努めている。セカンド・オピニオンを受け入れるとともに、他施設へのセカンド・オピニオンを希望された場合、適切な施設への推薦を行っている。遠方から来られた肺がん患者さんには、術後地域連携クリニカルパスの運用も行っている。
- 2) 手術治療：手術日は毎週火曜日午前・午後、ただし緊急手術は随時対応可能である。
- 3) 入院治療：手術入院以外に、胸部外傷やドレーナージ治療、放射線治療あるいは呼吸器悪性腫瘍在宅治療患者の後方支援としての入院の受け入れも可能な限り行っている。高齢者気管支鏡検査は 1 日入院で水曜日の午後に内科医の協力を得て施行している。

4. 診療実績

手術件数

疾 患	術 式	症例数	在院死	胸腔鏡下
原発性肺がん	部分切除	12	0	9
	区域切除	7	0	7
	肺葉切除	42	0	33
	全摘	1	0	0
転移性肺腫瘍	部分切除	11	0	9
	区域切除	3	0	3
	肺葉切除	6	0	5
縦隔腫瘍		6	0	3
胸壁腫瘍		4	0	2
気胸・膿胸		22	0	22
胸膜・肺・リンパ節生検		10	0	6
炎症性肺疾患その他		15	0	9
合 計		139	0	108

5. 教育活動

英文論文6編を発表、学会への積極的な参加・発表を行い、情報発信に努めている。

呼吸器外科修練認定施設として、呼吸器外科専門医育成支援を行っている。

医療従事者あるいは一般市民を対象とした、研究会や公開講座において、呼吸器外科の情報伝達や教育活動を行っている。

乳腺外科の現況

1. スタッフ

部 長 森本 卓
特任顧問 野村 孝
医 長 道下 新太郎

2. 診療内容

乳がんの診断、治療全般を関連診療科と連携して行っている。乳がん検診で要精査となった方の二次検診（精密検査）や初期乳がんの治療、進行再発乳がんの治療および遺伝性乳がんのカウンセリング、検査を行っている。ガイドラインに基づいた標準治療を行いつつ、臨床試験・先進医療・治験に参加し、よりよい診療の提供を目指している。

金曜日の午後、土曜日の午前は、八尾市乳がん検診を行っている。

3. 診療体制

2名の乳腺専門医で外来患者の診療を行っている。

- 1) 外来診療：火曜日・木曜日は全日2診で、月曜日は午前2診・水曜日・金曜日は午前1診で行っている。その他外来検査の説明を月曜日・金曜日に適宜行っている。
予約無し初診は各曜日の午前中に行っているが、事前予約は全日行っている。
マンモグラフィー・トモシンセシスによる3次元マンモグラフィー、超音波、エラストグラフィーを併用している。組織診・細胞診は、可能な限り受診当日に施行している。
石灰化病変にはステレオガイド下マンモトーム生検を月曜日午後に施行している。
診断困難症例には超音波ガイド下マンモトーム生検を行っている。
- 2) 手術：手術は水曜日の全日と金曜日午後に行っている。
R I法と色素法併用でのセンチネルリンパ節生検を実施している（同定率99%以上）。常勤病理専門医によるリンパ節および切除断端の術中迅速病理診断を行っている。形成外科と連携して乳房再建を行っている（同時、異時）。
- 3) 入院治療：乳がん看護認定看護師が病棟で対応、また外来でも心理的サポート、リンパ浮腫診断・治療においてもサポートしている。
- 4) 化学療法：通院治療センターで行っている。
- 5) 放射線治療：平成26年度より常勤放射線治療専門医が担当している。

4. 診療実績

代表的な手術件数および検査件数

原発乳癌手術	134例（乳房温存52例 乳房切除82例 同時再建23例）
ステレオガイド下マンモトーム生検	54例
超音波ガイド下マンモトーム生検	22例

高度先進医療では、「TS-1による術後補助化学療法」、臨床試験では、海外とのグローバル試験の「IBCSGのSOLE」、全国規模の「JBCRG」「NSAS」、近畿地区では「KBC

SG」に参加している。

脳神経外科の現況

1. スタッフ

部 長 都築 貴
医 長 クー ウイ ミン（平成 27. 5. 31 退職）、有田 都史香
応援医師 貴島 晴彦、谷口 理章、中村 元、馬場 貴仁、柳澤 琢史

2. 診療内容

当科では、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・神経機能的疾患を主として担当している。

脳神経外科の診療では、手術適応の決定の為に正確な画像診断が必須であり、当院にはその為の診断機器が基本的に整備されている。マルチスライスCTにより、通常のCT画像に加え、高解像度のCTアンギオグラフィーも使用している。CT画像を3D画像ワークステーションにより再構成することで従来の血管造影検査に遜色無く血管の形態的な異常をとらえることができ、術前シミュレーションには絶大な偉力を発揮する。またMRIでは種々の撮像が可能であり、造影剤を使用しなくともMRアンギオグラフィーによる血管異常の描出も可能である。さらに頸部頸動脈エコー検査も随時可能であり血流速度や動脈硬化性病変の性状診断が迅速に可能である。これらの手法を用い、従来行われていた侵襲的検査を大幅に減少させ、より低侵襲で、かつ十分な画像診断情報を得ることが可能となっている。脳血流の評価にはSPECTを備えており、脳虚血に対する手術適応の決定に不可欠なものとなっている。これらの画像診断は放射線科および中央検査部の献身的な協力により可能となっている。

脳神経外科診療の中心はもちろん担当疾患の外科治療（手術）であるが、当院には手術を確実かつ安全に遂行するための機材として、手術用ナビゲーター（Stealth Station）・神経内視鏡（EndoArm）・術中神経刺激装置（NIM pulse）・術中脳血流ドップラー（EZ Dop）・術中SEP/MEP/ABRモニタリング（Neuropack）を装備しており、これらの機材を積極的に導入し、神経機能予後の改善に役立てている。スタンダードな脳神経外科手術のみだけでなく、特殊で専門性の高い手術も大阪大学脳神経外科関連施設医師の応援協力を得て、当院で提供できる環境を整えている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：基本的には月曜日から金曜日までの午前1診体制であり、火曜日及び水曜日は予約のみだが午後1診の診療をしている。月曜日・水曜日・金曜日の外来診療に関しては大阪大学脳神経外科関連施設医師の応援を得ている。
- 2) 入院診療：ベッド数は10床にて稼動している。現在は脳卒中に対する診療が中心となっている。予定手術は水曜日に行っている。血管造影検査は金曜日午後に行っている。
- 3) 救急診療：常勤医2名であり、現時点では常時の対応はできないが、可能な限りオンコール

体制で 24 時間対応している。

4. 診療実績

外来延患者数 3,399 人、初診患者数 540 人であった。新入院患者数 152 人であった。手術は 69 件であり、脳血管障害や外傷の手術のみでは無く、悪性脳腫瘍や頭蓋底腫瘍も施行しており、特殊な神経内視鏡手術や神経機能疾患の手術も含まれている。

5. 教育活動

脳神経合同カンファレンスや病院主催のレジデントレクチャーで臨床研修医を適宜指導している。

整形外科の現況

1. スタッフ

部 長 三岡 智規（兼リハビリテーション科医長）
医 長 黒田 昌之（平成 28. 3. 31 退職）、平松 久仁彦
副 医 長 松村 宣政
応 援 医 師 片岡 英一郎（リウマチ外来担当）

2. 診療内容

スポーツ外傷、関節疾患、リウマチ、脊椎疾患を中心に、診療を行っている。

スポーツ整形外科では靱帯再建手術、半月板縫合術・切除術、肩脱臼に対する手術、肩腱板修復術を主に行っている。

関節外科では人工関節置換術を主に行っている。輸血を必要とする予定手術（人工関節置換術）に対しては外来にて術前貯血を行いできるだけ同種輸血を回避している。進行期の変形性関節症に対する骨切り手術を開始した。脊椎外科は腰椎の神経症状を有する疾患に神経根ブロック療法を主に施行している。リウマチ疾患は、毎週水曜日午後片岡英一郎医師による専門外来を行っている。外傷患者を積極的に受け入れた。また、外来部門は、病院が地域医療支援病院となったことと手術症例の増加に伴い、主に紹介や救急患者の診察を行うようにしている。

3. 診療体制

膝・肩、スポーツ疾患の担当は三岡智規部長、平松久仁彦医師が担当。

脊椎外科は黒田昌之医師が担当。手術数は増加の一途である。

松村宣政医師が担当する外傷部門も患者数が増加し、緊急手術症例も増加している。

4. 診療実績

当科で施行している主な手術は、骨折治療はもちろんのこと、膝靱帯再建術、肩関節脱臼、腱板手術、人工関節置換術、脊椎手術などの専門性の高い手術を行っている。

手術件数		(単位：件)	
スポーツ関連手術	150	人工関節置換術	57
内、靱帯再建	34	骨折手術	160
半月板手術 など	40		
脊髄手術	98		

形成外科の現況

1. スタッフ

医 長 三宅 ヨシカズ
副 医 長 仲野 雅之
応援医師 南方 竜也、日原 正勝 ほか

2. 診療内容

当科は、平成 20 年 7 月 1 日に開設し、切断指救急を積極的に受け入れるとともに形成外科一般の診療にあたっている。切断指など手指外傷の救急診療には 24 時間オンコール体制をとっている。中小企業・工場の多い地域ということもあり、日本屈指の症例数となっている。また、他科とも協力し悪性腫瘍切除後の再建も行っている。特に乳がん切除後の乳房再建では、自家組織による再建だけでなく、乳房シリコンインプラントによる再建も行っている。

さらに表皮嚢腫、母斑、脂漏性角化症、脂肪腫などの良性腫瘍や基底細胞がん、有棘細胞がんなどの悪性腫瘍、瘢痕、眼瞼下垂、多合指症、耳介変形、顔面外傷、下肢静脈瘤など幅広い疾患の診療を行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から木曜日の午前中、金曜日は午後に一般外来を行っている。
火曜日の午後は専門外来「乳房再建外来」を行っている。
- 2) 手術：月曜日、木曜日午後、金曜日に手術を行っている。
- 3) 救急体制：切断指などの手指外傷に対し 24 時間オンコール体制をとっている。

4. 診療実績

	手術件数		(単位：件)
	入院手術	外来手術	
外傷	133	84	217
先天異常	9	4	13
腫瘍	90	428	518
瘢痕、ケロイド	6	18	24
難治性潰瘍	20	7	27
炎症・変性疾患	66	48	114
その他	4	1	5
合計	328	590	918

*平成 27 年 1 月から 12 月末までの手術実績

5. 教育活動

関西医科大学および大阪市立大学形成外科主催で年 2～3 回、各関連病院合同の症例検討会が開かれ、情報交換を行った。臨床研修医の形成外科研修として 2 名の研修医を受け入れた。また、関西医科大学第 6 学年学外臨床実習施設として 1 名の学外実習生を受け入れた。

産婦人科の現況

1. スタッフ

部 長	山田 嘉彦
医 長	水田 裕久、吉澤 順子、佐々木 高綱、山口 永子
副 医 長	松浦 美幸
嘱託医師	山田 弘次、中野 和俊
応援医師	棚瀬 康仁、松原 翔

2. 診療内容

- 1) 産 科：当院はNICU 6床を有し、OGCS（産婦人科治療相互援助システム）の参加病院として、地域の先生方からの切迫早産、合併症妊娠、分娩前後の急変患者などの搬入を積極的に受け入れている。ひと月あたりの分娩予約数を 60 件程度に制限をしている。
- 2) 婦人科：月経困難症、子宮内膜症および更年期障害に対するホルモン療法を行っている。婦人科がんの治療に関しては各種ガイドラインに基づきながら、カンファレンスによって治療方針を決定し、手術療法、化学療法を行っている。腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術にも積極的に取り組んでいる。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前は産科再診、婦人科再診、初診の 3 診体制、午後は産科再診、手術前の説明、外来検査（生検など）および市民健診の子宮がん検診（水曜日）を行っている。水曜日と木曜日に各 1 名の応援医師が、奈良県立医科大学から派遣されている。
- 2) 入院診療：ベッド数は 30 床。産科の分娩も、婦人科の手術も入院期間は概ね 1 週間以内と短期間で、病床の回転率は高くなっている。
- 3) 手 術 日：月曜日、水曜日、木曜日の週 3 回である。悪性腫瘍の手術は主に木曜日に実施している。水曜日には奈良県立医科大学から棚瀬康仁先生が来院されており、腹腔鏡手術の指導がされている。そのほか里帰り分娩の予定帝王切開を、手術室のフリー枠を使用して、火曜日と金曜日にも行っている。

4. 診療実績

平成 27 年度の分娩数は 736 件で、例年通りであった。外来患者数は平成 27 年度 1 日平均約 86.4 人であった。手術件数は 440 件（内、帝王切開は 128 件）で、婦人科浸潤がんの手術件数は 41 件であった。腹腔鏡下手術の件数は増加しており、107 件であった。

主な婦人科疾患に対する手術実績 (重複あり、単位：件)

子宮頸部上皮内病変	63	円錐切除術	63	腹腔鏡下異所性妊娠手術	4
浸潤子宮頸がん	9	腹式単純子宮全摘術	31	骨盤臓器脱手術	14
子宮内膜増殖症	3	腹式子宮筋腫核出術	4	子宮鏡手術	23
子宮体がん	13	腹式付属器腫瘍手術	23	拡大子宮全摘術 (準広汎含む)	14
卵巣がん (境界悪性含む)	19	腹式異所性妊娠手術	0	広汎子宮全摘術	2
外陰がん	0	腹腔鏡下子宮全摘術	26	悪性腫瘍手術 (大網切除術まで)	3
卵巣腫瘍	88	腹腔鏡下子宮筋腫核出術	7	悪性腫瘍手術 (骨盤リン パ節郭清まで)	9
骨盤臓器脱	14	腹腔鏡下付属器手術	70	悪性腫瘍手術 (傍大動脈 リンパ節郭清まで)	9

分娩業務状況 (単位：件)

分娩数	736	帝王切開術	
正常分娩	569	予定	71
異常分娩	167	緊急	57
双胎分娩	11	吸引分娩	39
		鉗子分娩	0

5. 教育活動

スーパーローテートの初期研修として、2名が産婦人科研修を行った。毎週水曜日に術前症例検討会を行っている。隔週の水曜日に抄読会を行っている。また、病理診断科との合同カンファレンスを月に1回実施している。臨床研修医には、各種手術手技についてのプレゼンテーションを行ってもらい、その手技に対する理解度を定着させている。当施設は産婦人科専攻医研修指定施設である。奈良県立医科大学産婦人科教室から定期的に産婦人科専攻医の研修を受け入れている。本年は山田弘次医師と中野和俊医師が産婦人科専攻医の研修を行った。

小児科の現況

1. スタッフ

副 院 長	田 中 一 郎（兼診療局長）
部 長	上 田 卓（平成 28. 3. 31 退職）、井崎 和史（平成 28. 3. 31 退職）
医 長	中野 智巳、濱田 匡章、佐伯しのぶ（平成 27. 9. 30 退職）、能村 賀子
副 医 長	近藤 由佳
嘱託医師	薮本 仁美
応援医師	柳本 嘉時

2. 診療内容

新生児から中学生までを対象としているが、慢性疾患や先天性凝固異常疾患では年長者まで診療をしている。主な疾患としては呼吸器疾患、消化器疾患、気管支喘息、アレルギー性疾患、腎泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、神経疾患、血液・凝固疾患、川崎病、シェーンライン・ヘノッホ紫斑病などの小児期特有の疾患、新生児・未熟児疾患、先天性疾患などそれぞれ専門担当医を決めて診療している。また、健診・予防業務として正常新生児の退院時健診、生後 1 か月健診、10 か月後期健診や各種予防接種も行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前は月曜日、木曜日が 4 診制、火曜日、水曜日、金曜日が 3 診制とし、一般外来を中心に、予約患者は 1 診、2 診、予約外患者および救急は 3 診、4 診で診療している。
午後は予約専門外来として、思春期・心身症外来を月曜日、アレルギー・膠原病・腎外来を月曜日・火曜日、1 か月健診および後期健診を火曜日、予防接種を水曜日、発達外来と食物アレルギー外来を木曜日、内分泌外来とスキンケア外来を金曜日に行い、外来検査として火曜日と水曜日に心臓超音波検査を行っている。
- 2) 入院診療：小児単独病棟として 6 階西病棟に一般病床と N I C U を有している。
院内学級には八尾市立龍華小学校から先生に専属で来ていただいております、慢性疾患患者の長期入院に際し、ベッドサイドや院内教室で授業を行っていただいております。
また、小児病棟恒例の七夕やクリスマスの催しにもご支援を賜っている。
- 3) 救急診療：日勤帯は救急担当医を決めて対応している。時間外救急診療については、中河内小児救急輪番制を維持し、当院は、火曜日および土曜日を担当している。

4. 診療実績

入院患者の内訳は肺炎などの呼吸器疾患、胃・腸炎などの消化器疾患といった急性感染症が大勢を占めている。

代表的疾患件数

(単位：件)

肺炎・気管支炎	404	腸重積症	5
上気道炎・インフルエンザ・扁桃腺炎	92	消化器疾患（胃腸炎・腸重積症を除く）	34
胃・腸炎	98	新生児・未熟児疾患	137
クループ・喘息性気管支炎・気管支喘息	108	川崎病	60
感染症	34	リウマチ性疾患とその周辺疾患	19
細菌性・ウイルス性髄膜炎・脳炎・脳症	20	アレルギー疾患	15
神経・てんかん・熱性痙攣	78	食物アレルギー	390
腎炎・ネフローゼ・尿路感染症・尿路系疾患	56	血液・凝固異常	28
内分泌・代謝疾患	45		

5. 教育活動

臨床研修医 7 名が小児科研修を行った。また、奈良県立医科大学 6 回生 3 名がクリニカルクラークシップとして 4～6 月にそれぞれ 4 週間の臨床実習を行った。

近隣の小児科医との連携推進のために中河内小児科談話会を 6 月と 12 月に開催し、八尾市、柏原市、東大阪市、藤井寺市の医師会員や市立柏原病院の勤務医の先生方が参加され症例検討や情報交換を行った。

新生児集中治療部の現況

1. スタッフ

部 長 道之前 八重

2. 診療内容

当院は地域周産期母子医療センターの認定を受けており、産婦人科は基礎疾患や産科的合併症のある母体の分娩と緊急母体搬送を積極的に受け入れている。当科はこれらのハイリスク分娩から出生した新生児、地域の開業産婦人科病院または大阪新生児相互援助システム（NMC S）から紹介となった病的新生児を診療している。早産の場合、具体的には当院で対応可能な在胎 28 週以上を対象としている。主な疾患は、新生児呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、空気漏出症候群、新生児無呼吸発作、未熟児動脈管開存症、直ちに外科的治療が必要でない先天性心疾患、先天性貧血、先天性血液凝固異常、黄疸、ビタミンK欠乏症、低血糖、新生児乳児消化管アレルギー、脳室内出血、脳室周囲白質軟化症、新生児痙攣、先天性肺炎、敗血症などの感染症、ダウン症候群などの染色体異常などである。心臓胸部、消化器および脳外科の外科的治療が必要な場合はNMC Sなどを介して、より高次の専門施設に紹介している。

3. 診療体制

- 1) 分娩立会い：早産、多胎、胎児仮死徴候のある分娩、緊急帝王切開などのハイリスク分娩に立会い、新生児に蘇生処置を行いNICUに入院させている。
- 2) 入院診療：新生児特定集中治療室管理料の加算対象は6床。緊急時は8床まで対応している（24時間以内）。日勤はNICUに専任する小児科医が入院治療を行い、ハイリスク分娩には複数名で立ち会っている。休日夜間はNICU当直医が常在し、ハイリスク分娩とNMC Sによる緊急新生児搬送入院に24時間体制で対応している。定期的に産婦人科・小児科の合同カンファレンスを行い、母体と胎児情報の確保と新生児の入院経過のフィードバックを密に行っている。呼吸・循環管理を中心とした急性期の治療に加え、将来の健全な発育と発達につながる栄養管理、developmental careと育児支援を大切にしている。
- 3) 外来診療：当院NICUを退院または他院のNICUから紹介された早産児、SGA (small for date) は3歳ごろまでは発育と発達をフォローしている。新生児期と乳児期の栄養が非常に大切であることを定期的な診察を通して保護者に理解いただけるよう育児支援を行っている。SGAを含め低身長をきたした場合は成長ホルモン治療の適応があるかを診断し治療している。脳室周囲白質軟化症などによる脳性麻痺の早期発見に努め、八尾市立医療型児童発達支援センターなど小児リハビリテーションが可能な施設に紹介している。当院NICUを退院または他院のNICUから紹介された在宅人工呼吸管理、在宅酸素、気管切開、胃瘻などの高度な医療的ケアが必要なお子さまの診療を行っている。RSウイルスの流行時期9

～4月は、在胎 35 週までの早産児、先天性心臓奇形、ダウン症のお子さまを対象にRSウイルス予防薬のシナジス（パリビズマブ）の投与を行っている。

4. 診療実績

NICU入院総数は83人である。このうち院内出生児は79人、大阪府新生児相互援助システム（NMCS）を介してご紹介いただいた急性期の新生児搬送が1人、総合周産期センターからの慢性期の新生児搬送が3人である。院内出生のうちOGCSと八尾市内の開業産婦人科からの緊急母体搬送からの出生児が8人である。

出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は1人（院内出生）、出生体重が1,000g以上1,500g未満の極低出生体重児は8人（院内出生）である。気管内挿管・人工呼吸管理を施行したのは14人で経過良好だった。新生児死亡はなかった。11か月の長期入院後に在宅人工呼吸管理で退院した1名が死亡している。

		患 者 数	
		()内は前年度 (単位: 件)	
在胎週数別入院数		出生体重別入院数	
在胎 34～35 週	20 (19)	出生体重< 1,000g	1 (1)
在胎 32～33 週	11 (7)	1,000g ≤ 出生体重< 1,500g	8 (5)
在胎 30～31 週	5 (4)	1,500g < 出生体重 ≤ 2,000g	18 (20)
在胎 28～29 週	2 (0)	母体搬送(OGCS)からの出生児	8 (5)
		新生児搬送(NMCS)の受け入れ	4 (2)

5. 教育活動

平成 27 年度は院内新生児蘇生講習会を2回開催した。

眼 科 の 現 況

1. スタッフ

部 長 牧野 一雄（平成 28. 3. 31 退職）
医 長 松本 雄介（平成 28. 3. 31 退職）
応援医師 十河 薫

2. 診療内容

最近ではすっかり加齢性黄斑変性症が患者に浸透し、患者からの質問もより深い知識を問われる内容になった。これにより疾患意識度の高さが伺われる。ただそれにより抗 V E G F 硝子体腔内注射への協力が得られやすくなった半面、期待度の大きさも伺われている。思ったように効果が出ないときには落胆が大きい反面、効果があったときは非常に喜ばれる。従来の角膜感染症、白内障、緑内障、網膜静脈分岐閉塞症、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎、中心性網脈絡膜症、斜視、眼瞼内反症などの眼科一般の治療を超えて加齢性黄斑変性症はますます重要な疾患となっている。また、白内障手術では団塊の世代の方が適応時期に入ってきていると同時にかなりの高齢者の手術申し込みが増えてきている。これに病院機関がどのように対応するかが課題である。

糖尿病網膜症に対しては、糖尿病内科と連携しつつ積極的関与している。緑内障は、近年点眼薬の目覚ましい進歩と express 眼内ドレーン留置手術治療を行い、より良い眼圧コントロールを目指している。従来からのぶどう膜炎は長い経過をたどる場合があるので根気よく治療にあたっている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：すべて午前診では火曜日の手術日を除き月曜日から金曜日まで2診制で行っている。O R T が常勤2人になり、より時間内検査を充実させ患者への通院回数の減少に努めている。午後は、蛍光眼底検査、視野検査、網膜光凝固治療、外来小手術、手術説明を行っている。
- 2) 入院診療：ベッド数は7床で、平均在院日数 7.7 日で稼働している。

4. 診療実績

外来患者数は平成 25 年度から平成 27 年度にかけては白内障日帰り手術の占める割合が月例で変化はあるものの増加している。特に加齢性黄斑変性症に対する治療も増加している。ただ、加齢性黄斑変性症治療は、アイリニアを使用している。病院との協力により患者に経済的に可能な限り負担を減らす方法で行っており高額医療費のご案内も行っている。日帰り手術を希望されるケースが多くなる一方で、高齢な独居患者の増加で短期滞在型手術も増加してきている。また、スタッフが非常に協力的であることが診療に助かっている。近年の勤務眼科医師不足は深刻で今後の憂慮の点は継続的留意点である。

5. 教育活動

学会への積極的参加。

耳鼻咽喉科の現況

1. スタッフ

部 長 川島 貴之
副 医 長 佐野 奨、日尾 祥子、津田 武（平成 27. 6. 30 退職）
嘱託医師 奥野 未佳、米井 辰一

2. 診療内容

耳鼻咽喉科領域全般について、救急疾患、精密検査が必要な疾患、手術や入院加療を要する疾患を中心とした急性期病院としての診療を行っている。近隣には耳鼻咽喉科疾患での入院や手術に対応できる施設が少ないこともあり、八尾市内外の耳鼻咽喉科からの急性期病院としての期待は大きい。その役割を果たすため、当科では引き続き初診外来を紹介患者のみに限り、地域の病院や診療所からのニーズに可能な限り対応するようにしている。また病状の安定した患者を積極的に近隣耳鼻咽喉科診療所へ逆紹介することで、病院と診療所での役割分担を密に行っている。さらにスムーズな病診連携のために各地域の耳鼻咽喉科地域連携会を定期的開催している。

手術治療では、顕微鏡や内視鏡を用いた耳科手術を積極的に行っている。また内視鏡による鼻・副鼻腔手術なども多数行っている。扁桃やアデノイドに対する手術や声帯ポリープ・喉頭腫瘍などに行う喉頭微細手術、その他、耳下腺・顎下腺・甲状腺などの良性腫瘍に対する手術などを積極的に行っている。いずれも低侵襲手術を基本方針とし、できる限り入院期間が短くなるよう努めている。低侵襲の一例として、最近では内視鏡のみを用いた耳科手術が普及しつつあるが、それらも積極的に行っている。なお、現時点では頭頸部悪性腫瘍に対しては診断のみ行い、治療については他院関連病院への紹介にて対応している。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：月曜日から金曜日までの毎日、午前中に初診外来を行っている。なお、先述の通り初診は紹介患者に限っているが、当日紹介の受け入れもしているため、救急対応も可能である。再診外来も、月曜日から金曜日まで各医師が交替で行っているが基本的に予約制である。
- 2) 特殊外来：金曜日（第 1、3、5）の午後に幼児難聴外来、金曜日（第 2、4）の午後に補聴器外来、また火曜日（第 2、4）の午後に身体障害者認定外来を行い、幼少児から高齢者までの難聴患者へ対応している。また、入院患者の嚥下機能評価を行う嚥下外来を木曜日の午後に行っている。
- 3) 入院診療：ベッド数は 15 床で、1 日平均患者数は 16.8 人であり、1 年を平均するとほぼフル稼働の状態が続いている。在院日数は短期化に努めている。手術日は、月曜日・水曜日・木曜日・金曜日の午前・午後に手術室での全身麻酔手術を、木曜日・金曜日の午後に外来での局所麻酔手術を行っている。全身麻酔は前日入院で、短期

入院を考え、侵襲の少ない手術では術翌日に退院としている。

- 4) 大阪 5 大学と大阪府母子保健総合医療センター、大阪府立総合医療センターとならんで大阪府の新生児聴覚スクリーニング事業における精密検査施行病院となり、難聴児受け入れ病院として中河内地区の中核を担っている。

4. 診療実績

- 1) 外来診療：外来延患者数は 13,938 人で、対前年度比は 113.0%と増加傾向であった。当科は初診外来を紹介患者のみとしていることもあり、平成 27 年度 1 年間の紹介件数は 1,964 件と多い。その大半は当院で入院加療が必要な救急疾患や、手術が必要な疾患であり、急性期病院としての当院の役割を果たしている。
- 2) 入院診療：入院延患者数は 6,141 人であり、昨年度と比較して約 17%増となった。また手術室で行った主な手術件数は約 568 件で、過去 5 年間で最も多い手術件数となった。

5. 教育活動

前述の如く、周辺各地域で病診連携会・病病連携会を行い、併進診療を進めるとともに講演活動を行って、各地域の諸先生に当科の治療方針を説明し、引き続いて連携の強化を図った。当科にて主催した会は以下のとおりである。

- ・八尾耳鼻咽喉科医会：年 2 回

泌尿器科の現況

1. スタッフ

部 長 池本 慎一(兼診療局次長・医療安全管理室長)
医 長 上水流 雅人(兼中央手術部部長)、町田 裕一
副 医 長 村尾 昌輝

2. 診療内容

当科では膀胱・腎・前立腺・精巣などの泌尿生殖器がん、尿路結石症、尿路感染症、前立腺肥大症、過活動膀胱、副腎の内分泌疾患、停留精巣や膀胱尿管逆流症などの小児泌尿器科、尿失禁や膀胱脱などの婦人科との関連疾患を含め、ほぼすべての泌尿器科疾患を治療している。特に泌尿器がんの治療に重点を置き、手術療法、化学療法、放射線療法またこれらを組み合わせた集学的治療を行っている。膀胱がんはできるだけ膀胱温存治療をめざしている。外科系診療科では、より侵襲の少ない手術法として腹腔鏡下による手術が増加している。泌尿器科領域では腹腔鏡手術は平成 14 年 4 月より腎尿管腫瘍、上部尿路通過障害に対して健康保険が適用になって以来、当科でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れている。平成 27 年度では腎摘除術 17 例、腎尿管全摘除術 14 例の全例で腹腔鏡手術が行われた。また腎部分切除術 9 例中 7 例で腹腔鏡手術が行われた。

尿路結石に対しては、体外衝撃波結石破砕装置を導入し、経尿道的尿管碎石術、経皮的腎碎石術と合わせてほぼ全ての尿路結石に対して治療が可能になっている。平成 26 年度より軟性尿管鏡を用いてレーザーで結石を破砕する軟性尿管鏡下レーザー碎石術も行っている。平成 26 年度には軟性尿管鏡下レーザー碎石術は 33 例であったが平成 27 年度は 80 例まで手術件数が増加している。

平成 19 年末に常勤の腎臓内科医が不在となり、平成 20 年 1 月より当院外来通院中の慢性腎不全患者の血液透析導入及び維持透析業務を泌尿器科あるいは当科のサポートにて施行している。また急性腎不全の血液浄化及び重症患者の維持透析は ICU にて施行し、適宜当科がサポートしている。また当院は腎移植施設の認定を受けており、平成 26 年 1 月には第一例目の生体腎移植を施行した。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前診は水曜日に 1 診、水曜日以外は 2 診を設け、水曜日以外は午後診も行っている。泌尿器科検査では内視鏡検査、超音波検査、ウロダイナミックスなどは必要に応じて随時外来で施行している。膀胱癌、前立腺癌に対する外来化学療法を主に月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に行っている。平成 27 年度は前立腺癌に対する内分泌療法は延べ 1,283 件、前立腺癌、膀胱癌に対する外来化学療法は延べ 424 件行われた。
- 2) 体外衝撃波結石破砕術：月曜日、木曜日、金曜日の午後に原則として 1 泊の入院扱いで施行しているが、尿管結石に対しては外来通院でも行っている。
- 3) 入院診療：ベッド数は 20 床、平均在院日数約 7.8 日で稼働している。尿路生殖器癌に対する

腹腔鏡手術、内視鏡手術を中心とした集学的治療、前立腺生検術、前立腺肥大症に対する内視鏡手術、尿路結石症に対する軟性尿管鏡下レーザー碎石術を柱にしている。手術は月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の4日間行っている。

4. 診療実績

外来患者数は平成25年度16,368人、平成26年度15,606人、平成27年度16,291人となっている。新来患者数は平成25年度1,138人、平成26年度1,003人、平成27年度1,095人、となっている。延べ入院患者数は平成25年度6,891人、平成26年度7,161人、平成27年度6,396人となっている。平均在院日数は平成25年度10.2日、平成26年度9.6日、平成27年度7.8日となっている。腹腔鏡手術の増加に伴い平均在院日数も減少していると考えられる。手術室を利用した手術件数（体外衝撃波結石破砕術を除き、前立腺生検術を含む）は平成25年度503件、平成26年度559件、平成27年度629件と年々増加している。平成27年度に初めて手術件数が600件を上回った。体外衝撃波結石破砕術は平成25年度42件、平成26年度25件、平成27年度12件行っている。軟性尿管鏡下レーザー碎石術の増加に伴って体外衝撃波結石破砕術の件数は減少している。新入院患者数は平成25年度614名、平成26年度672名、平成27年度712名と年々増加している。その内、前立腺がんの精査目的（前立腺生検術）、を含めると悪性腫瘍患者は全体の6割程度を占めている。疾患では膀胱がんが多く、経尿道的膀胱腫瘍切除術は118件行われた。前立腺癌は罹患率、死亡率ともに急速に増加しており本邦では男性のがんでは罹患数は第1位、死亡数は第6位になっており年間8,000人以上が前立腺がんで死亡している。前立腺がんは血清PSAが鋭敏な腫瘍マーカーになっておりPSA検査の普及に伴い当科でも前立腺生検術が増加している。平成25年度は146件、平成26年度は152件、平成27年度は151件の前立腺生検術を行った。根治療法の適応のある患者に対しては前立腺全摘除術と放射線療法を提示し、臨床病期、病理所見、年齢などを鑑み、十分なインフォームド・コンセントを行った後にどちらを選択するかを患者に決めてもらっている。平成27年度の前立腺全摘除術は15件行われた。

平成27年度の血液浄化施行患者数は維持透析62件、透析導入12件であった。延べ264回の血液浄化を行った。

代表的な手術件数

経尿道的膀胱腫瘍切除術	118	膀胱全摘除術	5
経尿道的前立腺切除術	31	回腸導管造設術	4
経尿道的尿管碎石術（レーザー）	80	尿管皮膚瘻術	1
経尿道的膀胱碎石術	24	腎摘除術	17
尿管ステント留置術	151	腎部分切除術	9
経皮的腎瘻造設術	24	腎尿管全摘除術	14
経皮的尿路結石除去術	4	前立腺全摘除術	15
内シャント造設術	14		

5. 教育活動

池本慎一部長は大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の5回生、6回生の学生に泌尿器科がんの講義を行っている。

皮膚科の現況

1. スタッフ

部 長 高木 圭一

2. 診療内容

当科では月曜日から金曜日までの連日外来診療を行っている。平成 22 年 5 月までは 2 人での診療体制であったが、それ以降は 1 人体制である。

疾患の検査や治療内容についても、患者に対して最良の医療を提供していると考え。外来においては、皮膚科全般の疾患について診療を行っている。また、皮膚生検、慢性疾患診療、小型の腫瘍やあざの摘出なども行っている。皮膚生検は皮膚疾患を解明するためには非常に重要で、当科では積極的にこれを行い、治療に役立てている。また、脂漏性角化症、色素性母斑、疣贅などの良性腫瘍や、日光角化症などの悪性腫瘍の治療も症例により形成外科への紹介も含め積極的に行っている。また、掌跖膿疱症や尋常性乾癬といった難治性皮膚疾患に対しては UVA、UVB を正確なジュール数で照射可能な光線療法機器を用いて治療を行っている。接触性皮膚炎や最近増加傾向にあるアレルギー性疾患の原因追求に非常に有用とされるパッチテストも随時行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：初診は月曜日・火曜日・水曜日・金曜日、再診は月曜日・金曜日、処置および再診は火曜日で毎日診療を行っている。なお、水曜日・木曜日にも随時再診患者を診察している。また、月曜日、火曜日と木曜日を中心にパッチテスト、皮膚生検を随時行い、木曜日は光線療法や腫瘍切除を中心に診療を行っている。しかし、これら処置も曜日にとらわれず随時入れるようにしている。
- 2) 手術：必要に応じて、随時皮膚科外来で行っている。
- 3) 入院診療：感染症、慢性皮膚疾患、手術、紫斑症などの疾患で外来診療に影響がでない範囲で積極的に入院加療を行っている。

4. 診療実績

外来延患者数は 4,298 人、入院延患者数は 264 人である。平成 22 年 5 月より診療体制が変更になり、1 人体制となっている。きめ細かい診療を心がけるようにしているため、診療に時間をさくことが多くなり外来患者数は微増しており当科での診療を希望する患者やリピーターは増加していると考え。入院を積極的に取り入れている。外来通院での加療を希望する患者も多いが、入院患者数は増加してきている。

手術の症例数は形成外科での手術もあって減少している。炎症性皮膚疾患の症例数は徐々に増

加している。また帯状疱疹や蜂巣炎などの感染症はやや増加傾向にある。また、光線療法も増加している。しかし今後はやはり現在主流となっているNarrowband UVBの設置が必要である。

代表的疾病・治療及び手術件数

(単位：件)

良性腫瘍（処置室手術含む）	3
悪性腫瘍（処置室手術含む）	0
手術件数	3
全身麻酔	0
局所麻酔	3
生検	25
炭酸ガスレーザー	0
抜爪	0
光線療法	360

5. 教育活動

大阪大学医学部附属病院皮膚科主催で関連病院皮膚科合同の症例検討会を行った。また、2か月に1回の南大阪皮膚科症例検討会に参加し、難治症例の検討や最新の皮膚科学のレクチャーを受けた。さらに、毎月の複数病院参加による検討会（通称3病院症例検討会）にも参加した。地方会、総会も参加した。

リハビリテーション科の現況

1. スタッフ

医 長 三岡 智規（兼整形外科部長）

副 医 長 杉田 憲彦

係長（理学療法士） 岩崎 悟

係長（理学療法士）ほか理学療法士2名

2. 診療内容

これまでと同様整形外科疾患に代表される運動器リハビリテーションを中心に、脳梗塞、脳出血を中心とした脳血管リハビリテーション、更に長期臥床に伴う廃用症候群のリハビリも行っている。

3. 診療体制

診察医が4月から松村医師から杉田医師に変更となった。平成26年度に退職した人員の補充ができず、欠員1名で、理学療法士3人で1年間を乗り切ることとなった。このため、患者1人当たりの理学療法実施時間が短くなった。9月から週2回の非常勤（火曜、金曜の9時～15時）で作業療法士が1名勤務することになり、手指切断など形成外科からの要望にこたえられるようになった。各科の主治医からリハビリ依頼を受け、それに基づいて行われる毎週水曜のリハビリ診察でリハビリ医師が必要と判断しリハビリ処方されてのリハビリ開始が原則であるが、整形外科の手術翌日、脳梗塞の発症など主治医のリハビリ開始希望日を尊重して、可能な限り臨機応変に柔軟性を持たせて対応している。

4. 診療実績

リハビリテーションの70%は、運動器リハビリテーションで、残りの30%は脳梗塞、脳出血に代表される脳血管リハビリテーションなどであった。運動器リハビリテーションの主な対象疾患・手術は、人工膝関節置換術（TKA）、前十字靱帯損傷に対する関節鏡下靱帯断裂形成手術、大腿骨近位部骨折に対する人工骨頭置換術・骨折観血手術であった。また、心不全、呼吸不全、癌など悪性腫瘍を起因とした廃用症候群の依頼に対応した。

5. 教育活動

本年度も畿央大学、大阪電気通信大学理学療法学科4回生の8週間臨床実習を、各1名ずつ受け入れた。

麻 酔 科 の 現 況

1. スタッフ

部 長 小多田 英貴
医 長 蔵 昌宏（兼緩和ケアセンター部長）、土屋 典生、東 浩司、谷本 敬、
橋村 俊哉、薮田 浩一（兼集中治療部医長）、山本 奈穂
副 医 長 義間 友佳子

2. 診療内容

当科では、午前8時30分からは集中治療室患者のカンファレンスを主治医とともにに行っている。手術室においては、全科の全身麻酔を担当し、休日夜間もオンコール体制で対応している。産科の緊急症例についても対応しており、地域の周産期医療の一端を担っている。集中治療分野においては、24時間麻酔科医が常駐し、重症患者に対して主治医とともに集中管理を行っている。ペインクリニックにおいては、外来診療（月曜日・水曜日・木曜日）を行っている。また、感染対策チーム（ICT）、呼吸器ラウンドチーム（RST）、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム（NST）など、院内のチーム医療にも積極的に参加している。臨床研修医に対しては初期研修で習得すべき基本的手技・知識を始め、救急診療で必要な技能の取得を目標に精力的に教育している。

3. 診療体制

- 1) 麻 酔 管 理 : 手術の麻酔を毎日5列管理している。
- 2) 集 中 治 療 : ICU5床の管理を担当医主治医制で行っている。
24時間、集中治療医として麻酔科スタッフが常駐している。
- 3) ペインクリニック外来 : 月曜日、水曜日、木曜日に行っている。
- 4) 緩 和 ケ ア : 病棟ラウンド業務を週2回（水曜日、金曜日）、カンファレンスを週1回（水曜日）担当している。
- 5) 感 染 対 策 チーム（ICT）: ラウンドを週1回担当している。
- 6) 人 工 呼 吸 サポートチーム（RST）: ラウンドを週1回、カンファレンスを週1回担当している。
- 7) 術 前 診 察 : 月曜日から金曜日の午前中に行っている。

4. 診療実績

全身麻酔件数	2,673 件
脊椎麻酔件数	576 件
ペインクリニック外来延患者数	3,871 人（初診 60 人）
ICU延患者数	1,597 人（初診 122 人）

5. 教育活動

手術室勉強会を5回開催した。八尾市消防署の救急救命士3名に対して気管挿管実習を、10名に対して特殊気管挿管具（Airway scope®）使用での気管挿管実習を行った。

放射線科の現況（放射線科・放射線診断科）

1. スタッフ

部 長 荒木 裕、吉田 重幸
医 長 金澤 達
技 師 長 平井 良介
技師長ほか技師 15 名、看護師 5 名

2. 診療内容

画像診断全般を行っている。画像診断には、一般撮影、C T、MR I、消化管造影、血管造影、核医学が含まれる。また、画像検査の手技を応用した I V Rとして、肝臓の血管塞栓術などを行っている。

3. 診療体制

- 1) 一般撮影、C T、MR I は月曜日から金曜日の午前午後毎日施行している。一般撮影は随時、その他の画像診断は原則予約制である。技師・看護師は 24 時間 2 交代勤務である。
- 2) 土曜日午後にも C T 施行している。
- 3) C T、MR I をはじめ緊急検査には随時対応している。

4. 診療実績

代表的な検査・放射線治療の件数

(単位：件)

C T	13, 873	核医学診断	1, 135
MR I	6, 120	画像ファイル※	8, 434
血管造影	1, 206		

※他院のフィルム・CDのPACSへの取込み、およびPACSからのフィルム・CDの出力

5. 教育活動

八尾地区の近隣の病院と連携して、「八尾画像談話会」を開催している。また、スタッフは、研究会、講演会には積極的に参加し、研鑽に励んでいる。

現在、日本医学放射線学会から放射線学会専門医総合修練機関に認定されている。

平成 27 年度 診療科別検査件数

(単位：件)

検査種類 診療科	件数	一般撮影検査			透視造影検査			血管造影検査			核医学検査		
		全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均
内 科		3,794	599	15.6	9	4	0.0	312	9	1.3	395	74	1.6
血 液 内 科		482	293	2.0	0	0	0.0	3	3	0.0	4	1	0.0
消化器内科		1,574	785	6.5	261	235	1.1	82	15	0.3	6	4	0.0
循環器内科		1,936	1,158	8.0	2	2	0.0	666	395	2.8	275	121	1.2
腫 瘍 内 科		5	2	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
外 科		7,258	4,508	29.9	254	215	1.0	72	17	0.3	3	1	0.0
乳 腺 外 科		4,212	64	17.3	1	0	0.0	0	0	0.0	189	7	0.8
脳神経外科		455	250	1.9	1	0	0.0	23	13	0.1	32	8	0.2
整 形 外 科		8,560	1,998	35.2	58	17	0.2	5	5	0.0	1	0	0.0
形 成 外 科		887	49	3.7	0	0	0.0	1	1	0.0	0	0	0.0
産 婦 人 科		704	244	2.9	18	3	0.1	1	1	0.0	0	0	0.0
小 児 科		2,914	595	12.0	16	2	0.1	0	0	0.0	5	0	0.0
眼 科		12	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
耳鼻咽喉科		973	38	4.0	0	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
泌 尿 器 科		2,239	419	9.2	159	115	0.6	2	2	0.0	143	8	0.6
皮 膚 科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
リハビリテーション科		9	2	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
麻 酔 科		19	3	0.1	1	1	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
放 射 線 科		121	1	0.5	2	0	0.0	4	0	0.0	80	0	0.3
歯科口腔外科		1,468	62	6.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
病理診断科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
救急診療科		3,392	36	14.0	13	4	0.1	35	0	0.2	1	0	0.0
健診センター		3,231	0	13.3	258	0	1.1	0	0	0.0	0	0	0.0
合 計		44,245	11,106	182.1	1,053	598	4.3	1,206	461	5.0	1,135	224	4.7

検査種類 診療科	件数	X線C T検査			MR I 検査			骨密度			画像ファイリング			
		全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	全件数	内、入院 件数	日平均	取込み	プリント	合計	日平均
内 科		1,265	110	5.2	341	40	1.4	13	0	0.1	272	512	784	3.2
血 液 内 科		372	131	1.5	59	27	0.2	0	0	0.0	38	35	73	0.3
消化器内科		1,336	312	5.5	648	66	2.6	17	1	0.1	176	227	403	1.7
循環器内科		292	135	1.2	86	20	0.4	1	0	0.0	86	330	416	1.7
腫 瘍 内 科		4	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
外 科		2,954	368	12.2	441	39	1.8	1	1	0.0	535	416	951	3.9
乳 腺 外 科		631	22	2.6	141	10	0.6	269	2	1.1	264	78	342	1.4
脳神経外科		744	239	3.1	1,245	93	5.1	0	0	0.0	131	284	415	1.7
整 形 外 科		657	273	2.7	632	38	2.6	24	1	0.1	635	887	1,522	6.3
形 成 外 科		92	16	0.4	82	5	0.3	0	0	0.0	49	70	119	0.5
産 婦 人 科		259	30	1.1	338	8	1.4	10	0	0.0	114	93	207	0.9
小 児 科		83	4	0.3	232	64	1.0	6	1	0.0	133	150	283	1.2
眼 科		13	1	0.1	15	0	0.1	0	0	0.0	10	5	15	0.1
耳鼻咽喉科		711	14	2.9	325	16	1.3	0	0	0.0	195	83	278	1.1
泌 尿 器 科		1,297	78	5.3	436	10	1.8	0	0	0.0	206	90	296	1.2
皮 膚 科		0	0	0.0	5	0	0.0	0	0	0.0	1	0	1	0.0
リハビリテーション科		1	1	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	1	1	0.0
麻 酔 科		19	1	0.1	80	0	0.3	0	0	0.0	16	3	19	0.1
放 射 線 科		959	0	3.9	679	0	2.8	38	0	0.1	119	1,579	1,698	7.0
歯科口腔外科		505	12	2.1	63	2	0.3	0	0	0.0	263	159	422	1.7
病理診断科		0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急診療科		1,677	4	6.9	110	2	0.5	0	0	0.0	56	100	156	0.6
健診センター		2	0	0.0	162	0	0.7	44	0	0.2	3	30	33	0.1
合 計		13,873	1,751	57.1	6,120	440	25.2	423	6	1.7	3,302	5,132	8,434	34.7

放射線科の現況（放射線治療科）

1. スタッフ

部 長 西山 謹司（兼副院長・地域医療連携室長・がん相談支援センター長）
副 医 長 豊福 隆将

2. 診療内容

当科ではがんの放射線治療を担当している。治療対象は脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、直腸がんなどの消化管がん、肝がん、膵臓がんなどの消化器がん、前立腺がん、膀胱がんなどの泌尿器がん、子宮頸がんなどの婦人科がんなどほとんどすべてのがんにわたっている。また、骨転移の疼痛緩和などの緩和照射、良性疾患であるケロイドの発生予防の照射も行っている。

平成 28 年 3 月からは照射装置（リニアック）が更新され、強度変調放射線治療（IMRT：対象疾患は前立腺がん、頭頸部がん、肺がん、脳腫瘍など）、体幹部定位照射（SBRT：対象疾患は早期肺がん、転移性肺がん、肝がん、転移性肝がんなど）なども可能となっている。

3. 診療体制

- 1）初診外来：月曜日の午前・午後（西山）
木曜日の午前・午後（豊福）
院内だけではなく、院外の初診患者も当科で直接受け付けている。
- 2）放射線治療中、治療後の患者の診察：放射線治療後の患者
火曜日の午前・午後（西山）
水曜日の午前・午後（豊福）
- 3）院外からの放射線治療についての電話の問合せにも応じている。

4. 診療実績

平成 27 年 9 月～平成 28 年 2 月の期間は、放射線治療装置更新に伴う工事のため、照射装置（リニアック）の稼働を停止していた。それ以外の期間は、乳癌、その他、肺癌、食道癌、前立腺癌などの放射線治療を行った。

歯科口腔外科の現況

1. スタッフ

部 長 濱口 裕弘
副 医 長 牛村 彩子（平成 28. 3. 31 退職）
嘱託医師 藤下 陽平（平成 28. 2. 29 退職）
歯科衛生士 永岡 照美、山本 かおり

2. 診療内容

歯科口腔外科では外来ならびに入院診療を行っている。診療は、歯肉の切開や骨の削除を必要とする埋伏歯の抜歯はもとより腫瘍や嚢胞・外傷・感染症をはじめとする顎口腔疾患の治療を行っている。また、心臓疾患などの基礎疾患を有する患者の抜歯や歯科処置は院内各科との連携をとりながら行い、病院歯科として地域医療に貢献できるよう取り組んでいる。なお、当科での診療は、基本的には一般のかかりつけ歯科医院からの紹介により口腔外科を主体とした臨床を行っており、う蝕や歯周病・歯牙欠損による補綴などの一般歯科治療は入院患者のみを対象としている。平成 25 年度から外科系の手術前後の口腔ケア（周術期口腔ケア）を行っている。

3. 診療体制

- 1) 外来診療：午前は初診、再診患者の診察を行い、午後は外来手術を行っている。
外来手術は埋伏歯抜歯術が半数以上を占めている。その他、のう胞摘出術、腫瘍摘出術、インプラント植立術なども行っている。
- 2) 入院診療：ベッド数は 5 床であり、手術は毎週金曜日に行っている。

4. 診療実績

外来初診患者数	2,573 人
新入院患者数	211 人
紹介率	49.8%
外来手術件数	1,403 件
入院手術件数	194 件
全身麻酔症例	95 件

前年度に比較して初診患者数は3年連続で2,300人を越え右肩上がりが増加した。入院手術件数は増加したものの外来手術件数は横ばいであった。入院患者数も手術件数が増えた分だけ増加した。全身麻酔手術件数も90台までにとどまった。紹介率はほぼ50%で、これは周術期口腔ケアの患者が増えた影響と考えられる。

入院ではベッド数は5床に対して1日平均患者数4.1人、平均在院日数約6.3日で稼動していた。入院手術は例年の如く抜歯術と顎骨のう胞摘出術が多数を占めていた。その他、顎骨骨折、悪性腫瘍手術を行った。悪性腫瘍手術では腫瘍の切除は21例と増加した。今年度は前腕皮弁・腹直筋皮弁による再建をそれぞれ1例ずつ行った。

代表的な入院手術件数 (単位：件)		代表的な外来手術件数 (単位：件)	
のう胞摘出術	61	歯根のう胞摘出術・歯根端切除術	74
消炎術（含：腐骨除去）	15	口腔内消炎手術	18
抜歯術	61	口唇粘液のう胞摘出術	16
骨折手術	5	創傷処理口腔内外縫合術	23
顎下腺摘出術（含む唾石）	1	埋伏歯抜歯術	584
顎変形症手術	0	難抜歯術	90
歯肉癌手術	10		
舌癌手術	10		
その他の口腔癌手術	1		
遊離皮弁再建	2		
全頸部郭清術	6		
気管切開術	2		
インプラント植立術	3		

外来では埋伏歯抜歯が手術件数の半数以上を占め、ついで難抜歯術・のう胞摘出術・歯根端切除術など歯牙関連疾患の手術がほとんどで、これは例年の傾向と同様であった。入院手術が増えたのに対して外来手術件数が減っていた。

5. 教育活動

本年度も引き続き大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修プログラムA（複合型）に参加し歯科研修医を受け入れている。今年度は当科で1人研修を受けた。

行岡学園、大阪歯科学院専門学校の歯科衛生士の実習を受け入れており、今年度も実習を受けた。

病理診断科の現況

1. スタッフ

部 長 竹田 雅司
嘱託医師 西岡 陽介
応援医師 眞能 正幸、笹平 智則、田原 紳一郎
係 長 政岡 佳久
係長ほか臨床検査技師 4 名

2. 診療内容

病理診断科では、病理専門医 1 名と病理専修医 1 名(西岡)、技師 5 名が緊密な協力体制をとって手術・生検標本の病理組織診断と細胞診、病理解剖を行っている。さらに、国立病院機構大阪医療センター、大阪大学、奈良医科大学より病理専門医の応援を得て、迅速・正確な病理診断・細胞診断ができるような体制を構築している。当院は地域がん診療連携拠点病院でもあり、腫瘍の診断・治療が診療の大きな柱となっており、悪性腫瘍か良性病変かの病理診断が非常に大きなウエイトを占めている。有効ながん治療を行うために、良悪の判定のみならず、悪性度判断や治療に対する反応性予測の参考となるよう、必要に応じて院内での免疫組織化学染色や外注検査による遺伝子学的検索も行い、最終診断とともに臨床に対して付加的な情報提供を行っている。がん手術の現場においては、術中迅速組織診を行い、およそ 20 分で術中病理検索が可能な体制をとっている。平成 27 年度は組織診件数・細胞診件数など病理検査数が増加傾向にあり、少ない病理医での対応は厳しいものがあるが、全員の協力、臨床各科の協力により対応している。日常業務とともに病理専修医の教育も必要であるが、専修医の能力が上がるにつれ業務の効率は徐々にではあるが良くなってきている。技師とともに診断の質を保ちがん治療に有益な病理診断報告を常に心がけ業務にあたっている。平成 23 年初めより開始した乳がん・胃がんのHER2 遺伝子増幅検査は順調に件数を増やしている。

診断困難症例については他院病理医へのコンサルテーションや病理学会コンサルテーションシステムも活用している。細胞診についても、液状細胞診を導入し細胞検査士と細胞診専門医の両者の協力、および随時臨床医との検討も行い、正確な情報を臨床に与えることができるように心がけている。

通常の診療に加え、乳腺外科医、細胞検査士、乳癌専門看護師などと共に乳腺カンファレンスを週 1 回、婦人科医、細胞検査士と共に婦人科臨床・病理についてのカンファレンスを月 1 回行っている。さらに、病理専修医が婦人科術前カンファレンス、消化器内視鏡カンファレンスに参加するようになり、臨床科との連携も強化された。剖検例については全例に対し臨床病理検討会(CPC)を施行、多数の職員の参加を得て今年度は 3 回行った。

3. 診療体制

病理組織診・術中迅速組織診・細胞診・病理解剖のいずれも月曜日から金曜日の毎日、受付を行い、対応している。生検組織診については、おおむね2～3日、手術標本については約4週間以内に最終診断ができるような体制をとっている。細胞診に関しては、およそ10日で結果報告をしている。

4. 診療実績

	件数(件)	標本枚数(枚)
病理組織診	6,194	26,742
術中迅速組織診(内数)	321	1,126
免疫組織染色	868	—
細胞診	6,403	9,471
病理解剖	1	—

病理診断件数は、細胞診件数がやや減少したが、組織診件数・ブロック数はやや増加・免疫組織化学染色件数・術中迅速組織診は平成24年度とほぼ同数であった。病理解剖は残念ながら1件にとどまった。病院規模に比べ病理検査件数は多く、病院の活発な診療実績を反映している。

5. 教育活動

竹田雅司部長は、大阪市立大学医学部の非常勤講師として、医学部の3回生に乳がんの病理についての講義を年1回行っている。また、がん予防フォーラム2016において府民公開講座の乳癌の診断と治療についての講演を担当した。

集中治療部の現況

1. スタッフ

部 長 池田 嘉一

医 長 薮田 浩一（兼麻酔科医長）

2. 診療内容

当院 I C U は外科系患者、循環器をはじめとした内科患者、救急患者、小児患者の重症例の受け入れを行っている General I C U の特徴がある。

【主要疾患】

胸部外科術後患者、腹部外科術後患者、脳神経外科術後患者、重篤な合併症を有する外科系術後患者の集中治療を行っている。また敗血症患者、心筋梗塞患者、心不全、重症肺炎などの内科系疾患の集中治療、小児重症患者にも対応している。

【主要検査】

血液ガス分析、電解質乳酸分析、循環動態モニター、各種エコー（経食道エコーはなし）、HD（CHDF はレンタル）

3. 診療体制

麻酔科医師 9 名が交代制で 365 日 24 時間常駐し、臨床工学士 1 名が対応できる体制をとっている。

主治医、麻酔科医師、各チーム医療スタッフと看護師 20 名（救急看護認定看護師 1 名、呼吸ケア認定看護師 8 名、透析技術認定士 3 名）が、迅速に連携して、常に最善の集中治療とケアを遂行できるようにしている。

ベットは 6 床で運営しており、毎朝 8 時 30 分から集中治療室患者のカンファレンスを主治医とともにやっている。

4. 診療実績

平成 27 年度 I C U 延患者数は 1,597 名であった。7 日以内の入床が 90% 以上、8-14 日の入床は 20 名、14 日超入床患者は 7 名であった。人工呼吸施行患者は 121 名、血液浄化（HD、CHDF、PE）施行患者は 23 名であった。

救急診療科の現況

1. スタッフ

部 長 福島 幸男
看護係長 中尾 由美子
看護係長ほか看護師 2 名

2. 診療・業務内容

日勤時間内は各専門科の了承の下に全科の受け入れ可となるように努力している。患者を受け入れた上で初療は救急担当医が行い、専門的な治療は各科が担当することになる。時間外は内科、外科のみの標榜であるが、当院かかりつけ患者は原則として 24 時間の受け入れに応じている。その際は、救急外来から各科オンコール担当医に連絡する体制となっている。救急外来は院内全診療科の共同利用施設であり、他院からの搬送患者の受け入れ業務、当院から他施設への転送患者の送り出し業務も担当している。

さらに時間外の患者からの受診相談、あるいは警察・他院からの問い合わせなども引き受けており、時間外の外に開かれた唯一の公的な窓口としての役割も担っている。

残念ながら、当院も開設後長年経過し施設も手狭となっており、当初、十二分のスペースをあてがわれた救急外来も糖尿病センター、外来点滴室などの併設により、日常業務にも支障を来すほど狭小化してきた。関係各方面に改善をお願いしているところである。

3. 診療体制

時間内（平日日勤）：当番医 1 名が 2 名の看護師とともに診察を担当する。専門医の応援が必要と判断された場合は 2 階の専門各科外来に搬送するか、専門医の来訪を要請する。入院の際は、各科病棟担当医に連絡の上、入院手続きを行う。

時間外（当直、日直）：日当直医 2 名、看護師 3 名で対応している。内科系、外科系医師が救急医として診察、治療にあたる。救急標榜は内科、外科であるが、整形疾患に関しては木曜日の当直、日曜日の日直時間帯は整形外科の院内当直医により救急搬送を受け入れている。また、脳神経外科、形成外科は在宅医のオンコール体制で受け入れ可としている。

4. 診療実績

救急取扱延患者数は 11,587 人であり、そのうち搬送患者は 2,752 人、入院患者は 1,318 人であった。

5. 教育活動

救急外来は研修医の教育の場としての役割も大きい。当院では、臨床研修医は主として救急外来で、初診患者の診察、治療の経験を積むことになる。上級医の指導下で、2年間、週1回程度の救急当直業務を行い研鑽を積むことで、日常疾患は一人での確に診断加療できるようになることを目標としている。例年、ほぼ目標は達成されているものとする。

さらに年度初めには、週1回の早朝カンファレンスを行い基本的な指導を行っている。

中央手術部の現況

1. スタッフ

部 長 上水流 雅人（兼泌尿器科医長）

看護部長 神田 ゆか

看護師長ほか看護師 26 名

2. 活動状況

平成 27 年度も手術件数は増加し、4,497 件であった。本年度手術室を改装し、7 列の手術に対応できるようになった。また全麻患者に対する術前後の病棟訪問も従来通り継続しており、術中のみならず、周術期の身体的および精神的ケアに寄与している。手術部看護師はこれまで同様、患者・部位・術式を術前に担当医および麻酔科医と厳重に確認し、ミス予防を図っている。手術看護認定看護師の認定資格を取得した看護師もあり、技術の向上に努めている。

3. 診療実績

手術件数の推移

（単位：件）

平成 25 年度	4,151
平成 26 年度	4,428
平成 27 年度	4,497

手術件数及び麻酔項目

（単位：件）

手術件数	4,497
全身麻酔	2,673
脊椎麻酔	576

通院治療センターの現況

1. スタッフ

センター長 井出 義人（兼消化器外科医長）
看護係長 柚木原 和子
看護係長ほか看護師 5 名

2. 診療内容

近年、がん治療の中で抗がん剤を使った化学療法の果たす役割が大きくなっている。また、通常の抗がん剤だけではなく分子標的治療薬といった薬も開発され、多くの患者の福音となっている。通院治療センターではこのような治療が外来で安全に行われ、患者のQOLが保たれるような治療環境を提供するよう心掛けている。昨年度は化学療法前ルート確保を当番医師が行っていたが、平成 27 年 4 月より通院治療センター看護師（I V ナース）が行うようになった。患者の治療状況を把握している看護師が行うことにより、穿刺が難しい患者などにも適切に対応できるようになった。また、平成 27 年 6 月 8 日より 4 階へ移転、9 床から 16 床へ増床となり、より快適な治療環境を提供できるようになった。

3. 診療実績

平成 27 年度の化学療法総数は 4,451 件、ホルモン療法を含めた件数は 6,012 件と過去最高となった。化学療法前オリエンテーションを通院治療センターでは積極的に行っているが、平成 27 年度は新規患者の 92%に対し施行でき、施行率は年々上昇している。今後、全ての患者に提供できるよう、化学療法担当医師への協力をお願いしている。

4. 教育活動

化学療法に対する知識の共有・啓蒙活動として、院内セミナーを定期的実施している。平成 27 年度は 12 月 3 日にWEB セミナーの形で「がん治療の新たな時代 ～Up to Date がん免疫療法～」をテーマに国立がん研究センター 北野滋久先生より講演をいただいた。今後も出来る限り多くの講演会を開催したいと考えている。

◆診療科別 外来化学療法・ホルモン療法延べ人数

(単位：人)

	27 年									28 年			年度計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
外 科	56	66	46	48	40	37	56	51	46	43	47	57	593
消化器外科 (大腸)	74	58	73	69	73	63	69	63	62	63	77	82	826
呼 吸 器 外 科	12	9	13	16	11	15	12	8	12	7	8	20	143
乳 腺 外 科	145	141	174	158	156	147	168	109	129	122	118	120	1,687
消 化 器 内 科	16	9	8	13	10	13	17	15	15	19	15	15	165
血 液 内 科	37	33	29	44	29	28	32	35	23	47	31	32	400
泌 尿 器 科	28	27	26	34	34	35	39	38	35	44	39	45	424
産 婦 人 科	11	5	11	17	13	17	13	14	20	23	21	32	197
そ の 他	4	3	1	2	0	0	0	0	0	0	1	5	16
計	383	351	381	401	366	355	406	333	342	368	357	408	4,451
ホルモン療法	142	123	123	131	134	120	117	135	133	114	142	147	1,561
計	525	474	504	532	500	475	523	468	475	482	499	555	6,012

内視鏡センターの現況

1. スタッフ

センター長 上田 高志
応援医師 中瀬 栄之、長井 健悟
看護係長 蛭田 澄枝
看護係長ほか看護師 3 名

2. 診療内容

- 1) 上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、小腸ダブルバルーン内視鏡検査
⇒うちNB I 拡大内視鏡検査、経鼻内視鏡検査（上部消化管）も適宜施行。
- 2) 内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡検査（EUS・IDUS）
- 3) 粘膜下腫瘍、膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診検査（EUS-FNA）
- 4) 吐血時などの緊急内視鏡検査、引き続き行う内視鏡的止血術
⇒hot biopsy や薬物注入による止血、アルゴンレーザーによる止血（APC）
- 5) 早期胃がん、大腸腫瘍などに対する、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
- 6) 胃、大腸腫瘍に対する、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、ポリープ切除術（polypectomy）
- 7) 静脈瘤に対する、内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）、内視鏡的硬化療法（EIS）
- 8) 総胆管結石に対する、内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的乳頭拡張術（EPBD）
- 9) 胆、膵など悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する、内視鏡的胆道ドレナージ（EBD）
- 10) 誤嚥、胃内圧改善のための、胃瘻造設術（PEG）
- 11) 異物誤飲に対する、内視鏡的異物除去術
- 12) 経鼻内視鏡を使用したイレウス管挿入
- 13) 消化管悪性狭窄（食道、胃、十二指腸、大腸）に対する、内視鏡的消化管ステント留置術
- 14) 食道アカラシアや術後狭窄に対する、内視鏡的消化管拡張術
- 15) 気管支鏡検査

など主に内視鏡を使用し行う検査、治療全般。

また他に以下のような超音波を使用した処置も行っている。

- ・PTCD（経皮的胆道ドレナージ）
- ・PTAD（経皮的肝膿瘍ドレナージ）
- ・肝嚢胞穿刺

3. 診療体制

月曜日から金曜日の午前を主に検査、午後より治療がメインの処置を行っている。また夜間緊急内視鏡検査も適宜行っている。

4. 診療実績

検 査 件 数		(単位：件)
上部消化管内視鏡	3,510	
下部消化管内視鏡	2,056	
超音波内視鏡	56	
気管支鏡検査	40	
E S D	79	
E R C P、E S T、E P B D	122	
E I S、E V L	39	
P E G	7	

5. 教育活動

臨床研修医向けの勉強会を行った。上部・下部内視鏡トレーニングモデルを用いている。

糖尿病センターの現況

1. スタッフ

センター長	木戸	里佳
医 長	辻	真由美
副 医 長	小川	義高
応援医師	正田	英雄

2. 診療内容

平成 24 年 4 月 1 日から 1 階に糖尿病センターを開設し、糖尿病専門外来を行っている。糖尿病専門医の他に、糖尿病センター専属の看護師、管理栄養士、医療秘書がスタッフとして常駐し、多職種から成る『糖尿病チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。平成 27 年 9 月からは、限定的ではあるがチームに臨床心理士も加わり、より多面的に糖尿病患者の指導を行うべく工夫を重ねている。また早期腎症以上の腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診・療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている（糖尿病透析予防指導）。必要に応じて腎臓内科医を始めとする他科への紹介も積極的に行い、集学的治療をめざしている。患者毎に胸部 X 線、心電図を始め、心臓・腹部・頸動脈の超音波検査などを定期予定検査として実施し、糖尿病患者に多くみられる大血管障害（動脈硬化）や悪性疾患の早期診断・治療にも取り組んでいる。合併症の進行した患者の足切断につながる足壊疽などの予防を目的に、看護師による足および神経障害のチェックを含めたフットケアも定期的の実施している。下肢血流評価も実施し、必要に応じて循環器内科医および形成外科医と積極的な連携を図っている。

平成 25 年度から 1 型糖尿病あるいは妊婦をおもな対象とするインスリンポンプの導入を開始し、持続血糖モニター（CGM）も導入した。機器も年々進化しており、現在は個人用の CGM と連動する新たなインスリンポンプ（SAP）が主流となっている。これらの新しい機器も含めて、対象となる患者には積極的に導入を勧め、チームでの管理・指導を継続して行っている。またインスリンポンプ導入症例を主な対象者として、主に管理栄養士によるカーボカウント法の指導も行っている。このようにより専門的診療が可能になっており、他のメディカルスタッフとともによりよい糖尿病診療、とくにチーム医療の実践に取り組んでいる。糖尿病治療においては自己管理が非常に重要であり、とくに糖尿病教育に重点を置き、教育入院も積極的に行っている。

地域連携および地域の糖尿病診療のレベル向上を目的に、地域の他の医療機関で糖尿病診療に携わる医療スタッフとの勉強会を定期的を開催するなど、地域医療への貢献にも、糖尿病チームとして積極的に取り組んでいる。

3. 診療体制

外来診療：月曜日から金曜日の毎日、予約制の専門外来を行っている。初診外来は、月曜日、水曜日、金曜日の午前に予約制で診療している。平成 27 年 1 月から地域の医療機関より新規に患者をご紹介いただく際に使用できる新たな連絡票の運用を開始し、ご要望に対してより適切な対応を行うことで、さらなる地域連携の活性化を目指している。療養指導、フットケア、個別食事指導、服薬指導は、必要に応じて随時行っている。

4. 診療実績

外来延患者数は 3,979 人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者数は 1,189 人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者数は 210 人、在宅療養指導料を算定した延患者数は 235 人、在宅自己注射導入期加算を算定した延患者数は 359 人であった。糖尿病教育入院患者数は 163 人であった。8 月を除く毎月第 3 木曜日（13 時～）に、医師・看護師・管理栄養士など糖尿病チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ多くの一般市民に参加いただいている。延参加者数は 263 人、月平均 23.9 人であった。

5. 教育活動

院内全体の糖尿病に関する診療レベル向上を目指して、糖尿病チームのスタッフおよび日本糖尿病療養指導士（CDE J）の資格を有する病棟スタッフを中心として、カンファレンスおよび院内勉強会の定期的な開催を計画している。そのなかで新たに CDE J の資格取得を目指すメディカルスタッフを対象とした教育にも積極的に取り組んでいる。平成 27 年度末時点で、CDE J 資格取得者は 8 名で、28 年には 2 名が受験を予定している。平成 26 年度に日本糖尿病学会認定教育施設に認定以後、当院での専門医育成も開始している。

健診センターの現況

1. スタッフ

特任部長 山本 俊明

看護師 1名

2. 診療内容

健診の主な業務として、

- 1) 特定健診、大腸がん検診、乳がん検診
- 2) 企業健診、就職・受験時健診、海外渡航時などの検診
- 3) 公害検診、被爆者検診
- 4) 人間ドック、脳ドック
- 5) 予防接種（インフルエンザなど）を行っている。

人間ドックの受診希望者数はほぼ一定している。全受診者数はほぼ前年と変わらない。
乳がん検診は増加し、脳ドックは、減少傾向である。

3. 診療体制

月曜日から金曜日の午前中に特定健診・一般健診、午後に予約検診・予防接種を行っている。
半日人間ドックを週2回（月曜日・水曜日）、脳ドックを月2回（火曜日）行っている。

4. 診療実績

（単位：件）

	27 年									28 年			年度計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
特 定 健 診	15	75	71	67	48	61	107	84	49	57	85	172	891
一 般 健 診	34	68	34	33	50	56	76	39	25	37	50	59	561
人 間 ド ッ ク	43	32	45	49	46	39	60	57	45	35	45	42	538
脳 ド ッ ク	1	1	1	34	0	0	2	0	1	2	1	0	12
脳MRI／MRA	9	5	11	6	13	5	13	15	11	13	14	9	124
乳 が ん 検 診	111	122	100	85	97	81	134	146	112	139	144	140	1,411
子 宮 が ん 検 診	56	47	69	63	53	50	64	63	46	58	56	54	679
公 害 検 診	55	48	47	40	53	41	18	38	34	35	23	28	460
大 腸 が ん 検 診	13	15	24	11	22	17	27	23	19	22	23	38	254
企 業 検 診	6	0	13	1	1	0	20	6	12	8	7	10	84
被 爆 者 検 診	0	66	0	0	0	0	62	0	23	30	0	0	181
職 員 健 診	22	0	11	1	0	19	1	0	22	0	35	0	116
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	67	757	157	3	0	0	984
肺炎球菌ワクチン	0	17	30	9	6	40	20	15	15	3	11	5	171
B型肝炎ワクチン	0	0	25	23	2	0	0	0	0	27	0	0	77
計	365	496	486	391	391	409	671	1,243	571	469	494	557	6,543

中央検査部の現況

1. スタッフ

医 長 服部 英喜（兼血液内科部長）

技 師 長 浅岡 伸光

技師長ほか臨床検査技師 19 名（市職員 9 名、市嘱託職員 2 名、P F I 協力企業職員 8 名）

2. 診療内容

◆検体検査

検体検査室では、生化学検査、血液・凝固学検査、一部の免疫学検査、尿一般検査、輸血検査の 5 分野について院内検査項目として 365 日 24 時間の緊急検査体制を実現し、常に迅速且つ正確な検査結果の報告を心掛けている。また、染色体検査や遺伝子検査などの高精度な特殊検査についても臨床医のニーズに合わせ、外注検査項目として幅広い検査分野の委託を可能にしている。

◆細菌検査

細菌検査室では、一般細菌の塗抹検査、培養・同定検査、薬剤感受性検査、抗酸菌の塗抹検査を実施している。また、検査業務に加え、院内感染情報を集計・解析し情報提供することで院内感染の防止に積極的に貢献している。

◆生理検査

生理検査室では、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査、血圧脈波検査、自律神経検査、超音波検査を行っている。心電図や呼吸機能検査などの予約のない検査では、患者の待ち時間が長くないよう、スタッフ間の連携を保ち効率よく検査が進むように努めている。

超音波検査では、医師と共に約 7 名の技師（超音波検査士 6 名、血管診療技師 4 名）で検査を行っている。検査項目は心臓、血管（頸動脈、腎腹部血管、末梢動脈、末梢静脈、血管内皮機能）、腹部、甲状腺、乳腺、整形外科領域と多岐にわたる。基本予約制であるが、緊急依頼には柔軟に対応している。また、病診連携では地域医療連携室を通した院外の超音波検査を随時受け入れている。

3. 教育活動

細菌検査室では、臨床研修医オリエンテーションにてグラム染色手技の指導などを行い、リンクナースに対して細菌検査についての講義を行っている。

超音波検査室では、研修医に対する超音波検査の講義や技術指導を積極的に行い、中河内地区における勉強会も積極的に開催し、院外の医師や技師との交流を深めている。また、部内カンファレンスを定期的に行い、検査の幅広い知識や技術向上に努めている。

◆検体検査

(単位: 件)

	27 年																		28 年						年度計
	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合 計
血 液 ガ ス	79	156	129	186	83	154	96	169	75	154	110	154	68	162	91	140	105	163	90	197	69	146	96	174	3,046
尿 検 査	490	2,120	437	2,148	472	2,217	456	2,242	437	2,097	495	1,968	539	2,361	447	2,094	480	2,194	494	2,474	533	2,992	516	3,017	33,720
糞便等検査	28	129	19	142	16	138	18	110	21	129	17	114	17	162	18	146	15	149	21	2,474	18	144	27	176	1,905
血液学検査	2,322	4,571	2,154	4,504	2,290	4,983	2,487	4,939	2,142	4,703	2,138	4,507	2,209	5,041	2,280	4,495	2,316	4,583	2,227	4,773	2,318	4,604	2,454	5,301	84,341
凝 固 検 査	476	867	430	880	361	992	433	1,055	337	916	441	869	405	988	486	937	468	903	414	1,006	464	973	476	1,104	16,681
生化学(Ⅰ)	2,404	4,646	2,213	4,626	2,335	5,113	2,535	5,078	2,243	4,838	2,200	4,597	2,318	5,179	2,376	4,630	2,359	4,672	2,281	4,873	2,428	4,683	2,523	5,372	86,522
生Ⅱ内分泌	222	626	160	568	174	680	177	690	185	611	156	622	192	682	202	599	201	643	180	622	212	607	208	742	9,961
生Ⅱ甲状腺	40	258	31	242	44	278	44	290	35	249	27	252	37	276	33	256	33	241	34	238	35	226	28	307	3,534
生Ⅱ腫瘍	116	115	117	1,380	139	1,535	127	1,424	115	1,396	129	1,408	134	1,570	129	1,477	105	1,391	125	1,467	113	1,405	143	1,613	18,973
免疫学検査	47	190	43	191	48	222	54	215	47	186	36	180	46	220	51	169	52	206	44	170	40	201	49	209	2,916
感染症検査	124	730	92	695	153	841	137	874	105	708	105	768	96	879	105	718	119	687	93	703	101	702	116	829	10,480
肝 炎 検 査	114	769	89	717	105	895	103	919	85	757	79	782	99	922	97	780	103	767	107	778	92	797	100	942	10,998
自 己 抗 体	38	157	27	166	31	165	28	191	33	149	22	167	45	214	34	180	30	184	31	164	33	190	39	213	2,531
アレルギー	10	85	11	58	12	70	9	65	12	87	10	59	6	64	10	60	9	75	10	65	9	66	11	107	980
微生物検査	41	137	32	122	35	158	29	159	39	140	42	149	43	167	41	154	36	159	41	160	36	122	36	142	2,220
病理 検 査	0	3	0	0	2	17	2	13	2	6	1	5	1	12	0	15	1	12	1	13	3	12	0	8	129
負 荷 検 査	0	15	1	14	6	21	1	14	2	10	0	10	3	9	3	21	4	8	4	13	0	16	4	15	194
薬 物 検 査	26	45	21	31	2	40	21	50	18	62	10	30	23	39	19	28	23	36	19	47	26	44	21	55	746
輸 血 検 査	70	389	80	370	69	451	80	467	65	365	61	368	57	454	53	391	75	370	51	398	47	412	61	485	5,689
細胞機能	4	34	9	49	11	36	12	32	10	33	6	30	13	35	7	31	7	28	9	21	7	28	12	34	498
そ の 他	29	19	34	333	33	261	25	320	33	313	26	266	24	324	35	293	22	329	24	351	29	320	28	349	4,120
総 件 数	6,680	17,661	6,129	17,422	6,431	19,267	6,874	19,316	6,041	17,909	6,111	17,305	6,375	19,760	6,317	17,614	6,563	17,800	6,300	18,664	6,613	18,690	6,948	21,194	300,184

◆細菌検査

(単位: 件)

	27 年																		28 年						年度計
	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
一 般 細 菌 塗 抹	293	180	300	214	321	219	249	252	273	277	264	254	249	269	258	215	266	200	272	182	267	160	272	194	5,900
呼 吸 器 系 培 養	179	44	138	52	166	41	180	52	140	55	128	44	161	48	166	40	172	43	182	37	149	36	175	44	2,472
消 化 器 系 培 養	20	20	26	20	30	22	26	15	26	22	26	22	29	15	19	15	27	16	26	13	20	28	27	12	522
泌尿・生殖器系培養	32	76	25	102	42	115	20	111	37	132	33	109	25	126	30	113	25	105	27	95	34	76	25	127	1,642
血液・穿刺液系培養	128	29	150	38	131	52	99	59	111	67	121	63	106	70	109	55	119	68	123	60	123	41	111	63	2,096
その他の材料の培養	36	60	32	69	38	69	35	76	30	77	38	81	33	82	30	48	23	36	21	28	34	23	40	16	1,055
一般細菌嫌気培養	191	69	207	85	226	97	156	123	188	123	203	118	179	127	176	100	180	128	191	107	193	79	199	110	3,555
培養検査総件数	586	298	578	366	633	396	516	436	532	476	549	437	533	468	530	371	546	396	570	340	553	283	577	372	11,342
一般細菌感受性検査	394	210	368	225	403	229	353	262	346	281	344	260	354	281	351	224	361	203	377	187	354	166	375	200	7,108
感 受 性 1 菌 種	67	52	73	57	78	41	53	76	43	79	55	59	55	67	66	49	51	55	58	47	53	39	53	45	1,371
感 受 性 2 菌 種	26	4	18	10	29	5	13	10	16	12	13	10	18	9	14	5	22	4	14	8	16	4	20	11	311
感受性 3菌種以上	8	0	14	2	12	4	5	4	7	5	15	4	17	2	4	3	4	4	9	3	9	2	6	4	147

(単位: 件)

	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
抗 酸 菌 塗 抹	18	27	13	26	21	27	19	28	18	14	11	24	15	23	25	23	32	26	22	18	17	24	22	23	516
結 核 菌 群 P C R	17	25	13	20	22	16	17	21	18	10	11	17	15	19	21	18	23	22	23	9	16	17	20	19	429
抗 酸 菌 P C R	18	19	13	14	20	18	16	21	15	9	10	15	14	17	21	13	23	21	23	9	15	14	18	17	393
抗酸菌液体培養	10	9	8	7	18	13	10	11	7	7	6	10	7	9	21	13	16	11	16	10	11	10	12	8	260
抗酸菌固体培養	11	17	5	19	5	14	10	16	11	5	5	15	8	15	4	8	17	18	9	7	5	14	10	14	262
抗酸菌同定検査	0	0	0	1	0	4	1	2	0	3	0	1	0	0	0	4	0	1	1	1	0	1	0	1	21
抗酸菌感受性検査	0	0	0	0	0	4	1	2	0	3	0	1	0	0	0	4	0	1	1	1	0	1	0	1	20

◆生理検査

(単位：件)

		27 年																28 年						年度計		
		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月			3 月	
		入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	合計
心電図		87	707	85	719	95	833	101	852	46	696	87	671	101	856	108	753	118	735	122	732	109	804	116	965	10,498
負荷心電図		0	5	0	6	0	23	0	12	0	11	0	8	0	11	0	14	0	12	0	17	0	16	0	20	155
トレッドミル		1	22	0	15	0	21	0	15	0	17	0	9	0	20	1	14	0	23	0	21	0	28	1	22	230
ホルター心電図		4	56	2	43	4	55	2	45	3	43	1	54	3	59	3	52	5	65	4	56	8	63	0	75	705
自律神経機能検査 (CVRP)		0	36	1	46	1	45	0	34	0	34	0	38	0	54	0	38	0	32	1	27	1	37	0	48	473
血圧脈波検査		20	114	23	83	24	95	21	102	3	80	26	109	47	120	37	118	40	120	36	119	37	107	31	145	1,657
皮膚灌流圧 (S P P)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	3	6	1	22
簡易 P S G 検査		1	3	1	0	0	0	0	2	0	1	1	1	2	1	1	2	0	0	1	1	1	0	0	1	20
肺機能		12	245	8	249	23	283	8	302	10	243	12	232	10	260	11	255	8	251	6	256	5	239	12	303	3,243
脳波		5	29	1	22	5	23	6	37	4	40	3	25	5	9	2	15	4	33	4	24	2	27	1	45	371
心エコー	心臓エコー	88	311	63	251	89	318	88	324	65	318	74	323	78	344	79	311	81	305	77	317	82	316	77	376	4,755
	経食道エコー	5	2	7	1	2	1	7	5	1	0	7	3	5	8	7	4	4	3	3	3	7	3	6	4	98
腹部エコー	腹部エコー	67	435	48	395	65	454	64	443	70	408	60	431	73	468	60	456	64	439	53	398	72	403	54	475	5,955
その他	頸部血管エコー	33	53	15	38	12	60	14	51	21	50	22	42	26	65	26	43	22	36	19	42	27	32	23	46	818
	末梢静脈エコー	11	42	13	30	17	40	24	55	22	44	24	52	15	53	20	41	12	43	16	45	16	45	9	42	731
	末梢動脈エコー	10	16	14	11	23	15	12	10	5	14	15	13	17	16	19	16	14	14	18	26	14	25	20	18	375
	血管内皮機能検査 (FMD)	5	2	8	4	7	6	8	2	1	1	8	3	16	6	8	5	11	4	3	4	12	5	9	9	147
	腎・腹部血管エコー	3	9	2	3	0	4	2	4	2	4	3	7	5	5	5	5	6	8	2	5	5	10	4	10	113
	甲状腺エコー	3	51	1	51	2	51	3	48	3	51	2	58	2	62	2	53	2	54	1	61	1	61	1	65	689
	乳腺エコー	0	20	0	5	0	34	0	50	0	32	0	53	0	38	0	30	0	30	0	38	0	27	0	37	394
	体表エコー	0	9	3	13	1	13	2	17	0	12	1	20	3	15	1	15	1	14	3	15	2	9	2	23	194
整形エコー	0	18	1	12	2	11	2	19	1	9	5	16	3	17	1	15	2	11	3	12	0	8	2	18	188	

MEセンターの現況

1. スタッフ

センター医長 渡部 徹也 (兼 循環器内科部長)
臨床工学技士 長山 俊明
PFI協力企業職員 5名

2. 業務内容

- 1) 臨床部門：高度な医療技術の進歩に伴い、ME機器の複雑多様化が進む中、それらの操作を行っている。臨床での医師をはじめとした、スタッフと医療機器を、円滑に結びつける医療工学の境界面を、簡便でより安全性の高いものにしている。中核病院としての機能を維持し、安全で良質な医療を提供している。
- 2) 機器管理部門：医療機器の中央管理体制をとり、機器の効率的利用と同時に、保守点検・整備・管理業務を担う事で、必要な時に・必要な機器を・必要な部門に、高い安全性をもって供給し、医療機器のライフサイクルコスト・デッドタイムの短縮を図っている。

3. 業務体制

- 1) 臨床部門：臨床工学技士1名にて、心臓カテーテル検査、集中治療室、透析室、手術室などにて業務を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。
- 2) 機器管理部門：PFI協力企業職員（臨床工学技士3名、業務スタッフ3名）にて機器管理、運営を行っている。夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。

4. 業務実績

◆平成27年度 機器修理件数集計

(単位：件)

部 署	外注修理	ME修理	合計	部 署	外注修理	ME修理	合計
5 階 西	54	83	137	中央手術部	101	115	216
5 階 東	12	48	60	MEセンター	2	3	5
6 階 西	39	33	72	外 来	123	95	218
6 階 東	38	84	122	救 急 外 来	16	26	42
7 階 西	41	109	150	中央検査部	31	8	39
7 階 東	31	81	112	通院治療センター	1	3	4
8 階 西	27	66	93	内視鏡センター	17	25	42
8 階 東	23	25	48	放 射 線 科	43	21	64
I C U	23	13	36	薬 剤 部	53	8	61
N I C U	12	21	33	そ の 他	18	26	44

◆人工呼吸器

(単位：件)

	患者数	件数		患者数	件数
5 階 西	0	0	8 階 西	5	27
5 階 東	6	73	8 階 東	2	9
6 階 西	2	4	I C U	114	518
6 階 東	0	0	N I C U	14	251
7 階 西	14	79	救急外来	3	3
7 階 東	0	0			

◆血液浄化 (単位：件)

	患者数	件数
H D (7 東)	70	246
HD (I C U)	15	22
C H D F	5	21
P E	1	1
D H P	1	2
S P P	0	0
P B S C T	2	4
L C A P	0	0
G C A P	0	0
C A R T	—	12

◆ペースメーカー (単位：件) ◆カテーテル検査 (単位：件)

フォローアップ件数	308
新規埋め込件数	35
電池交換件数	8

◆補助循環 (単位：件)

	患者数	件数
I A B P	13	41
P C P S	3	11

C A G 件 数	346	上肢造影件数	1
待機的P C I 件数	161	上肢P T A 件数	20
緊急P C I 件数	40	下肢造影件数	85
I V U S 件 数	186	下肢P T A 件数	91
E P S 件 数	20	腹部造影件数	7
A B L 件 数	124	腹部P T A 件数	7
心 筋 生 検	8	I V C フィルタ件数	3

◆平成 27 年度 機器定期点検件数集計（日常点検は除く）

（単位：件）

機 種 名	部 署	点検 件数	点 検 者	機 種 名	部 署	点検 件数	点 検 者
麻 酔 器	手 術 室	14	ME/メーカー	造影剤注入装置（アンギオ）	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
人 工 呼 吸 器	各 部 署	37	ME/メーカー	マンモグラフィ装置	放 射 線 科	2	メ ー カ ー
体外式ペースメーカー	アンギオ室	4	ME/メーカー	マ ン モ ト ー ム	放 射 線 科	2	メ ー カ ー
P C P S	アンギオ室	2	ME/メーカー	ア ン ギ オ 撮 影 装 置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
I A B P	アンギオ室	1	M E	上部消化管X線テレビ装置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
保 育 器	5西、6西、NICU、手術室	23	M E	内視鏡用X線テレビ装置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
インファントウォーマー	5西、手術室、NICU	7	M E	一 般 X 線 撮 影 装 置	放 射 線 科	3	メ ー カ ー
搬 送 用 保 育 器	5 西、NICU	3	M E	移 動 型 X 線 撮 影 装 置	放 射 線 科	4	メ ー カ ー
除 細 動 器	各 部 署	13	M E	C R シ ス テ ム 一 式（6 台）	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
心 電 計	各 部 署	11	M E	全 身 骨 密 度 測 定 装 置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
セントラルモニター	各 部 署	16	M E	移 動 型 X 線 透 視 装 置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
ベットサイドモニター	各 部 署	43	M E	外 科 用 X 線 透 視 装 置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
電 気 メ ス	各 部 署	33	ME/メーカー	結 石 破 砕 装 置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
マルチカラーレーザー	眼 科 外 来	1	メ ー カ ー	調剤支援システム（葉袋プリンタ）	薬 剤 部	2	メ ー カ ー
Y A G レ ー ザ ー	眼 科 外 来	1	メ ー カ ー	調剤支援システム（錠剤分包機）	薬 剤 部	2	メ ー カ ー
C O 2 レ ー ザ ー	耳鼻咽喉科外来	1	メ ー カ ー	調剤支援システム（散薬分包機）	薬 剤 部	2	メ ー カ ー
輸 液 ポ ン プ	各 部 署	81	M E	注射薬自動払出システム（装置）	薬 剤 部	1	メ ー カ ー
シ リ ン ジ ポ ン プ	各 部 署	84	M E	薬 液 滅 菌 装 置	薬 剤 部	1	メ ー カ ー
低 圧 持 続 吸 引 器	各 部 署	7	M E	卓 上 型 滅 菌 装 置	手 術 室	1	メ ー カ ー
人 工 透 析 装 置	7 東、ICU	6	メ ー カ ー	安 全 キ ャ ビ ネ ッ ト	薬 剤 部	1	メ ー カ ー
R O 水 製 造 装 置	7東、ICU、薬剤部	3	メ ー カ ー	安 全 キ ャ ビ ネ ッ ト	細 菌 検 査	1	メ ー カ ー
自 動 精 算 機	医 事 課	4	メ ー カ ー	自 動 血 液 ガ ス 分 析 装 置	N I C U	2	メ ー カ ー
自動再来受付システム	医 事 課	3	M E	輸 血 シ ス テ ム	輸 血 検 査	2	メ ー カ ー
リライトカードリーダーダライタ	医事課、救急外来、地域医療連携室	7	M E	P A C S	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
診 察 券 発 行 機	医事課、救急外来、地域医療連携室	3	M E	超 音 波 白 内 障 手 術 装 置	手 術 室	1	メ ー カ ー
リ ニ ア ッ ク	放 射 線 科	2	メ ー カ ー	歯 科 デ ン タ ル 撮 影 装 置	歯 科 外 来	1	メ ー カ ー
マルチスライスCT	放 射 線 科	3	メ ー カ ー	放射線パノラマ撮影装置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー
位 置 決 め C T	放 射 線 科	1	メ ー カ ー	サ ー ベ イ メ ー タ ー	R I 室	3	メ ー カ ー
位 置 決 め 装 置	放 射 線 科	1	メ ー カ ー	ナビゲーションシステム	手 術 室	1	メ ー カ ー
R I	放 射 線 科	3	メ ー カ ー	G P S シ ス テ ム	手 術 室	1	メ ー カ ー
M R I（インテラ）	放 射 線 科	2	メ ー カ ー	メイフィールド頭部固定装置	手 術 室	2	メ ー カ ー
M R I（アチーバ）	放 射 線 科	2	メ ー カ ー	排 ガ ス 装 置	中央材料室	2	メ ー カ ー
造影剤注入装置（マルチスライスCT）	放 射 線 科	1	メ ー カ ー	ホ ル マ リ ン 消 毒 装 置	洗 濯 室	1	メ ー カ ー
造影剤注入装置（位置決めCT）	放 射 線 科	1	メ ー カ ー	血 液 成 分 分 離 装 置	7 西	1	メ ー カ ー
造影剤注入装置（MRI インテラ）	放 射 線 科	1	メ ー カ ー				
造影剤注入装置（MRI アチーバ）	放 射 線 科	1	メ ー カ ー	合 計		476	

◆平成 27 年度 機器貸出件数集計

（単位：件）

	輸液 ポンプ	シリンジ ポンプ	ベッドサイ ドモニタ	自己血 回収装置	人工 呼吸器	低圧持続 吸引器	合 計		輸液 ポンプ	シリンジ ポンプ	ベッドサイ ドモニタ	自己血 回収装置	人工 呼吸器	低圧持続 吸引器	合 計
5 階 西	34	4	0	0	0	2	40	N I C U	0	20	0	0	29	0	49
5 階 東	18	20	1	0	1	9	49	中央手術室	0	23	0	0	0	2	25
6 階 西	41	23	0	0	8	0	72	外 来	0	0	0	4	0	0	4
6 階 東	8	3	3	0	0	1	15	救急外来	2	4	0	0	13	6	25
7 階 西	28	19	1	0	2	2	52	通院診療センター	7	6	0	0	0	0	13
7 階 東	29	8	0	0	1	3	41	内視鏡センター	0	2	0	0	0	0	2
8 階 西	11	15	0	0	3	8	37	放 射 線 科	5	6	2	0	1	0	14
8 階 東	13	19	1	0	2	12	47								
I C U	27	45	2	0	143	2	219	合 計	223	217	10	4	203	47	704

がん相談支援センターの現況

1. スタッフ

センター長	西山 謹司（兼副院長・地域医療連携室長・放射線治療科部長）
看護係長	佐藤 美代子（兼地域医療連携室看護師長）
医療ソーシャルワーカー	大和 裕香
臨床心理士	外堀 直子

2. 業務内容

がんに関する病状、治療、薬剤、看護、介護、食事、検診、医療費、精神的不安などのあらゆる疑問や悩み事、心配事に対する相談窓口として、平成20年2月より活動を開始している。対象者は当院受診の有無を問わず、がん患者、家族、知人、医療関係者など様々な方から相談を受けている。その他がんに関する情報提供を行うなど、情報発信の場所としても機能している。

3. 業務体制

1) 相談業務

相談については予約制になっており、電話または直接来院で受け付けている。まず医療ソーシャルワーカー・臨床心理士などの支援相談員が受け、相談内容を確認し、必要に応じて院内の各専門スタッフ（各種専門相談員）と連携をとり、相談にあたっている。相談費用は無料である。セカンドオピニオン、外来患者の継続的な心理カウンセリングは有料（1回3,070円/50分）。その他、院内の緩和ケアチームの一員として活動し、院内の各専門職としてがん相談以外の相談業務も行っている。

2) 情報提供・啓蒙活動

- ・外来待合付近やがん相談支援センター横に各がんについてなどの小冊子の設置。その他インフォメーションコーナーにて医療講演やイベントの紹介などを掲示した。図書コーナーにがんに関する本やDVDを設置。閲覧いただき、希望の方には貸し出しも行った。
- ・がん患者や家族などを対象とした「がん相談支援センターミニ勉強会」を計4回開催した。

4月「がんと健康食品」

10月「緩和ケアにおける心のケア ～緩和ケアに伴う精神症状～」

11月「アピアランスケア（外見的ケア）～自分らしくキラキラ輝きませんか～」

2月「がん治療中の食事と栄養」

講義終了後に意見交換等の時間を設け、参加者同士の交流の場の役割も担っている。他院の患者や他機関の方の参加もあり、地域の方が気軽に参加できる会となっている。

- ・その他、市立病院公開講座、八尾市政だより、地方の情報誌などにて、がん相談支援センターの紹介。市立病院公開講座では病院まで来院されなくても情報が得られるよう、各がん冊子の設置と配布なども行った。

3) がん診療地域連携クリティカルパス

5 大がん（肝臓がん・肺がん・乳がん・胃がん・大腸がん）地域連携クリティカルパスに加え、緩和ケア地域連携クリティカルパスを実施した。

連携機関としては八尾市を中心に、近隣の大阪市、東大阪市、柏原市が多いものの、大阪府下の他市や和歌山県、京都府、島根県、鹿児島県と広範囲になっている。

4) 国指定地域がん診療連携拠点病院 各部会への参加

大阪府がん診療連携協議会、相談支援センター部会、地域連携クリティカルパス部会・運営部会、中河内ネットワーク協議会へ参加。国指定の地域がん診療連携拠点病院の役割を担えるよう、各拠点病院と連携をとり、大阪府全体の質の向上をめざしている。

4. 相談実績

◆入院・外来別件数

(単位：件)

	入院	外来	その他	合計
4 月	113	17	10	140
5 月	98	33	11	142
6 月	128	43	15	186
7 月	110	31	15	156
8 月	84	34	14	132
9 月	98	35	9	142
10 月	97	36	10	143
11 月	86	38	6	130
12 月	102	34	8	144
1 月	136	38	9	183
2 月	75	25	3	103
3 月	92	4	6	102
合計	1,219	368	116	1,703
平均	101.6	30.7	9.7	141.9

◆新規件数

(単位：件)

	新規
4 月	60
5 月	73
6 月	88
7 月	67
8 月	78
9 月	82
10 月	80
11 月	57
12 月	60
1 月	58
2 月	42
3 月	29
合計	774
平均	64.5

※がん相談内容（相談内容は複数にまたがるため、主となる相談内容のみをカウント）

◆がん地域連携クリティカルパス件数

(単位：件)

	肝臓	肺	乳腺	胃	大腸	緩和	合計
継続	8	9	57	11	19	22	126
新規	5	1	60	2	5	11	84
中止	1	1	4	2	0	22	30
合計	12	9	113	11	24	11	180

5. 心理相談実績

当院ではがん相談に加え、がん疾患以外の心理相談にも幅広く対応している。平成 26 年 8 月より臨床心理士 2 名体制で活動している。平成 27 年度は従来の緩和ケアチーム回診に加え、I C 同席、糖尿病外来、N I C U への介入など活動の幅を広げてメンタルケアの充実を図っている。

平成 27 年度は、新規依頼 209 名（がん疾患 118 名、がん疾患以外 91 名）、のべ面接件数 1,410 件（がん疾患 651 件、がん疾患以外 759 件）面接を担当した。対応内容の内訳としては、心理面接 564 件、自費面接 623 件、心理検査 31 件、I C 同席・行動観察 192 件であった。

当院に精神科はないが、入院患者は、精神科医（週 2 回 応援医師勤務）と連携して、外来心理カウンセリングでは、必要に応じて地域の心療内科、精神科医と連携して援助にあたっている。

◆心理相談件数

(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
心理面接 ※1	44	44	70	51	28	30	49	34	38	60	56	60	564
自費面接 ※2	56	55	55	54	42	49	61	53	44	44	52	58	623
心理検査	2	1	5	5	3	3	1	3	2	1	4	1	31
IC 同席・ 行動観察									46	65	36	45	192
総件数	102	100	130	110	73	82	111	90	130	170	148	164	1,410

※1 心理面接とは、入院患者相談, 外来無償相談, スタッフ相談件数を示す。

※2 自費面接とは、外来心理カウンセリング（3,070 円／1 回 50 分）の件数を示す。

緩和ケアセンターの現況

1. スタッフ

部 長 蔵 昌宏（兼麻酔科医長）
応援医師 江川 功、大橋 順子
看護係長 小林 啓子

2. 概要

当院は平成 27 年 4 月から、地域がん診療連携拠点病院として国からの指定を受け、がん対策基本法ならびに第二期がん対策基本計画に準じた緩和ケアを提供できるよう診療体制のさらなる強化を進めている。緩和ケアセンターは運営会議、地域がん診療連携拠点病院運営委員会、緩和ケアチーム、緩和ケアリンクナースなどと連携協議し、診療機能の評価や問題点の抽出、改変を行っている。また、大阪府がん診療連携協議会の下部組織である大阪府緩和ケア部会への参加、中河内がん診療ネットワーク協議会への参加などで、地域連携室やがん相談支援センターと共に、がん緩和ケアにおける地域連携をスムーズにできるよう連絡調整を行っている。

■緩和ケアチームメンバー

【医 師】蔵 昌宏（麻酔科・緩和ケアセンター）、西山 謹司（放射線治療科 副院長）
江川 功、大橋 順子（精神科非常勤）、橋本 安司（消化器外科）、
前川 祐樹（消化器内科）、橋村 俊哉、義間 友佳子（麻酔科）
【看護師】小林 啓子（緩和ケアセンター：緩和ケア認定看護師）、
本多 紀子（緩和ケアセンター：緩和ケア認定看護師）、
西村 勢津子（リンクナース代表）
【薬剤師】長谷 圭悟（薬剤師）
【がん相談支援センター】外堀 直子、陶山 由季子（臨床心理士）、大和 裕香（MSW）
【事務局】高草 恒平（企画運営課）、大和 篤史（企画運営課）

3. 診療体制

1) 外来診療：緩和ケア専門外来

緩和ケア外来

金曜日午前（再診）、金曜日午後（相談初診：予約制）

専門看護師カウンセリング

全日：随時

他：ペインクリニック外来でのがん疼痛治療

月曜日・水曜日・木曜日（随時）

2) 入院診療：緩和ケアチームメンバーによる診察

全日：随時

専門的精神科診療

火曜日・水曜日（入院患者のみ）

カウンセリング（臨床心理士）

随時

専門看護師カウンセリング（看護師）

随時

4. 診療実績

緩和ケア外来延患者数は、身体緩和や相談外来は延べ 837 人、専門看護師カウンセリング 324 件であった。入院における緩和ケアチーム介入患者数は延べ 133 人であった。依頼内容は疼痛コントロール 110 件、疼痛以外の身体症状コントロール 46 件、精神症状 72 件、家族ケア 13 件、意思決定支援・倫理問題 25 件、地域連携支援 37 件であった。臨床心理士が介入した患者数は延べ 90 人、臨床心理士によるカウンセリング施行回数は 239 件、専門的精神科医診察患者数は延べ 134 人であった。

5. 教育・啓蒙・学会活動

緩和ケアに関する職員の興味・意識の向上を目指し、緩和ケアセンターメンバーは、院内・地域における研修会開催を積極的に実施している。

・ P E A C E 緩和ケア研修会 主催・他院開催協力 (大阪府緩和ケア部会)	3 回/年
・ 3 医師会新春講演 緩和ケア八尾市立病院のとりくみ (布施医師会)	1 回/年
・ M S W ケアマネ緩和ケア講演 (大阪介護支援専門員協会)	1 回/年
・ 初期研修医オリエンテーション 緩和ケアチームについて (診療局)	1 回/年
・ レジデントレクチャー 緩和ケア (診療局)	1 回/年
・ 看護師ステップⅢ・Ⅳ研修 緩和ケア (看護部)	2 回/年
・ 緩和ケアチーム主催 院内研修会開催 (全職種)	4 回/年
・ 中河内緩和ケアカンファレンス (中河内緩和ケアカンファレンス)	1 回/年
・ なにわ緩和ケアカンファレンス (大阪府内 16 病院共催)	10 回/年
・ 市民公開講座 (中河内がん診療ネットワーク協議会)	1 回/年

6. 今後の目標

より質の高い緩和ケアが提供できるよう八尾市立病院スタッフ全員がチーム一丸となること、がん診療連携拠点病院としての義務と責任を果たすこと、その結果、がんになっても安心して暮らしていける社会が構築できるようになることを夢見て尽力していきたい。

栄養科の現況

1. スタッフ

係長 黒田 昇平

係長ほか管理栄養士 3 名、P F I 協力企業職員 40 名

2. 業務内容

1) 病院給食業務

治療の一環として食事をとらせ、食事を通して疾病の改善に努めることを目標に食事提供を実施している。適時適温給食の実施、選択食の実施、行事食の導入により、美味しく食事をしていただくための努力をしている。

2) 栄養指導業務

食生活などの改善を目的とし、個々の疾病と生活習慣に合わせた個人栄養指導と、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて、糖尿病食事療法について理解していただくことを目的とした集団栄養指導を実施している。

糖尿病センターにおけるチーム医療として、糖尿病透析予防指導管理の食事療養について個人栄養指導を実施している。

3) 栄養管理業務

栄養管理計画書の作成とN S T（栄養サポートチーム）への参加により、入院中の栄養管理を行っている。チーム医療の一環として多職種による栄養管理が行われているなかで、食事など管理栄養士が担うべき側面から栄養管理活動を実施している。

3. 業務体制

病院給食に関しては、P F I 事業に基づいて運営されている。定例の栄養科会議や栄養士会議などを行うことにより、病院職員とS P C及びP F I 協力企業職員が一丸となり、病院給食業務が遂行されている。

個人栄養指導に関しては、火曜日・木曜日の午前 3 枠（9 時～・9 時 45 分～・10 時 30 分～）と、月曜日・火曜日・金曜日の午後 3 枠（13 時～・13 時 45 分～・14 時 30 分～）の栄養指導予約枠を設けている。また、固定の予約枠以外に要請があれば臨時に予約枠を設定している。

集団栄養指導に関しては、毎週木曜日の 13 時 30 分～定員 10 名枠の栄養指導予約枠を設けている。集団栄養指導については、糖尿病食事療法を対象とした指導内容となっている。

糖尿病センターにおける個人栄養指導業務に関しては、糖尿病センターの診療日時に合わせて、管理栄養士 1 名常駐体制で行っている。水曜日と金曜日の午前に関しては、初診・再診の 2 診体制の為、管理栄養士 2 名体制で栄養指導業務を行っている。

毎週水曜日の午後にN S T（栄養サポートチーム）回診など、栄養管理に関する業務を行っている。必要時には、他の曜日にも栄養管理活動が行われている。

4. 業務実績

栄養指導実施状況全体については、昨年度実績数を少し下回り 36 件の減少であったが、糖尿病センター（表区分：センター）を除く栄養指導室などでの栄養指導実施状況については、昨年度実績数を上回り 41 件の増加であった。栄養指導実施状況の内訳においては、糖尿病・消化管術後の指導件数が昨年度より増加し、腎臓病・脂質異常症・その他・糖尿病センター（表区分：センター）の指導件数が昨年度より減少した。糖尿病センターにおける栄養指導は、糖尿病透析予防指導管理に基づいた糖尿病および糖尿病性腎症に対する栄養指導を行っている。

給食業務実施状況については、昨年度実績数を上回り 6,450 食の増加であった。一般食と特別食の比率については、58:42 と昨年度より少し特別食の比率が多かった。特別食（加算）実施状況においては、糖尿病食・腎臓病食・肝臓病食・心臓病食が特別食（加算）実施食数全体の 7 割以上を占めている。

病院給食業務においては、厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準（2015 年版）」に基づいて、平成 27 年 11 月に院内食事箋規約の改定が行われた。

5. 各種業務状況

◆給食業務状況

区 分		食数(食)	比率(%)
食 種	普 通 食	102,838	38.4%
	軟 食 等	53,196	19.8%
	特別食(加算)	83,366	31.1%
	特別食(非加算)	28,667	10.7%
	合 計	268,067	100.0%
1 日 平 均		732	—
1 回 平 均		244	—
一般食の比率(%)		—	58
特別食の比率(%)		—	42

◆特別食（加算）実施状況

区 分		食数(食)	比率(%)
食 種	糖 尿 病 食	34,877	41.8%
	腎 臓 病 食	7,279	8.7%
	肝 臓 病 食	7,577	9.1%
	心 臓 病 食	14,241	17.1%
	脾 臓 病 食	4,046	4.9%
	潰 瘍 食	3,915	4.7%
	術 後 食	3,700	4.4%
	そ の 他	7,731	9.3%
	合 計	83,366	100.0%
	1 日 平 均	228	—
	1 回 平 均	76	—

◆栄養指導実施状況

(単位：人)

区 分	
糖 尿 病	981
腎 臓 病	61
消化管術後	80
脂質異常症	16
そ の 他	118
センター	1,450
合 計	2,706

薬剤部の現況

1. スタッフ

部 長 山崎 肇（兼診療局次長・臨床研究センター長）
部長補佐 長谷 圭悟
部長ほか薬剤師 20 名

2. 業務内容

平成 27 年度は 4 月に新規薬剤師 2 名の採用で、総勢薬剤師 21 名で業務を行った。病棟薬剤業務は 7 病棟にて薬剤師の病棟常駐を行い、薬物治療の質や医療安全の向上、さらに医師などの負担軽減にも貢献した。また、市立病院と八尾市内の医療機関（医院や診療所の「かかりつけ医」や歯科医院、薬局）をネットワークで接続し、患者の同意のもと市立病院で受けた検査や画像などの診療情報を、八尾市内の医療機関で閲覧することを可能にする「病院診療所薬局連携システム」も充実を図っている。また通院治療センターにもがん薬物療法認定薬剤師を配置し、外来化学療法での安全で適正な使用に貢献している。

1) 調剤業務

調剤業務の安全性向上および調剤業務の効率化・省力化を目的とし、オーダーリングシステム情報を利用したシステムにて入院処方せんおよび院内処方せん、時間外救急時の院内処方せんの調剤業務を行っている。

2) 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務

平成 25 年 8 月からの病棟薬剤業務実施加算の算定開始に伴い、今年度も 7 病棟に専任薬剤師を継続的に配置し、入院患者への適正な医薬品の供給を基本に、持参薬確認、服薬説明、医師や看護師等への医薬品情報提供、病棟配置薬の管理、チーム医療への参画など医薬品に関わる業務を各病棟で推進した。また糖尿病教育入院において、薬剤師が行っていた入院時の初回面談と退院時指導に加え、薬物療法の個別指導についても患者指導を引き続き行っている。

また I C U に薬剤師を配置し、今後の新たな病棟業務の展開に着手した。

3) 医薬品情報管理業務

年 6 回開催される薬事委員会事務局としての業務を行っており、院内採用医薬品の適正化に向けて資料などを順次作成した。また、国の施策である後発医薬品使用促進のため、後発医薬品の使用割合が 60%を超えるよう院内採用医薬品の後発医薬品への切り替えを推進し、年度内に目標を達成した。さらに、院外処方せんの疑義照会及び病診薬連携システムを介し、保険薬局との連携強化にも努めた。

4) 医薬品管理業務

院内採用医薬品の後発医薬品への切り替えに伴い、先発医薬品から後発医薬品への切り替えを順次行い、院内での医薬品の供給に滞りが出ないように管理を行っている。

医薬品の中で、特に法的に規制のある医薬品である毒薬、向精神薬、麻薬については施錠された金庫・保管庫に保管し、厳重に管理している。

それ以外の医薬品も定期的に薬剤部と S P C、S P D が情報の共有を行い、効率的な医薬品の使用動向について検討するとともに使用量と医事データとの突合、不一致原因の追究を実施している。また昨年度に引き続き使用期限が切迫した医薬品の使用促進を図ることで不良在庫の軽減も行った。

5) 注射薬調製業務

電子カルテレジメン機能を利用して、がん化学療法のプロトコール管理と抗癌剤調製を行っている。また、閉鎖式接続器具を導入し、がん化学療法の抗がん剤調製時及び投与時の安全性

向上に寄与している。また通院治療センターの増床により、抗がん剤調製やスタッフの教育など対応を行った。

6) TDM業務

塩酸バンコマイシン、硫酸アルベカシン及び注射用テイコプラニンの投与設計件数は97件であった（昨年度85件）。また、これらの薬剤における初期投与量設計件数は67件であった（昨年度53件）。投与設計件数、初期投与量設計件数はともに増加を認め、昨年度と同様、TDM業務は院内での抗菌薬の適正使用に貢献したと考える。

	初期投与量設計件数（件）	投与設計件数（件）
塩酸バンコマイシン	61	92
硫酸アルベカシン	3	3
注射用テイコプラニン	3	2

7) 通院治療センター業務

平成26年の4月より通院治療センターへ薬剤師を週2回半日配置し、抗がん剤の説明、相談応需、がん化学療法オリエンテーションなどの業務を行っていたが、平成27年11月より常駐を開始した。それに伴い12月より「がん患者指導管理料3」の算定を開始した。

3. 研究・研修活動

1) 院内研修

医療安全講演会 兼 医薬品安全講習会

・医薬品安全管理「くすりのリスク」を考える！！ 平成27年12月16日

医療安全講演会

・麻薬等の取り扱いについて 平成27年7月16日

部内勉強会（週1回）

2) 院外研修

第54回 全国自治体病院学会 in 函館

平成27年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」報告会

日本薬学会第136年会（横浜）

医薬品安全管理教育セミナー2016 春季

医薬品安全管理研修会 2015年度 冬期

平成27年度 全国自治体病院協議会 薬剤部長会研修会

第63回 日本化学療法学会総会

第17回 日本医療マネジメント学会学術総会

第20回 日本緩和医療学会 学術大会

平成27年度全国都市立病院薬局長協議会・研修会

平成27年度日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者講習会 大阪

第44回 大阪府病院薬剤師会新入局薬剤師研修会

第9回 日本緩和医療薬学会年会および日本緩和医療薬学会教育セミナー（2015年10月）

第9回 日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会 2015

第52回 日本糖尿病学会近畿地方会、第51回日本糖尿病協会近畿地方会

第25回 日本医療薬学会年会 横浜

平成27年度 がん専門薬剤師集中教育講座 東京会場

第37回 日本病院薬剤師会近畿学術大会 神戸

全国都市立病院薬局長協議会 第57回総会・講演会

第31回 日本静脈経腸栄養学会学術集会 福岡

4. 薬学部学生実務実習（11 週間実習）の受入

- 1) 平成 27 年 4 月 13 日～平成 27 年 7 月 5 日
 大阪薬科大学（2 名）、神戸学院大学（1 名）、同志社女子大学（1 名）
- 2) 平成 27 年 9 月 28 日～平成 27 年 12 月 13 日
 大阪大谷大学（1 名）、大阪薬科大学（1 名）、近畿大学（1 名）

5. 薬剤部統計

(ア) 採用医薬品数（平成 28 年 3 月現在）

(単位：薬品数)

	先発品	後発品	後発率 (%)	総 数
院 内 採 用 医 薬 品 数	876	264	23.2%	1,140
患者限定院内採用薬	162	3	1.8%	165
院 外 採 用 医 薬 品 数	425	15	3.4%	440
患者限定院外採用薬	76	1	1.3%	77
合 計	1,539	283	15.5%	1,822

(イ) 外来処方せん枚数

(単位：件数)

	院外処方			疑義照会	院内処方			合計			院外処方 発行率
	枚数	件数	薬剤	枚数	枚数	件数	薬剤	枚数	件数	薬剤	
4 月	6,912	14,961	21,697	144	801	1,420	1,935	7,713	16,381	23,632	89.61%
5 月	6,214	13,281	18,670	114	1,090	1,951	2,617	7,304	15,232	21,287	85.08%
6 月	7,119	14,973	21,258	143	797	1,409	1,826	7,916	16,382	23,084	89.93%
7 月	7,001	15,001	21,227	146	939	1,617	2,064	7,940	16,618	23,291	88.17%
8 月	6,763	13,916	19,766	145	1,021	1,767	2,333	7,784	15,683	22,099	86.88%
9 月	6,623	13,992	19,788	139	928	1,686	2,329	7,551	15,678	22,117	87.71%
10 月	7,077	15,240	21,641	135	785	1,423	1,995	7,862	16,663	23,636	90.02%
11 月	6,540	13,946	19,974	128	851	1,539	2,107	7,391	15,485	22,081	88.49%
12 月	6,691	14,335	20,452	146	1,073	1,992	2,656	7,764	16,327	23,108	86.18%
1 月	6,517	13,990	20,154	137	1,235	2,335	3,062	7,752	16,325	23,216	84.07%
2 月	6,715	14,271	20,246	121	1,446	2,751	3,608	8,161	17,022	23,854	82.28%
3 月	7,095	15,070	21,525	128	1,160	2,180	2,806	8,255	17,250	24,331	85.95%
合 計	81,267	172,976	246,398	1,626	12,126	22,070	29,338	93,393	195,046	275,736	87.02%

(ウ) 入院処方せん枚数

(単位：枚数)

		27 年										28 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
処方 区 分 別	定 期	140	78	99	139	106	97	93	118	127	112	88	160	1,357	
	定期つなぎ	49	20	11	10	11	5	16	11	15	13	2	3	166	
	臨 時	2,656	2,406	2,527	2,697	2,590	2,430	2,696	2,640	2,673	2,614	2,626	2,750	31,305	
	緊 急	1,307	1,265	1,163	1,349	1,216	1,269	1,177	1,208	1,292	1,187	1,241	1,355	15,029	
	退 院	683	656	683	745	644	673	701	631	782	664	645	714	8,221	
合計	枚 数	4,835	4,425	4,483	4,940	4,567	4,474	4,683	4,608	4,889	4,590	4,602	4,982	56,078	
	件 数	7,611	6,956	7,202	7,734	6,863	6,897	7,353	7,093	7,974	6,880	7,064	8,000	87,627	
	剤 数	48,687	43,404	45,328	48,854	40,655	45,583	48,320	45,315	57,519	43,353	46,397	52,932	566,347	

(エ) 外来注射件数

(単位：オーダー数)

		27 年									28 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
区 分 別	予 約 注 射	330	206	239	236	267	274	335	323	359	354	362	360	3,645
	通院治療センター	340	300	315	168	193	179	162	158	175	148	178	186	2,502
	抗がん剤注射	2,645	2,357	2,654	2,699	2,458	2,367	2,795	2,193	2,278	2,546	2,404	2,792	30,188
	実施済注射	1,084	1,093	1,095	1,241	1,262	1,078	996	1,125	1,163	1,154	1,108	1,126	13,525
	当 日 注 射	347	287	394	535	557	512	567	458	583	494	600	649	5,983
合 計		4,746	4,243	4,697	4,879	4,737	4,410	4,855	4,257	4,558	4,696	4,652	5,113	55,843

(オ) 入院注射件数

(単位：オーダー数)

		27 年									28 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
処 方 区 分	定 期 注 射	16,339	16,725	16,269	17,546	16,102	16,433	16,898	18,025	16,335	18,085	18,080	17,939	204,776
	緊 急 注 射	4,760	4,584	4,077	4,907	4,203	4,493	4,382	4,172	4,342	4,430	4,200	5,286	53,836
	臨 時 注 射	5,578	6,149	5,401	5,798	5,735	5,495	5,863	6,044	6,312	5,411	5,665	5,978	69,429
	抗がん剤注射	715	837	797	961	720	685	772	797	603	768	859	937	9,451
	実施済注射	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合 計		27,392	28,295	26,546	29,213	26,760	27,106	27,915	29,038	27,592	28,694	28,804	30,140	337,495

(カ) がん化学療法無菌調製件数

(単位：算定件数)

		27 年									28 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
外 来	内 科	24	15	14	26	21	20	21	14	19	29	18	23	244
	消化器内科	14	6	7	10	6	10	15	13	13	16	14	12	136
	外 科	268	256	290	279	267	248	290	221	237	224	239	268	3,087
	脳神経外科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	産婦人科	11	5	11	12	13	16	13	14	20	23	21	32	191
	小児科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	眼 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	泌尿器科	9	9	9	12	11	13	16	16	14	23	16	19	167
	放射線科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6
入 院	内 科	30	30	44	54	27	28	25	35	22	27	34	32	388
	消化器内科	8	8	4	3	10	4	8	8	0	3	8	1	65
	外 科	14	23	24	18	16	22	14	26	24	38	42	70	331
	整形外科	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	5
	産婦人科	5	9	3	8	11	10	7	7	6	11	15	11	103
	泌尿器科	12	18	17	15	12	10	19	10	6	10	13	10	152
	歯科口腔外科	9	10	5	0	0	0	0	0	0	5	7	14	50
合 計		407	390	430	438	397	381	428	364	361	410	428	498	4,932

(キ) 高カロリー輸液製剤調製件数

(単位：算定件数)

		27 年									28 年			総計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
	内 科	54	81	51	32	58	39	57	52	4	36	118	88	670
	消化器内科	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	循環器内科	23	8	0	0	3	3	24	28	14	57	39	38	237
	外 科	39	56	55	26	10	32	19	28	5	5	0	5	280
	産婦人科	0	0	0	0	0	27	4	0	0	0	0	0	31
	泌尿器科	21	7	18	25	12	0	0	0	0	3	0	0	86
	歯科口腔外科	0	5	28	2	0	0	0	0	0	0	0	0	35
合 計		137	157	152	87	83	101	104	108	23	101	157	131	1,341

(ク) 院内製剤数量

品 名	数 量	品 名	数 量
１％フラジール軟膏	25,400 g	ボアラ軟膏+ヒルドイド（１：１）	11,550 g
１０％硝酸銀液	110 mL	マンドル氏液	350 mL
２％ピオクタニンプール液	30 mL	ルゴール氏液（内視鏡）	1,100 mL
３％酢酸水	4,000 mL	院方ルゴール	1,900 mL
A I M用２％酢酸液	75 mL	柿煎	32,000 mL
CMCアズノール軟膏	2,100 g	鼓膜麻酔液	18 mL
CMC亜鉛華単軟膏	3,650 g	白色ワセリン+ヒルドイド（１：１）	14,600 g
M o h s 軟膏	2,400 g	皮膚インク（フクシ・レゾルシン入り）	100 mL
アズノール・クリダマシン軟膏	1,700 g	滅菌２％ピオクタニン液	740 mL
ウリナスタチン膺坐薬	830 個	滅菌オリーブ油	7,000 mL
バンコマイシン点眼液	400 mL	滅菌墨汁	110 mL
ブロー氏液	300 mL		

(ケ) 薬剤管理指導業務

(単位：算定件数)

科名	27 年										28 年			総計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
内 科	93	61	70	56	95	67	98	85	78	76	85	79	943	
血 液 内 科	63	59	77	85	69	77	73	77	70	58	63	78	849	
消 化 器 内 科	133	126	171	187	152	140	162	148	137	143	133	157	1,789	
循 環 器 内 科	92	75	85	77	47	101	126	101	112	127	117	130	1,190	
外 科	172	160	154	194	153	149	146	150	135	158	166	182	1,919	
乳 腺 外 科	19	24	26	26	28	29	24	35	34	28	32	30	335	
脳 神 経 外 科	15	12	9	15	14	18	14	17	15	16	12	16	173	
整 形 外 科	63	53	66	61	59	52	58	58	66	47	65	73	721	
形 成 外 科	21	23	34	31	33	24	26	31	27	26	36	34	346	
産 婦 人 科	111	95	117	129	113	99	122	103	99	115	120	113	1,336	
小 児 科	86	71	83	93	101	95	61	60	83	66	75	66	940	
眼 科	33	34	49	34	42	26	34	33	19	28	11	0	343	
耳 鼻 科	75	65	85	96	101	99	83	82	98	85	74	93	1,036	
泌 尿 器 科	67	62	90	88	79	66	83	82	70	70	73	84	914	
皮 膚 科	7	0	11	5	8	1	2	4	2	4	4	2	50	
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
放 射 線 治 療 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	
歯 科 口 腔 外 科	23	20	27	25	18	19	17	11	15	18	18	25	236	
救 急 診 療 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
合 計	1,073	940	1,154	1,202	1,112	1,062	1,129	1,077	1,060	1,066	1,084	1,168	13,127	

(コ) 病棟薬剤業務実施加算件数

(単位：算定件数)

件数	27 年									28 年			総計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
	1, 812	1, 717	1, 885	1, 914	1, 796	1, 673	1, 771	1, 824	1, 856	1, 808	1, 800	1, 993	21, 849

D P C 係数のため出来高請求に置き換えた場合としての値

(サ) 製剤別血液及び血液成分製剤の使用本数 (単位：本)

		A-	A+	AB-	AB+	B-	B+	O-	O+	計	前年度
自 己 血	1 単位	0	2	0	0	0	1	0	0	3	11
	2 単位	0	17	0	9	1	23	0	23	73	93
濃厚赤血球 (MAP) (全て白血球除製剤)	1 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
	2 単位	2	669	0	129	0	310	1	441	1,552	1,472
新鮮凍結血漿 (FFP)	1 単位	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	2 単位	0	89	0	9	0	34	0	26	158	281
	4 単位	0	0	0	0	0	0	0	8	8	70
濃厚血小板 (PC) (HLA 適合製剤を含む) (白血球除製剤を含む)	総単位	20	2,395	0	385	10	1,365	15	3,450	7,640	5,605
	2 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10 単位	2	162	0	27	1	99	0	218	509	360
	15 単位	0	37	0	5	0	17	1	78	138	107
	20 単位	0	11	0	2	0	6	0	5	24	20
人 全 血	1 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 1 単位＝200ml 献血由来相当分

※ 集計対象日は輸血実施入力日

(シ) 薬効別医薬品使用状況

項目	割合	分類番号	主な薬効分類	割合
1 神経系及び感覚器官用医薬品	3.06%	11	中枢神経系用薬	1.61%
		12	末梢神経系用薬	0.41%
		13	感覚器官用薬	1.04%
2 個々の器官系用医薬品	14.54%	21	循環器官用薬	1.10%
		22	呼吸器官用薬	0.49%
		23	消化器官用薬	2.49%
		24	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	9.86%
		25	泌尿生殖器官及び肛門用薬	0.13%
		26	外皮用薬	0.42%
3 代謝性医薬品	9.23%	27	歯科口腔用薬	0.05%
		31	ビタミン剤	0.06%
		32	滋養強壮薬	0.75%
		33	血液・体液用薬	4.33%
		34	人工透析用薬	0.04%
4 組織細胞機能用医薬品	42.46%	39	その他の代謝性医薬品	4.05%
		42	腫瘍用薬	39.35%
		43	放射性医薬品	3.00%
5 生薬および漢方処方に基づく医薬品	0.04%	44	アレルギー用薬	0.11%
		51	生薬	0.00%
6 病原生物に対する医薬品	24.97%	52	漢方製剤	0.04%
		61	抗生物質製剤	2.86%
		62	化学療法剤	8.95%
		63	生物学的製剤	13.13%
7 治療を主目的としない医薬品	4.23%	64	寄生動物用薬	0.03%
		71	調剤用薬	0.07%
		72	診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	3.38%
		73	公衆衛生用薬	0.02%
8 麻薬	1.43%	79	その他の治療を主目的としない医薬品	0.76%
		81	アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	0.48%
9 不明	0.04%	82	非アルカロイド系麻薬	0.95%
		99	不明	0.04%

(ス) 科別血液及び血液成分製剤の使用本数

(単位：本)

科 \ 区分	自己血	MAP	FFP	PC	HLAPC	人全血	WRC	計	前年度
内科	0	1,704	76	6,980	30	0	4	8,794	6,879
一般内科	0	128	0	460	0	0	0	588	732
血液内科	0	1,068	6	6,200	30	0	4	7,308	4,233
消化器内科	0	414	0	200	0	0	0	614	478
循環器内科	0	94	70	110	0	0	0	274	148
腫瘍内科	0	0	0	10	0	0	0	10	1,288
外科	0	648	161	285	0	0	0	1,094	1,223
一般外科	0	486	146	195	0	0	0	827	1,100
呼吸器外科	0	106	15	90	0	0	0	211	111
乳腺外科	0	56	0	0	0	0	0	56	12
脳神経外科	0	32	8	55	0	0	0	95	77
整形外科	31	124	8	15	0	0	0	178	325
形成外科	0	18	0	0	0	0	0	18	16
産婦人科	76	84	66	20	0	0	0	246	374
小児科	0	2	0	0	0	0	0	2	15
眼科	0	0	6	10	0	0	0	16	0
耳鼻咽喉科	0	6	0	0	0	0	0	6	4
泌尿器科	42	234	8	225	0	0	0	509	467
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	4
麻酔科	0	4	0	0	0	0	0	4	0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	0	24	8	30	0	0	0	62	4
救急総合診療科	0	220	8	20	0	0	0	248	224
合計	149	3,100	349	7,640	30	0	4	11,272	9,612

※1単位＝200ml 献血由来相当分で、上記本数は1単位分の本数

※集計対象日は検査依頼日（輸血予定日）

臨床研究センターの現況

1. スタッフ

センター長 山崎 肇（兼診療局次長・薬剤部長）

センター長補佐 香川 雅一

2. 業務内容

臨床研究センターでは、治験・調査及び臨床研究のすべてを区別せず、一体化した運営を図り、多くの試験・調査に携わることによって、各診療科の医師や院内スタッフとの連携をさらに密にし、円滑な試験の運営を目指している。

平成 27 年度は、臨床研究・治験を取り巻く環境が変化し、従来の「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」が統合され、平成 27 年 4 月に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が施行された。

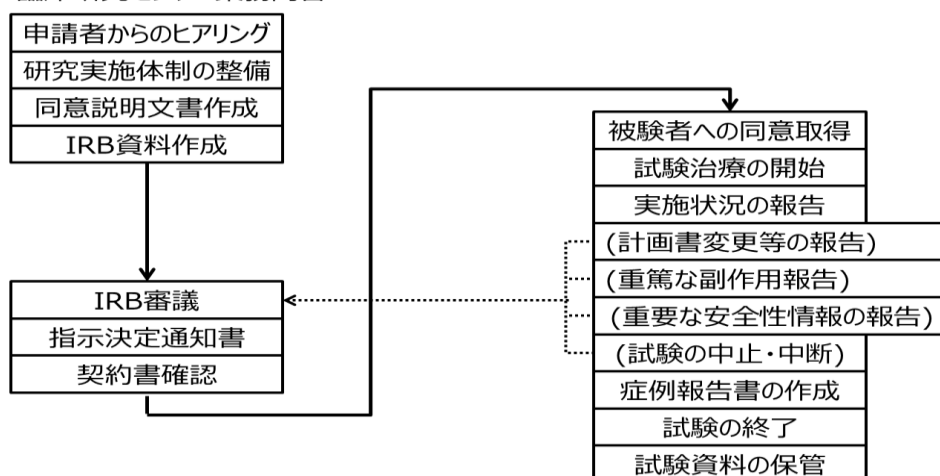
これにより、標準業務手順書の改訂及び試料・情報の取扱いやモニタリング・監査については新規手順書を策定、新規業務として観察研究における試料管理を追加し 9 試験・年間 600 検体以上の管理を行った。また、これまで受け入れ実績のなかった医師主導臨床研究におけるモニタリング・監査についても初めて経験することとなった。

今後は、臨床試験の質、とりわけ臨床試験のデータの質の維持・向上に寄与する為、人材育成や充実した実施体制の整備などが急務である。

3. 業務体制

部署での業務は、臨床研究審査委員会事務局業務、治験・臨床研究事務局業務、クリニカルリサーチコーディネーター（データマネージャー含む）業務に大別される。

臨床研究センター業務内容



被験者適格性のチェックと登録、検査結果のモニタリングによる開始及び
休止規準の確認、被験者ケア・相談業務、被験者スケジュールの管理、
有害事象の評価・報告、CRF作成補助、有害事象発生時の対応、
IRBへの報告書作成補助、被験者データの収集とフォローアップ(クエリー
対応)、検体採取体制構築と結果への対応、臨床研究チームの責任
医師が保管すべき必須文書の管理補助

4. 業務実績

臨床研究審査委員会業務

研究区分	審議内容	件数
医師主導 臨床研究	《試験の実施の妥当性・科学性》	26
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	4
	《迅速審査 実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	22
	《迅速審査 実施計画書の妥当性・科学性》	7
開発治験	《試験の実施の妥当性・科学性》	0
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	0
	《迅速審査 実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	0
製造販売後 調査	《実施計画書の妥当性・科学性》	18
	《副作用報告》	12
	《実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	19

治験・臨床研究事務局業務

実施診療科	疾患名	研究実施数（件）
脳神経外科	脳腫瘍	1
外科	GIST	1
	胃癌	25
	肝癌	2
	肺癌	1
	大腸がん	29
	腹部外科手術	1
	腹腔鏡下肝切除術	1
	急性胆道炎	2
	膵頭十二指腸切除術	1
	肝胆膵外科手術	1
乳腺外科	乳がん	35
血液内科	多発性骨髄腫	1
	慢性骨髄性白血病	2
小児科	ITP	1
	SIDS	1
	小児慢性疾患	1
	血液凝固異常症	1
	小児アレルギー	2
	ワクチン	1
新生児集中治療部	壊死性腸炎	1
	周産期	1
消化器内科	B型肝炎	1
	C型慢性肝炎	10
	胃癌	1
	ESD	1
	肝がん	3
	膵がん	1
	肝炎	1
泌尿器科	前立腺癌	1
呼吸器外科	気胸	1
	肺癌	1
	胸膜中皮腫	1
循環器内科	後期および超高齢の 心房細動	1
	持続性心房細動	1

クリニカルリサーチコーディネーター(データマネージャー含む)業務

試験名	症数	サポート内容(CRC)
POTENT	16(16)	被験者適格性のチェックと登録、検査結果のモニタリングによる開始及び休止規準の確認、被験者ケア・相談業務、被験者スケジュールの管理、有害事象の評価・報告、CRF作成補助、有害事象発生時の対応、IRBへの報告書作成補助、被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)、検体採取体制構築と結果への対応、臨床研究チームの責任医師が保管すべき必須文書の管理補助
OMC-BC03	1(1)	
AXEPT	2(2)	
KBCSG-TR-1315	3(10)	
SPOT-TRIAL	3(3)	
JFMC-46	1(1)	
JBCRG19	1(1)	
OCUU-CRPC(イクスタンジ)	1(1)	
JACCRO GC-07	6(11)	
C-Cubed	2(2)	
JBCRG-C05	5(5)	
JFMC-47	1(1)	
JFMC-41-C02	3(3)	
Respect RCT	1(1)	3年後QOL調査
JUST-STUDY	3(3)	追加調査対応
J-ELD AF	20(20)	被験者適格性のチェックと登録、CRF作成補助、検体採取体制構築と結果への対応、採血スケジュール管理、採血管準備、検体回収
進行・再発の結腸癌・直腸癌におけるパニツムマブ療法の皮膚毒性に対する予防療法の検討	1(1)	被験者データ・患者日誌の収集とフォローアップ(クエリー対応)
Nab-Paxlitaxel観察	28(28)	被験者適格性のチェックと登録、CRF作成補助、被験者データ・患者日誌の収集とフォローアップ(クエリー対応)
FN研究	14(14)	
STAR-ReGISTry	1(1)	
小児アレルギー疾患発症機序の解明及び新規診断マーカーの開発	13(13)	検体採取体制構築と結果への対応、採血管準備、検体回収、臨床研究チームの責任医師が保管すべき必須文書の管理補助
NY-ESO1抗体研究	10(33)	検体採取体制構築と結果への対応、採血スケジュール管理、採血管準備、検体回収
SMV_PEG_RBV(OLF研究)	12(16)	
DCV_ASV(OLF研究)	17(25)	
SOF_RBV臨床研究	25(25)	
SOF_LDV臨床研究	16(16)	
HCV-DCV耐性変異	91(91)	

調査名	症数	サポート内容(CRC)
スチパーガ	2(2)	CRF作成補助、被験者データの収集とフォローアップ(クエリー対応)
ロンサーフ	3(5)	
TS-1 OD	5(10)	
ジオトリフ	2(2)	
アレセンサ	1(1)	
ランマーク	7(17)	
パージェタ	3(3)	
カドサイラ	1(1)	
ザーコリ	1(1)	
イーフェンパッカル	3(3)	
副作用報告	9(20)	

5. 教育活動

薬剤部で受け入れている薬学部学生実務実習（11 週間実習）の学生に対して、治験に関する意義、流れ、治験薬管理、被験者からの同意取得などについて、講義を行っている。

地域医療連携室の現況

1. スタッフ

室 長 西山 謹司（兼副院長・放射線治療科部長・がん相談支援センター長）
看護師長 佐藤 美代子（兼がん相談支援センター看護係長）、尾山 明美
医療ソーシャルワーカー 北村 尚洋、福田 路子（平成 28. 3. 31 退職）、西 麻弥、
植杉 敦子（平成 27. 12. 31 退職）
看護師長ほか看護師 1 名
P F I 協力企業職員 常勤 6 名、非常勤 2 名、広報担当者 2 名

2. 診療内容

1) 広報・地域連携調整業務

広報誌の編集・発行や地域医療機関への訪問。地域医師会との連絡調整など。

- ① 「やさしいえがお」：患者や一般向けのミニ広報誌。（平成 16 年 7 月から月 1 回発行）
900 部発行。

内 容	病院の基本理念 病気や治療についてのわかりやすい話、病院からのお知らせ、 院内各科の紹介、かかりつけ医の推奨、紹介・逆紹介の説明、 医療・福祉関連情報
配布場所	院内 外来・病棟 院外 市役所・図書館・出張所・八尾市調剤薬局など 市役所イントラネットの電子書庫及び病院ホームページに掲載

- ② 「地域医療連携室だより」：医療機関向けの広報誌。（平成 17 年 2 月に第 1 号発行）
900 部発行。

内 容	診療体制の他に講座やイベント、地域連携システムなどの情報提供を 2 ヶ月 に 1 回作成し、地域医療機関に送付。診療時間予定表については、毎月送付 している。また、登録医に対しては、医薬品情報管理室発行の『D r u g I n f o m a t i o n N e w s』を毎月送付している。
配 布	八尾市と登録医を中心とする周辺地域の医療機関及び、大阪府下公立病院・ 大学病院・奈良県の連携医療機関。

- ③ 「地域医療連携室 診療のご案内」：年 1 回改定（平成 16 年 10 月初版作成）

内 容	各科医師の専門分野や当院で可能な検査の説明を、写真を用いて掲載し た広報誌。毎年更新している。
-----	--

活用状況	医療機関訪問ツールとして、活用し当院への紹介がスムーズに行われるよう にしている。訪問時は医療機関の意見、要望を伺い、又当院の状況の説明を 行い、より良い医療連携を目指し活動している。平成 27 年度は 1,000 部を 印刷発行している。（過去平成 26 年度は 1,000 部・平成 25 年度は 1,000 部）
------	--

2) 前方支援、後方支援業務および相談業務

看護師の専門性をいかした看護相談と共に医療ソーシャルワーカーによる医療相談を充実させ、外来及び入院患者や家族の様々な相談に対応している。

またニーズに沿った転院や退院の支援を目指し、高齢社会にも対応した保健・医療・福祉サービスの支援を行っている。退院後も在宅支援業者や他の医療機関とも連携し適切な療養が継続できるようにしている。

3) 連携事務業務

紹介患者の予約受付と窓口対応を一体として行っている。事前予約受付（診察・各種検査）については、午前8時30分～午後8時（夜診のある医療機関対応）までの受入れ体制をとっている。また、FAXは365日24時間稼働しており、FAXによる時間内の予約依頼への返信は、原則15分程度としている（繁忙期においては、30分程度）。入院対応においても当日中に予約票を返信している。

事前予約依頼は平均41件／日程度ある。事前予約は当院において最優先で診療される。待ち時間が少なく専門医の診察が受けられるように配慮している。

当日受付の紹介患者来院数は平均65名／日となっている。また、逆紹介の患者数は平均71名／日となっている。

3. 紹介率・逆紹介率の状況

近隣医療機関、介護施設などと連携を積極的に行い、地域の先生方に信頼され、患者に満足・安心して医療を受けて頂けるようにしている。地域医療支援病院の承認後、さらに八尾市医師会を始め、地域の医療機関、関係者の連携強化を図り、紹介率が平成23年度は44.9%、平成24年度46.3%、平成25年度47.7%、平成26年度52.6%、平成27年度52.9%となっている。逆紹介率では平成23年度は61.7%、平成24年度60.4%、平成25年度64.6%、平成26年度73.5%平成27年度74.0%と地域医療支援病院の承認要件をクリアしている。当院が果たすべき医療機能をすすめた成果である。今後も地域の急性期医療を担う中核病院として、医療連携をさらに強固なものとするべく改革している。

4. 登録医制度の開始

平成23年度に八尾市立病院登録医制度を開始した。中河内2次医療圏においては315施設・383名の先生にご登録いただいている。（内訳 八尾市：236施設・292名 柏原市：28施設・34名 東大阪市：51施設・57名）。医療圏外においても120施設・142名の登録をいただいた。全体として、435施設・525名の登録となっている。

各病床に設けた開放型病床は68床あり、登録医からの入院依頼に迅速に対応できる体制を整えた。医療機器の共同利用においては、1,496件の利用があった。（上位内訳 MRI：456件 CT：644件 内視鏡：174件）。また、同年7月に、登録医の医療機関情報案内ツールとして、メディマップ（タブレット）とサイネージ（案内モニター）を導入し、さらなる連携強化に努めている。

診療情報管理室の現況

1. スタッフ

室 長 福井 弘幸（兼副院長）

P F I 協力企業職員 5 名（うち診療情報管理士2名）

2. 業務内容

- 1) がん登録（院内がん登録・地域がん登録にデータ提出）、予後調査
- 2) 退院サマリ受取管理、同意書等受取管理
- 3) 診療録監査の実施
- 4) D P C 様式 1 の作成
- 5) 病院臨床指標などの統計データの作成

2016 年症例から開始する全国がん登録に向けて登録システムの準備対応を行っている。今年度から予後調査を実施、精査を行った。

また、毎月診療情報管理室からの情報共有ツールとして H I M n e w s の発行を開始した。その他、病院臨床指標のデータ抽出、病院統計の作成を随時行っている。

1) 退院患者統計

①対象患者

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日の期間に退院（転院）した患者

② 集計方法

- ・統計に必要な情報は、退院時要約及び入院カルテより抽出
- ・1 退院を 1 件として集計
- ・疾病分類は、厚生労働省大臣官房調査部編第 10 回修正「疾病、傷害および死因統計分類提要 I C D - 10 準拠」を使用

③ 統計

- ・I C D - 10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・診療科別 上位 3 疾病退院患者数
- ・診療科別・男女別・I C D - 10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・年齢別・男女別・I C D - 10 国際疾病分類統計別退院患者数
- ・悪性新生物患者数（部位別・男女別）
- ・大分類別・男女別・国際疾病分類統計（死亡統計）
- ・年齢別・診療科別・国際疾病分類統計（死亡統計）

◆国際疾病分類統計/退院患者数			(単位：人)		
章	ICD-10分類	分 類	退院患者		総計
			退院	死亡	
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	343	8	351
II	C00-D48	新生物	2,518	233	2,751
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	88	1	89
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	315	1	316
V	F00-F99	精神および行動の障害	6	0	6
VI	G00-G99	神経系の疾患	111	0	111
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	247	0	247
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	201	0	201
IX	I00-I99	循環器系の疾患	1,026	21	1,047
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	1,334	13	1,347
X I	K00-K93	消化器系の疾患	1,419	12	1,431
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	88	0	88
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	310	0	310
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	559	3	562
X V	000-099	妊娠、分娩および産褥	871	0	871
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	140	1	141
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	34	0	34
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	101	2	103
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	888	1	889
X X	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	8	0	8
総 計			10,607	296	10,903

◆診療科別 上位3位疾病退院患者数				(単位：人)			
診療科	ICD-10	病 名	合計	診療科	ICD-10	病 名	合計
全科	080	単胎自然分娩	496	形成外科	S68	手首および手の外傷性切断	75
	K63	腸その他の疾患	458		I83	下肢の静脈瘤	59
	T78	有害作用、他に分類されないもの	403		C50	乳房の悪性新生物	21
内科	E11	インスリン非依存型糖尿病	126	産婦人科	080	単胎自然分娩	496
	E14	詳細不明の糖尿病	79		D25	子宮平滑筋腫	78
	J18	肺炎、病原体不詳	70		D39	女性生殖期の性情不詳または不明の新生物	71
血液内科	C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	46	小児科	T78	有害作用、他に分類されないもの	395
	D46	骨髄異形成症候群	34		J18	肺炎、病原体不詳	160
	C92	骨髄性白血病	21		J20	急性気管支炎	112
消化器内科	K63	腸その他の疾患	405	眼科	H25	老人性白内障	226
	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	126		H27	水晶体のその他の障害	2
	C16	胃の悪性新生物	124		H26	その他の白内障	1
循環器内科	I20	狭心症	241	耳鼻咽喉科	J35	扁桃およびアデノイドの慢性疾患	144
	I70	アテローム硬化（症）	105		J32	慢性副鼻腔炎	79
	I25	慢性虚血性心疾患	104		H91	その他の難聴	76
外科	C34	気管支および肺の悪性新生物	179	泌尿器科	C61	前立腺の悪性新生物	182
	C16	胃の悪性新生物	164		C67	膀胱の悪性新生物	155
	C18	結腸の悪性新生物	164		N20	腎結石および尿管結石	91
乳腺外科	C50	乳房の悪性新生物	221	皮膚科	B02	帯状疱疹	23
	D48	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	19		L03	蜂巣炎	4
	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	6		B00	ヘルペスウイルス感染症	3
脳神経外科	S06	頭蓋内損傷	23	麻酔科	C15	食道の悪性新生物	1
	I63	脳梗塞	22	放射線科	C34	気管支および肺の悪性新生物	1
	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	17	歯科口腔外科	K04	歯髄および根尖部歯周組織の疾患	63
整形外科	S72	大腿骨骨折	58		K09	口腔部のう胞、他に分類されないもの	27
	S83	膝の関節および靱帯の脱臼、捻挫およびストレイン	55		K01	埋伏歯	22
	M17	膝関節症	53				

◆診療科別/男女別 国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分 類	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		整形外科	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	6	12	6	4	40	45	6	5	4	8	0	0	0	0	1	0
II	C00-D48	新生物	9	3	104	64	337	171	2	2	509	343	6	249	9	23	2	1
III	D50-D89	血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	1	3	5	8	5	7	2	0	6	6	0	4	0	0	0	0
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	135	103	0	1	1	8	4	7	3	1	0	1	1	0	0	0
V	F00-F99	精神および行動の障害	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
VI	G00-G99	神経系の疾患	2	5	2	2	2	1	1	2	0	0	0	0	2	5	0	0
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IX	I00-I99	循環器系の疾患	24	12	1	1	21	23	541	261	8	9	0	1	40	31	0	1
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	65	62	24	8	20	17	37	24	69	8	0	1	0	1	0	0
X I	K00-K93	消化器系の疾患	1	1	0	0	483	371	4	1	258	111	0	0	0	0	0	0
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	4	1	0	1	2	0	3	1	1	0	0	2	2	1	3	1
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	7	3	1	0	1	1	1	3	0	2	0	2	1	2	88	120
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	11	20	2	4	8	14	13	8	3	2	0	0	0	0	0	0
X V	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	7	4	0	0	6	7	2	3	7	1	0	0	5	0	0	0
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	2	3	1	1	6	3	11	2	17	6	0	2	15	11	133	129
X X	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
総 計			274	249	146	94	934	669	631	322	885	497	6	262	77	74	227	252

◆年齢別/男女別 国際疾病分類統計

章	ICD-10分類	分 類	6歳未満		6歳未満合計	6歳以上10歳未満		6歳以上10歳未満合計	10歳以上16歳未満		10歳以上16歳未満合計	16歳以上20歳未満		16歳以上20歳未満合計	20歳代		20歳代合計
			男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性	
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	70	57	127	12	10	22	8	10	18	2	2	4	5	11	16
II	C00-D48	新生物	4	2	6	3	0	3	0	2	2	2	3	5	4	25	29
III	D50-D89	血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	23	3	26	5	2	7	3	4	7	0	1	1	0	1	1
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	9	5	14	6	5	11	14	5	19	0	0	0	5	4	9
V	F00-F99	精神および行動の障害	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VI	G00-G99	神経系の疾患	19	11	30	8	3	11	9	6	15	0	0	0	0	1	1
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	11	8	19	4	4	8	9	4	13	1	3	4	3	1	4
IX	I00-I99	循環器系の疾患	3	0	3	0	0	0	1	0	1	2	0	2	4	1	5
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	297	218	515	64	47	111	49	31	80	18	10	28	37	31	68
X I	K00-K93	消化器系の疾患	8	4	12	9	2	11	14	14	28	7	4	11	15	13	28
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	13	10	23	6	0	6	5	2	7	0	1	1	0	0	0
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	38	21	59	4	2	6	2	3	5	5	3	8	1	3	4
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	27	12	39	3	1	4	2	0	2	0	2	2	1	22	23
X V	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14	0	291	291
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	74	63	137	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	10	2	12	2	3	5	1	0	1	1	0	1	1	2	3
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	28	19	47	2	2	4	1	2	3	1	0	1	4	1	5
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	248	117	365	20	21	41	16	6	22	25	9	34	38	13	51
X X	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 計			882	556	1,438	148	102	250	134	89	223	64	52	116	118	420	538

(単位：人)

形成外科		産婦人科		小児科		泌尿器科		皮膚科		眼科		耳鼻咽喉科		麻酔科		放射線科		歯科口腔外科		総計	男性 総計	男性 比率	女性 総計	女性 比率
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性					
0	0	0	6	89	76	2	1	14	14	0	0	3	8	0	0	0	0	0	1	351	171	48.72%	180	51.28%
16	37	0	305	1	0	390	47	0	0	0	0	41	36	1	0	0	1	15	27	2,751	1,442	52.42%	1,309	47.58%
0	0	0	0	31	9	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89	52	58.43%	37	41.57%
3	0	0	1	29	15	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	316	178	56.33%	138	43.67%
0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0.00%	6	100.00%
0	0	0	0	18	12	1	0	0	0	0	0	35	21	0	0	0	0	0	0	111	63	56.76%	48	43.24%
4	10	0	0	0	0	0	0	0	0	81	148	2	1	0	0	0	0	0	0	247	88	35.63%	159	64.37%
0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	102	96	0	0	0	0	0	0	201	103	51.24%	98	48.76%
23	42	0	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1,047	662	63.23%	385	36.77%
0	0	0	0	336	263	1	2	0	0	0	0	273	136	0	0	0	0	0	0	1,347	825	61.25%	522	38.75%
0	0	0	7	21	11	1	1	0	0	0	0	5	8	0	0	0	0	64	83	1,431	837	58.49%	594	41.51%
11	4	0	1	20	11	2	0	2	2	0	0	6	3	0	0	0	0	0	4	88	56	63.64%	32	36.36%
3	3	0	0	43	27	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	310	147	47.42%	163	52.58%
0	1	0	161	27	13	176	98	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	562	241	42.88%	321	57.12%
0	0	0	855	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	871	0	0.00%	871	100.00%
0	0	1	4	73	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141	74	52.48%	67	47.52%
6	2	0	1	4	2	4	2	0	0	0	0	6	3	0	0	0	0	0	0	34	23	67.65%	11	32.35%
1	0	0	1	31	23	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	103	63	61.17%	40	38.83%
102	18	0	9	266	136	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	5	4	889	563	63.33%	326	36.67%
0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	4	50.00%	4	50.00%
169	117	1	1,354	994	667	584	152	17	16	81	148	481	317	1	0	0	1	84	120	10,903	5,592	51.29%	5,311	48.71%

(単位：人)

30歳代		30歳 代 合計	40歳代		40歳 代 合計	50歳代		50歳 代 合計	60歳代		60歳 代 合計	70歳代		70歳 代 合計	80歳代		80歳 代 合計	90歳以上		90歳 以上 合計	総計
男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		男性	女性		
6	3	9	10	6	16	5	9	14	17	25	42	24	28	52	10	16	26	2	3	5	351
6	69	75	55	223	278	153	202	355	422	298	720	573	308	881	213	161	374	7	16	23	2,751
0	1	1	1	2	3	2	2	4	4	6	10	7	11	18	6	4	10	1	0	1	89
8	9	17	24	15	39	30	18	48	38	29	67	32	24	56	12	20	32	0	4	4	316
0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	6
4	2	6	4	1	5	4	3	7	7	5	12	8	9	17	0	6	6	0	1	1	111
0	0	0	2	1	3	4	1	5	17	33	50	43	72	115	21	50	71	1	2	3	247
4	5	9	13	9	22	15	12	27	14	22	36	27	22	49	2	8	10	0	0	0	201
6	5	11	33	28	61	84	33	117	187	101	288	245	132	377	93	71	164	4	14	18	1,047
46	29	75	55	24	79	37	20	57	66	25	91	85	33	118	66	33	99	5	21	26	1,347
31	23	54	82	53	135	103	71	174	170	130	300	280	176	456	112	91	203	6	13	19	1,431
3	1	4	9	1	10	3	6	9	4	1	5	6	5	11	7	4	11	0	1	1	88
5	2	7	5	3	8	7	9	16	17	30	47	45	57	102	17	25	42	1	5	6	310
7	35	42	15	76	91	18	49	67	52	40	92	68	48	116	43	33	76	5	3	8	562
0	516	516	0	50	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	871
0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141
0	1	1	2	0	2	2	1	3	1	1	2	0	1	1	2	0	2	1	0	1	34
1	2	3	4	0	4	4	2	6	4	4	8	10	6	16	4	2	6	0	0	0	103
28	8	36	44	19	63	32	12	44	39	24	63	51	50	101	22	40	62	0	7	7	889
0	1	1	0	1	1	1	0	1	2	1	3	0	1	1	0	0	0	1	0	1	8
155	716	871	358	512	870	504	451	955	1,061	775	1,836	1,504	984	2,488	630	564	1,194	34	90	124	10,903

◆悪性新生物患者数（部位別/男女別）

（単位：人）

中分類	中分類部位	男 性		女 性		合 計		総計
		退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	
口唇、口腔および咽頭	C02 舌のその他および部位不明	4	0	7	0	11	0	11
	C03 歯肉	1	2	10	1	11	3	14
	C04 口（腔）底	0	0	1	0	1	0	1
	C05 口蓋の悪性新生物	1	0	0	0	1	0	1
合 計		6	2	18	1	24	3	27
消化管	C15 食道	37	7	11	3	48	10	58
	C16 胃	164	26	89	11	253	37	290
	C17 小腸	2	0	1	0	3	0	3
	C18 結腸	90	7	106	20	196	27	223
	C19 直腸S状結腸移行部	0	1	0	0	0	1	1
	C20 直腸	53	6	35	3	88	9	97
	C21 肛門および肛門管の悪性新生物	1	0	0	0	1	0	1
	C22 肝および肝内胆管	139	17	39	5	178	22	200
	C23 胆のう＜囊＞	6	1	6	0	12	1	13
	C24 その他および部位不明の胆道	16	3	5	3	21	6	27
合 計		48	5	24	6	72	11	83
呼吸器および胸腔内臓器	C32 喉頭	2	0	1	0	3	0	3
	C34 気管支および肺	98	21	63	7	161	28	189
	C38 心臓、縦隔および胸膜の悪性新生物	1	0	0	0	1	0	1
	合 計	101	21	64	7	165	28	193
皮膚	C43 皮膚	0	0	0	1	0	1	1
	C44 皮膚のその他の悪性新生物	6	1	0	0	6	1	7
合 計		6	1	0	1	6	2	8
中皮および軟部組織	C45 中皮腫	2	1	0	0	2	1	3
	C48 後腹膜および腹膜	0	0	7	0	7	0	7
合計		2	1	7	0	9	1	10
乳房	C50 乳房	5	0	225	13	230	13	243
合 計		5	0	225	13	230	13	243
女性生殖器	C53 子宮頸（部）	0	0	18	3	18	3	21
	C54 子宮体部	0	0	66	0	66	0	66
	C56 卵巣	0	0	26	1	26	1	27
合 計		0	0	110	4	110	4	114
男性生殖器	C61 前立腺	173	10	0	0	173	10	183
	C62 精巣＜睾丸＞	3	0	0	0	3	0	3
合 計		176	10	0	0	176	10	186
尿路	C64 腎盂を除く腎	16	1	7	1	23	2	25
	C65 腎盂	15	0	1	1	16	1	17
	C66 尿管	19	2	0	1	19	3	22
	C67 膀胱	121	4	28	2	149	6	155
	C68 その他および部位不明の尿路	6	0	0	0	6	0	6
合 計		177	7	36	5	213	12	225
眼、脳および中枢神経系のその他の部位	C71 脳	1	0	3	1	4	1	5
合 計		1	0	3	1	4	1	5
甲状腺およびその他の内分泌腺	C73 甲状腺	3	0	4	0	7	0	7
合 計		3	0	4	0	7	0	7
部位不明確、続発部位および部位不明	C77 リンパ節の続発性および部位不明	9	0	4	0	13	0	13
	C78 呼吸器および消化器の続発性	36	0	31	3	67	3	70
	C79 その他の部位の続発性	12	0	21	1	33	1	34
	C80 部位の明示されない	3	1	9	1	12	2	14
合 計		60	1	65	5	125	6	131
リンパ組織、造血組織および関連組織	C81 ホジキン病	3	0	0	0	3	0	3
	C82 ろ胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫	7	0	7	2	14	2	16
	C83 びまん性非ホジキンリンパ腫	26	3	14	3	40	6	46
	C84 末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	7	1	1	1	8	2	10
	C85 非ホジキンリンパ腫のその他および部位不明の型	9	0	10	2	19	2	21
	C90 多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	1	0	6	3	7	3	10
	C91 リンパ性白血病	4	4	6	1	10	5	15
	C92 骨髄性白血病	8	4	7	2	15	6	21
合計		2	0	0	0	2	0	2
合計		67	12	51	14	118	26	144
上皮内新生物	D06 子宮頸（部）の上皮内癌	0	0	7	0	7	0	7
	D09 その他および部位不明の上皮内癌	2	0	0	0	2	0	2
合 計		2	0	7	0	9	0	9
総 計		1,162	128	906	102	2,068	230	2,298

◆大分類別/診療科別 国際疾病分類統計（死亡統計）

(単位：人)

章	分類	分類 コード	ICD-10	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		産婦人科		小児科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		麻酔科		歯科口腔外科		総計	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
I	感染症および 寄生虫症	A00-B99	A4	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	
			B1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
			B5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
II	新生物	C00-D48	C0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	
			C1	1	0	0	0	10	9	0	0	29	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	75
			C2	1	0	0	0	15	12	0	0	16	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
			C3	0	0	0	0	1	0	0	0	20	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
			C4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
			C5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
			C6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	4	0	0	0	0	0	22
			C7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
			C8	0	0	4	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			C9	0	0	8	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			D3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			D4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
III	血液および造血系の疾患 ならびに免疫機構の障害	D50-D89	D6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	E1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
IX	循環器系の疾患	I00-I99	I0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
			I1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
			I2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
			I4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
			I5	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
			I6	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	
			I7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	J1	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
			J4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
			J6	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
			J8	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
X I	消化器系の疾患	K00-K93	K5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
			K6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
			K7	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
			K8	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
X IV	腎尿路生殖系の疾患	N00-N99	N1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
			N3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
X VI	周産期に発生した病態	P00-P99	P9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
X VIII	症状、症候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	R00-R99	R6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
			R9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
X IX	損傷、中毒およびその他 の外因の影響	S00-T98	T1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
診療科別/男女別合計				6	7	17	14	37	31	13	8	70	39	0	13	1	4	0	5	1	0	1	1	17	7	1	0	2	1	296	
総計				13	31	68	21	109	13	5	5	1	2	24	1	3															

◆年齢別/診療科別 国際疾病分類統計（死亡統計）

(単位：人)

年代別	内科		血液内科		消化器内科		循環器内科		外科		乳腺外科		脳神経外科		産婦人科		小児科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		麻酔科		歯科口腔外科		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
6歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
20歳代	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
30歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
40歳代	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
50歳代	0	0	1	0	5	1	1	0	10	6	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	30
60歳代	1	0	6	1	8	8	1	0	19	9	0	6	0	2	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	66
70歳代	3	0	6	1	16	10	5	4	22	13	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	6	4	1	0	1	0	98
80歳代	2	4	4	11	7	8	5	1	16	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8	1	0	0	1	0	80
90歳以上	0	3	0	0	0	4	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
診療科別/男女別合計	6	7	17	14	37	31	13	8	70	39	0	13	1	4	0	5	1	0	1	1	17	7	1	0	2	1	296
総 計	13		31		68		21		109		13		5		5		1		2		24		1		3		

医療安全管理室の現況

1. スタッフ

室長 池本 慎一（兼診療局次長・泌尿器科部長）
医療安全管理者 山中 トモエ（兼看護部科長）

2. 活動内容

医療安全全体統括のため、医療安全管理室内の会議を定期的に行い、以下のとおり医療安全に関する活動に取り組んだ。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ①インシデント事例報告の収集・分析・評価 | ⑥医療事故のサポート |
| ②アクシデント報告の収集・分析・評価 | ⑦セーフティマネージャーの統括・指導 |
| ③医療事故防止対策の具体的内容の検討 | ⑧医療安全推進院内ラウンド |
| ④委員会決定事項の伝達 | ⑨患者サポート相談窓口の充実 |
| ⑤医療事故防止の教育・啓発 | ⑩教育活動への参加 |

3. 活動実績

1) インシデント/アクシデントの分析

インシデント/アクシデントについては、医療安全管理委員会（毎月第2月曜日開催）や医療安全推進部会（毎月第4月曜日開催）を通じ情報の提供・改善内容の周知を図っている。

- ①月報（インシデント・アクシデントの集計や傾向） ②研修会の内容報告
③インシデント事例から

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| ・転倒・転落に対する対策 | ・口頭指示受け時の対応対策 | ・患者誤認に対する対策 |
| ・針刺し事故防止対策 | ・誤薬防止対策 | |

2) 医療安全推進部会による院内ラウンドとラウンド後のカンファレンス実施

6月～2月（第4月曜日／月）医療安全に必要な項目（注射点滴手順チェック、環境、物品・薬剤、器械・器材、基準遵守状況）を院内ラウンドによりチェックし改善対応策を検討するとともに、改善方針の院内周知を図った。

3) 部署別セーフティカンファレンスの実施（1回以上／月）

院内で発生したインシデントを分析し、発生部署においてセーフティカンファレンスを行い、改善を図るとともに再発防止に努めた。

4) 周術期血栓対策部会の活動

- ①周術期血栓対策部会（6回／年） ②C Vエコー下穿刺の安全技術講習会の実施

5) 教育・研修の実施

- ①研修医及び新規採用者・中途採用者（看護師）・ナースエイド、外来クラーク、看護実習生へのセーフティ研修

医療安全体制・医療事故発生時の対応手順・インシデント・アクシデントの報告制度の周知

②全職員を対象としたセーフティ研修（3回／年 補正研修各2回／年）

年間計画を策定し、様々な視点から、安全な医療への意識向上を目的に研修を実施した。

テーマ ・麻薬等の取り扱い

・医療事故調査制度

・「くすりのリスク」を考える

6) 医療事故防止対策標語の設定（12枚発行）

7) 院内医療安全情報の発行（6号発行）とインシデント発生によりトピックス情報を発信し注意喚起を図った。

8) 大阪府看護協会府東支部 医療安全管理者交流会への参加（4回/年）と研修会の実施

近畿大学医学部附属病院 安全管理部教授の辰巳陽一先生を講師に迎え、「チーム医療とコミュニケーション」をテーマに講演会を開催した。府東支部の医療施設より109名の参加あり、医療安全に対する意識の向上を図った。

看護部の現況

看護部の現況

看護部の理念

1. 患者・家族の価値観やニーズを尊重し、満足していただける心ある看護を提供します。
2. 高度な医療に伴った質の高い看護を提供します。
3. 健全な病院経営の一端を担います。

看護体制

平成 27 年度は常勤看護職員 309 名と非常勤看護職員 75 名の合計 384 名でスタートした。看護体制 7 対 1 を維持するために人員確保は、最も重要なところであるが、離職率が前年度の 5.2% から 7.3% と上昇した。離職の主な要因は結婚と配偶者の転勤によるものであるが、その他に子育てや親の介護が離職の要因となったものが 2 割を占めている。育児休暇の取得期間が一人平均、約 40 日も伸びたことと合わせて、短時間勤務制度や院内保育の積極的な活動など、今まで以上にワークライフバランスを念頭に入れた人員確保対策と定着化が必須である。育児と仕事が両立できる、働きやすい職場づくりを目指して、組織力の向上を図っていかなければならない。

また、平成 28 年度診療報酬改定により、急性期病院としての医療機能を維持するために、重症度、医療・看護必要度の精密な分析と 7 対 1 看護体制の堅持が重要となっている。また、時代の要請である地域包括ケアをどのような形でシステム化できるのかも課題である。

このように山積する課題の解消に向け、看護部は、病院の基本方針に沿った強固な看護体制の構築に向けた取り組みを一層推進していくものである。

平成 27 年度の看護部目標及び評価

平成 27 年度は下記に示した内容を看護部目標として取り組んだ。

- 1) 教育環境の更なる構築を図り、看護力の向上に努め看護実践に役立てます。
- 2) 業務改善及び看護体制の見直しを行い、安全と質の保障を強化します。
- 3) 病院経営を踏まえて、患者が必要とする看護を実践します。
- 4) 相手に対して尊厳を持ち丁寧な対応を実践し、品格のある看護部を確立します。

- 1) について、看護職員一人ひとりの自己啓発については、認定看護師を中心にブレストケアチームを結成し、研修に参加するスタッフも増え自己研鑽につながった。また、手術室においては教育システムの構築を図って、手術室看護の修得段階に応じた到達目標の設定や一貫性のあるチェックリストの作成ができた。次年度は教育システムを活用し、評価につなげていく。今年度の資格取得者は透析技術認定士 2 名、糖尿病療養指導士 3 名、アンダーマネジメントファシリテーター 1 名、医療対

話推進者1名、認知症ケア専門士1名、フットケア認定士2名、呼吸療法認定士3名、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士1名となった。また認定看護師の糖尿病看護師教育課程を1名が終了した。資格取得者には今後、看護力の向上を目的に看護職員の育成にも尽力することを期待する。

- 2) について、看護体制の見直しについて、看護師長及び看護係長の合同会議で1年間検討を重ね、8階東病棟以外の全病棟でPNS方式の看護体制に取り組んだ。PNS方式を導入することで、看護ケアや指示受けをペアで行ったり、一人では判断に迷う場面でも意見交換を行い知識の共有を図ったりと、安心して医療・看護の提供ができたと高評価を得られた。しかし、課題も多く次年度も継続的に問題点を抽出し、改善に取り組む必要があると考える。多様な勤務形態では、一病棟ではあるが、2交代勤務の試行に着手した。勤務時間は日本看護協会から推奨されている12時間夜勤勤務から試行開始したが、現場からの意見の確認、超過勤務時間の実態把握、そして勤務形態を変更するごとにアンケートを実施するなどした結果、4人体制で16時間夜勤の2交代制の満足度が一番高い評価を得ることができたので、次年度から本格実施決定の運びとなった。現在は一つの病棟だけが対象となっているが、今後他病棟においても普及していけるよう検討していきたい。TQM活動は今年度も継続しており、各部署での問題解決に計画的に取り組んで業務改善や質の改善につながる成果を上げた。特に、褥瘡の不安軽減への取り組みとして、保健センターと協働するなど地域も視野に入れての活動となった。
- 3) について、まずは、患者ケアを中心に効率的なベッドコントロールを目標とした。各病棟での退院後のベッドの清掃等の時間短縮の工夫や診療科の枠を超えた入院の受け入れを行った。また、必要に応じた転棟など、看護部全体が協力して受け入れ態勢を整えた。診療科の医師からの、担当患者は一つの病棟にとの希望に対し、専門的治療等は優先し、入院後に病棟師長との相談で調整することで解決に至った。入院の多い日は稼働率が100%を超える病棟もあった。小児科病棟においてはレスパイト入院にも臨機応変に対応し緊急回避的な措置としての大人の入院の受け入れなど、必要に応じて積極的に対応した。
- 4) について、相手に対する尊厳を持ち対応することについては、相手の立場で物事を考えることができる看護職員の育成と日頃から接遇の視点で考え行動することで、安心・安全な医療・看護の提供に繋げることを目標に取り組んだ。接遇に関しては、接遇委員会主導の下、接遇シートを用いて毎月、全部署で統一した目標を掲げ、目標達成に励んだ。各部署の接遇に対する意識は高く、患者や家族の方からお礼や感謝の言葉をいただくことも多くあった。自己評価による各部署の達成度は90%以上であった。しかし、病棟はオープンカウンター形式に設計されていることで、私語に関する注意を受けることもあった。声のトーンや私語に関しては今後も十分な配慮と注意が必要である。看護業務は他職種との関わりを多く持つことになる、業務をスムーズに遂行するためにも人間関係を良好に保ち、互いに接遇マナーの基本を意識して行動することが大切である。次年度も更に品格ある看護部を目指したい。

1. 看護部委員会活動状況

委員会名	目 的	計 画	活動内容
業務委員会	1. 安全性を踏まえた看護基準・手順の整備と充実を図り、看護の質向上と標準化を図る。 2. 看護体制を見直し、業務改善に取り組み、業務の効率化を図る。 3. 看護補助者と協働し効果的な看護サービスが提供できるように取り組む。	1. 看護基準・手順内容の見直しと充実を図る。 2. 2交代勤務、PNS看護方式が安全で効果的・効率的に実践できるように業務改善に取り組む。 3. 看護補助者業務の業務整理を行い、協働体制を整える。	1. エビデンスに基づいた実践的な看護手順になっているか見直すと共に物品名の統一や外来と病棟との共通項目を整理し、内容の統一を図った。新規に耳鼻科、整形外科、産婦人科、小児科の看護手順を作成した。今年度は、麻薬廃棄や紛失のインシデントが続けて発生した。麻薬に関する手順の見直しと共に、麻薬の与薬フローチャートを作成し、手順の流れを分かり易く表示することで、手順通り遵守できるよう取り組んだ。今後、インシデントの発生頻度の高い看護手順についてはムリ・ムダ・ムラがないか検証し、見直す必要がある。また新しい看護方式の導入による業務改善に伴い、各手順内容の検証、修正も必要である。 2. 今年度は、2交代制勤務に8東病棟が、PNS看護方式の導入に5東、7東病棟が他に先駆けて行われた。業務委員会として、日常業務の整理、各役割についてのスタッフへの周知と問題点の見直しを行った。導入に関しては、病棟間で取り組み内容や方法など統一出来ていないこともあり課題も多い。次年度は、PNS看護方式について、リーダー、メンバー、補完業務の役割や内容を統一し、院内の基準・手順としてまとめていく必要がある。また、リーダー会、チーム会、カンファレンス等の定期的な開催が出来ていない状況がある。新たな看護方式導入の中で業務改善し実施して行けるよう業務委員が中心となり働きかけていきたい。 3. 看護補助者の定着率が低く、人員確保が困難なこともあり、雇用形態が見直され、短時間勤務の看護補助者が採用された。補助者業務の見直しが必要となったため、看護補助者の意見を取り入れ、平日と休日業務内容の見直しを行った。看護補助者マニュアルの休日業務を見直すと共にチェックリストを作成したことで、短時間勤務の看護補助者も休日業務を滞りなく出来ている。しかし、看護師の業務量が多いため、必要以上に業務を依頼してしまう傾向となっているため、看護補助者との協働業務については部署全体で統一できるよう検討する必要があり今後の課題である。今年度は、看護補助者のタイムスケジュールを取り、データ化したことで業務改善の指標とすることが出来た。
教育委員会	1. 専門職業人としての知識・技術を実践に習得し、質の高い看護実践能力を開発する。 2. 患者様を尊重し、心のこもったケア、接遇ができる人格形成を行う。 3. 他職種とのお互いの専門性を理解し合い、チームの一員としての役割行動ができる社会人の育成を行う。 4. 主体的に学習し、研究態度をもち、自己研鑽ができる。	1. 新人看護職員研修の充実を図る。 2. 看護に必要な最新の知識を習得し、看護実践に結びつく研修を計画する。 3. 認定看護師の育成・支援活動。	1. 新人看護職員研修ガイドラインに基づき、教育委員会新人看護職員研修担当チームを中心に育成支援に取り組んだ。オリエンテーション期間を除いた集合研修では年間14回実施している。ローテーション研修では自分のキャリア像を見出す新人看護師もおりリフレッシュできることも含めて良い効果が得られた。 2. がん看護領域に関する研修計画をステップ別に設定し年間4回開催した。専門性が高く看護実践に役立つ内容であった。今後は更に専門性が高く現場でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指した内容を構築したいと考える。新しい取り組みとしては、ステップIV研修においてグループマネジメントを意識した研修を開催した。自部署における自己の役割を考え、振り返る良い機会となった。 3. 認定看護師それぞれに院内外問わず講師担当、研修企画、学会発表等活発に活動している。更に今年度は糖尿病看護認定看護師教育課程に一人進学し、新たな認定看護師誕生を期待しているところである。次年度もがん看護のエキスパート育成を中心に支援していきたいと考える。

委員会名	目 的	計 画	活動内容
接遇委員会	1. 接遇マナーの向上を図る。 2. 質の良い看護を提供する。	1. 接遇マナーの実践力を高める。 2. 八尾市立病院の看護師スタイルと接遇マナーを徹底する。 3. 接遇に関する啓蒙活動への取り組みを計画し、実践的な理解ができるようにする。	1. 接遇目標の設定 接遇マナーの向上に向けてスタッフ全員で取り組んだ。目標達成度は総合的に毎月 80%を越えた。 2. 接遇強化月間・接遇ラウンドの実施 院内全体で 10 月の 1 か月間を強化月間として取り組んだ。接遇ラウンドは、6 月に看護師スタイルの徹底を図るため、身だしなみのチェックを行った。10 月は身だしなみに加え接遇マナーに関するチェックを行い各部署の評価、指導を行なった。 3. 勉強会の開催・接遇だよりの発信 接遇マナーに関する題材で毎月勉強会を開催できた。院内全体でも外部講師による接遇研修が開催できた。2 か月に 1 回、接遇だよりを新しく更新して、発信し接遇マナー向上への意識付けを行った。接遇に関する問題点や意見を情報として検討し、結果を各部署の職員に周知し病院全体の問題点としてとらえ接遇に対する意識を高めた。
臨床指導者会	1. 看護部の看護に対する考えと技術を土台とし、対象の生活場面を通して疾病及び健康への援助を学習させると共に、社会に貢献しうる看護師を育成する。 2. 看護の実践を通して、広い視野での物の見方や判断力、思いやる心の大切さを身に付けさせ、気付けさせる。 3. 魅力ある病院での実習をアピールする。	1. 有意義に実習ができる環境を整える。 2. 総合オリエンテーションを各スタッフが円滑に運営できる。 3. 指導システムの構築と、委員会内容の見直しを行う。 4. 学生が目標とする看護師として指導できるよう各部署の指導者を育成する。 5. 就職説明会への参加	1. 学生の休憩所や記録の場所の提供は行えたが、学校が重なるときに采配できる担当者が無く、全ての学校の対応を委員長が行なっている。そのため、業務優先で待ち時間が生じることがあり、ご迷惑をかける事があった。今後は、緊急体制に向けて対応できるよう副委員長の教育や、看護部への報告を密に行い、お待たせする事の無いよう改善する。 2. オリエンテーションの担当者を事前に、調整し実施出来た。委員会評価としても 84.6%が学校の要綱に沿って行うことが出来たと評価している。 3. 79.5%のスタッフが、業務中の会議の時間短縮が図れたと答え、勉強会の時間も充実していると思っている。しかし、学校の事前打ち合わせの短縮が今後問題にならないか危惧しているスタッフも半数を上回り、今後も検討事項として取り上げていきたい。教員の要望に応え朝の計画発表を行わせるという試みは、全病棟で取り組み統一化が出来た。 4. 定期的な勉強会の実施により、指導者としてのスキルアップや知識の習得が出来た。オリエンテーションを行わないスタッフで、勉強会の内容を提供することによって、委員会への参加に意欲的になり、活気が出た。その成果として、2 か月に 1 回の勉強会の開催と新しい情報の共有が図れた。病棟スタッフへの勉強会の開催や、自分だけでなく病棟全体の底上げにつながった。 5. 昨年に比べ、説明会に参加する学生は増えてきた。しかし広報が充実しておらず（配布できるパンフレットも無い）、学生からホームページの更新が無い事の指摘を受けることもあった。このことは次年度以降の課題である。
研究推進委員会	1. 看護研究に対する知識・理論を深め、研究の向上に努める。	1. 看護研究・卒後 2 年研究の企画・運営を行う。 職務満足度調査の実施 2. 院外研究発表への充実を図る。	1. 院内研究発表 ・平成 27 年 12 月 4 日（対象者卒後 2 年）7 題発表 職務満足度調査発表 76 名参加 ・平成 28 年 3 月 18 日 6 題発表（東病棟・手術室・NICU） 95 名参加 ・研究計画書の充実と見直しを行い、倫理委員会と連携をとりながら、計画書の審査がスムーズに実施できるよう取り組んだ。 2. 院外研究発表 下記 11 例の院外発表を行った。 ・第 24 回日本創傷・オストミー失禁管理学会 （平成 27 年 5 月 30・31 日） 「新規おむつの採用による院内統一おむつ排泄管理」 ・第 60 回透析医学会学術集会（平成 27 年 6 月 26～28 日） 「看護教育体制について検討」 ・第 17 回関西がんチーム医療研究会（平成 27 年 8 月 29 日） 「当院での化学療法におけるアビランスクエア（外見ケア）の取り組みに向けて一患者の自分らしさを支えていくために」 「八尾市立病院がん相談支援センターの取り組み」 ・平成 27 年固定チームナースング全国集会研究集会 （平氏江 27 年年 10 月 3 日） 「チームで関わる院内統一の失禁管理を試みて」

委員会名	目 的	計 画	活動内容
研究推進委員会 (続き)		3. 新人看護職員に対し、研究計画書作成・文献検索など、研究に関する研修を実施する。	・第54回全国自治体病院学会（平成27年10月8～9日） 「化学療法を受ける患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査」 ・第3回大阪府看護学会（平成27年12月5日） 「新生児の採血に対する疼痛ケアの効果ー日本語版P I P Pを用いてー」 「妊娠初期の体重管理が周産期に及ぼす影響と保健指導の必要性」 ・大阪府看護協会府東支部看護研究発表 （平成28年2月23日） 「服薬管理アセスメントシート導入に向けて」 「集中治療室における抑制フローチャートの実用化への取り組み」 ・第9回日本医療マネジメント学会 大阪支部学会 （平成28年2月17日） 「エボラ出血熱発生時の保健所と病院の合同訓練を実施しての一考察」 3. 新人研修（平成27年6月17日） 学研ナースニングサポートを活用し、「研究テーマの絞り込み」「研究計画書を作成する」などについて研修をおこなった。事前に視聴してから参加して頂いたため、理解しやすかったのではないかとと思われる。また、実際に図書室での文献検索を行ってもらった。以上の内容で研修を実施し、9名の新人看護師が研修参加した。
倫理委員会	1. 看護実践において擁護・責任・責務に則した看護ができる事で、看護倫理の向上を図る。 2. 看護研究における倫理面の向上を図る。	1. 看護研究における倫理的な配慮について審議する。 2. 看護倫理に関する研修に外部講師を招いて開催する。（年2回） 3. 看護倫理に関する勉強会、事例検討を委員会内で開催する。 4. 看護倫理に関する院内研修を開催する。（年2回） 5. 倫理面に考慮したカンファレンスが行なえるよう整備する。	1. 看護研究における倫理的配慮の審議については、看護研究委員から倫理委員まで一連の流れで取り組めるよう、提出用紙や記述方法を統一し、チェックリストを作成したものを使用する事で研究推進委員会と共同して研究における倫理への取り組みができた。 2. 平成27年度は園田学園女子大学の大西香代子先生を招いて、看護倫理についての講義と看護研究における倫理的配慮について具体例に沿って2回講義を開催した。参加人数は1回目45名2回目34名であり、出席者の評価は大変好評であり、次年度も実際の研究に関する倫理的配慮について学んでいきたいとの事であった。現在、看護研究に関する計画書から倫理の審議にいたるまで、看護研究委員会、倫理委員会ともにそれぞれが委員会内で審議している状況であるが、誰もが手さぐり状態であるために、指導内容が統一されておらず混乱を招いている現状がある。それらを踏まえて、次年度は看護研究推進委員会と協力して看護研究の計画書作成の段階から外部講師に指導して頂ける機会を設け、看護研究から倫理について職員全体の知識の向上を図りたい。 3. 委員会内では、毎月、勉強会を開催し、内容については倫理問題について事例を持ち帰り、詰所内で話し合いをした意見をもとに情報共有を行った。また、自部署での倫理的な問題があれば議題を出して話し合った。 4. 昨年度に引き続き、新人研修とキャリア研修を実施した。委員会内からメンバーを選出し、それぞれ研修での情報を伝達する事で倫理に関する伝達講習が出来たと評価する。 5. 倫理カンファレンスについては4分割法を用いて、カンファレンスの取り組みを推奨し、ラミネート版を作成したが、実際はうまく活用されていない部署が殆どであった。その原因として、4分割法の使用方が浸透されておらず使いづらいという意見や、継続出来ていないという事であった。このことから次年度からは倫理カンファレンスのあり方について再度検討し、倫理的な面でカンファレンスが有意義に行える他のツールを委員会で検討していく。

2. 認定看護師の活動状況

領域	目 的	計 画	活動内容
皮膚・排泄ケア認定看護	1. 皮膚・排泄ケアの創傷・オストミー・失禁の3部門において専門的知識の普及・技術を伝達し、院内看護師のアセスメント能力と技術の向上を図る。	1. 褥瘡 褥瘡対策チーム・褥瘡委員会スタッフと共に褥瘡予防対策と褥瘡発生時や持ち込み患者の悪化予防と創傷管理を行う。 また、地域に向けて褥瘡対策の情報発信し、予防管理を行っていく。 2. ストーマ造設患者への支援 術前外来・術直前・術後・退院後外来にて定期的に患者のフォローにあたり精神面・身体面・社会面への介入を実施する。 3. 失禁 おむつやカテーテルを使用する環境にある患者のケアや管理方法についての環境改善に努める。 4. その他コンサルテーション 1) リンパ浮腫指導 2) フットケア 3) 瘻孔ケア 4) スキントラブル時のケア 5) 創傷処置 ① 陰圧閉鎖処置管理 ② 緩和的自潰創部管理	1. 褥瘡 ・新人・中堅研修を3回/年間行い指導の徹底を実施。 ・褥瘡対策部会から院内研修2回/年実施。 ・褥瘡ハイリスク患者1,264人の加算を取り、発生予防、悪化予防に対しての管理を行った。 ・褥瘡のデータ管理を行った。 褥瘡持ち込み患者数 54人/年間 褥瘡院内発生患者数 17人/年間 褥瘡発生率：平均 0.14%、褥瘡有病率：平均 1.01% ・全病棟エアーマットのレンタル管理を継続し、不足している高機能体圧分散寝具の整備を行った。 ・ポジショニングクッションに関しても、不足しやすい夏季・冬期に増量し、予防管理の徹底を行った。 ・褥瘡対策チームスタッフのレベルアップや、各病棟スタッフに講習会の情報提供を行い各講習会や学会参加を推進した。 ・学会参加し自己研鑽を行った。 ・貴島中央 HP より褥瘡ケアについての講演会を実施した。 ・NST 認定士の褥瘡管理に関する講習実施した。 ・第9回大阪在宅褥瘡セミナーを当院で開催し、情報発信を行った。 ・日本褥瘡学会、近畿褥瘡地方会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、日本創傷オストミー失禁管理学会、関西ストーマケア研究会、関西ストーマ講習会などに参加した。 2. ストーマ ・術前から医師・外来Nsと連携し、患者の術前の問題や術式に関する不安を知り、早期に介入し精神面の支援を行った。 ・関西ストーマケア講習会の参加を勧め、スタッフのストーマに関する知識向上を図った。 ・術前、ストーマサイトマーキングを病棟スタッフ・医師と共に行い、病状の認識と今後のセルフケアが行いやすい環境調整を行った。関西ストーマケア講習会に参加し、ストーマサイトマーキングを行えるNs育成を行った。 ・術後、社会保障や身障診断・セルフケア自立に向けて装具の選択など病棟スタッフとMSWなどの協力体制のもと在宅への支援を行った。 ・退院後もストーマ外来で装具調整・スキントラブル時の指導を行い自立支援を継続しておこなっている。 ・看護協会でのストーマケア講習会講師として参加し、スタッフの実習指導に当たった。 ・医療機器店が開催する講習会で、スタッフ向けと、患者対象の講習会講師を行い情報提供と知識技術の足進を図った。 3. 失禁 ・術後の失禁相談 ・平成26年8月より院内オムツ使用開始（メンリック テーナ）し現在も、スタッフの失禁ケア技術の促進を図った。 ・CST（失禁サポートチーム）委員会より、継続したケア指導を実施している。新採用者にはその都度、選択や使用方法について病棟患者介入時ケア依頼があったときに説明指導を実施。管理状況の把握、おむつやパッド類の選択方法、問題時の指導を行った。 ・洗浄や清潔保持へのケアアドバイスを実施。 褥瘡予防にもつながる理解を深め、その他の失禁用具類の院内備品の使用開始と購入物品などの紹介を行った。また、購入方法についても、必要時に依頼があれば紹介できることを伝えた。 ・失禁外来：術後や疾患により失禁のある患者のケアや指導・相談にあたった。 ・依頼があれば、CIC指導を実施。 ・病院でのアンケート調査結果や患者の失禁時のスキントラブル時の対応に関する、日本創傷オストミー失禁学会でのオムツ管理について学会発表や固定チームナーシング研究会でのランチョンセミナーの講演を行った。 4. その他のコンサルテーション対応 1) リンパ浮腫指導・弾性着衣選択と社会保障説明（指示書準備） 2) フットケア ① 糖尿病患者やASO患者、褥瘡保有者に対するフットケア介入を実施した。 ② 市民対象に講習会を1回/年 実施 3) 瘻孔ケア ① 術後の難治性瘻孔ケアのスタッフ指導と実践介入を行う。 4) スキントラブル時のケア ① 皮膚欠損時や潰瘍発生時など、ケア介入を行うとともに病棟スタッフに必要な材料の提供と使用方法についての指導を実施。早期回復へ繋げた。

領域	目 的	計 画	活動内容
救急認定看護	1. 救急蘇生ガイドによる心肺蘇生法の普及を図る。 2. 救急医療現場において医師及び他の医療従事者と情報を共有し調整的役割を發揮する。 3. 救急医療の資質向上を図る。 4. 救急看護領域の発展に寄与する。	1. 院内で一次救命処置、二次救命処置研修を開催する。 2. 委員会活動を通じて救急医療の構築をする。 3. 院内ACLS研修を行う。 4. 院外活動に参加し救急看護の啓蒙活動を実践する。	1. 院内新採用者研修の中でBLS講習会として研修医、看護師、薬剤師、事務職員を対象にシミュレーション研修を実施した。中学生・高校生の体験学習でBLS講習を7回開催できた。対象に応じたBLS講習会を開催している。外来看護師に対し患者急変を想定したシミュレーション研修を3回開催した。臨床検査技師を対象にCPR研修を開催した。 2. 危機管理マニュアル部会に委員として参加し、救急医療の現状と問題点を共有し救急医療の構築に参加している。 ・防災訓練の企画運営に参画し防災マニュアルの検証を行った。 3. ACLS大阪の協力を得て、院内でACLS研修を開催し、医師6名看護師12名が参加した。 インストラクター参加も定着してきている。 4. 院外研修に参加した。 ・近畿救急看護学会 5. 大阪府看護協会府東支部の一次救命処置研修に講師として参加した。 再就業支援講習会の一次救命研修に講師として参加した。 6. 地域の薬剤師を対象にバイタルサインのアセスメント研修会を開催し講師を担当した。 7. 大阪マラソンにボランティア看護師として参加し救護所活動に参加した。
手術看護認定看護師	1. 手術看護の場において、科学的根拠に基づいて熟達した看護に提供する。 2. 自らの看護実践を他の看護師に説明し、行動を示すことにより実践モデルとなり、他の看護師の指導を行い、相談（コンサルテーション）を行う。 3. 患者を中心としたチーム医療の中で手術医療が円滑に提供できるように他職種との協働を図る。	1. 手術介助（外回り介助、器械出し介助）を通し、科学的根拠に基づいた手術看護を患者に提供する。 2. 手術介助（外回り介助、器械出し介助）を通し、自らの看護実践を他の看護師に説明し、行動を示すことにより実践モデルとなり、指導、相談（コンサルテーション）を行う。 3. 安全な手術医療、科学的根拠に基づいた質の高い看護を提供するために必要な業務改善を行う。 4. 院内外の学会、研修に参加し、手術看護の啓蒙活動を行う。	1. 手術介助（外回り介助、器械出し介助）を約50件／年行い、手術看護を提供した。 2. 新人看護職員ローテーション研修8名の指導に携わった。 手術室配属看護師2名の指導及び指導者へのコンサルテーションを行った。 3. 皮膚排泄褥瘡認定看護師と連携し、術中予防への取り組みを強化し、褥瘡予防のための物品の調整をした。 4. 院外研修・学会に参加した。 ・日本手術医学会 ・日本手術看護学会年次大会 5. 手術看護認定看護師会近畿地区の活動への参加 ・認定看護師会（6回／年） ・認定看護師主催セミナーでのファシリテーターを担った。
乳がん看護	1. 乳がん看護において専門知識向上と質の高いケアの提供を図る。 2. リンパ浮腫に関する専門的な知識の普及を行い、院内看護師のアセスメント能力の向上を図る。 3. 乳がん患者の治療選択や治療に伴うボディイメージの変容、心理的・社会的な問題に対して患者や家族へ必要とされる専門的な支援を行う。	1. 乳がん患者への看護実践を通して役割モデルとなる。 2. リンパ浮腫患者への看護実践を通して役割モデルとなるとともにリンパ浮腫に関する研修を行う。 3. 集学的治療及び治療に伴う副作用への専門的なケアとセルフケア支援、自己決定の支援、ボディイメージの変容に関する心理的・社会的問題に対する支援を行う。	1. 乳がんで入院している患者へラウンドを行い、医師、病棟や外来スタッフ、MSWや臨床心理士などとの情報交換を行い、問題点を共有し、連携した看護がはかれるように努めた。また、乳腺外科外来や乳房再建外来で診察に同席し、患者や家族へ治療選択支援を行った。 医師とともにクリティカルパスの見直しを行い、スタッフへの勉強会などを通して質の高い乳がん看護が提供できるよう支援した。 2. 手術にて腋窩リンパ節郭清を行った患者へリンパ浮腫に関する指導、外来でのフォローを行った。（リンパ浮腫指導管理料41件）また、院内研修（ステップアップ研修Ⅳ）で講義を行い、専門的な知識の普及に努めた。 3. 医師と協力してがんカウンセリング料を算定し、がん患者指導管理料1は、39件であった。がん患者指導管理料2の算定が開始され、意思決定支援（術前の術式選択や術後補助療法など）など患者への支援を行った際に算定に結び付けることができるようになり、平成27年11月より算定を開始、今年度は23件であった。平成28年3月地域連携バスを開始し、がん治療連携計画策定料2件であった。 アピアランスケアの充実を目的に患者サポートセンターで患者へ説明できるような見本の充実をはかり、患者向けのアピアランスケアの会を開催した。

領域	目 的	計 画	活動内容
乳がん看護 (続き)			4. 第 23 回乳がん学会、第 3 回日本オンコプラスチックサージャリー学会総会、第 13 回臨床腫瘍学会へ参加した。 乳がん学会では「患者が乳房再建に求めるもの」をポスターセッションで発表した。 中河内地域連携 CN 研究会で「乳がんとリンパ浮腫」について講義を行った。 メディカ出版のプロフェッショナルがんナーシングで「術後皮膚癬痕、シリコン再建後の症状」の執筆を行った。
緩和ケア	1. 緩和医療の知識向上と質の高い緩和ケアの提供を図る。 2. チーム医療のメンバーとして、院内・院外での緩和ケアチームについて周知を図る。 3. 多職種と連携し、緩和ケアを必要とする患者・家族に対して緩和ケアを提供する。	1. 院内で緩和ケア研修会を開催する。 2. 緩和ケアチームによる病棟ラウンドを実施する。 3. 病棟ラウンドを実施する。 4. 苦痛緩和のためのスクリーニングを実施する	1. 緩和医療・緩和ケアの研修会を、医療スタッフに対して 4 回/年を行った。 1 回 5/20 Webセミナー 「タベンタドールが変えるがん疼痛治療」 2 回 6/20 Webセミナー 「よりよい疼痛緩和をめざしたスキルアップ Webセミナー」 3 回 10/6 Webセミナー 「がん治療医が実践すべき早期からの緩和ケア」 4 回 10/31～11/1 厚生労働省指定 緩和ケア研修会 2. 院内の看護師対象に緩和ケアの研修会を実施。 ・ステップアップⅢ（緩和ケア・リンパ浮腫） 3. 緩和ケアについて介入依頼を受け、担当主治医、各病棟看護師と連携し、患者の状態、状況に応じた緩和ケアの相談を実施。 ・平成27年度 介入件数 137件/年 ・ラウンド回数 432回/年 ・がん患者に対して、医師と共同しがん患者カウセリングを実施（41件/年） ・がん患者に対して、心理的カウンセリングを実施（160件/年） ・がん疼痛緩和地域連携バス実施（11件/年） 4. 緩和ケアチームのラウンド時に、介入患者以外に緩和ケアを必要としている患者・家族について情報収集に努め、緩和ケアの相談を実施。 （毎水曜日 認定看護師の病棟ラウンド） 5. 緩和ケアチームカンファレンスを 1 回/週実施。1 回/月の定期合同カンファレンス時に介入患者以外の情報を共有し、緩和ケアの必要性を把握し、ケアの向上に努めた。 6. 「生活のしやすさに関する質問票」を用いて外来（通院治療センター・放射線科）・病棟で聞きとり調査を行う。 苦痛のある患者に対応し、フォローする。
感染管理	1. スタンダードプリコーションの徹底及び感染防止技術の向上 2. サーベイランスを実践し、病院内での感染率の把握	1. 感染経路別に防護用具の着用品がきちんとできる。 また、リンクナースは着用の指導ができる。 2. カテーテル血流感染の実地	1. リンクナースの指導 リンクナースでの防護用具の着用の勉強会を施行し、各病棟で指導。特に接触感染における、ケア時のエプロンの着用品がきちんとできるように指導する。 また、手洗いにおけるチェックや手指消毒の徹底し、擦式アルコール量のチェックを施行する。今年度より、直接観察法を導入し、手指消毒剤の使用量を各部門ごとに評価する。 2. 勉強会にて、防護用具や感染予防の為の知識を深める。 3. 各病棟での CV 挿入患者を把握し、静脈血の血液培養の把握し、感染の有無を把握する。 （P I C C カテーテルと CV カテーテルの把握） 平成 27 年度は感染率をやや下げることが出来た。 ・各病棟をリンクナースにて、CV 挿入患者さんのラウンドを施行。 ・CV 挿入時のマキシマルバリアプリコーションの徹底の把握（各病棟での実地の確認） ・環境のチェック（水周りの環境の整備） 4. J A N I S への参加で、手術部位感染を登録。他施設との比較が平成 26 年度は、登録率が悪く比較できなかった。平成 27 年度は、登録率を上げることが出来たので、他施設との比較ができた。 S S I の高いところもあるが、今後、傾向を見ていく必要がある。

領域	目 的	計 画	活動内容
感染管理 (続き)	3. 中河内地域感染協議会の構築	3. 感染防止のための統一	5. 1 回/月の感染防止協議会の開催し、感染防止に関する手技の統一 ・流行性疾患時の状況確認及び対策 ・抗菌薬使用状況の把握 ・耐性菌の検出状況及びサーベイランスの参加 ・擦式アルコールの使用状況 ・各施設からのコンサルテーションを受ける
がん化学療法認定看護師 (病棟)	1. がん化学療法薬を投与する際、薬剤の投与量や投与方法を踏まえ、「安全・安楽・確実」に投与を行う。また、出現する副作用のリスクを予測し、症状に合った援助が行えるよう、適切なモニタリングを行う。 2. がん患者指導管理料算定に向けて説明・指導を行う。 3. アピアランスケア支援の取り組みを行い、がん患者のQOLの維持を図る。 4. 抗がん剤投与に携わるスタッフが抗がん剤の安全な取り扱い、曝露対策の必要性について、正しく統一した知識の伝達を行い、実践につなげていく。 5. がん化学療法看護に関する知識や技術の向上を図るために、自己研鑽を行っていく。	1. がん化学療法を受ける患者の看護カンファレンスを行い、各患者に投与されるレジメン内容において、薬剤の特徴や留意点について理解し、投与にあたる。そして、治療経過日数に応じて患者の状況アセスメント、看護実践の結果と評価について話し合い、看護実践が不足していた点、適切な看護が行えていた点を明確にする。 2. がん化学療法看護に関する新しい知識・技術を深め、患者・家族が意思決定をする場面において、認定看護師としてサポートを行う。 3. がん化学療法の副作用に伴う、外見的变化において患者の個別性を踏まえた支援を行う。 4. 抗がん剤投与に携わるスタッフが、抗がん剤の安全な取り扱いと曝露対策の必要性について正しい知識を習得できるように、実践モデルとして日々の業務にあたる。 5. がん化学療法看護に関する知識や技術の向上を図るため、がんに関する院内の勉強会に年3回以上は参加する。また、1年に2回以上はがんに関する学会や研修に参加する。	1. 患者に投与されるレジメン内容から、出現する副作用の予測とともに、患者の全体像をとらえ、個別性を踏まえた看護計画を立案した。そして、それぞれの副作用症状に対し、患者ができるだけ主体となって取り組めるよう、症状マネジメントについてチームで話し合い、看護実践を行った。 所属病棟で主に取り扱うレジメン（主に悪性リンパ腫、肺がん、乳がんの初回化学療法）毎に、投与管理の際に必要な観察点、投与中に起こる可能性のある急性の副作用症状に対する根拠等を記したパンフレットを所属病棟のスタッフと共に作成し実践した。パンフレット使用後の評価については、所属病棟スタッフにアンケート調査を実施し、現在分析中である。 造血器腫瘍の患者に関しては、病名告知から抗がん剤治療開始となるまで非常に短期間な経過であることから、患者の受ける衝撃や不安が他のがん腫に比べて非常に大きい。そのため、身体的のみならず精神面での支援においてストレスコーピング理論や危機理論を参考に看護実践に取り組んだ。 固形がんの患者においても、入院から外来治療に移行することを考慮し、自宅での生活習慣の把握に努め、予定の治療が完遂できるよう、患者の個別性を踏まえた看護実践を行った。 2. 主に肺がん患者に投与される経口抗がん剤の副作用マネジメントにおいて、看護外来で説明・指導を行った。また、医師や他部門との連携を図りながら、病名告知、治療内容及び選択等において患者・家族が意思決定をする場面でのインフォームド・コンセントに同席し、がん患者指導管理料の算定を行った。 3. 患者サポートケアセンターにアピアランスケアコーナーを設置し、主に1か月に2回がん患者の外見的变化への支援やサポートを行った。11月にはがん相談支援センターと連携し、「アピアランスケア～自分らしくキラキラ輝きませんか～」というタイトルで実演付き勉強会を行った。 4. 抗がん剤投与に携わるスタッフが、抗がん剤の曝露対策についてどのように認識して実践を行っているかについて情報を把握し、知識の統一を図れるよう、数回勉強会と実技を行った。抗がん剤の飛散状況について、薬剤部と連携を図り、抗がん剤点滴のミキシング及び病棟での受け取りから投与、投与後の廃棄までの流れにおいてサンプリングシート法を用い、抗がん剤の飛散状況の調査研究を行った。研究結果は、第53回癌治療学会学術集会で発表した。 5. 学会関連は、日本癌治療学会学術集会、日本がん看護学会学術集会に参加した。 研究会関連は、第15回関西がんチーム医療研究会で当院のアピアランスケア支援への取り組みについて発表した。 研修関連は、がん化学療法看護認定看護師フォローアップ研修、他、がん分野に関する研修やセミナーに参加し自己研鑽を行った。

領域	目 的	計 画	活動内容
がん化学療法認定看護師（外来）	1. 通院治療センターで化学療法を受ける患者の症状マネジメントの充実を図る。 2. 院内での化学療法を受ける患者の支援を行う。 3. がん化学療法における知識・技術の向上を図る	1. 外来で行う化学療法の症状マネジメントを行う。 2. . 医師との連携を密に行う。 3. 皮膚・排泄ケア認定看護師、乳がん看護認定看護師との連携を図り、患者支援を充実させる。 4. 新規薬剤の知識の習得、技術の向上を図る。	1. 患者情報を短時間で把握し統一・継続した症状マネジメントを行うための『患者シート』の改善を行った。『患者シート』を使用することで経時的に症状を把握し、有害事象に対する症状マネジメント及び個性性を考慮した支援を行うことが出来た。 2. オリエンテーション依頼システムを導入しオリエンテーションを行うことで、患者の情報共有、安心感の確保、業務の効率化を図った。オリエンテーション時に穿刺血管の情報収集を行いスタッフ間で共有することで、よりスムーズに血管穿刺を行うことが可能になった。 3. 有害事象テンプレートを使用することで、記録時間短縮が図れた。また、有害事象の評価内容を統一することで、スタッフ間での共通認識ができ、次回治療時のセルフケア支援に役立てることができた。 4. 医師から得た情報を基に化学療法を受ける患者の症状マネジメントを継続的に実施した。 5. 新規薬剤の学習会を通院治療センターで行い、スタッフ間での情報提供・共有、技術の習得、指導を行った。 6. 教育委員会を通じ、2年目ステップⅡ「化学療法を受ける患者の看護 化学療法の概要」の研修を行った。 7. 企業主催の研修を乳がん・大腸がん・肺がん・GCSFについて4回行った。 8. 認定看護師フォローアップ研修、「最新の免疫療法」「アピアランスケア」に参加しスタッフへの情報提供を行った。
NST専従看護師	1. 栄養治療の必要な患者に対して早期介入と介入患者数増加の働きかけが出来る。 2. 病院スタッフへの教育・啓蒙活動の充実と継続 3. NST活動の見直しと実践を図り、安全で効果的な介入が出来る	1. 介入患者の情報収集及びアセスメントと治療計画立案、援助 2. NSTに関わるスタッフへの指導と援助	1. 介入患者の情報収集及びアセスメント、治療計画・実施報告書を作成。（年間症例数 118 例、栄養実施計画書兼報告書 276 件） 2. 回診が効率的に実施できるよう回診準備としてショートサマリーを作成し、スクリーニングアセスメント、専任者の時間調整を行った。 3. 回診以外の必要時に適宜、メディカルスタッフとカンファレンスを行い、投与方法・内容を検討した。 4. 摂食嚥下障害のある介入患者に対し、嚥下評価検査の立ち合いやスクリーニングテストの実施と指導、口腔ケア発声訓練などの間接訓練の実施、食事状況に合わせた食事形態・内容の変更について提案、摂食量増加を図った。 5. 栄養治療実施計画書兼報告書を作成し、介入患者または家族へ提示し説明した。 6. 回診後の記録とメディカルスタッフへの提言内容を記載又は伝達し、改善策を提案した。 7. 褥瘡部会へ参加し、各介入患者の栄養管理について提案・カンファレンスを行った。 8. 年間計画を立案し、NST委員会を対象に勉強会を8回開催。院内スタッフを対象に専任・専従者による講習を開催した。 9. 介入患者や入院患者との関わりを通し、NST 介入や栄養管理、摂食嚥下スクリーニングテストの実施方法をリンクナース、病棟ナースへ指導した。 10. 入院中の低栄養患者のリストを基にリンクナースや専任者へ情報提供を行った。 11. リンクナースと討議し、栄養スクリーニングの方法・内容の改善策を検討した。 12. 栄養補助食品の内容について専任者・リンクナースと検討して補助食品の変更を行った。

3. 院外活動状況

項目	内容	関係看護職員
OGCS (10)	周産期医療のシステム化のための研究員	助産師：杉山由美 1 名派遣 (10 回/年開催)
両親教室 (ママパパ学級)	お産の経過と呼吸法・妊婦体操	助産師 1 名派遣 (14 名、12 回/年)
救護	第 64 回八尾市少年軟式野球大会	看護師 9 名派遣
	第 54 回八尾市こども会親善ソフトボール大会	看護師 6 名派遣
	第 5 回大阪マラソン	山本佳代、生藤由紀子、猪之鼻理絵、高井美保
講師派遣	6/22 『皮膚トラブル』 介護老人保健施設 アーバンケア	横山敬子
	7/18 『リンパ浮腫のセルフケア』 中河内 C N 研究会	本多紀子
	8/17 『褥瘡治療と予防』 貴島病院本院	横山敬子
	8/20 『終末期ケア』 老人ホームさとやま	本多紀子
	9/9～12 『ストーマ・瘻孔のスキンケア』 大阪府看護協会	横山敬子
	10/3 『病院の排泄ケア改善』 平成 27 年度固定チームナース全国研究集会ランチョンセミナー	横山敬子
	10/17 『第 1 回河内 QOL 相談会』 大国ヘルスケアサービス	横山敬子
	10/27 『BLS 研修』 大看協 府東支部	松川麻由美
	10/31 『看護師セミナー』 大国ヘルスケアサービス	横山敬子
	12/5 『ストーマ装具の選択と実際』 アルケア (株)	横山敬子
	12/22 『新人看護職員研修責任者フォローアップ研修』 大阪府看護協会	佐藤美代子
	1/24 『第 9 回大阪在宅褥瘡医療セミナー』 日本褥瘡学会	横山敬子
	3/11 『先輩と語る会 先輩の語りから自己のキャリアを考える』 園田学園女子大学	田中夏姫
	3/25 『抗がん剤の安全な取り扱い』 大阪府病院薬剤師会	島田敏江
	8/24 『進路支援ガイダンス』 講師関西看護医療大学	前田智恵美
その他	大阪府看護協会 選挙管理委員会委員	森佳代子
	大阪糖尿病協会顧問看護師委員会委員	平山美貴
	大阪がん化学療法看護認定看護師研究会「皮下埋め込み式ポート」のパンフレット改定メンバー	島田敏江
	大阪府看護協会 学会委員会委員	佐藤美代子

4. 体験学習受け入れ

- | | |
|----------|------|
| 1) 高等学校生 | 5 名 |
| 2) 中学校生 | 31 名 |
| 3) 小学生 | 12 名 |

事務局の現況

事務局企画運営課の現況

1. スタッフ

事務局長 植野 茂明
次 長 山内 雅之（兼企業出納員）
課 長 朴井 晃
参 事 井上 真一（平成 28. 3. 31 異動）、小枝 伸行
課長補佐 水野 佳胤（平成 27. 7. 13 異動）、宮田 克爾、吉田 正雄（嘱託員）
係 長 植村 佳子、高草 恒平、小山 修司、中田 亮太
職 員 12 名

2. 業務内容

事務局企画運営課は 3 つの係で病院事務業務を行っている。各係の業務内容は以下のとおり。

1) 企画運営係

病院事業の企画運営および事業計画に関する業務、P F I 事業に関する業務、医療法その他関係法令に基づく諸手続きに関する業務、医療事故および医事紛争ならびに医事業務の総括に関する業務、医療情報開示に関する業務、総合医療情報システムの総括に関する業務、施設の管理の総括に関する業務、公印の管理および文書事務に関する業務、調査・統計に関する業務、その他病院の庶務に関する業務

2) 経理係

病院事業の経営分析及び財政計画に関する業務、予算・決算および出納検査等企業会計に関する業務、資金計画に関する業務、資産及び物品等の会計事務の検査および指導連絡に関する業務、収入および支出の審査に関する業務、現金出納その他会計事務に係る企業出納員所管事務の補助に関する業務、その他病院の経理に関する業務

3) 人事係

職員の人事および給与に関する業務、職員の服務・研修および福利厚生に関する業務、労働組合との連絡に関する業務、臨床研修に関する業務

3. 主な事務事業

平成 27 年度の主な事業として以下のことを行った。

- ・八尾市立病院経営計画（Ver. II）に基づく経営健全の取り組み
- ・病院・診療所・薬局連携ネットワークシステムの運用と拡大
- ・国の地域がん診療連携拠点病院としてのがん診療体制の充実
- ・衛星電話訓練（9 月）・トリアージ訓練（9 月）・緊急メール配信訓練（9 月）・参集シミュレーション訓練（9 月、3 月）
- ・P F I 事業のモニタリング
- ・病院 P F I 連絡協議会への参加による病院 P F I に関する情報交換

- ・八尾市立病院P F I 事業検証業務
- ・診療報酬改定への対応のための要件整備
- ・近畿厚生局による施設基準等に係る適時調査への対応
- ・院内クリニカルパス承認のための整備
- ・研修医対象の合同説明会への参加
- ・中河内地域感染防止対策協議会の運営
- ・八尾地域医療合同研究会の運営サポート
- ・八尾保健所地域職域連携推進連絡会議糖尿病重症化予防の取り組みにおける検討会への対応
- ・中河内保健医療協議会への対応
- ・中河内がん診療ネットワーク協議会への参加
- ・中河内脳卒中等地域連携クリティカルパス連絡会への参加
- ・日本病院会Q I （クオリティインジケーター）事業への参加
- ・全国自治体病院協議会医療の質事業への参加
- ・市立病院出前講座の開催

4. 会議

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| ・大阪府公立病院協議会理事・理事病院事務（局）長合同会議 | ・全国病院事業管理者・事務責任者会議 |
| ・大阪府公立病院協議会事務（局）長会議 | ・八尾市病院事務長会 |
| ・大阪府公立病院協議会理事会および定期総会 | ・大阪府がん診療連携協議会 |
| ・大阪府自治体病院開設者協議会定期総会 | ・緩和ケア部会 |
| ・全国自治体病院開設者協議会定時総会 | ・がん登録・情報提供部会 |
| | ・中河内（医療圏）がん診療ネットワーク協議会 |
| ・全国公立病院連盟近畿・中国・四国支部総会 | ・電子カルテユーザー会 |
| ・全国公立病院連盟総会・事務長会・看護部長会合同会議 | ・日本病院会Q I プロジェクト |
| ・全国自治体病院協議会定時総会 | ・医療情報システム研究会 |
| ・全国自治体病院協議会近畿・東海地方会議 | ・八尾地域薬薬連携協議会 |
| ・全国自治体病院協議会事務長部会 | |

5. 研修

- | | |
|-----------------------|------------------|
| ・全国自治体病院協議会事務長部会研修会 | ・医療施設整備・機能強化セミナー |
| ・全国自治体病院協議会院長・幹部職員研修会 | ・医療情報学連合大会 |
| ・全国自治体病院協議会事務長養成研修会 | ・管理職研修 |
| ・三府県公立病院事務（局）長合同研修会 | ・中堅職員研修 |
| ・大阪府公立病院協議会研修会 | ・新規採用職員研修 |
| ・大阪府病院協会研修会 | |

6. 機能拡充に向けた施設整備について

平成 16 年 5 月の新病院開院により、施設・設備面の整備が旧病院と比較して大幅に向上したが、これらの機能を十分活かしきれない厳しい経営状況が続いていた。しかし、八尾市立病院改革プランの取り組みにより、医療体制の充実や医療の質の向上を果たし、病院経営は好転を見せてきた反面、様々な部門で施設が手狭となり、機能拡充が必要な状況になってきたため、市立病院の機能拡充に向けた施設整備構想をまとめ、その整備を進めていくこととした。

1) 整備のスケジュールについて

平成 24 年 9 月	八尾市立病院機能拡充に向けた施設整備構想の公表
平成 25 年 3 月	市立病院機能拡充に向けた施設整備計画の策定
平成 25 年 11 月	駐輪場解体工事着工（平成 26 年 1 月完了） 久宝寺遺跡文化財発掘調査開始（平成 26 年 3 月完了）
平成 26 年 5 月	機能拡充工事着工
平成 27 年 3 月	北館竣工
平成 27 年 9 月	機能拡充工事竣工

2) 施設整備の内容

①診療機能の向上

i がん診療の向上に向けた整備

がん治療の大きな柱である手術・化学療法の拡充に資する整備

- ・外来化学療法室を拡充（9 床から 16 床へ）
- ・外来手術室を全身麻酔対応手術室へ

ii 救急対応力向上に向けた整備

重症救急患者への対応力の向上に必要な病床の確保を目的とする整備

- ・集中治療室（I C U）の 1 床増床（5 床から 6 床へ）

②医師・看護師確保などによる診療体制の充実

i 院内保育の拡充

医師に限定している院内保育についてその他の職員の保育ニーズに対応するよう整備

- ・新設した北館への移転に伴い院内保育室の定員拡充（5 名から 20 名へ）

ii 医局等の拡充

- ・市災害医療センターとして防災備蓄倉庫の整備
- ・医師確保に伴い不足する医局等の整備
- ・通院治療センター跡利用による外来機能（患者サポート・ケアセンター）の整備など

【施設整備に伴う主な変更箇所】

整備前	整備後
本館地下駐車場（一部）	更衣室
本館 1 階更衣室・防災備蓄倉庫・厚生室等	会議室・当直室 執務室（医師事務作業補助者室）
本館 2 階通院治療センター	患者サポート・ケアセンター
本館 3 階集中治療室 5 床	集中治療室に 1 床増床し 6 床とする
本館 3 階外来手術室	全身麻酔対応手術室へ
本館 3 階会議室・当直室	医局・執務室（医療安全管理室） 等
本館 3 階看護師仮眠室等	手術・I C U スタッフエリア
本館 4 階大会議室	外来化学療法室 16 床（7 床増床）
本館 4 階院内図書室	医局
北側駐輪場	別棟 1 階 院内保育室（定員 5 名から 20 名へ） 2 階 院内図書室・防災備蓄倉庫 等 3 階 防災備蓄倉庫 等 4 階 レセ室・会議室 等 5 階 大会議室

3) 施設整備に係る入札の実施状況

	公告	入札	落札者	契約額(税込み)
駐輪場解体工事	H25. 10. 9	H25. 10. 28	㈱北川建設	15, 928, 500
本体工事	① H25. 5. 16	H25. 6. 11	—	—
	② H25. 6. 25	H25. 7. 19	—	—
	③ H25. 11. 6	H25. 12. 2	—	—
	④ H25. 12. 18	H26. 1. 22	—	—
	⑤ H26. 4. 2	H26. 4. 28	中川企画建設㈱ 宮本電気工業㈱ 日設・松村共同企業体	491, 032, 800 132, 062, 400 148, 759, 200

※本体工事の①から④回目の入札について、いずれも「建築工事」の応札者が規定に満たなかったことにより中止となり、それに伴って、本体工事の「機械設備工事」及び「電気設備工事」もあわせて中止となった。

4) 施設整備に係る費用について

(税込み、単位：円)

内容	施工者	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	合計
駐輪場解体工事	(株)北川建設		17,887,800			17,887,800
機能拡充工事 (建築工事)	中川企画建設(株)			433,500,000	109,740,000	543,240,000
機能拡充工事 (電気設備工事)	宮本電気工業(株)			120,620,000	28,204,000	148,824,000
機能拡充工事 (機械設備工事)	日設・松村共同 企業体				172,368,000	172,368,000
施設整備に係る 実施設計業務	八尾医療 P F I (株)	17,776,500				17,776,500
機能拡充に伴う 工事監理業務	八尾医療 P F I (株)		1,556,625	14,796,000	8,272,800	24,625,425
久宝寺遺跡 文化財発掘調査	(公財)八尾市文化 財調査研究会		2,864,400			2,864,400
太陽光発電設備 の設置検討業務	八尾医療 P F I (株)			701,136		701,136
合 計		17,776,500	22,308,825	569,617,136	318,584,800	928,287,261

※金額は最終契約金額

P F I 事業の現況

八尾医療PFI株式会社（SPC）の現況

1. スタッフ

代表取締役（非常勤）	辻本 裕昭※1	代表取締役	門井 洋二※2
ゼネラルマネージャー	門井 洋二	ゼネラルマネージャー補佐	橋本 将延
メディカルサポートマネージャー	山本 恵郎	メディカルサポートマネージャー	廣瀬 淳
ファシリティマネージャー	永江 哲郎	財務マネージャー	木元 陽子
ITマネージャー	坂本 清蔵※3	ITマネージャー	竹内 良平
常勤監査役	古東 文夫	他職員3名	
※1	平成27年4月27日退職	※2	平成27年4月27日就任
※3	平成27年9月30日退職		

2. 事業内容

八尾市立病院の維持管理・運営事業をPFI方式で運営している。事業内容は以下のとおり。

- 1) 病院施設等の一部整備業務、専らSPC業務の用途となる設備などの整備業務
病院施設・設備の一部整備に対する改善提案業務
- 2) 建設・設備維持管理（ファシリティ・マネジメント）業務
設備管理、外構施設保守管理、警備、環境衛生管理、植栽管理
- 3) 病院運営業務（医療法に基づく政令8業務）
検体検査、滅菌消毒、食事の提供、医療機器の保守点検、医療ガスの供給設備の保守点検、洗濯、清掃
- 4) その他病院運営業務
医療事務、物品管理・物流管理（SPD）、医療機器類の整備・管理、医療機器類の更新、総合医療情報システムの運営・保守管理、利便施設運営管理（食堂、売店など）、一般管理（経営改善提案含む）、廃棄物処理関連、その他（危機管理、健診センター、電話交換、図書室運営、会議室管理、院内保育、旧カルテの保管、その他サービス）

3. 事業総括・実績

平成27年度は、「病院の一部署・一職員として機能する」「八尾市立病院経営計画の達成」「各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する」「プラスαの取り組み」を具体的な目標として取り組んだ。

- 1) 病院の一部署・一職員として機能する
毎月開催のSPC全体会議等を通じてPFI事業者全体に方針の浸透を図るとともに、病院運営会議内容の報告を通じ病院の一員として必要な情報の共有に努めた。また、PFI事業検証業務やPFI事業期間終了後の事業の在り方に関するヒアリングにも協力し、病院と一体となった事業運営の現状についても説明した。
- 2) 八尾市立病院経営計画（平成27年度からの3か年計画）の達成
市立病院の運営パートナーとして経営計画の達成はSPCの課題でもあり、PFI事業者が関与する項目について、積極的・自主的な取り組みを行った。主な取り組みは以下に記述する。

① 地域の医療機関との連携の強化

地域医療支援病院の紹介・逆紹介率の基準の維持を目的に、地域医療機関向けの情報誌の発行と訪問活動に積極的に取り組み、訪問件数は2,204件となった。その結果、紹介率52.9%、逆紹介率74.1%と目標を達成することができた。

② 地域住民、関係機関に対する情報発信

毎月患者向け広報誌を作成し院内配置するとともに、市政日より平成28年1月号と3月号に「市立病院だより」を掲載し病院機能・診療体制のアピールに努めた。八尾市立病院公開講座においては運営面でのサポート及び広報宣伝に努め、年5回の開催をサポートした。

③ 市災害医療センターの機能強化

9月実施の大規模災害発生時訓練をサポートした。また、2月実施の消防訓練（地震総合訓練）については企画・シナリオ作成し防火管理者をサポートした。

④ 患者満足度の向上

患者アンケートを12月に実施した。結果は接遇改善委員会に報告、改善策等を検討したうえで、院内掲示とホームページ掲載を行った。9月と3月には食事アンケートも実施した。

⑤ 施設整備・機能の充実

省エネルギー推進では月1回の省エネパトロールを実施するとともに、省エネ冊子の作成・院内配布等、積極的な取り組みを行った。

⑥ 診療単価向上・医業収益の確保

幹部会議及び運営会議で医事統計報告を行い、病院運営状況について医事統計指標の面からの現状把握と課題の共有化に努めた。DPC・コーディング委員会においてベンチマークデータ等を活用した増収提案等を積極的に行うとともに、診療報酬委員会では、査定対策として再審査請求可能なものを抽出し、再請求・医師による面談希望の調整などに努めた。

⑦ 診療材料の適正管理

診療材料費削減活動、共同購入の推進を通じ、診療材料費の適正管理に努めた。また、償還材料の請求漏れ防止を目的に払い出しデータと医事データとの突合を行った。

⑧ 医療機器の整備更新

新病院開院時に整備した大型医療機器が更新時期を迎え、平成27年度はアンギオ装置の更新と、定位放射線治療や強度変調放射線治療が可能な放射線治療装置への更新を行った。

3) 各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する

現場スタッフだけでは解決しない問題、見過ごしがちな課題の発見・改善と、年度計画の進捗確認を含め、協力企業による品質管理を重要視している。そのため、担当マネージャーと協力企業担当者、現場責任者で定例会を開催し、都度課題の確認・検討を行っている。

4) プラスαの取り組み

① PFI事業者によるイベント企画

6・10・3月にロビーコンサートを開催した。また、公募の市民ギャラリーは例年通り10月から新作に架け替えを行った。

② 病院イベントへの積極的な参画

TQM活動には医事課、栄養科、地域医療連携室、SPCがチームとして参加し、SPCGM・GM補佐は実行委員会メンバーとして参画した。

③ インセンティブの活用

5月に平成26年度業務を対象とした「第1回PFI事業ベストパートナーズアワード」が開催され、検体検査、医療事務、SPDの3業務を推薦し、病院長の表彰を受けた。

経 営 状 況

1. 収益費用明細書（税抜）

（1）収益の部

（単位：円）

款	項	目	節	金 額	備 考
病院事業収益				12,575,875,347	
	医 業 収 益			11,326,120,695	
		入 院 収 益		7,513,587,595	
			入 院 収 益	7,513,587,595	
		外 来 収 益		3,142,347,062	
			外 来 収 益	3,142,347,062	
		そ の 他 医 業 収 益		670,186,038	
			室 料 差 額 収 益	166,808,120	
			公衆衛生活動収益	13,519,719	
			医 療 相 談 収 益	120,782,524	
			一 般 会 計 負 担 金	334,217,000	
			そ の 他 医 業 収 益	34,858,675	
	医 業 外 収 益			1,242,953,976	
		受取利息及び配当金		14,882,886	
			預 金 利 息	14,882,886	
		他 会 計 補 助 金		107,965,000	
			一 般 会 計 補 助 金	107,965,000	
		他 会 計 負 担 金		532,303,000	
			一 般 会 計 負 担 金	532,303,000	
		補 助 金		31,281,000	
			国 庫 補 助 金	4,821,000	
			府 補 助 金	26,460,000	
		長期前受金戻入		486,895,484	
			長期前受金戻入	486,895,484	
		その他医業外収益		69,626,606	
			不用品売却収益	124,581	
			その他医業外収益	69,502,025	
	特 別 利 益			6,800,676	
		過年度損益修正益		6,800,676	
			過年度損益修正益	6,800,676	

(2) 費用の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考
病院事業費用	医業費用			12,326,069,589	
				11,498,622,750	
		給与費		5,586,097,936	
			給料	1,765,120,414	
			手当	1,815,997,790	
			賃金	317,598,317	
			報酬	463,935,004	
			法定福利費	681,811,411	
			退職給付費	205,958,000	
			賞与引当金繰入額	284,077,000	
			法定福利費引当金繰入額	51,600,000	
		材料費		2,747,148,321	
			薬品費	1,669,089,802	
			診療材料費	1,078,058,519	
		経費		2,176,045,224	
			厚生福利費	9,191,650	
			報償費	1,964,111	
			旅費交通費	870,491	
			職員被服費	64,600	
			消耗品費	633,789	
			消耗備品費	16,200	
			光熱水費	275,471,473	
			燃料費	149,902	
			食料費	196,030	
			印刷製本費	16,050,494	
			保険料	21,263,012	
			貸借料	15,054,828	
			委託料	1,806,125,444	
			通信運搬費	4,145,206	
			諸会費	2,232,452	
			手数料	10,838,880	
			負担金	4,541,864	
			交際費	19,259	
			貸倒引当金繰入額	5,938,556	
			雑費	1,276,983	
		減価償却費		902,516,473	
			建物減価償却費	232,005,508	
			建物附帯設備減価償却費	411,831,611	
			構築物減価償却費	14,814,615	
			器械備品減価償却費	243,864,739	
		資産減耗費		55,573,333	
			たな卸資産減耗費	5,963,163	
			固定資産除却費	49,610,170	
		研究研修費		31,241,463	
			研究材料費	1,373,056	
			図書費	8,661,125	
			旅費	12,455,200	
			研究雑費	8,752,082	
	医業外費用			809,488,734	
		支払利息及び企業債取扱諸費		268,912,525	
			企業債利息	268,912,525	
		長期前払消費税償却		54,495,696	
			長期前払消費税償却	54,495,696	
		雑支出		486,080,513	
			雑費	486,080,513	(消費税雑支出計上分)
		特別損失		17,958,105	
			過年度損益修正損	17,958,105	
			過年度損益修正損	17,958,105	

2. 資本的収入及び支出明細書（税抜）

（1）資本的収入の部

（単位：円）

款	項	目	節	金 額	備 考
資本的収入	企 業 債			1,650,338,000	
				800,000,000	
		企 業 債		800,000,000	
			企 業 債	800,000,000	
	出 資 金			249,370,000	
		他 会 計 出 資 金		249,370,000	
			一 般 会 計 出 資 金	249,370,000	
	負 担 金			577,208,000	
		他 会 計 負 担 金		577,208,000	
			一 般 会 計 負 担 金	577,208,000	
	補 助 金	府 補 助 金		23,760,000	
				23,760,000	
			府 補 助 金	23,760,000	

（2）資本的支出の部

（単位：円）

款	項	目	節	金 額	備 考
資本的支出	建 設 改 良 費			2,196,858,631	
				1,305,167,341	
		資 産 購 入 費		976,501,615	
			器 械 備 品	976,501,615	
		工 事 費		33,679,800	
			工 事 請 負 費	33,679,800	
		施 設 整 備 事 業 費		294,985,926	
			工 事 請 負 費	287,325,926	
			委 託 料	7,660,000	
	企 業 債 償 還 金			891,691,290	
		企 業 債 償 還 金		891,691,290	
			企 業 債 償 還 金	891,691,290	

3. 比較貸借対照表（税抜）

（単位：円）

項	目	平成 28 年 3 月 31 日	平成 27 年 3 月 31 日	増 減
有 形 固 定 資 産		15,911,150,267	15,558,109,569	353,040,698
	土 地	3,465,722,244	3,465,722,244	0
	償 却 資 産	24,703,602,110	23,350,173,625	1,353,428,485
	減 価 償 却 累 計 額	△ 12,258,174,087	△ 11,823,386,074	△ 434,788,013
	建 設 仮 勘 定	0	565,599,774	△ 565,599,774
	無 形 固 定 資 産	141,800	141,800	0
	投 資 そ の 他 の 資 産	411,246,253	465,741,949	△ 54,495,696
	流 動 資 産	6,106,483,965	5,784,766,505	321,717,460
	現 金 預 金	4,077,761,063	3,974,655,076	103,105,987
	未 収 金	1,973,886,313	1,745,655,687	228,230,626
	貯 蔵 品	45,653,357	55,567,996	△ 9,914,639
	前 払 費 用	8,927,882	8,632,396	295,486
	前 払 金	255,350	255,350	0
資 産 合 計		22,429,022,285	21,808,759,823	620,262,462
固 定 負 債		15,284,703,976	15,448,780,050	△ 164,076,074
	企 業 債 金	14,285,540,872	14,551,423,203	△ 265,882,331
	引 当 金	885,769,836	783,963,579	101,806,257
	そ の 他 固 定 負 債	113,393,268	113,393,268	0
流 動 負 債		3,047,447,345	2,876,357,083	171,090,262
	企 業 債 金	1,065,882,331	891,691,290	174,191,041
	未 払 金	1,595,925,851	1,624,965,755	△ 29,039,904
	引 当 金	335,677,000	319,925,000	15,752,000
	そ の 他 流 動 負 債	49,962,163	39,775,038	10,187,125
	繰 延 収 入 益	782,869,069	668,796,553	114,072,516
長 期 前 受 金		2,072,871,100	1,471,903,100	600,968,000
	長 期 前 受 金 収 益 化 累 計 額	△ 1,290,002,031	△ 803,106,547	△ 486,895,484
資 本 剰 余 金		2,497,285,457	2,247,915,457	249,370,000
	資 本 剰 余 金	816,716,438	566,910,680	249,805,758
	資 本 剰 余 金	18,025,000	18,025,000	0
	利 益 剰 余 金	798,691,438	548,885,680	249,805,758
	前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	518,885,680	429,774,610	89,111,070
	減 債 積 立 金	30,000,000	25,000,000	5,000,000
当 年 度 純 利 益		249,805,758	94,111,070	155,694,688
負 債 資 本 合 計		22,429,022,285	21,808,759,823	620,262,462

4. 経営分析表

項 目	算 式	27年度	26年度
病 床 利 用 率	$\frac{\text{年延入院患者数 (118,311 人)}}{\text{年延病床数 (139,080 床)}} \times 100$	85.1 %	84.5 %
外 来 入 院 患 者 比 率	$\frac{\text{年延外来患者数 (201,687 人)}}{\text{年延入院患者数 (118,311 人)}} \times 100$	170.5 %	170.0 %
平 均 在 院 日 数	$\frac{\text{年延在院患者数 (107,408 人)}}{\{ (\text{新入院数} 10,940 \text{ 人}) + (\text{退院数} 10,903 \text{ 人}) \} \times 1/2}$	9.8 日	10.0 日
平 均 外 来 1 人 当 り 通 院 回 数	$\frac{\text{年延外来患者数 (201,687 人)}}{\text{年延新来患者数 (36,800 人)}}$	5.5 回	5.5 回
職員 1 人 1 日 当 り 患 者 数	入 院 $\frac{\text{年延入院患者数 (118,311 人)}}{\text{年延職員数 (148,140 人)}}$	0.8 人	0.8 人
	外 来 $\frac{\text{年延外来患者数 (201,687 人)}}{\text{年延職員数 (148,140 人)}}$	1.4 人	1.4 人
	合 計 $\frac{\text{年延入院、外来患者数 (319,998 人)}}{\text{年延職員数 (148,140 人)}}$	2.2 人	2.2 人
患者 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入	入 院 $\frac{\text{入院収益 (7,513,588 千円)}}{\text{年延入院患者数 (118,311 人)}}$	63,507 円	60,463 円
	外 来 $\frac{\text{外来収益 (3,142,347 千円)}}{\text{年延外来患者数 (201,687 人)}}$	15,580 円	15,275 円
	合 計 $\frac{\text{入院、外来収益 (10,655,935 千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (319,998 人)}}$	33,300 円	32,011 円
職員 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入	$\frac{\text{入院、外来収益 (10,655,935 千円)}}{\text{年延職員数 (148,140 人)}}$	71,932 円	68,862 円
患者 1 人 1 日 当 り 薬 品 費	投 薬 $\frac{\text{投薬薬品費 (182,954 千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (319,998 人)}}$	572 円	421 円
	注 射 $\frac{\text{注射薬品費 (1,234,105 千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (319,998 人)}}$	3,857 円	3,778 円
	その他 $\frac{\text{その他薬品費 (252,031 千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (319,998 人)}}$	787 円	710 円
	合 計 $\frac{\text{薬品費 (1,669,090 千円)}}{\text{年延入院、外来患者数 (319,998 人)}}$	5,216 円	4,909 円
薬 品 使 用 効 率	$\frac{\text{薬品収入 (1,656,166 千円)}}{\text{薬品払出原価 (1,417,059 千円)}} \times 100$	116.9 %	120.7 %
医 療 材 料 消 費 率	$\frac{\text{医療材料費 (2,747,149 千円)}}{\text{入院、外来収益 (10,655,935 千円)}} \times 100$	25.8 %	24.0 %
医 業 収 益 に 対 す る 医 療 材 料 費 の 割 合	$\frac{\text{医療材料費 (2,747,149 千円)}}{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}} \times 100$	24.3 %	22.5 %
医 業 収 益 に 対 す る 給 与 費 の 割 合	$\frac{\text{給与費 (5,586,098 千円)}}{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}} \times 100$	49.3 %	50.5 %
病 床 100 床 当 り 職 員 数	$\frac{\text{年度末職員数 (550.6 人)}}{\text{年度末病床数 (380 床)}} \times 100$	144.9 人	144.5 人
累 積 欠 損 金 比 率	$\frac{\text{累積欠損金 (0 千円)}}{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}} \times 100$	- %	- %
不 良 債 務 比 率	$\frac{\{ \text{流動負債 (3,047,447 千円)} - \text{企業債 (1,065,882 千円)} \} - \{ \text{流動資産 (6,1406,484 千円)} - \text{翌年度繰越財源 (0 千円)} \}}{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}} \times 100$	- %	- %

5. 財務分析表

項 目	算 式	27年度	26年度
固 定 資 産 構 成 比 率	固定資産 (16,322,538 千円)	72.8 %	73.5 %
	資産合計 (22,429,022 千円) ×100		
固 定 負 債 構 成 比 率	固定負債 (15,284,704 千円)	68.1 %	70.8 %
	負債・資本合計 (22,429,022 千円) ×100		
固 定 比 率	$\frac{\text{固定資産 (16,322,538 千円)}}{\text{資本金 (2,497,286千円) + 剰余金 (816,716千円) + 繰延収益 (782,869千円)}} \times 100$	398 %	460 %
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	$\frac{\text{固定資産 (16,322,538 千円)}}{\text{資本金 (2,497,286千円) + 剰余金 (816,716 千円) + 固定負債 (15,284,704千円) + 繰延収益 (782,869千円)}} \times 100$	84.2 %	84.6 %
固 定 資 産 回 転 率	$\frac{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}}{\{ \text{期首固定資産 (16,023,993 千円) + 期末固定資産 (16,322,538 千円) } \} \times 1/2}$	0.7 回	0.7 回
自 己 資 本 構 成 比 率	$\frac{\text{資本金 (2,497,286 千円) + 剰余金 (816,716 千円) + 繰延収益 (782,869千円)}}{\text{負債・資本合計 (22,429,022千円)}} \times 100$	18.3 %	16.0 %
流 動 比 率	流動資産 (6,106,484 千円)	200.4 %	201.1 %
	流動負債 (3,047,447 千円) ×100		
現 金 比 率	現金預金 (4,077,761 千円)	133.8 %	138.2 %
	流動負債 (3,047,447 千円) ×100		
流 動 資 産 回 転 率	$\frac{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}}{\{ \text{期首流動資産 (5,784,766千円) + 期末流動資産 (6,106,484千円)} \} \times 1/2}$	1.9 回	2.0 回
未 収 金 回 転 率	$\frac{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}}{\{ \text{期首未収金 (1,751,628千円) + 期末未収金 (1,979,825千円) } \} \times 1/2}$	6.1 回	6.2 回
総 資 本 利 益 率	$\frac{\text{当年度経常利益 (260,963 千円)}}{\{ \text{期首総資本 (21,808,759千円) + 期末総資本 (22,429,022千円) } \} \times 1/2} \times 100$	1.2 %	1.8 %
総 収 益 対 総 費 用 比 率	$\frac{\text{総収益 (12,575,876 千円)}}{\text{総費用 (12,326,070 千円)}} \times 100$	102.0 %	100.8 %
経 常 収 益 対 経 常 費 用 比 率	$\frac{\text{経常収益 (12,569,075 千円)}}{\text{経常費用 (12,308,112 千円)}} \times 100$	102.1 %	103.4 %
医 業 収 益 対 医 業 費 用 比 率	$\frac{\text{医業収益 (11,326,121 千円)}}{\text{医業費用 (11,498,623 千円)}} \times 100$	98.5 %	99.0 %
企業債償還額対 減価償却費比率	$\frac{\text{企業債償還額 (891,691 千円)}}{\text{減価償却費 (902,517 千円)}} \times 100$	98.8 %	95.6 %
企業債償還額対 料金収入比率	$\frac{\text{企業債償還額 (891,691 千円)}}{\text{料金収入 (10,655,935 千円)}} \times 100$	8.4 %	8.7 %
企業債利息対 料金収入比率	$\frac{\text{企業債利息 (268,913 千円)}}{\text{料金収入 (10,655,935 千円)}} \times 100$	2.5 %	2.8 %
企業債元利償還額対 料金収入比率	$\frac{\text{企業債元利償還額 (1,160,604 千円)}}{\text{料金収入 (10,655,935 千円)}} \times 100$	10.9 %	11.5 %
利 子 負 担 率	支払利息 (268,913 千円)	1.8 %	1.8 %
	企業債 (15,351,423 千円) ×100		
減 価 償 却 率	当年度減価償却費 (902,517 千円)	3.7 %	3.9 %
	償却資産 (24,703,602 千円) ×100		

業 務 状 況

1. 患者状況

(1) 外来患者数

◆診療科別外来患者数

	①26年度	②27年度	差異②－①	対前年増減率
内 科	19,456人	19,483人	27人	0.14%
血 液 内 科	3,241人	3,776人	535人	16.51%
消 化 器 内 科	16,216人	16,461人	245人	1.51%
循 環 器 内 科	7,230人	7,031人	△ 199人	△2.75%
腫 瘍 内 科	2,691人	0人	△ 2,691人	皆減
外 科	12,191人	13,171人	980人	8.04%
乳 腺 外 科	7,452人	9,579人	2,127人	28.54%
脳 神 経 外 科	3,382人	3,399人	17人	0.5%
整 形 外 科	7,155人	7,170人	15人	0.21%
形 成 外 科	6,076人	7,036人	960人	15.80%
産 婦 人 科	21,155人	20,995人	△ 160人	△0.76%
小 児 科	21,779人	22,405人	626人	2.87%
眼 科	8,204人	6,777人	△ 1,427人	△17.39%
耳 鼻 咽 喉 科	12,330人	13,938人	1,608人	13.04%
泌 尿 器 科	15,606人	16,291人	685人	4.39%
皮 膚 科	4,270人	4,298人	28人	0.66%
リハビリテーション科	698人	1,054人	356人	51.00%
麻 酔 科	3,709人	3,871人	162人	4.37%
放 射 線 科	7,198人	4,975人	△ 2,223人	△30.88%
歯 科 口 腔 外 科	8,767人	9,402人	635人	7.24%
救 急 診 療 科	10,440人	10,575人	135人	1.29%
合 計	199,246人	201,687人	2,441人	1.23%

※救急診療科については、救急外来で対応した患者を表記している。

(2) 入院患者数

◆診療科別入院患者数

	①26年度	②27年度	差異②－①	対前年増減率
内 科	8,509人	8,887人	378人	4.44%
血 液 内 科	7,396人	9,022人	1,626人	21.98%
消 化 器 内 科	13,596人	14,732人	1,136人	8.36%
循 環 器 内 科	7,001人	9,239人	2,238人	31.97%
腫 瘍 内 科	6,522人	0人	△ 6,522人	皆減
外 科	20,117人	20,701人	584人	2.90%
乳 腺 外 科	2,175人	2,598人	423人	19.45%
脳 神 経 外 科	2,228人	2,289人	61人	2.74%
整 形 外 科	9,958人	11,359人	1,401人	14.07%
形 成 外 科	2,345人	2,871人	526人	22.43%
産 婦 人 科	10,174人	10,051人	△ 123人	△1.21%
小 児 科	9,998人	10,234人	236人	2.36%
眼 科	3,046人	1,960人	△ 1,086人	△35.65%
耳 鼻 咽 喉 科	5,235人	6,141人	906人	17.31%
泌 尿 器 科	7,161人	6,396人	△ 765人	△10.68%
皮 膚 科	189人	264人	75人	39.68%
麻 酔 科	137人	30人	△ 107人	△78.1%
放 射 線 科	0人	36人	36人	皆増
歯 科 口 腔 外 科	1,409人	1,501人	92人	6.53%
合 計	117,196人	118,311人	1,115人	0.95%

◆1日平均外来患者数（対前年比較）

	①26年度	②27年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	819.8 人	836.9 人	17.1 人	2.1%

◆初診外来患者数

	①26年度	②27年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	36,282 人	36,800 人	518 人	1.4%

◆1日平均初診外来患者数

	①26年度	②27年度	差異②－①	増減率
4-3月累計実績	148.7 人	151.4 人	2.7 人	1.8%

◆初診率（初診外来患者数÷外来患者数）

	①26年度	②27年度	差異②－①
4-3月累計実績	18.2 %	18.2 %	0 %

◆病棟別 病床利用率

（単位：％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
5階東	90.8	80.9	84.9	84.7	82.7	82.2	89.7	97.2	90.3	90.0	96.6	95.6	88.7
5階西	79.7	67.4	83.8	84.0	67.8	67.3	72.8	72.6	83.2	81.6	67.3	74.0	75.2
6階東	97.9	92.8	98.7	95.6	97.1	92.2	87.8	96.5	98.6	91.7	96.9	100.6	95.5
6階西	77.7	70.5	70.4	74.4	83.3	65.9	57.6	55.9	69.9	53.2	58.2	54.2	66.0
NICU	96.7	100.5	61.7	84.9	90.9	53.9	65.6	60.0	80.1	67.2	75.9	92.5	77.6
7階東	89.4	87.2	90.8	91.3	85.5	79.5	86.7	90.3	88.2	83.7	91.5	95.5	88.3
7階西	89.6	83.5	87.3	85.5	75.2	84.6	88.7	90.7	90.4	89.2	95.9	95.7	88.0
8階東	86.3	88.7	89.0	90.4	84.5	86.4	83.5	92.5	86.8	84.1	90.1	93.7	88.0
8階西	89.3	80.0	84.9	94.5	83.0	75.0	86.2	96.1	86.3	83.3	96.8	95.8	87.6
I C U	84.0	72.9	65.3	66.1	60.2	83.3	69.4	73.3	94.8	98.1	100.0	100.0	75.0
合計	88.0	82.1	85.9	87.6	82.3	79.4	82.1	87.0	86.9	82.6	87.7	89.4	85.1

(3) 外来・入院別、診療科別、月別患者数

区分	科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
外来	内科	人 1,674	人 1,516	人 1,729	人 1,687	人 1,550	人 1,588	人 1,697
	血液内科	311	271	322	323	300	259	357
	消化器内科	1,247	1,235	1,523	1,466	1,246	1,332	1,525
	循環器内科	661	527	579	612	493	576	588
	腫瘍内科	0	0	0	0	0	0	0
	外科	1,104	1,022	1,191	1,112	968	1,076	1,220
	乳腺外科	750	705	783	766	737	720	1,041
	脳神経外科	285	248	306	301	254	298	319
	整形外科	557	649	630	687	595	569	601
	形成外科	506	478	594	592	617	621	651
	産婦人科	1,773	1,692	1,818	1,854	1,678	1,699	1,815
	小児科	1,866	1,711	1,978	1,938	2,173	1,794	1,725
	眼科	733	605	635	624	564	583	666
	耳鼻咽喉科	963	972	1,118	1,302	1,163	1,147	1,268
	泌尿器科	1,412	1,276	1,444	1,320	1,362	1,263	1,406
	皮膚科	348	352	458	459	393	321	369
	リハビリテーション科	52	49	77	103	67	74	100
	麻酔科	336	284	349	310	359	339	318
	放射線科	638	558	710	699	419	229	233
	歯科口腔外科	721	648	813	815	777	752	807
入院	救急診療科	687	958	673	864	936	815	767
	合計	16,624	15,756	17,730	17,834	16,651	16,055	17,473

診療日数＝ 243 日(内科・消化器内科・循環器内科・外科・乳腺外科・脳神経外科・整形外科・形成外科)
(産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科・放射線科・歯科口腔外科)

区分	科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院	内科	人 926	人 774	人 558	人 533	人 785	人 629	人 897
	血液内科	625	826	784	813	625	715	739
	消化器内科	1,131	1,052	1,253	1,521	1,180	905	1,233
	循環器内科	778	579	536	545	400	763	913
	腫瘍内科	0	0	0	0	0	0	0
	外科	1,670	1,855	1,791	1,869	1,664	1,612	1,564
	乳腺外科	147	176	187	220	257	181	224
	脳神経外科	192	179	118	180	141	170	156
	整形外科	990	896	1,033	1,000	934	884	748
	形成外科	161	259	254	226	320	224	196
	産婦人科	860	719	890	948	809	802	865
	小児科	1,025	1,012	859	951	1,114	825	754
	眼科	183	206	262	205	201	180	225
	耳鼻咽喉科	472	413	482	519	640	594	442
	泌尿器科	626	534	591	628	501	466	632
	皮膚科	36	0	50	29	31	18	8
	麻酔科	14	0	0	0	0	2	0
	放射線科	0	0	0	0	0	0	0
	歯科口腔外科	198	193	144	129	98	78	70
	合計	10,034	9,673	9,792	10,316	9,700	9,048	9,666

11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
					延患者数	1日平均患者数
人	人	人	人	人	人	人
1,515	1,651	1,547	1,566	1,763	19,483	80.2
318	343	326	322	324	3,776	19.4
1,348	1,369	1,321	1,347	1,502	16,461	67.7
584	568	600	619	624	7,031	28.9
0	0	0	0	0	0	0.0
1,051	1,043	1,027	1,083	1,274	13,171	54.2
845	854	790	729	859	9,579	39.4
260	286	279	249	314	3,399	14.0
611	564	556	520	631	7,170	29.5
553	577	570	624	653	7,036	29.0
1,735	1,687	1,709	1,721	1,814	20,995	86.4
1,632	1,877	1,709	1,999	2,003	22,405	92.2
595	521	511	444	296	6,777	27.9
1,140	1,155	1,142	1,161	1,407	13,938	57.4
1,303	1,403	1,295	1,290	1,517	16,291	67.0
329	310	327	311	321	4,298	17.7
96	89	123	110	114	1,054	22.0
323	315	302	335	301	3,871	15.9
221	183	176	213	696	4,975	20.5
795	798	766	806	904	9,402	38.7
793	893	1,054	1,130	1,005	10,575	28.9
16,047	16,486	16,130	16,579	18,322	201,687	836.9

366 日(救急診療科) 48 日(リハビリテーション科)
195 日(血液内科)

11月	12月	1月	2月	3月	合 計		
					延患者数	1日平均患者数	平均在院日数
人	人	人	人	人	人	人	日
857	748	698	680	802	8,887	24.3	12.3
781	705	717	834	858	9,022	24.7	37.4
1,312	1,232	1,120	1,382	1,411	14,732	40.2	8.8
813	927	953	921	1,111	9,239	25.2	8.9
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
1,781	1,607	1,789	1,630	1,869	20,701	56.6	13.8
271	300	225	244	166	2,598	7.1	8.8
248	194	266	230	215	2,289	6.2	14.1
838	1,138	828	920	1,150	11,359	31.0	22.8
209	261	170	287	304	2,871	7.8	9.0
810	899	939	738	772	10,051	27.5	6.4
692	886	718	705	693	10,234	28.0	5.2
137	150	161	50	0	1,960	5.4	7.7
493	606	522	443	515	6,141	16.8	6.6
563	473	487	447	448	6,396	17.5	7.8
19	11	22	29	11	264	0.7	7.3
0	0	0	0	14	30	0.1	14.5
0	0	0	0	36	36	0.1	35.0
97	103	116	120	155	1,501	4.1	6.3
9,921	10,240	9,731	9,660	10,530	118,311	323.3	9.8

年間日数＝ 366 日

(4) 地域別患者数

◆外来患者数

年 度 地 域		26年度		27年度		対前年度増減	
		延患 者数	構成 比率	延患 者数	構成 比率	増減 数	増減 比率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本 庁 地 区	23,290	11.7	23,760	11.8	470	2.0
	龍 華 地 区	33,404	16.7	34,160	16.9	756	2.3
	久宝寺地区	8,522	4.3	8,584	4.3	62	0.7
	西 郡 地 区	2,119	1.1	2,249	1.1	130	6.1
	大 正 地 区	10,760	5.4	10,940	5.4	180	1.7
	山 本 地 区	17,582	8.8	18,139	9.0	557	3.2
	竹 湊 地 区	5,514	2.8	5,107	2.5	△ 407	△ 7.4
	南高安地区	4,953	2.5	5,037	2.5	84	1.7
	高 安 地 区	3,051	1.5	2,945	1.5	△ 106	△ 3.5
	曙 川 地 区	11,098	5.6	11,527	5.7	429	3.9
	志 紀 地 区	11,444	5.7	11,447	5.7	3	0.0
	(小 計)	131,737	66.1	133,895	66.4	2,158	1.6
大阪市	平 野 区	31,600	15.9	31,516	15.6	△ 84	△ 0.3
	他 の 大 阪 市	4,028	2.0	3,835	1.9	△ 193	△ 4.8
	(小 計)	35,628	17.9	35,351	17.5	△ 277	△ 0.8
府下市町村	柏 原 市	9,078	4.6	8,995	4.5	△ 83	△ 0.9
	藤 井 寺 市	2,673	1.3	2,955	1.5	282	10.5
	東 大 阪 市	10,428	5.2	10,703	5.3	275	2.6
	松 原 市	857	0.4	894	0.4	37	4.3
	羽 曳 野 市	1,124	0.6	1,376	0.7	252	22.4
	富 田 林 市	133	0.1	151	0.1	18	13.5
	堺 市	969	0.5	854	0.4	△ 115	△ 11.9
	府下その他	2,447	1.2	2,272	1.1	△ 175	△ 7.2
	(小 計)	27,709	13.9	28,200	14.0	491	1.8
他府県	奈 良 県	2,402	1.2	2,320	1.2	△ 82	△ 3.4
	和 歌 山 県	117	0.1	202	0.1	85	72.6
	兵 庫 県	632	0.3	737	0.4	105	16.6
	そ の 他 府 県	1,021	0.5	982	0.4	△ 39	△ 3.8
	(小 計)	4,172	2.1	4,241	2.1	69	1.7
	合 計	199,246	100.0	201,687	100.0	2,441	1.2

◆入院患者数

年 度 地 域		26年度		27年度		対前年度増減	
		延患 者数	構成 比率	延患 者数	構成 比率	増減 数	増減 比率
		人	%	人	%	人	%
八尾市	本 庁 地 区	13,687	11.7	13,747	11.6	60	0.4
	龍 華 地 区	18,800	16.0	17,739	15.0	△ 1,061	△ 5.6
	久宝寺地区	4,501	3.8	4,714	4.0	213	4.7
	西 郡 地 区	1,354	1.2	1,382	1.2	28	2.1
	大 正 地 区	5,770	4.9	6,647	5.6	877	15.2
	山 本 地 区	10,953	9.3	10,248	8.7	△ 705	△ 6.4
	竹 湊 地 区	3,606	3.1	3,202	2.7	△ 404	△ 11.2
	南高安地区	2,295	2.0	2,723	2.3	428	18.6
	高 安 地 区	1,739	1.5	1,515	1.3	△ 224	△ 12.9
	曙 川 地 区	5,989	5.1	6,782	5.7	793	13.2
	志 紀 地 区	5,881	5.0	6,744	5.7	863	14.7
	(小 計)	74,575	63.6	75,443	63.8	868	1.2
大阪市	平 野 区	19,702	16.8	20,775	17.6	1,073	5.4
	他 の 大 阪 市	2,510	2.2	2,176	1.8	△ 334	△ 13.3
	(小 計)	22,212	19.0	22,951	19.4	739	3.3
府下市町村	柏 原 市	5,661	4.8	4,952	4.2	△ 709	△ 12.5
	藤 井 寺 市	1,422	1.2	1,763	1.5	341	24.0
	東 大 阪 市	7,704	6.6	7,628	6.4	△ 76	△ 1.0
	松 原 市	636	0.5	232	0.2	△ 404	△ 63.5
	羽 曳 野 市	642	0.5	760	0.6	118	18.4
	富 田 林 市	69	0.1	62	0.1	△ 7	△ 10.1
	堺 市	665	0.6	445	0.4	△ 220	△ 33.1
	府下その他	1,188	1.0	1,483	1.2	295	24.8
	(小 計)	17,987	15.3	17,325	14.6	△ 662	△ 3.7
他府県	奈 良 県	1,043	0.9	966	0.8	△ 77	△ 7.4
	和 歌 山 県	65	0.1	199	0.2	134	206.2
	兵 庫 県	342	0.3	666	0.6	324	94.7
	そ の 他 府 県	972	0.8	761	0.6	△ 211	△ 21.7
	(小 計)	2,422	2.1	2,592	2.2	170	7.0
	合 計	117,196	100.0	118,311	100.0	1,115	1.0

(5) 診療科別救急取扱患者数

(単位：人)

		27年										28年			合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	2	0	0	1	0	2	2	0	2	0	0	9
		平日	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	4
		時間外	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
		休日	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
血液内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		平日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
消化器内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	1	0	1	1	2	1	0	1	2	4	2	2	17
		平日	1	0	1	1	2	1	0	1	2	2	2	2	15
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
		(内入院)	1	0	1	1	2	1	0	1	2	2	2	0	13
循環器内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	7	6	2	1	2	2	11	10	14	13	12	3	83
		平日	6	6	2	1	2	2	11	10	14	13	11	3	81
		時間外	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	5	4	1	0	2	2	6	4	6	4	7	2	43
		(内入院)	2	4	1	1	1	1	7	5	7	9	8	2	48
腫瘍内科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	9	10	5	4	12	2	4	10	4	9	8	8	85
		平日	8	7	3	3	12	1	3	6	3	5	5	4	60
		時間外	1	2	1	0	0	0	1	3	1	2	1	3	15
		休日	0	1	1	1	0	1	0	1	0	2	2	1	10
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	3	1	0	0	5	0	0	4	0	2	4	2	21
		(内入院)	5	5	0	2	8	0	1	5	2	3	4	5	40
乳腺外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	5	5	1	2	1	0	0	0	5	2	1	1	23
		平日	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
		時間外	3	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	9
		休日	1	3	0	0	0	0	0	0	5	1	0	1	11
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内入院)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脳神経外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	9	3	11	12	4	7	3	6	7	9	4	2	77
		平日	9	3	11	12	4	7	3	6	7	9	4	2	77
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(内搬送患者)	5	1	5	9	3	6	2	2	4	5	2	1	45
		(内入院)	2	0	0	3	0	3	1	1	0	3	0	1	14
整形外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	30	18	20	37	27	18	25	20	28	16	28	25	292
		平日	26	10	16	28	17	15	22	15	17	13	21	18	218
		時間外	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
		休日	4	8	2	9	10	3	3	5	10	3	7	6	70
		深夜	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		(内搬送患者)	27	10	17	29	19	15	20	16	19	13	22	22	229
		(内入院)	6	4	5	4	4	6	3	4	11	5	8	6	66
形成外科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	4	7	10	10	8	11	4	9	9	7	17	5	101
		平日	4	6	9	10	6	10	4	6	2	6	14	5	82
		時間外	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	1	0	6
		休日	0	1	0	0	1	0	0	0	7	1	2	0	12
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		(内搬送患者)	4	5	9	7	0	7	4	4	2	5	7	5	59
		(内入院)	4	2	5	6	5	6	4	5	0	3	4	4	48
産婦人科	患者数 平日 時間外 休日 深夜 (内搬送患者) (内入院)	患者数	67	90	75	82	57	75	68	71	79	88	63	67	882
		平日	5	1	5	6	2	7	2	4	2	8	7	5	54
		時間外	25	33	26	25	29	22	30	14	21	32	22	21	300
		休日	10	18	15	10	5	15	9	19	22	12	11	14	160
		深夜	27	38	29	41	21	31	27	34	34	36	23	27	368
		(内搬送患者)	3	0	4	3	4	5	5	1	1	7	6	3	42
		(内入院)	39	57	44	50	29	39	39	36	49	52	31	37	502

			27年										28年			合計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
小児科	患者数	患者数	545	649	595	621	710	565	501	485	626	607	741	604	7,249	
		平日	66	45	63	70	96	51	44	37	48	46	59	63	688	
		時間外	266	340	348	362	396	288	297	249	268	287	445	340	3,886	
		休日	44	100	33	37	41	73	29	55	118	131	74	44	779	
		深夜	169	164	151	152	177	153	131	144	192	143	163	157	1,896	
		(内搬送患者)	39	37	50	53	65	41	34	33	37	38	47	41	515	
		(内入院)	47	48	39	47	41	44	32	31	41	20	26	41	457	
眼科	患者数	患者数	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4	
		平日	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
耳鼻咽喉科	患者数	患者数	29	27	33	45	49	33	59	42	55	41	62	61	536	
		平日	3	1	0	0	4	3	4	2	3	4	8	4	36	
		時間外	13	12	16	20	23	14	30	15	22	16	24	26	231	
		休日	13	14	17	24	22	16	24	25	30	21	30	31	267	
		深夜	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
		(内搬送患者)	3	1	0	1	4	3	4	2	3	4	7	3	35	
		(内入院)	0	0	0	3	1	2	2	1	1	1	0	1	12	
泌尿器科	患者数	患者数	5	0	1	0	1	3	1	0	0	0	1	1	13	
		平日	2	0	1	0	1	3	1	0	0	0	1	1	10	
		時間外	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
		休日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	2	0	1	1	1	2	1	0	0	0	1	1	10	
		(内入院)	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	
皮膚科	患者数	患者数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
		平日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		時間外	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻酔科	患者数	患者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
		平日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放射線科	患者数	患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		平日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		時間外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		休日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歯科口腔外科	患者数	患者数	4	5	6	3	4	5	4	5	8	4	1	6	55	
		平日	2	1	1	0	0	3	1	2	2	2	1	1	16	
		時間外	0	3	5	1	3	1	1	3	3	1	0	4	25	
		休日	2	1	0	2	1	1	2	0	3	1	0	1	14	
		深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(内搬送患者)	1	0	0	0	6	1	1	1	1	1	1	1	14	
		(内入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
救急診療科	患者数	患者数	769	1,056	748	943	1,029	897	847	877	995	1,143	1,198	1,085	11,587	
		平日	162	144	156	202	233	126	161	121	144	152	152	165	1,918	
		時間外	284	298	290	312	373	268	328	285	272	331	444	402	3,887	
		休日	160	397	128	193	181	297	168	274	373	443	350	297	3,261	
		深夜	163	217	174	236	242	206	190	197	206	217	252	221	2,521	
		(内搬送患者)	199	211	194	284	270	207	243	223	245	243	216	217	2,752	
		(内入院)	107	107	96	119	112	105	108	109	132	125	93	105	1,318	
合計	患者数	患者数	1,485	1,878	1,508	1,763	1,907	1,620	1,530	1,541	1,833	1,945	2,138	1,870	21,018	
		平日	295	224	268	336	380	230	258	213	244	263	285	273	3,269	
		時間外	596	691	689	721	826	594	688	572	589	669	939	797	8,371	
		休日	235	544	196	276	261	406	235	380	568	617	476	395	4,589	
		深夜	359	419	355	430	440	390	349	376	432	396	438	405	4,789	
		(内搬送患者)	292	270	281	387	380	290	320	292	320	322	320	298	3,772	
		(内入院)	215	227	191	236	204	209	198	199	245	224	176	202	2,526	

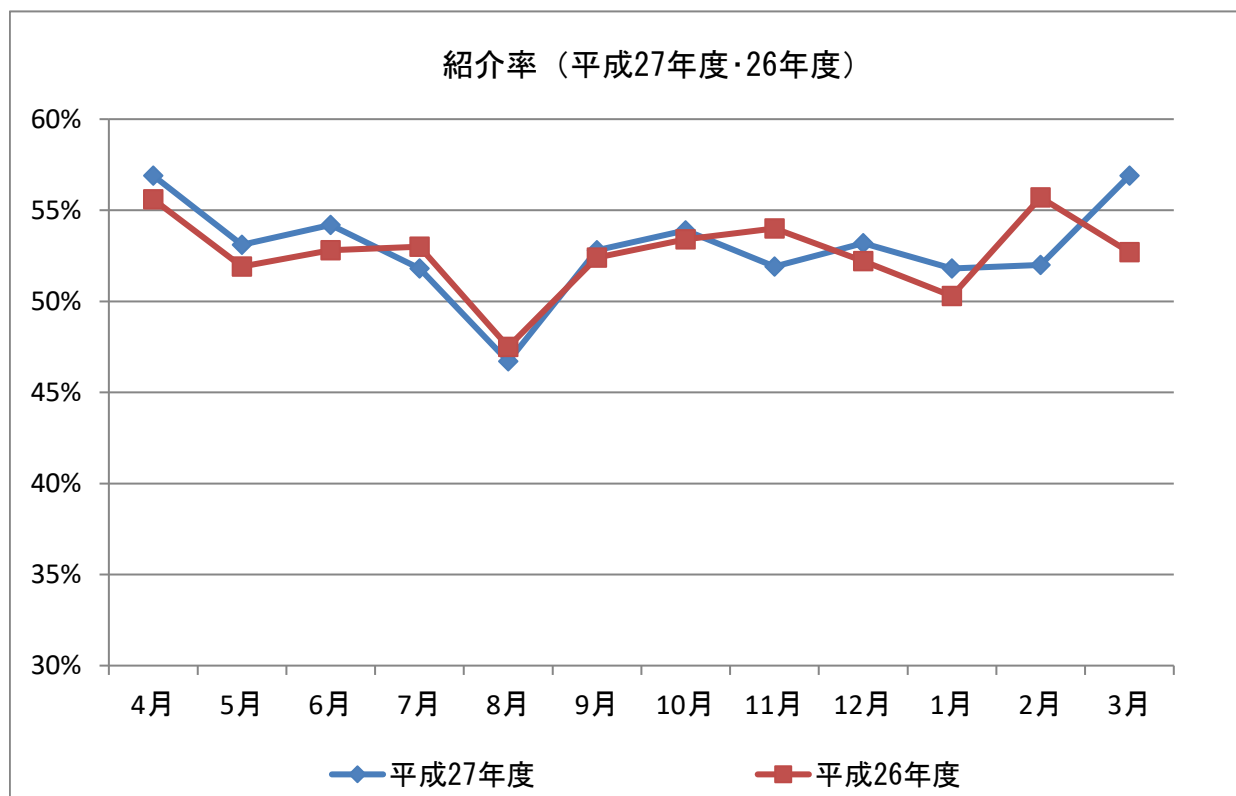
(6) 紹介率

◆紹介率算出式

$$\frac{\text{初診紹介患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}} \times 100$$

◆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	初診紹介患者数(人)	初診救急搬送患者数(人)	初診休日夜間救急患者数(人)	紹介率
27年 4 月	2,790	1,065	174	745	56.9%
5 月	3,003	962	145	1,048	53.1%
6 月	3,073	1,162	176	750	54.1%
7 月	3,162	1,062	250	860	51.7%
8 月	3,255	966	273	914	46.7%
9 月	2,964	1,024	184	840	52.7%
10月	3,081	1,146	209	744	53.8%
11月	2,789	968	165	760	51.9%
12月	2,960	953	206	963	53.2%
28年 1 月	3,022	899	205	1,082	51.8%
2 月	3,371	978	211	1,279	51.9%
3 月	3,330	1,203	182	1,032	56.8%
年度計	36,800	12,388	2,380	11,017	52.9%



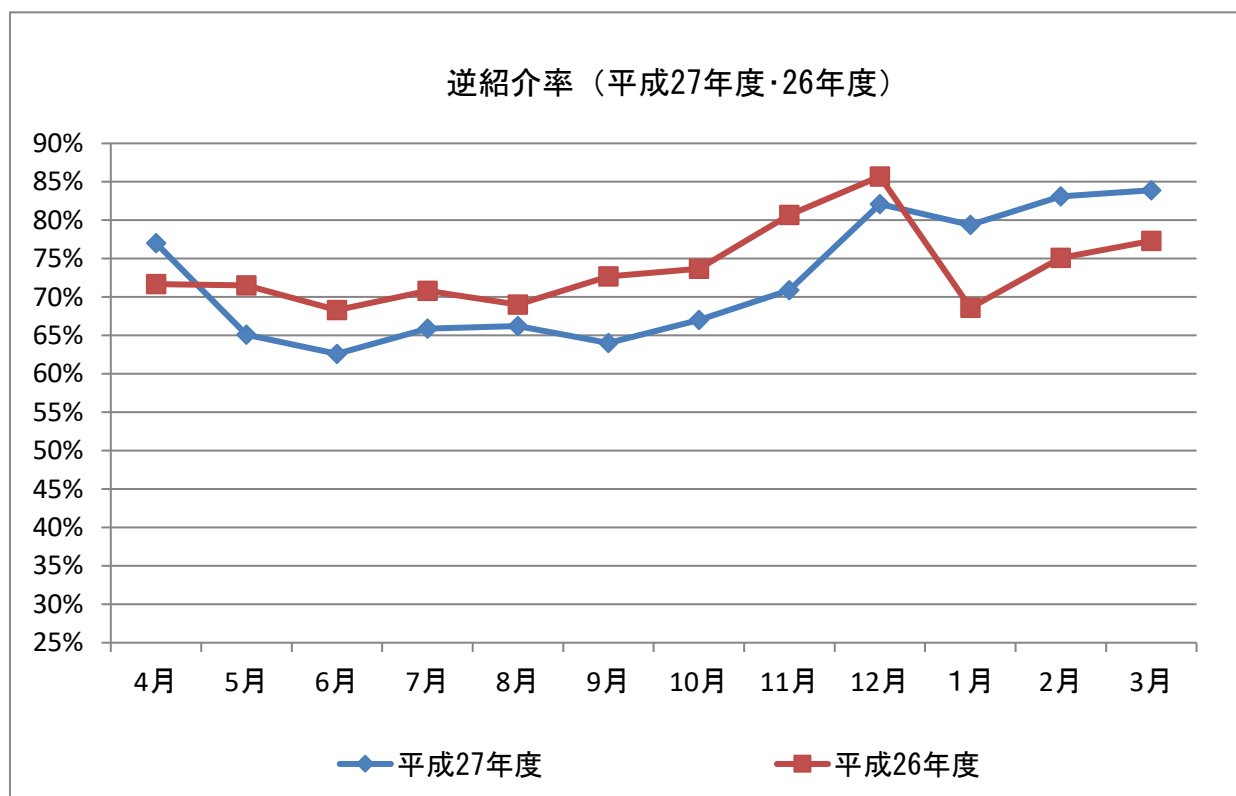
(7) 逆紹介率

◆逆紹介率算出式

$$\frac{\text{診療情報提供書算定患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}} \times 100$$

◆逆紹介率実績推移

	初診患者数(人)	診療情報提供料 算定患者数(人)	初診救急搬送 患者数(人)	初診休日夜間救急 患者数(人)	逆紹介率
27年 4 月	2,790	1,441	174	745	77.0%
5 月	3,003	1,224	145	1,048	67.6%
6 月	3,073	1,459	176	750	67.9%
7 月	3,162	1,419	250	860	69.1%
8 月	3,255	1,381	273	914	66.7%
9 月	2,964	1,290	184	840	66.4%
10月	3,081	1,499	209	744	70.4%
11月	2,789	1,414	165	760	75.8%
12月	2,960	1,502	206	963	83.8%
28年 1 月	3,022	1,348	205	1,082	77.6%
2 月	3,371	1,519	211	1,279	80.7%
3 月	3,330	1,842	182	1,032	87.0%
年度計	36,800	17,338	2,380	11,017	74.0%



(8) 逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	153	137	161	143	155	142	148	155	150	125	138	151	1,758
血 液 内 科	9	9	12	7	3	5	11	6	7	13	10	18	110
消 化 器 内 科	173	151	172	180	185	144	167	153	188	158	160	179	2,010
循 環 器 内 科	113	77	83	74	45	81	117	92	110	98	125	138	1,153
腫 瘍 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	182	135	163	148	125	131	135	131	129	116	121	181	1,697
乳 腺 外 科	44	47	35	41	38	41	46	47	61	77	78	91	646
脳 神 経 外 科	30	33	29	51	46	28	32	35	33	41	34	39	431
整 形 外 科	67	67	87	87	98	74	63	77	77	60	73	88	918
形 成 外 科	4	0	6	4	3	7	4	5	5	1	5	3	47
産 婦 人 科	22	16	21	24	16	17	28	25	22	18	34	14	257
小 児 科	109	89	99	98	111	103	144	114	133	99	152	221	1,472
眼 科	45	35	32	30	33	24	100	102	126	113	116	78	834
耳 鼻 咽 喉 科	148	149	155	166	193	153	142	134	146	136	133	221	1,876
泌 尿 器 科	43	29	56	62	46	42	48	54	53	47	37	57	574
皮 膚 科	8	6	16	14	13	9	17	3	8	9	6	8	117
リ ハ ビ リ テーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	0	0	2	1	1	0	3	0	3	3	2	2	17
放 射 線 科	132	121	155	132	110	125	138	119	118	98	145	187	1,580
歯科口腔外科	152	112	165	142	152	150	142	149	121	120	139	156	1,700
救 急 診 療 科	7	11	10	15	8	14	14	13	12	16	11	10	141
合 計	1,441	1,224	1,459	1,419	1,381	1,290	1,499	1,414	1,502	1,348	1,519	1,842	17,338

(3) 診療科別診療収益

区 分	外 来 収 益		入 院 収 益		その他医業収益	合 計	
内 科	308,887,392	9.8%	368,313,655	4.9%	---	677,201,047	6.2%
血 液 内 科	151,029,742	4.8%	417,893,609	5.6%	---	568,923,351	5.2%
消 化 器 内 科	232,341,907	7.4%	740,990,990	9.9%	---	973,332,897	8.9%
循 環 器 内 科	83,685,917	2.7%	994,563,656	13.2%	---	1,078,249,573	9.8%
腫 瘍 内 科	0	0.0%	0	0.0%	---	0	0.0%
外 科	475,297,737	15.1%	1,322,191,782	17.6%	---	1,797,489,519	16.3%
乳 腺 外 科	412,807,310	13.1%	184,969,657	2.5%	---	597,776,967	5.4%
脳 神 経 外 科	43,723,708	1.4%	195,285,631	2.6%	---	239,009,339	2.2%
整 形 外 科	56,434,906	1.8%	690,775,463	9.2%	---	747,210,369	6.8%
形 成 外 科	43,673,294	1.4%	287,125,912	3.8%	---	330,799,206	3.0%
産 婦 人 科	119,846,056	3.8%	701,437,664	9.3%	---	821,283,720	7.5%
小 児 科	443,007,697	14.1%	651,299,810	8.7%	---	1,094,307,507	9.9%
眼 科	86,292,410	2.8%	101,202,360	1.3%	---	187,494,770	1.7%
耳 鼻 咽 喉 科	104,466,031	3.3%	375,495,680	5.0%	---	479,961,711	4.4%
泌 尿 器 科	239,536,082	7.6%	374,718,899	5.0%	---	614,254,981	5.6%
皮 膚 科	34,934,454	1.1%	13,834,176	0.2%	---	48,768,630	0.4%
リハビリテーション科	4,671,183	0.2%	---	---	---	4,671,183	0.0%
麻 酔 科	10,377,727	0.3%	1,315,551	0.0%	---	11,693,278	0.1%
放 射 線 科	93,462,762	3.0%	1,581,826	0.0%	---	95,044,588	0.9%
歯 科 口 腔 外 科	79,985,784	2.5%	90,591,274	1.2%	---	170,577,058	1.6%
救 急 診 療 科	117,884,963	3.8%	---	---	---	117,884,963	1.1%
室 料 差 額 収 益	---	---	---	---	166,808,120	166,808,120	1.5%
公衆衛生活動収益	---	---	---	---	13,519,719	13,519,719	0.1%
医 療 相 談 収 益	---	---	---	---	120,782,524	120,782,524	1.1%
その他の医業収益	---	---	---	---	34,858,675	34,858,675	0.3%
合 計	3,142,347,062	100.0%	7,513,587,595	100.0%	335,969,038	10,991,903,695	100.0%

3. TQM活動

◆目 的

当院では、平成 21 年度より TQM活動を実施しており、今回で7回目となる。この活動は、患者の快適・満足を感じていただける医療・環境を創り上げていくために、医師・看護師をはじめ院内全スタッフでチームごとにテーマを設けて取り組み、医療の質や患者の満足度を向上させるために、チームの成果を病院全体で定着化させることが目的である。

◆発表チーム

平成 27 年度は特別招待の医療法人田北会 田北病院を含む 18 チームによる発表となった。

	チーム名	部 署	発表テーマ
1	無理なく無駄なく根気よく	8 階 東 病 棟	絶高腸～！！
2	m i s s 6 東	6 階 東 病 棟	のどごしスッキリ
3	チームドラクエ	集 中 治 療 部	I C Uクエスト・そして安心へ
4	S A Z A E X ☆ ★	栄養科 (シダックスフーズサービス)	献立改善でございま～す！！
5	ファーストスムージー	医事課 (ニチイ学館)	Let' s 入院・書類スムージー！ーすいすいと むだなく 実行するー
6	入院快適ズラ	6 階 西 病 棟	入院してから言われてもこまるズラ！
7	Y A O ジェンヌのベルばら	5 階 東 病 棟	早く正しく美しく、重症度、医療・看護必要度入力革命
8	地場ニャン	放 射 線 科	M R I (むうりい～) バスターズ
9	チーキームーン	地域医連携室・がん相談センター連合	予約依頼に向けて おしおきよっ！！
10	ウロマチなっく S !	中 央 手 術 部	ウロ (泌尿器科) の待ち時間をなくす！
11	チャリキ本願	S P C	・・・チャリキ本願・・・違反駐輪撲滅の空回りが・・・
12	4人看助w i t h 官庁	5 階 西 病 棟	ちょっとまって、ちょっとまって、お母さん！？
13	すっきり妖怪	8 階 西 病 棟	退院時ヨーデル質問 ヨーデル体操ですっきり
14	みんなでナイザップ	7 階 西 病 棟	結果にコミットする
15	結果にコミット	7 階 東 病 棟	R (楽に) I (いつでも) Z (ざっくり) A (安心) P 生検
16	L I N E クリエーター	新生児集中治療部	N I C U ホット (HOT) L I N E
17	もってきてほしんだから～	外 来	病院に行くときは忘れずに！ はいお薬手帳！
18	お薬探偵団	医療法人田北会 田北病院	Mの行方

◆活動状況

【平成 27 年 6 月 14 日】

TQM活動研修会を実施

【平成 27 年 9 月 11 日】

第 1 回 TQM活動実践指導ヒアリングを実施

【平成 27 年 11 月 20 日】

第 2 回 TQM活動実践指導ヒアリングを実施

【平成 28 年 2 月 20 日】

TQM活動発表会を開催

今回の第 7 回 TQM活動発表会では、

最優秀賞 : 5 階 西 病 棟 「4人看助w i t h 官庁」

優秀賞 2 位 : 6 階 西 病 棟 「入院快適ズラ」

優秀賞 3 位 : 8 階 西 病 棟 「すっきり妖怪」

実行委員会特別賞 : 中 央 手 術 部 「ウロマチなっく S !」

ポスター賞 : 医事課 (ニチイ学館) 「ファーストスムージー」

がそれぞれ受賞した。



「4人看助w i t h 官庁」

人材育成研究所の立川 義博先生からも『年々内容が充実し、年を重ねるごとに良くなっている』と評価をいただいた。

4. チーム医療活動

◆目 的

現在の医療は多くの職種が関わりながら進めるチーム医療が重要となっており、当院としては、チーム医療の推進を要としてとらえ、推進を図ってきた。その取り組みは最新の医療環境では重要であり、積極的に取り組むことにより、医療の質の向上、さらには経営の改善にもつながると考えている。

◆推進チーム

八尾市立病院チーム医療推進委員会（委員長：佐々木洋総長）がチーム医療の推進を図り、平成 27 年度は 9 チームにて活動を行った。

- ・呼吸ケアチーム
- ・緩和ケアチーム
- ・化学療法部会
- ・周術期血栓対策部会
- ・栄養管理チーム(NST)
- ・退院調整チーム
- ・褥瘡対策チーム
- ・救急対策チーム
- ・院内感染対策チーム(ICT)

◆活動状況

【平成 27 年 7 月 6 日】 平成 27 年度の各チームの活動の目標設定について報告があった。

【平成 27 年 11 月 5 日】 各チームが設定した目標に対する活動状況の確認を行った。

【平成 28 年 3 月 16 日】 平成 27 年度チーム医療発表会を開催した。

3 月 16 日チーム医療発表会はチーム医療推進委員会委員長の佐々木洋総長のあいさつに始まり、17 時 30 分から 20 時 00 分まで各チームとも熱心な発表が行われた。

チーム名	主な取り組み結果
褥瘡対策チーム	院内褥瘡発生件数(目標 20 件以内、結果 14 件)。褥瘡発生防止・悪化防止はOHスケールにより 5 回評価実施、院内スタッフ研修 2 回、看護師研修 3 回、院外研修 2 回実施した。
周術期血栓対策部会	麻酔申込時のリスク評価・血栓対策選択義務化の継続。DVT 検出件数 301 件中 39 件(検出率 13%)。今年度の周術期血栓症は 0 件だった。
化学療法部会	外来化学療法オリエンテーション実施状況は目標 90%に対して 92%達成。「わたしのカルテ」運用中。
緩和ケアチーム	新規介入件数は目標 100 件に対して 135 件。院外研修会は目標、年 4 回で達成。がん患者指導管理料（Ⅰ・Ⅱ）の算定、目標 100 件に対してⅠは 36 件、Ⅱは 143 件。
救急対策チーム	救急断り率は目標 30%に対して 28%。救急受け入れ件数は目標、月 300 件以上に対して平均 315 件。救急搬送依頼件数は目標 5,500 件以上に対して 5,290 件。
呼吸ケアチーム	病棟ラウンド人数は目標 30 名に対して 19 名。ラウンド延人数は目標 90 人に対して 55 名。院内研修会には 21 名参加。
院内感染対策チーム(ICT)	MEPM使用状況は、AUD17 以下に対して 15.91、DOT18 以下に対して 17.92)。緑膿菌のMEPMに対する感受性率 90%以上維持に対して 85%。
栄養管理チーム(NST)	新規介入件数の目標 120 件に対して 106 件。栄養治療計画書兼報告書の目標 360 通に対して 258 通。栄養サポートチーム加算の算定は 231 件。
退院調整チーム	退院支援件数は目標 1,300 件に対して 979 件。退院支援計画書作成数は目標 1,300 件に対して 1,218 件。

5. 大規模災害発生時のトリアージセンター立ち上げ・応急救護訓練

平成 27 年 9 月 3 日（木）17:30～19:30 当院での大規模災害発生時の対応訓練（トリアージ～応急救護）の一環として、災害対策本部、トリアージセンターなどを立ち上げ、職員の配置までの訓練を実施した。

内容は実際の災害発生を想定し、職員の召集から災害対策本部、トリアージセンター、応急救護所（軽症者、中・重症者、入院待機エリア、後方ベッド）の設置への迅速な対応および開設に向けた必要物資・備品の準備状況、各行動・対応の詳細について、今後の詳細な計画作成に向けた課題を認識する機会となった。

立ち上げ完了後には、それぞれが立ち上げたエリアを見学し、意見交換や、状況などを見てまわり、北館にある備蓄倉庫の備品についても確認し、災害発生時の対応について再認識した。



職員の召集



簡易段ボールベッド

6. 自衛消防訓練

1) 平成 27 年 10 月 28 日（水）



消火栓の取り扱い説明



水の勢いに驚かれています。

八尾市立病院駐車場内にて、訓練用消火器の放水訓練を実施した。

田中副院長のご発声のもと、訓練が開始され、多くのスタッフが放水訓練に臨んだ。

最大 60 メートル先に、放水できるということもあり、水の勢いに驚きながらも、参加者全員が真剣に取り組んでいた。

2) 平成 28 年 2 月 25 日（木）

7 階東病棟洗濯室から火災発生という設定で、自衛消防訓練を実施した。

防火管理者の指示のもと、担送患者・護送患者・独歩患者を速やかに安全な区域へ搬送・誘導する訓練を行い有事の際の動きを確認した。

また屋外では消防署員の方から消火器の取り扱い方法を教えていただき、放水訓練を行った。

放水訓練では、訓練用消火器を使用し、多くの医師、看護師が火災を想定した的を狙って、火災への意識を高める訓練となった。



装置の確認



病院長も放水訓練に参加

7. 八尾市立病院公開講座

八尾市立病院公開講座は平成 18 年から開催しており、平成 25 年からは、『看護師による健康相談』、平成 26 年からは、『薬剤師によるお薬相談』も同時開催している。



公開講座



看護師による健康相談



薬剤師によるお薬相談

	開催日	テーマ	演 者	開催場所	参加人数
第 38 回	平成 27 年 7 月 18 日	知って欲しい 現在の治療	1. ドキドキ・フラフラ・疲れ易くなった ・・・それは不整脈かもしれません ～不整脈の診断・治療～ 循環器内科部長 渡部 徹也 2. C 型肝炎の最新治療 ～飲み薬で治る時代に～ 消化器内科部長 宮城 琢也 3. 八尾市立病院における形成外科診療 形成外科医長 三宅 ヨシカズ	山本コミュニティセンター	64 名
第 39 回	平成 27 年 8 月 29 日	寝たきりには なりたくない！ 脳卒中について 学ぼう！	1. 「最近流行りの脳梗塞」 内科(脳循環内科)部長 大江 洋介 2. 「出血から脳を守る」 脳神経外科医長 有田 都史香 3. 「くも膜下出血について」 脳神経外科部長 都築 貴	院内	106 名
第 40 回	平成 27 年 9 月 27 日	足の血圧でわ かる脳や心筋 梗塞の危険度	1. 血圧脈波検査で判ること 八尾市立病院中央検査部主任 細井 亮二 2. 動脈硬化予防のための食事 八尾市立病院栄養科主任 早川 裕起子 3. 抹消動脈疾患を知ろう 八尾市立病院循環器内科医長 篠田 幸紀 4. 知っておきたい！動脈硬化とは？ 松尾クリニック理事長 松尾 汎	院内	102 名
第 41 回	平成 27 年 12 月 12 日	聞いてみよ う！！ 薬にかかわる 色々な話！！	1. 病院薬剤師の仕事って、なあに？ 薬剤部長 山崎 肇 2. 糖尿病のお話あれこれ！！ 薬剤部係長 中谷 成美 3. 抗がん剤治療に関するお話し！！ 薬剤部主任 佐藤 浩二 4. がんの痛みに効くお薬のお話！！ 薬剤部部長補佐 長谷 圭悟	プリズムホール レセプション ホール	54 名
第 42 回	平成 28 年 3 月 26 日	子どもたちが アレルギーで 困らないこと を目指して	1. スキンケアから始まる食物アレルギー予防 小児科医長 濱田 匡章	院内	48 名

8. 八尾地域医療合同研究会

『八尾地域医療合同研究会』は平成 22 年度に発足し、八尾市と近隣の柏原市、東大阪市、平野区などの医師・医療関係者を対象に年 2 回開催している。



開会の辞・特別講演座長
総長
佐々木 洋 先生

第 11 回八尾地域医療合同研究会

平成 27 年 5 月 9 日（土）シェラトン都ホテル大阪において、『第 11 回八尾地域医療合同研究会』を開催した。参加者は 120 名であった。

特別講演

『エビデンスからみた糖尿病に伴う癌リスクについて ～過去の疫学から最新の治療まで～』



検証結果を元に
映像などを交え
ながら進められ
た。

横浜市立大学大学院
医学研究科 分子内分泌
糖尿病内科学
教授 寺内 康夫 先生

八尾市立病院からのTopics



座長・開会の辞
病院長
星田四朗先生



演者
『当院での胃癌
治療』
外科医長
松山仁先生



演者
『C 型肝炎の
最新治療』
消化器内科部長
宮城琢也先生



閉会の辞
特命院長
児玉憲先生

第 12 回八尾地域医療合同研究会

平成 27 年 10 月 24 日（土）ホテルモントレグラスミア大阪において、『第 12 回八尾地域医療合同研究会』を開催した。参加者は 130 名であった。

特別講演

『心血管リスクとしての糖尿病性骨粗鬆症』



長年にわたる
臨床経験と研究
による検証結果
を語られた。

大阪市立大学大学院
医学研究科
代謝内分泌病態内科学
教授 稲葉 雅章 先生

八尾市立病院からのTopics



座長
八尾市立病院
副院長
西山謹司先生



演者
『地域医療連携
室だより』
八尾市立病院
地域医療連携室
畑中博文



閉会の辞
八尾市立病院
特命院長
児玉憲先生



演者
『当院における泌尿器科手
術の最近の取り組み』
八尾市立病院
泌尿器科医長
町田裕一先生



演者
『知っているのと得する？
循環器疾患の診療と治療』
八尾市立病院
循環器内科部長
渡部徹也先生

9. 業績集

(1)刊行論文、著書

題名	著者	雑誌名、巻号
ダブトマイシンによる急性好酸球性肺炎が疑われた1例	辻本和徳、その他	日本呼吸器学会誌 Vol.4, No.6
Impact of alpha-fetoprotein on hepatocellular carcinoma development during entecavir treatment of chronic hepatitis B virus infection	Yamada R, Hiramatsu N, Oze T, Fukui H, Miyagi T, Takehara T, et.al	J Gastroenterol. 2015 150(7): 785-794
Impact of branched-chain amino acid supplementation on the survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib; a multicenter retrospective cohort study	Imanaka K, Ohkawa K, Tatsumi T, Katayama K, Fukui H, Takehara T, et.al	Hepatol Res. 2015 Dec 22
自己免疫性肝炎に対するステロイド治療の現状と再燃についての検討	金子 晃、巽 智秀、福井弘幸、竹原徹郎 等	肝臓 2015;56:507-517
The Hepatitis B Virus Genotype Affects the Persistence of Viral Replication in Immunodeficient NOG Mice.	Yokoyama Y, Miyagi T, Takehara T, et al.	PLoS One. 2015 Dec 14;10(12):e0144775.
S100A8 Production in CXCR2-Expressing CD11b+Gr-1high Cells Aggravates Hepatitis in Mice Fed a High-Fat and High-Cholesterol Diet.	Mukai K, Miyagi T, Takehara T, et al.	J Immunol. 2016 Jan 1;196(1):395-406.
The impact of an inosine triphosphate pyrophosphatase genotype on bilirubin increase in chronic hepatitis C patients treated with simeprevir, pegylated interferon plus ribavirin.	Tahata Y, Hiramatsu N, Miyagi T, Takehara T, et al.	J Gastroenterol. 2016 Mar;51(3):252-9.
Activation of the Mitochondrial Apoptotic Pathway Produces Reactive Oxygen Species and Oxidative Damage in Hepatocytes That Contribute to Liver Tumorigenesis.	Hikita H, Kodama T, Miyagi T, Takehara T, et al.	Cancer Prev Res (Phila). 2015 Aug;8(8):693-701.
Invariant natural killer T cell deficiency leads to the development of spontaneous liver inflammation dependent on $\gamma \delta$ T cells in mice.	Nishio K, Miyagi T, Takehara T, et al.	J Gastroenterol. 2015 Nov;50(11):1124-33.
非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の臨床的意義疫学が示す臨床へのインパクト	宮城琢也、竹原徹郎	日本内科学会雑誌 2016; 105: 9-14.
関節腫脹から顕在化しBehçet病の合併を診断した症候性原発性胆汁性肝硬変の1例	坂根貞嗣、宮城琢也、竹原徹郎 等	肝臓 2015; 56: 575-583.
ベグインターフェロン、リバビリン、シメプレビル3剤併用療法にてC型肝炎ウイルスに対して著効が得られるも、HBV DNA量の増加を来したB型C型重複感染の1例	木村治紀、大川和良、宮城琢也、竹原徹郎、片山和宏 等	肝臓 2015; 56: 422-427.
IBD患者に合併した静脈血栓塞栓症の6症例の検討	中村昌司、小森真人、飯島英樹、向井 章、三木貴夫、井上隆弘、木下和郎、山本光成、北村信次、林英二郎、辻井正彦、吉原治正、竹原徹郎	IBD Reseach vol.9 no.4 2015
Pacemaker Lead Perforation during right Ventricular Outflow Tract Pacing	Watanabe T et al.	J Clin Case Rep (2016); 6: 2)
平成25年度学会賞受賞記念講演肝臓外科(肝局所療法～肝切除まで)の医療現場一筋	佐々木洋	日臨外会誌76(3)447-465, 2015
肝臓に対する局所療法(経肝動脈治療と腫瘍穿刺治療)	佐々木洋	癌と化学療法42(7) 771-777, 2015
進行食道癌に対する化学放射線治療時の早期PEG造設術の意義	松山 仁	癌と化学療法 42(12)1929-1931, 2015
肝部分切除術	橋本安司	消化器外科Nursing 20(1)50-53, 2015
開腹術と閉腹術の実際	橋本安司	消化器外科 38(3)265-273, 2015
A pleural solitary fibrous tumor, multiple gastrointestinal stromal tumors, moyamoya disease, and hyperparathyroidism in a patient associated with NF1.	Yamamoto Y, Kodama K, Yokoyama S, Takeda M, Michishita S	Case Report in Surgery, Article ID: 375416 http://dx.doi.org/10.1155/2015/375416 , 2015
Late cardiac effect of radiation therapy on a young woman with mediastinal Hodgkin's lymphoma.	Kodama K, Takami H, Izumi M, Hiramoto Y, Yoshida K, Nishioka K, Higashiyama M	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2016;64:51-54
Oncologic outcomes of segmentectomy versus lobectomy for clinical T1a N0 M0 non-small cell lung cancer.	Kodama K, Higashiyama M, Okami J, Tokunaga T, Imamura F, Nakayama T, Inoue A, Kuriyama K	Ann Thorac Surg 2016;101:504-511
Dramatic response of chemotherapy for cancer of unknown primary origin of sarcomatoid carcinoma producing granulocyte colony-stimulating factor.	Karasuno T, Nishiura N, Kuwayama M, Hattori H, Takeda M, Takamori H, Kodama K, Sasaki Y	Int Canc Conf J Published online: 15 May 2015 DOI 10.1007/s13691-015-0224-8
エビデンス変遷に基づく非小細胞肺癌術後補助化学療法の実態調査—大阪肺がん研究グループ (Osaka Lung Cancer Study Group)による多施設アンケート調査報告—	東山聖彦、高濱 誠、松村晃秀、前田 元、太田三徳、奥村明之進、良河光一、黄 政龍、多田弘人、兒玉 憲	肺 癌 2015;55(7):1055-1064
Prediction of pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy by magnetic resonance imaging in breast cancer patients.	Michishita S, Kim Jin S, Shimazu K, Sota Y, Naoi Y, Maruyama N, Kagara N, Shimoda M, Shimomura A, Noguchi S	The Breast 24(2) 159-165 2015
Phase II Study of Neoadjuvant Anthracycline-Based Regimens Combined With Nanoparticle Albumin-Bound Paclitaxel and Trastuzumab for Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Operable Breast Cancer.	Tanaka S, Iwamoto M, Kimura K, Matsunami N, Morishima H, Yoshidome K, Nomura T, Morimoto T, Yamamoto D, Tsubota Y, Kobayashi T, Uchiyama K	Clinical Breast Cancer 15(3) 191-196 2015

題名	著者	雑誌名、巻号
Deep peroneal nerve palsy with isolated lateral compartment syndrome secondary to peroneus longus tear: a report of two cases and a review of literature.	Hiramatsu K, Yonetani Y, Kinugasa K, Nakamura N, Yamamoto K, Hamada M, Yoshikawa H	J Orthop Traumatol 2015
腹臥位レントゲン撮影を用いたACL再建術前後の脛骨位置変化	平松久仁彦、前 達雄、史野根生、橘 優太、三岡智規	JOSKAS 40, 132-33, 2015
切断指外傷治療における“Microsurgery Co-operating Network”の構築	三宅ヨシカズ、土岐博之、松島貴志、南方竜也、畔 熱行、三宅良平、鈴木健司、日原正勝、楠本健司	日本形成外科学会会誌 35(4):197-202,2015
両側頬部の対称性皮下肉芽腫の1例	三宅ヨシカズ、土岐博之、楠本健司	日本形成外科学会会誌 35(6):334-337,2015
ダブトマイシンによる急性好酸球性肺炎が疑われた1例	辻本和徳、土岐博之、小川義高、大和寛幸、三宅ヨシカズ、兒玉 憲	日本呼吸器学会誌 4(6):468-472,2015
arrow incision と健側乳頭移植による乳頭再建	三宅ヨシカズ、土岐博之、楠本健司	日本形成外科学会会誌 35(9):512-517,2015
特集 顔のアンチエイジング シワ治療と肌質改善のための多血小板血漿(PRP)療法	楠本健司、福田 智、三宅ヨシカズ	MB Derma, 238:65-70,2015
長期ステロイド使用中のSLE合併妊婦に腰椎圧迫骨折が生じた1例	松浦美幸、佐道俊幸、伊東史学、小池奈月、重富洋志、成瀬勝彦、山田嘉彦、小林 浩	産婦人科の進歩 2015;67(2):114-119
非常にまれな外陰部異所性葉状腫瘍の1例	山田弘次、松浦美幸、山口永子、佐々木高綱、水田裕久、山田嘉彦、竹田雅司	産科と婦人科 2015;82(11):1321-1324
血友病(インヒビターを含む)	田中一郎	新・血栓止血血管学 凝固と炎症 金芳堂 77-84, 2015
後天性血友病A	田中一郎	血液疾患 診断・治療指針 中山書店 483-489, 2015
半月体形成を伴う重症IgA腎症にカクテル療法に加えステロイドパルス療法を併用した1例	中島由翔、濱田匡章、橋本直樹、高木久美子、渡邊昭雄、内田賀子、井崎和史、道之前八重、上田 卓、下西成人、石川智朗、田中一郎	小児科臨床 68(11):125-130, 2015
反応性関節炎の経過中に若年性皮膚筋炎を発症した4歳男児	濱田匡章、橋本直樹、内田賀子、井崎和史、道之前八重、上田 卓、田中一郎	日本小児科学会雑誌 120(1): 55-60, 2016
大動脈弁狭窄症を合併した肺切除術の周術期管理の経験.	義間友佳子	麻酔64(8): 849-851, 2015.
Preliminary analysis of the sequential simultaneous integrated boost technique for intensity-modulated radiotherapy for head and neck cancers.	Miyazaki M, Nishiyama K, Ueda Y, Ohira S, Tsujii K, Isono M, Masaoka A, Teshima T.	J Radiat Res. 2016 Mar 16. pii: rrw010. [Epub ahead of print
Risk factors for vertebral compression fractures in preoperative chemoradiotherapy with gemcitabine for pancreatic cancer.	Otani K, Teshima T, Ito Y, Kawaguchi Y, Konishi K, Takahashi H, Ohigashi H, Oshima K, Araki N, Nishiyama K, Ishikawa O.	Radiother Oncol. 2016 Mar;118(3):424-9.
Clinicopathological Features of Surgically-resected Biliary Tract Cancer Following Chemo-radiation Therapy.	Kobayashi S, Gotoh K, Takahashi H, Akita H, Marubashi S, Yamada T, Teshima T, Nishiyama K, Yano M, Ohigashi H, Ishikawa O, Sakon M.	Anticancer Res. 2016 Jan;36(1):335-42.
Couch height-based patient setup for abdominal radiation therapy.	Ohira S, Ueda Y, Nishiyama K, Miyazaki M, Isono M, Tsujii K, Takashina M, Koizumi M, Kawanabe K, Teshima T.	Med Dosim. 2016 Spring;41(1):59-63.
Evaluation of the safety and pathological effects of neoadjuvant full-dose gemcitabine combination radiation therapy in patients with biliary tract cancer.	Kobayashi S, Tomokuni A, Gotoh K, Takahashi H, Akita H, Marubashi S, Yamada T, Teshima T, Nishiyama K, Yano M, Ohigashi H, Ishikawa O, Sakon M.	Cancer Chemother Pharmacol. 2015 Dec;76(6):1191-8.
Stereotactic body radiotherapy for second pulmonary nodules after operation for an initial lung cancer.	Nishiyama K, Kodama K, Teshima T, Tada H.	Jpn J Clin Oncol. 2015 Oct;45(10):947-52
Selective neck irradiation for supraglottic cancer: focus on Sublevel IIb omission.	Kanayama N, Nishiyama K, Kawaguchi Y, Konishi K, Ogawa K, Suzuki M, Yoshii T, Fujii T, Yoshino K, Teshima T.	Jpn J Clin Oncol. 2016 Jan;46(1):51-6.
Treatment outcomes of external-beam radiotherapy for squamous cell carcinoma of the base of the tongue.	Kawaguchi Y, Nishiyama K, Hirata T, Konishi K, Otozai S, Suzuki M, Yoshii T, Fujii T, Teshima T.	Int J Clin Oncol. 2015 Oct;20(5):891-6.
Selective neck irradiation for supraglottic cancer: focus on Sublevel IIb omission.	Kanayama N, Nishiyama K, Kawaguchi Y, Konishi K, Ogawa K, Suzuki M, Yoshii T, Fujii T, Yoshino K, Teshima T.	Jpn J Clin Oncol. 2016 Jan;46(1):51-6.
腎機能が保たれていても糖尿病では動脈硬化が進行している	寺西ふみ子	超音波検査技術 Vol.40 No.2 April 2015
教員への対応の指導が奏功した過換気症候群の連鎖発生例	柳本嘉時、外堀直子、神原雪子、石崎優子	子どもの心とからだ 第24巻第3号 308-312
病院薬剤師と保険薬局薬剤師の効果的な連携及び地域医療チームを目指して	長谷圭梧	看護のチカラ 2015.10.1(No.435)50-56
八尾市立病院PFI事業における運用のポイント	門井洋二	公共施設マネジメント Vol.12 2015年秋・冬号

(2)学会発表

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
肝細胞癌切除患者におけるEOB-MRI/MDCT画像所見と腫瘍肉眼形態との関連性および再発予後についての検討	福井弘幸、前川祐樹、伊藤資世、中村昌司、田中絵里、巽 理、上田高志、寺部文隆、竹田雅司、橋本安司、横山茂和、佐々木洋	第51回日本肝臓学会総会 2015/5/22 熊本市
Genotype 1型 C型慢性肝炎の初回治療例に対するSimeprevir/Peg-IFN/RBV併用療法の有用性について	田畑優貴、平松直樹、福井弘幸、竹原徹郎 等	第19回日本肝臓学会大会 2015/10/8 東京都
術後20年目に異時性肝転移を発症した十二指腸原発神経内分泌腫瘍の1例	前川祐樹、宮城琢也、伊藤資世、中村昌司、田中絵里、木津 崇、巽 理、上田高志、寺部文隆、竹田雅司、福井弘幸、橋本安司、横山茂和、佐々木洋	第41回日本肝臓学会西部会 2015/12/3 名古屋市

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
当院における症候性肝嚢胞に対する治療の現況と問題点	伊藤資世、中村昌司、前川祐樹、木津 崇、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸	第41回日本肝臓学会西部会 2015/12/3 名古屋市
骨髄から肝臓へ遊走する免疫細胞から産生されるS100A8は脂肪性肝疾患を増悪させる	向井香織、宮城琢也、竹原徹郎	第19回日本肝臓学会大会 2015/10/8 東京都
NASHに対するVitamin E治療における顆粒球系細胞への効果	宮城琢也、向井香織、竹原徹郎 等	第51回日本肝臓学会総会 2015/5/22 熊本市
B型肝炎ウイルスgenotypeによる宿主応答における差異とその機序に関する基礎的検討	横山恵信、宮城琢也、竹原徹郎 等	第51回日本肝臓学会総会 2015/5/22 熊本市
B型慢性肝炎の病態と治療におけるNK細胞レセプターの意義	吉岡鉄平、宮城琢也、竹原徹郎 等	第51回日本肝臓学会総会 2015/5/22 熊本市
NAFLD病態における顆粒球系細胞の関与と役割	向井香織、宮城琢也、竹原徹郎 等	第101回消化器病学会総会 2015/4/23 仙台市
一般市中病院における選択的胆管挿管困難例へのプレカットの有用性と安全性の検討	上田高志、伊藤資世、前川祐樹、中村昌司、木津 崇、巽 理、宮城琢也、福井弘幸	第89回日本消化器内視鏡学会総会 2015/5/29 名古屋市
当院におけるEndoscopic papillary large balloon dilation(EPLBD)の検討	中村昌司、伊藤資世、前川祐樹、木津 崇、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸	第89回日本消化器内視鏡学会総会 2015/5/29 名古屋市
内視鏡的魚骨除去後に遅発性縦隔膿瘍を来した一例	岡本正幸、中村昌司、伊藤資世、前川祐樹、木津 崇、巽 理、上田高志、宮城琢也、福井弘幸	日本消化器病学会近畿支部第103回例会 2015/9/26 大阪市
保存的治療で治癒した急性胃蜂窩織炎の1例	岡本正幸、上田高志、伊藤資世、前川祐樹、中村昌司、木津 崇、巽 理、宮城琢也、福井弘幸、吉田重幸	第211回日本内科学会近畿地方会 2016/3/26 京都市
Dabigatran improves left atrial spontaneous echo contrast in patients with atrial fibrillation as compared with warfarin -a new finding of NOAC-	渡部徹也	第79回日本循環器学会学術集会 2015/4/24 大阪市
Effect of Prophylactic Anti-arrhythmic Drugs during Blanking Period after Atrial Fibrillation Catheter Ablation: a multicenter, randomized trial	渡部徹也	第80回日本循環器学会学術集会 2016/3/18 仙台市
Development of secondary myelofibrosis with der(1;15)(q10;q10) from polycythemia vera	服部英喜、桑山真輝、高森弘之、西浦伸子、鳥野隆博、村上雅樹	第77回日本血液学会学術集会 2015/10/16 金沢市
地域包括ケアシステムのあるべき姿	佐々木洋	第18回大阪病院学会 2015/11/15 大阪市
病院・診療所・薬局間のICTによる地域連携システムの構築ーがん診療への展開	佐々木洋	第77回日本臨床外科学会 2015/11/26-28 福岡市
Jejunostomy Catheter Feeding for Gastric Cancer	松山 仁	第87回日本胃癌学会総会 2016/3/4-6 広島市
術前口経補水療法の段階的普及	松山 仁	第115回日本外科学会定期学術集会 2015/4/16-18 名古屋市
進行食道癌に対する化学放射線治療時の早期PEG造設術の意義	松山 仁	第37回日本癌局所療法研究会 2015/6/13 千葉市
当科における食道ステント留置症例についての検討	松山 仁	第69回日本食道学会学術集会 2015/7/2-3 横浜市
胃癌と悪性リンパ腫の同時性重複癌の治療方針に関する検討	松山 仁	第77回 日本臨床外科学会総会 2015/11/26-28 福岡市
十二指腸球部NET(G1)に対するLECSを行った1例	松山 仁	第28回日本内視鏡外科学会総会 2015/12/10-12 大阪市
高齢者(75歳以上)に対する術後補助化学療法の実際と問題点	井出義人	第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 2015/7/16-18 札幌市
大腸癌イレウスに対する腹腔鏡下手術	井出義人	第13回日本消化器外科学会大会 2015/10/8-11 東京都
cT4b進行直腸癌に対する術前化学療法後腹腔鏡下手術	井出義人	第82回大腸癌研究会 2016/1/23 東京都
完全直腸脱に対するLaparoscopic stapling rectopexy	井出義人	第70回日本大腸肛門病学会学術集会、 2015/11/13-14 名古屋市
閉塞性大腸癌に対する腹腔鏡手術のための減圧法の検討	井出義人	第77回 日本臨床外科学会総会 2015/11/26-28 福岡市
当院における直腸癌に対する腹腔鏡下側方郭清術	井出義人	第28回日本内視鏡外科学会総会 2015/12/10-12 大阪市
長期生存が得られている切除不能膀胱癌の一例	橋本安司	第27回日本肝胆膵外科学会 2015/6/11-13 東京都
肺原発悪性黒色腫の1例	山本陽子、兒玉 憲、馬庭知弘、竹田雅司、田中佑佳、小澤健太郎、為政大機	第103回日本肺癌学会関西支部会 2016/2/20 大阪市
乳癌センチネルリンパ節生検が術中微小転移であった症例の検討	森本 卓、野村 孝、山本陽子、大和寛幸、竹田充伸、橋本安司、白川光浩、徳岡優佳、井出義人、松山 仁、横山茂和、福島幸男、兒玉 憲、佐々木洋	第115回日本外科学会定期学術集会 2015/4/16-18 京都市
Effects of intermittent pneumatic compression on lower-limb edema during chemotherapy of breast cancer patients	Furukawa C, Morimoto T, Morioka I	Global Breast Cancer Conference 23-25 Apr 2015 Jeju Korea
The utility of bi-weekly eribulin therapy for metastatic breast cancer: A Japanese multicenter phase 2 study (JUST-STUDY)	Yoshinami T, Masuda N, Nakayama T, Hara F, Sagara Y, Kawaguchi H, Watanabe K, Sato M, Aogi K, Higaki K, Morimoto T, Shigeoka Y, Tokunaga S, Morishima H, Yanagita Y, Tsurutani J, Baba S, Katayama K, Morita S	ASCO2015 29 May-2 June 2015 Chicago USA
後次治療としてのT-DM1の治療経験	森本 卓、野村 孝、竹田雅司、吉野知子	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都
八尾市立病院における乳癌検診への超音波検査追加効果(年齢階級および乳腺濃度別の検討)	野村 孝、道下新太郎、松山 仁、竹田雅司、吉野知子、森本 卓	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都
患者が乳房再建に求めているもの～患者へのアンケート調査より～	吉野知子、土岐博之、三宅ヨシカズ、森本 卓、野村 孝	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
当科におけるMRIガイド下VABの臨床経験	道下新太郎、金 昇晋、加々良尚文、下田雅史、直居靖人、 下村 淳、島津研三、野口眞三郎	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都
手術可能HER2陽性乳癌に対する術前化学療法 – Nab-パクリタキセルを用いた多施設共同第II相試験	田中 寛、岩本充彦、木村光誠、松並展輝、森島宏隆、 吉留克英、野村 孝、森本 卓、山本大悟、坪田 優、 小林稔弘、内山和久	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都
術前化学療法前後におけるバイオマーカーの変化と臨床効果の検討	八木智子、榎本敬恵、柳井重矢子、宮川義仁、西向有紗、 今村美智子、村瀬慶子、高塚雄一、山野理子、渡邊隆弘、 森本 卓、野村 孝、竹田雅司、三好康雄	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都
乳癌nab-paclitaxel使用症例における末梢神経障害の調査研究(第1報)	吉留克英、多根井智紀、森本 卓、香川雅一、野村昌哉、 松並展輝、梁 壽男、塚本文音、西田幸弘、島田真由美、 有働みどり	第23回日本乳癌学会 2015/7/2-4 東京都
進行再発乳癌に対する3次治療以降でのPertuzumabの治療経験	森本 卓、野村 孝、道下新太郎、吉野知子、竹田雅司	第13回日本臨床腫瘍学会 2015/7/16-18 札幌市
Frozen glove could be a new hope for prevention of chemotherapy induced peripheral neuropathy	Nakayama T, Yasojima H, Morimoto T, Yoshidome K, Mizutani M, Takashima T, Matsunami N, Enami A, Kagawa M, Nomura T, Shiba E, Nishi T, Kamigaki S, Kozuma Y, Yoshinami T, Masuda N	San Antonio Breast Cancer Symposium 8-12 DEC San Antonio TX USA
The Efficacy and Safety of 4 cycles of Tri-weekly Nanoparticle Albumin-bound Paclitaxel (nab-PTX) followed by 4 cycles of FEC (5-fluorouracil, epirubicin, cyclophosphamide) as Neoadjuvant Chemotherapy for Patients with HER2-negative Primary Breast Cancer – A Multicenter Phase II Study (KBCSG-TR1213).	Tanaka K, Masuda N, Matsunami N, Takashima T, Morimoto T, Mizutani M, Yoshidome K, Yasojima H, Morishima H, Hata K, Shiba E, Tominaga S, Nishi T, Kamigaki S, Yoshinami T, Munakata S, Takeda M, Tsujiimoto M, Nakayama T	EBCC10 9-11 MAR 2016 Amsterdam
未破裂内頸動脈瘤が動眼神経を貫通し動眼神経麻痺を来さなかった1例	木田光則、Khoo Hui Ming、都築 貴	第69回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 2015/4/18 吹田市
An ultrasonographic evaluation of the early healing process after Achilles tendon repair.	Hiramatsu K, Mitsuoka T	ISAKOS 2015/6/7-11 Lyon France
超音波検査を用いたアキレス腱縫合術後早期修復過程評価	平松久仁彦、三岡智規	第88回日本整形外科学会 2015/5/21-24 神戸市
Real-time Tissue Elastographyを用いた修復アキレス腱の弾性評価	平松久仁彦、三岡智規	7th JOSKAS 2015/6/18-20 札幌市
ACL再建術前後の脛骨位置変化:受傷時期による違いの検討	平松久仁彦、前 達雄、史野根生、橋 優太、三岡智規	7th JOSKAS 2015/6/18-20 札幌市
Real-time Tissue Elastographyを用いた修復アキレス腱の弾性評価	平松久仁彦、三岡智規	第27回日本整形外科超音波学会 2015/7/4-5 秋田市
arrow incisionと健側乳頭組織移植による乳頭再建	三宅ヨシカズ、土岐博之、楠本健司	第58回日本形成外科学会総会 2015/04/08-10 東京都
肛門部褥瘡の手術加療について	仲野雅之、福田 智、楠本健司	第17回日本褥瘡学会学術集会 2015/08/28-29 仙台市
人工物再建の途中離脱を希望する症例に対する乳房再建チームとしての対応	三宅ヨシカズ、土岐博之、森本 卓、道下新太郎、野村 孝、 吉野知子	第3回日本乳房オンコプラスティックスジャーナル学会 2015/09/03 札幌市
軟部組織感染症に対する切開排膿術後の局所陰圧閉鎖療法による創傷管理	三宅ヨシカズ、仲野雅之、楠本健司	第45回日本創傷治療学会 2015/11/30-12/01 東京都
arrow incisionと健側乳頭組織移植による乳頭再建～2年経過症例～	三宅ヨシカズ、仲野雅之	第112回関西形成外科学会 2016/03/13 大阪市
MRIで特徴的な乳頭状所見を示した卵巣境界悪性腫瘍の2症例	水田裕久、山田弘次、松浦美幸、山口永子、佐々木高綱、 山田嘉彦	第67回日本産科婦人科学会学術講演会 2015/4/11 横浜市
異所性妊娠に対するMTX療法施行症例の検討	松浦美幸、山田弘次、佐々木高綱、山口永子、吉澤順子、 水田裕久、山田嘉彦	第67回日本産科婦人科学会学術講演会 2015/4/11 横浜市
当院で管理したselective FGRについての検討	山田弘次、佐々木高綱、松浦美幸、山口永子、吉澤順子、 水田裕久、山田嘉彦	第67回日本産科婦人科学会学術講演会 2015/4/12 横浜市
全腹腔鏡下子宮全摘中、検体の経腔的回収時に膀胱損傷をきたしたが、腹腔鏡下に修復した1例	佐々木高綱、松浦美幸、山田弘次、山口永子、吉澤順子、 水田裕久、山田嘉彦	第132回近畿産科婦人科学会学術集会 2015/6/28 神戸市
付属器茎捻転を生じたmassive ovarian edemaに対して腹腔鏡下手術にて卵巣温存を試みた1例	松浦美幸、佐々木高綱、山田弘次、山口永子、吉澤順子、 水田裕久、山田嘉彦	第132回近畿産科婦人科学会学術集会 2015/6/28 神戸市
付属器茎捻転を生じたmassive ovarian edemaに対して腹腔鏡下手術にて卵巣温存を試みた1例	松浦美幸、佐々木高綱、山田弘次、山口永子、吉澤順子、 水田裕久、山田嘉彦	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2015/9/11 横浜市
筋腫分娩症例の全腹腔鏡下子宮全摘術において展退した子宮腔部のためkoh cup装着が不完全になった1例	佐々木高綱、山田弘次、松浦美幸、山口永子、吉澤順子、 水田裕久、山田嘉彦	第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2015/9/10 横浜市
ヒトパピローマウイルスワクチン接種後に発熱を繰り返している1女児例	濱田匡章、内田賀子、井崎和史、道之前八重、上田 卓、 田中一郎、高橋幸利	第25回日本小児リウマチ学会 2015/10/11 金沢市
食物依存性運動誘発アナフィラキシーとの鑑別を要したコリン性蕁麻疹の一例	川口達也、濱田匡章、能村賀子、井崎和史、上田 卓、 道之前八重、田中一郎	第29回近畿小児科学会 2016/3/6 大阪市
穿刺吸引細胞診後急激に腫脹をきたした甲状腺腫瘍の1例	奥野未佳	日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2015/6/6 大阪市
対側に顔面帯状疱疹を同時発症した不全型ハント症候群の1例	米井辰一	日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2015/9/5 大阪市
眼窩蜂巣炎を合併した急性副鼻腔炎の1例	米井辰一	第54回 日本鼻科学会総会・学術講演会 2015/10/1-3 広島市
口蓋扁桃に発生した線維上皮性ポリープの1例	佐野 奨	日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2015/12/5 大阪市
当科における先天性真珠腫の検討	日尾祥子	日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会 2016/3/5 大阪市
Effect of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis on renal transplantation recipients with concomitant cytomegalovirus infection	Naganuma T, Takemoto Y, Machida Y, Iwai T, Uchida J, Kuwabara N, Nakatani T	14th Congress of the Asian Society of Transplantation 2015/8/23

演題名	発表者	学会名、日時、会場(都市)
Elderly kidney transplantation from spousal donors:Should the amount of immunosuppressant be reduced?	Iwaw T, Uchida J, Naganuma T, Machida Y, Iguchi K, Kumada N, Nakatani T	17th Congress of the European Society for Organ Transplantation 2015/9/13
看護師教育体制についての検討	佐々木博世、山下春美、長山俊明、上水流雅人、池本慎一	第60回日本透析医学会学術集会 2015/6/27 横浜市
「トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠内服治療中にペンタゾシン錠を内服し、救急搬送された症例」(義間)	義間友佳子	日本ペインクリニック学会第49回大会 2015/7/24 大阪市
高齢者に対する術後補助化学療法の実践と問題点	井出義人、廣瀬 創、徳岡優佳、山本陽子、道下新太郎、橋本安司、永井健一、松山仁、横山茂和、森本 卓、福島幸男、兒玉 憲、佐々木洋	第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 2015/7/16-18 札幌市
サンプリングシートによる抗がん剤の飛散状況調査	島田敏江	第53回日本癌治療学会学術集会 2015/10/29-31 京都市
一般市中病院における選択的胆管挿管困難例へのブレイカートの有用性と安全性の検討	上田高志	第89回日本消化器内視鏡学会総会 2015/5/29 名古屋市
CSII導入により、血糖コントロール、QOLともに改善した1型糖尿病の一例	吉田朋世	第52回日本糖尿病学会近畿地方会 2015/11/14 京都市
高インスリン血症性低血糖症に対するジアゾキシドの投与により著明な血小板減少をきたした一例	峰 健太郎	第211回日本内科学会近畿地方会 2016/3/26 京都市
パネルディスカッション 臨床医に伝える血管エコーレポート 頸動脈	浅岡伸光	日本超音波医学会第88回学術集会 2015/5/22-24 東京都
当院における周術期静脈血栓症予防に対する取り組みと3年間の成果	寺西ふみ子	日本超音波医学会第88回学術集会 2015/5/22-24 東京都
術前化学療法を受ける乳癌患者 における心毒性の検討	寺西ふみ子	第23回日本乳癌学会学術集会 2015/7/2-4 東京都
周術期下肢静脈エコー検査の深部静脈血栓症例における臨床的特徴	細井亮二	第40回 日本超音波検査学会 2015/5/15-17 横浜市
エラストグラフィーを用いたアキレス腱縫合術後早期の修復過程評価	駒 美佳子	日本超音波医学会第42回関西地方会 2015/9/26 大阪市
乳癌nab-paclitaxel使用症例における末梢神経障害の調査研究(第1報)	吉留克英、多根井智紀、森本 卓、香川雅一、野村昌哉、松並展輝、梁 壽男、塚本文音、西田幸弘、島田真由美、有働みどり	第23回日本乳癌学会学術総会 2015/7/2-4 東京都
Frozen glove could be a new hope for prevention of chemotherapy induced peripheral neuropathy	Nakayama T, Yasojima H, Morimoto T, Yoshidome K, Mizutani M, Takashima T, Matsunami N, Enami A, Kagawa M, Nomura T, Shiba E, Nishi T, Kamigaki S, Kozuma Y, Yoshinami T and Masuda N	the 38th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium Dec. 8-12, 2015
地域薬局薬剤師と病院薬局薬剤師との連携による退院時共同服薬指導の機構とその効果	長谷圭悟	第17回日本医療マネジメント学会学術総会 2015/6/12 大阪市
サンプリングシート法を用いた抗がん剤の飛散状況調査	佐藤浩二	第54回全国自治体病院学会 2015/10/8 函館市
地域医療連携システムにおける保険薬局連携の実態調査	小川充恵	第25回日本医療薬学会年会 2015/11/22 横浜市
八尾市立病院手術部での薬剤師による麻薬管理業務について	山崎 肇	日本薬学会第136年会(横浜) 2016/3/26 横浜市
新規おむつの採用による院内統一 ～おむつ排泄管理～	横山敬子	第24回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 2015/5/30 千葉市
看護教育体制についての検討	佐々木博世	第60回日本透析医学会 2015/6/26 横浜市
化学療法を受ける患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査	川上恵美、高波伸江	第54回全国自治体病院学会 2015/10/8 函館市
新生児の採血等に対する疼痛緩和とケアの効果	黒瀬理恵	第3回大阪府看護学会 2015/12/5 大阪市
妊娠初期の体重管理が周産期に及ぼす影響と保険指導の必要性	倉富純子	第3回大阪府看護学会 2015/12/5 大阪市
エボラ出血熱発生時の保健所と病院の合同訓練を実施しての一考察	甲斐幸代	第9回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会 2016/2/27 大阪市
当院における周術期静脈血栓症予防に対する取り組みと3年間の成果	寺西ふみ子、細井亮二、駒 美佳子、浅岡伸光、上水流雅人、小枝伸行、篠田幸紀、渡部徹也、星田四朗	日本超音波医学会第88回学術集会 2015/5/22 東京都
地域を巻き込んだオピオイド使用患者への自記式手帳による緩和ケア服薬指導の取り組み	小枝伸行	第17回日本医療マネジメント学会学術総会 2015/6/12 大阪市
がん疼痛緩和と地域連携バスと自記式手帳の導入への関わり～事務職員の立場から～	大和篤史、吉岡佐歩、高草恒平、小枝伸行、朴井 晃、本多紀子、森明富美子、蔵 昌宏	全国自治体病院学会第54回記念大会 2015/10/9 函館市
パッケージ型電子カルテシステム導入後における院内発生課題に関する考察	小枝伸行	第35回医療情報学連合大会 2015/11/3 宜野湾市
注射医薬品の添付書類における注射手技記載方法に関する調査	小枝伸行、小川充恵、岡橋孝侍	第35回医療情報学連合大会 2015/11/4 宜野湾市
八尾市薬剤師会による地域連携活動への取り組み～パート3～	河野正宏、勝山千男、潮田龍一郎、豊口雅子、中野道雄、小枝伸行	第48回日本薬剤師会学術大会 2015/11/23 鹿児島市
パネルディスカッション24 病院・診療所・薬局間のICTによる地域連携システムの構築ーがん診療への展開ー	佐々木洋、小枝伸行、松山 仁、井出義人、橋本安司、山本陽子、永井健一、広瀬創、馬庭知弘、横山茂和、福島幸男、兒玉 憲	第77回日本臨床外科学会総会 2015/11/28 福岡市

(3)研究会発表

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
C型肝炎の最新治療	宮城琢也	第11回八尾地域医療合同研究会 2015/5/9 大阪市

演題名	発表者	研究会名、日時、会場(都市)
知っていると得する循環器疾患	渡部徹也	第12回八尾地域医療合同研究会 2015/10/24 大阪市
心不全・心房細動マネジメント	渡部徹也	AT/AF Total Management Conference 2015/11/6 大阪市
心臓カテーテル検査治療の実際	渡部徹也	第3回中河内・平野循環器病診療連携の会 2016/2/20 八尾市
心房細動治療について	渡部徹也	第3回大阪東Diabetes&Kidney Network Meeting 2015/4/4 大阪市
心房細動患者におけるダビガトランの有用性	渡部徹也	第5回中河内Network Meeting 2015/5/23 大阪市
MRIガイド下生検にて診断されたDCISの1例	道下新太郎	9回Kinki Breast Cancer Frontier Meeting 2015/6/6 大阪市
軟部組織感染創に対するV.A.C.療法による創傷管理	三宅ヨシカズ	SDMeeting 2015/6/18 大阪市
手指デグロビング損傷	三宅ヨシカズ	第57回KC会 2015/6/20 大阪市
手指デグロビング損傷の1例	仲野雅之、三宅ヨシカズ	第44回大阪形成外科医会 2016/2/13 大阪市
当院における食物経口負荷試験 ～乳つなぎを用いた負荷試験の有用性を中心に～	濱田匡章	第30回大阪食物アレルギー懇話会 2015/5/16 大阪市
グラム染色とアンチバイオグラムが抗菌薬選択に有用であった急性腎盂腎炎の1例	渡邊昭雄	第53回中河内小児科談話会 2015/6/13 大阪市
エルシニア感染症の1例	井崎和史	第53回中河内小児科談話会 2015/6/13 大阪市
当院におけるアレルギー診療の現況～食物アレルギー、乳児スキンケア外来、ダニ・スギ皮下急速免疫療法について～	濱田匡章	第54回中河内小児科談話会 2015/12/12 大阪市
症例提示	西岡陽介、竹田雅司、村尾昌輝	中皮腫パネル 2015/10/3 広島市
八尾市立病院 がん相談支援センターの 取り組み	佐藤美代子	関西がんチーム医療研究会 2015/8/29 大阪市
妊娠中にがんを発症した若年患者の緩和ケアチームでのサポート	蔵 昌弘、本多紀子、外堀直子	なにわ緩和ケアカンファレンス 2015/10/15 大阪市
中河内の緩和ケアの現状とこれから ー臨床心理士の立場からー	外堀直子	中河内ネットワーク協議会 2016/3/4 八尾市
当院糖尿病センターにおける療養指導 ～管理栄養士の立場から～	高瀬由香利	大阪府公立病院栄養士代表者会事例研究発表会 2016/1/28 八尾市
当院での化学療法におけるアピアランスケア(外見ケア)の取り組みに向けて ～患者の自分らしさを支えていくために～	島田敏江	第17回関西がんチーム医療研究会 2015/8/29 大阪市
八尾市立病院がん相談支援センターの取り組み	佐藤美代子	第17回関西がんチーム医療研究会 2015/8/29 大阪市
チームで関わる院内統一の失禁管理を試みて	横山敬子	平成27年固定チームナース全国集会 研修会 2015/10/3 神戸市
服薬管理アセスメントフローシート導入に向けて	尾堂恵子	大阪府看護協会府東支部研究発表会 2016/2/23 柏原市
ICUにおける抑制 ～フローチャートの実用化への取り組み～	尹 明希	大阪府看護協会府東支部研究発表会 2016/2/23 柏原市
QI活動に関するデータ作成の方法と課題	小枝伸行	電子カルテフォーラム「利用の達人」&地域医療ネットワーク研究会合同企画 2015/9/6 東京都

(4)講演

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
C型肝炎に対するDAA治療～当院における現状と展望～	宮城琢也	東成区・中河内 Hepatitis Conference 2015/11/7 大阪市
C型肝炎の最新治療 ～飲み薬で治る時代に～	宮城琢也	第38回八尾市立病院公開講座 2015/7/18 八尾市
最近流行りの脳梗塞	大江洋介	八尾市立病院公開講座 2015/8/25 八尾市
八尾市立病院循環器内科の紹介	渡部徹也	第5回 八尾地区循環器研究会 2015/6/27 大阪市
貧血について	服部英喜	FMちゃお 2016/3/11
急性期・慢性期における栄養ケア	松山 仁	明治ニュートリションセミナー 2015/5/16 大阪市
胃がん治療における栄養管理の実際	松山 仁	八尾市薬剤師会(出前講座) 2015/7/12 八尾市
新国民病・ロコモティブシンドロームを予防して健康寿命を延ばそう！	三岡智規	曙川コミュニティセンター(出前講座) 2015/8/21 八尾市
ビギナーのためのOpen Wedge HTOの注意点	三岡智規	第3回大阪HTO研究会 2015/10/24 大阪市
八尾市立病院における形成外科診療	三宅ヨシカズ	第38回八尾市立病院公開講座(出前講座) 2015/07/18 山本コミュニティーセンター
治療中のアクシデントが重なり救済できなかった症例	三宅ヨシカズ	第20回南大阪Surgical Flaps研究会 パネルディスカッション 2016/2/28 大阪市

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
子供たちがアレルギーで困らないことを目指して ～ス キンケアから始まる食物アレルギー予防～	濱田匡章	市民公開講座 2016/3/26 八尾市
当科で経験した扁桃疾患について	佐野 奨	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2015/11/7 大阪市
当科における突発性難聴の治療について	川島貴之	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2015/11/7 大阪市
当科における甲状腺腫瘍の取り扱い	米井辰一	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2015/11/7 大阪市
当科における小児耳科手術について	日尾祥子	八尾耳鼻咽喉科医会研修会 2015/11/7 大阪市
乳がんの診断および治療について	竹田雅司	がん予防フォーラム2016 府民公開講座 2016/3/20 大阪市
八尾市立病院における大腸がん治療の実際	井出義人	市民医療公開講座 2015/5/16 八尾市
当院におけるセツキシマブの使用経験と副作用対策	井出義人	第1回大阪CRCオレンジアローセミナー 2015/8/7 大阪市
当院の内視鏡治療の現況	上田高志	中河内消化器病研究会 2015/6/13 大阪市
(座長)	木戸里佳	Unite for Diabetes 2015/4/22 白岩内科医院
(座長)	木戸里佳	中河内糖尿病セミナー 2015/5/28 八尾市
(座長)	木戸里佳	糖尿病学術講演会 in 八尾 2015/7/2 八尾市
糖尿病～生活習慣を見直しましょう～	木戸里佳	出前講座『糖尿病』 2015/7/17 志紀コミュニティーセンター
(座長)	木戸里佳	第16回八尾地区糖尿病連携会 2015/8/6 八尾市
(座長)	木戸里佳	Yamato Riverside Seminar 2015/8/8 白岩内科医院
ファシリテーター	木戸里佳	第1回MODSカンファレンス 2015/10/31 大阪市
(座長)	小川義高	第6回いきいき！糖尿病健康フォーラム 2015/11/28 柏原市
「当院でのジャズピアの使用経験～これから期待するも の～」	小川義高	Diabetes Symposium 2016 2016/2/6 大阪市
(座長)	木戸里佳	糖尿病治療最前線～安全性からみた血糖 管理について～ 2016/3/12 大阪市
(座長)	木戸里佳	Diabetes & Kidney Network Meeting 2016/3/19 大阪市
第1回心エコー読影講座「計測と描出」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 (ベーシックコース) 2015/6/2 大阪医療技術学園専門学校
第2回心エコー読影講座「心機能」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 (ベーシックコース) 2015/6/2 大阪医療技術学園専門学校
第3回心エコー読影講座「拡張能と心不全」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 (ベーシックコース) 2015/6/2 大阪医療技術学園専門学校
第4回心エコー読影講座「虚血性心疾患」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 (ベーシックコース) 2015/6/2 大阪医療技術学園専門学校
第5回心エコー読影講座「僧帽弁の評価法」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 (ベーシックコース) 2015/6/2 大阪医療技術学園専門学校
第7回心エコー読影講座「心筋症の評価法」	寺西ふみ子	大臨技心エコー読影講座 (ベーシックコース) 2015/6/2 大阪医療技術学園専門学校
頸動脈狭窄病変に対する 超音波検査の観察ポイント	寺西ふみ子	中河内血管不全研究会 2015/7/11 AP梅田大阪 4階「CDルーム」
腎動脈エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	第13回神戸血管エコーセミナー 2015/7/25 宮野医療器 大倉山別館6F ホール
血管エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	大臨技第6回血管エコー実技研修会 2015/8/9 大阪府医師共同組合
心エコー実技講師	寺西ふみ子	大臨技第12回心エコー実技研修会 2015/10/11・12大阪府医師協同組合
心エコー・血管エコー・腹部エコー実技講師	寺西ふみ子	エコー淡路2015 2015/11/14/15 兵庫県立淡路夢舞台国 際会議場
腹部エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	大臨技第5回腹部エコー実技研修会 2015/11/22 大阪府医師協同組合
腎動脈ライブエコー講師	寺西ふみ子	大阪血管エコー研究会 2015/12/4 東芝メディカル大阪 梅田スカイ ビルタワーウエスト19F
症例判読-腹部編-	寺西ふみ子	大阪超音波技術研究会 2016/1/15 住友病院14階講堂

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
薬剤誘発性心筋症について	寺西ふみ子	OSAKA心血管エコー研究会 2016/2/3 関西医大滝井病院 南館2階臨 床講堂
腎動脈エコー講義・実技講師	寺西ふみ子	第8回これからはじめる心血管エコーハンズ オンセッション 2016/2016/3/6 大阪府医師共同組合
血管エコー実技講師	細井亮二	第12回神戸血管エコーセミナー 2015/7/25 宮野医療器 大倉山別館6F ホール
血管エコー実技講師	細井亮二	大臨技第6回血管エコー実技研修会 2015/8/9 大阪府医師共同組合
血管エコー実技講師	細井亮二	OSAKA心血管エコー研究会 大阪血管エ コー研究会共催第8回心血管エコーハンズ オンセッション 2016/3/6 大阪府医師共同 組合
腹部エコー実技講師	駒 美佳子	大臨技第5回腹部エコー実技研修会 2015/11/22 大阪府医師協同組合
腎動脈エコー検査の基礎	駒 美佳子	2015年度 第4回 大阪血管エコー研究会 2015/12/4 東芝メディカル
肝臓瘍症例提示	駒 美佳子	大臨技腹部超音波研修会 2016/1/15 住友病院
女性の実体験に基づいたキャリアパスに関する講演	外堀直子	広域大学連携 臨床医工学・情報学 高度 人材教育プログラム「理系女性のキャリアパ ス設計論」 2015/6/20 西宮市
在宅ターミナルのケアが増えてきており、連携を密にする ため相互理解が必要だと思います。八尾市内での受け 入れ態勢をめざします。	蔵 昌宏	いちごいちえケアプラザセンター(出前講 座) 2015/11/18 八尾市
当院の胃がん術後指導における管理栄養士のかかわ り	黒田昇平	八尾市薬剤師会(出前講座) 2015/7/12 八尾市
糖尿病～生活習慣をみなおしましょう～	高瀬由香利	志紀地区住民(出前講座) 2015/7/17 八尾市
当院糖尿病センターにおける療養指導 ～管理栄養士の立場から～	高瀬由香利	第16回八尾地区糖尿病連携会 2015/8/6 八尾市
動脈硬化予防の食事	早川裕起子	第40回八尾市立病院公開講座 Take! A BI2015 in 八尾 2015/9/27 八尾市
病院で働く管理栄養士の業務とその役割	高瀬由香利	第10回ステップアップセミナー 2015/10/3 生駒市(近畿大学奈良病院)
がん治療中の食事と栄養	早川裕起子	第21回がん相談支援センターミニ勉強会 2016/2/8 八尾市
食事バランスと減塩の工夫	黒田昇平	八尾市食生活改善推進員養成講座 2016/2/24 八尾市
がんと健康食品	佐藤浩二	がん相談支援センター ミニ勉強会 2015/4/20 八尾市立病院北館大会議室
八尾市立病院での病棟常駐業務における薬剤師の役 割	長谷圭悟	八尾市保健センター(出前講座) 八尾市 薬剤師会従事者研修会 2015/7/12 八尾市
聞いてみよう!! 薬にかかわる色々な話! 薬剤師を もっと、もっと活用しよう! 山崎 肇:病院薬剤師の仕事って、なあに? 長谷 圭悟:がんの痛みに効くお薬のお話し! 中谷 成美:糖尿病のお話あれこれ! 佐藤 浩二:抗がん剤治療に関するお話!	山崎 肇、長谷圭悟、中谷成美、佐藤浩二	八尾市立病院公開講座 2015/12/12 八尾市文化会館ブリズムホー ル
おくすりについて	山崎 肇	八尾市立緑ヶ丘コミュニティーセンター(出 前講座) 2016/3/6 八尾市
医療安全講演会 兼 医薬品安全講習会 「麻薬等の取り扱い について」	山崎 肇	2015/7/16 八尾市立病院北館大会議室
在宅医療をソーシャルワーカーの係わりについて	西 麻弥	八尾市市民活動ネットワークセンター(出前 講座) 2016/3/16 八尾市
感染対策について	甲斐幸代	特別養護老人ホーム 信貴の里(出前講 座) 2015/6/16 八尾市
がん看護に関する内容	島田敏江	八尾徳州会総合病院(出前講座) 2015/6/25 八尾市
糖尿病～生活習慣をみなおしましょう～	牧瀬良子	志紀コミュニティセンター(出前講座) 2015/7/17 八尾市
1. 子宮・卵巣・女性ホルモンなどの異変・不調に気づ くことの大切さ 2. 安心して妊娠・出産ができる状況になるまでは安易 な行動を避けることの大切さ	猪之鼻理絵、倉富純子	大阪経済法科大学八尾駅前キャンパス(出 前講座) 2015/7/3 八尾市
インフルエンザとノロウイルス	甲斐幸代	山本コミュニティセンター(出前講座) 2015/10/7 八尾市
インフルエンザとノロウイルス	甲斐幸代	八尾市立社会福祉会館(出前講座) 2015/12/21 八尾市
看護師の仕事について	山田智子、安田真衣	八尾市立龍華中学校(出前講座) 2015/12/16 八尾市
歯科口腔について	山本かおり	八尾市立社会福祉会館(出前講座) 2016/2/26 八尾市
自学のすすめ～職員はどんな時に成長するか～	朴井 晃(パネリスト)	マッセOSAKA 20周年特別企画 ミニ講 座 2015/11/13 大阪府

演題名	発表者	講演会名、日時、会場(都市)
薬剤情報マネジメント～リスク回避のための情報連携・情報共有～	小枝伸行	第401回南予支部薬学セミナー 2015/5/23 宇和島市
病診薬連携システム構築と運用～薬剤師連携を中心に～	小枝伸行	中小・療養・精神病院部門合同企画研修会 2015/5/30 徳島市
病院と薬局の連携を考える～連携システムと病院の動向～	小枝伸行	平野区・東住吉区薬剤師合同研修会 2015/6/6 大阪市
医療業界の動向と医療情報～薬を中心に～	小枝伸行	大阪市立大学大学院創造都市研究科 知識情報基盤分野ワークショップセミナー 2015/6/30 大阪市
地域連携システムの基礎知識	小枝伸行	第4回金毓薬業連携研究会 2015/7/11 名古屋市
期待される在宅医療における薬剤師業務の実践～様々な立場から薬剤師の在宅医療を語る～	小枝伸行	日本在宅医療薬学会シンポジウム 2015/7/19 千葉市
医療情報技師とダブルライセンス	小枝伸行	日本医療情報学会関西支部 Meet the Experts 第2回 2015/7/24 大阪市
お薬と薬剤師～小児薬物療法を中心に～	小枝伸行	八尾市教育サポートセンター(出前講座) 2015/7/30 八尾市
薬剤師の地域連携-ICTを中心に～	小枝伸行	兵庫県病院薬剤師会西播磨支部学術集会 2015/8/20 姫路市
薬剤師の情報連携・情報共有～リスク回避のためのマネジメント～	小枝伸行	第165回始良地区薬剤師研修会 2015/10/16 始良市
大阪府と八尾市立病院でのがん診療連携クリティカルパスとレジメンを考える	小枝伸行(シンポジスト)	第16回日本クリニカルパス学会 2015/11/13 浦安市
シンポジウム5 急性期公立病院から慢性期医療の未来を考える	小枝伸行(シンポジスト)	第25回日本医療薬学会年会 2015/11/21 横浜市
八尾市における病診薬連携による在宅医療の推進と課題	小枝伸行	第2回在宅医療推進ワークショップ 2015/11/28 高槻市
知っておきたい薬の知識	小枝伸行	第6回医師事務作業補助研究会第6回大阪地方会 2016/1/16 吹田市
シンポジウム 医療情報システムと安全管理「薬剤オーダーにおけるエラーファクター」	小枝伸行(シンポジスト)	第37回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2016/1/23 神戸市
再構築！DI業務！！	小枝伸行	大阪府病院薬剤師会第5支部研修会 2016/2/12 大阪市
八尾市立病院におけるICTを利用した地域医療ネットワークの現況報告	小枝伸行	第9回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会シンポジウム1 2016/2/27 大阪市
広報ツールを活用した地域医療連携の強化～八尾市立病院での事例紹介～	門井洋二	地域医療連携セミナー 2015/12/15 大阪市

(5)院内研修会

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
結核についての基礎知識と感染対策	服部英喜	院内感染対策講演会 2015/10/29 北館5階大会議室
頭痛・意識障害	大江洋介	平成27年度レジデント・レクチャー 2015/10/1 八尾市
看護部院内研修(ステップⅡ) ～フィジカルアセスメント:消化器～	宮城琢也	2016/3/11 8階西病棟
平成27年度消化器内科病棟勉強会	消化器内科医師	2015/12～2016/3 8階西病棟
研修医勉強会:急性腹症①	前川祐樹	レジデントレクチャー 2015/7/30 1階102会議室
研修医勉強会:急性腹症②	中村昌司	レジデントレクチャー 2015/8/6 1階102会議室
不整脈・心不全の診かた	渡部徹也	研修医勉強会 2015/6/17 北館5階大会議室
フィジカルアセスメント	渡部徹也	看護師勉強会 2015/7/28 1階102会議室
八尾市立病院における形成外科診療	三宅ヨシカズ	第38回八尾市立病院公開講座(出前講座) 2015/07/18 山本コミュニティーセンター
治療中のアクシデントが重なり救済できなかった症例	三宅ヨシカズ	第20回南大阪Surgical Flaps研究会 パネルディスカッション 2016/2/28 大阪市
中枢神経浸潤をきたした悪性リンパ腫	服部英喜	第2回がんサージカルボード 2015/11/09 北館5階大会議室
新生児蘇生講習会 Aコース 講義・実技	道之前八重	新生児蘇生講習会 Aコース 2015/6/10・6/20 1階101会議室・5階西病棟
新生児蘇生講習会 Aコース 講義・実技	道之前八重	新生児蘇生講習会 Aコース 2016/2/5・2/6 1階101会議室・小児科外来処置室
研修医勉強会:ショック・血液ガスの読み方	池田嘉一	レジデントレクチャー 2015/5/22 1階102会議室
麻酔全般について(総論)	橋村俊哉	2015/5/1 3階手術室
麻酔器点検、麻酔器の使い方について	橋村俊哉	2016/2/23 3階手術室

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
第80回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 臨床研修医 木田 光則 外科 山本 陽子 病理解説 臨床研修医 新子 祐介 病理診断科 竹田 雅司	2015/7/1 北館5階大会議室
第81回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 臨床研修医 井上 創輝 消化器内科 福井 弘幸 病理解説 臨床研修医 桑原 冨 病理診断科 西岡 陽介	2015/8/5 1階101会議室
第82回院内CPC	司 会 副院長 福井 弘幸 症例提示 臨床研修医 峯 健太朗 消化器外科 橋本 安司 病理解説 臨床研修医 長岡 達朗 病理診断科 西岡 陽介	2015/9/2 1階101会議室
ESD(8階西病棟看護師勉強会)	上田高志	2015/1/29 1階102会議室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	浅岡伸光	研修医超音波研修 2015/5/29 2階超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査の基礎とハンズオン	寺西ふみ子	研修医超音波研修 2015/5/29 2階超音波検査室
院内研修 心臓超音波検査の基礎の講義とハンズオン	寺西ふみ子	研修医超音波研修 2015/6/4 2階超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査のハンズオン	細井亮二	研修医超音波研修 2015/5/29 2階超音波検査室
院内研修 心臓超音波検査の基礎の講義とハンズオン	細井亮二	研修医超音波研修 2015/6/4 2階超音波検査室
院内研修 腹部超音波検査ハンズオン講師	駒 美佳子	研修医超音波研修 2015/5/29 2階超音波検査室
新卒・中途採用者向け輸液・シリンジポンプ講習会 テルモ輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱説明会	中生、白石、島 テルモ 土屋氏	2015/4/7 1階101会議室
ハイスピードドリル マイダスレックスMR7 取扱説明	日本メトロニック 小倉氏	2015/5/11 3階手術室
PACS選定にあたりデモ	富士通 PSP	2015/5/21 北館5階大会議室
PACS選定にあたりデモ	富士通 PSP	2015/5/28 北館5階大会議室
ベネット840 オプションモード説明(Neo NeoUG VC+)	コヴィディエンジャパン 碓村氏	2015/6/10 3階ICU
通院治療センター バイタルボックス 輸液ポンプ取扱説明	エーアンドデイ 高岡氏 テルモ 土屋氏	2015/6/15 4階通院治療センター
通院治療センター 輸液ポンプ取扱説明	テルモ 土屋氏	2015/6/16 4階通院治療センター
通院治療センター バイタルボックス 取扱説明	エーアンドデイ 高岡氏	2015/6/17 4階通院治療センター
ベネット840 オプションモード説明(Neo NeoUG VC+)	コヴィディエンジャパン 碓村氏	2015/6/24 3階ICU
透析の基礎	ニプロ 吉田氏	2015/7/8 7階東病棟
透析の基礎	ニプロ 吉田氏	2015/7/9 7階東病棟
除細動器の取扱い説明	上之修治	2015/7/13 1階救急外来
除細動器の取扱い説明	日本光電 西口氏	2015/7/14 1階救急外来
ハイスピードドリル マイダスレックスMR7 取扱説明	日本メトロニック 小倉氏	2015/7/17 3階手術室
結石破碎装置勉強会	すみれ医療 高橋氏	2015/7/28 1階MEセンター
ラジカル7取扱説明会	マシモジャパン 岡田氏	2015/7/31 6階NICU
個人情報に関する研修	中生浩之	2015/8/20 1階MEセンター
平成27年度新人研修	臨床工学技士 長山俊明	2015/8/21 1階101会議室
ホルミウムレーザー取扱説明	ドルニエドテック 下田氏	2015/9/25 3階手術室
サイバップ取扱説明	近畿エアウォータ 磯野氏	2015/10/27 6階NICU
ビジレオモニター取扱説明	エドワーズライフサイエンス 古川氏	2015/10/29 1階MEセンター
ASV勉強会	帝人在宅医療株式会社 前田氏	2015/11/10 1階102会議室
O2ブレンダー	イワキ株式会社 岡田氏	2015/11/11 6階NICU
フローセンサー取扱説明	アイ・エム・アイ 小川氏	2015/11/12 1階MEセンター
除細動器の取扱い説明	日本光電 西口氏	2015/11/20 3階手術室
低圧持続吸引器	住友ベークライト 喜多氏	2015/12/2 1階MEセンター
DRシステム勉強会	富士フィルムメディカル ユニカミフルタヘルスケア	2015/12/11 2階放射線科
液状化検体細胞診システム取扱説明	ロシュ・ダイアグノスティックス 安田氏	2015/12/14 3階病理部

セッション名	司会・座長	研修会名、日時、会場(都市)
クリオスタート取扱説明	ライカマイクロシステムズ 坂口氏	2015/12/24 3階病理部
放射線治療ソリューション患者DB/COCOA操作説明	三菱インフォメーションシステムズ 村田氏	2016/2/8 2階放射線科
放射線治療ソリューション患者DB/COCOA操作説明	三菱インフォメーションシステムズ 村田氏	2016/2/8 2階放射線科
放射線治療ソリューション患者DB/COCOA操作説明	三菱インフォメーションシステムズ 村田氏	2016/2/9 2階放射線科
放射線治療ソリューション患者DB/COCOA操作説明	三菱インフォメーションシステムズ 村田氏	2016/2/10 2階放射線科
人工呼吸器製品説明	東機質 江添氏	2016/2/18 1階MEセンター
手術台の製品説明	ミズホ 宇佐美氏	2016/2/25 1階MEセンター
経腸栄養ポンプ取扱説明	コヴィディエンジャパン 畔上氏	2016/3/2 1階MEセンター
ミルクウォーマ取扱説明	三田理化工業 田中氏	2016/3/7 5階西病棟
ミルクウォーマ取扱説明	三田理化工業 田中氏	2016/3/7 6階西病棟
経腸栄養ポンプ取扱説明	コヴィディエンジャパン 畔上氏	2016/3/9 1階MEセンター
セントラルモニター取扱説明	日本光電 西口氏	2016/3/24 7階西病棟
搬送用保育器取扱説明	アトムメディカル 美木氏	2015/3/25 6階NICU
弾性ストッキング、AVインパルスの特瘡防止の巻き方等について	アルケア 大西氏 日本メディカルネクスト 明比氏 佐野氏	2016/3/29 全病棟
「がん相談支援センターについて」、「当院での臨床心理士の活動」	大和裕香、外堀直子	研修医オリエンテーション 2015/4/6 1階103会議室
メンタルケア- よりよいコミュニケーションとは -	外堀直子	看護部・新規採用者研修 2015/4/7 1階101会議室
当院での臨床心理士の活動	外堀直子	大阪教育大学生実習指導 2015/8/13-14 2階相談室
自己理解を深める-よりよいコミュニケーションのために-	外堀直子	看護部・プリセプター研修 2015/10/16 1階101会議室
コミュニケーションを考える	外堀直子	看護部・実地指導者研修 2015/11/13 1階101会議室
基礎疾患に応じた褥瘡の栄養管理	早川裕起子	褥瘡対策セミナー 2016/2/1 八尾市
当院の食事と補助食品の選択	早川裕起子	NST勉強会 2016/2/12 八尾市
『パレプラス輸液』製品説明	陽進堂	2015/4/14 薬務室
造影剤の薬理と安全性について	コニカミノルタ	2015/5/14 薬務室
高齢者疑似体験・貼り方勉強会	久光製薬	2015/5/19 薬務室
『タケキャブ錠』製品説明	武田薬品工業	2015/5/26 薬務室
『ミダフレッサ静注0.1%』製品説明	アルフレッサファーマ	2015/6/3 薬務室
『リツキサン注』製品説明	全薬工業	2015/6/24 薬務室
『サイラムザ』製品説明	イーライリリー	2015/6/30 薬務室
『ソバルディ錠』製品説明	ギリアド・サイエンシズ	2015/7/30 薬務室
心房細動(薬物)治療ガイドラインについて①	トーアエイヨー	2015/8/4 薬務室
心房細動(薬物)治療ガイドラインについて②	トーアエイヨー	2015/9/10 薬務室
『ワントラム錠』製品説明	ファイザー	2015/10/7 薬務室
『イグザレルト錠』深部静脈血栓症に対する適応追加	バイエル薬品	2015/10/14 薬務室
『ハーボニー配合錠』製品説明	ギリアド・サイエンシズ	2015/10/28 薬務室
『ハイゼントラ20%皮下注』製品説明	CSLベリング	2015/11/4 薬務室
COPD治療薬アノロ・エンクラッセの製品説明	グラクソ・スミスクライン	2015/11/17 薬務室
2015年制吐薬適正使用ガイドラインについて	大鵬薬品工業	2015/11/26 薬務室
抗PD-1抗体『オブジーボ』製品説明	小野薬品	2016/1/26 薬務室
『ライゾデグ配合注フレックスタッチ』製品説明	ノボルディスクファーマ	2016/2/9 薬務室
大腸がん・肺がんにおけるベンチマーク	小枝伸行	第2回がんサーボード八尾 2015/11/9 北館大会議室

(6)学会司会

セッション名	司会	学会名、日時、会場(都市)
肝 転移性肝癌4	佐々木洋	第115回日本外科学会定期学術集会 2015/4/16-18 名古屋市

セッション名	司会	学会名、日時、会場(都市)
手術手技・肝切除3	佐々木洋	第70回日本消化器外科学会総会 2015/7/15-17 浜松市
パネルディスカッション:外科診療における病診・病病連携の現状と今後の在り方	佐々木洋	第77回 日本臨床外科学会総会 2015/11/26-28 福岡市
肝臓外科のドレーンの管理2	佐々木洋	第27回日本肝胆膵外科学会学術集会 2015/6/11-13 東京都
地域連携20	佐々木洋	第17回日本医療マネジメント学会 2015/6/12-13 大阪市
ワークショップ:・肝癌に対する治療効果判定基準の現状と課題	佐々木洋	第51回日本肝癌研究会 2015/7/23-24 神戸市
シンポジウム:Ablation手法の見直し	佐々木洋	第34回Microwave Surgery研究会 2015/9/11-12 東京都
シンポジウム:シミュレーションから見た肝亜区域の新たな考え方	佐々木洋	第10回肝癌治療シミュレーション研究会 2015/9/26 東京都
主題関連S-1-5	佐々木洋	第37回日本癌局所療法研究会 2015/7/10 千葉市
一般演題	横山茂和	第599回大阪外科集談会 2015/7/18 大阪市
セッションⅢ 座長	道之前八重	第118回日本小児科学会奈良地方会 2015/10/11 橿原市
一般演題 座長	濱田匡章	第31回大阪食物アレルギー懇話会 2015/10/24 大阪市
特別講演 座長	濱田匡章	第54回中河内小児科談話会 2015/12/12 大阪市
DPP-4阻害薬	木戸里佳	第52回日本糖尿病学会近畿地方会 2015/11/14 京都市
中河内Pharmacy Seminar 「薬剤師による医療マネジメント」 松下記念病院 薬剤部 部長 平田 敦宏 先生	山崎 肇	2015/10/1 大阪市(薬業年金会館)
大阪府病院薬剤師会中河内支部研修会 (一般講演)抗がん剤の安全な取り扱い	長谷圭悟	2016/3/25 大阪市(薬業年金会館)
大阪府病院薬剤師会中河内支部研修会 (特別講演)がん患者さんの苦しみを聴く	長谷圭悟	2016/3/25 大阪市(薬業年金会館)
導入/運用ノウハウ事例発表会 薬剤	小枝伸行	電子カルテフォーラム「利用の達人」&地域医療ネットワーク研究会合同企画 2015/9/5 東京都
シンポジウム15 処方箋記載の標準化を考えるー臨床現場の課題と業界の動向についてー	小枝伸行	第25回日本医療薬学会年会 2015/11/21 横浜市
シンポジウム40 薬剤師が参加する地域医療ネットワークの今後の展望ーがん領域を中心に薬剤師が適切な薬学的介入を行うためにー	小枝伸行	第25回日本医療薬学会年会 2015/11/23 横浜市
第4回薬薬連携協議会研修会 一般演題「院外処方箋への臨床検査値の表示に至った経緯と現状 検査値を利用した服薬指導」	小枝伸行	第4回八尾薬薬連携協議会研修会 2016/2/13 大阪市
ITで支えるがん薬物療法の世界ー次世代へ繋げるトークセッションー	小枝伸行	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016 2016/3/13 鹿児島市
中小病院の薬剤師が知っておきたい地域医療構想(ビジョン)の動向と今後	小枝伸行	大阪府病院薬剤師会小規模委員会研修会 2016/3/24 大阪市

編集後記

平成 28 年 4 月に熊本県を震源とする震度 7 の地震が発生し、年報編集作業中の 5 月現在でも余震が断続して発生しています。熊本県や大分県など被災された地域の皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い地震活動の終息と被災地の復興を祈念いたします。

さて、今年もみなさまに八尾市立病院年報（平成 27 年度、第 28 号）をお届けいたします。平成 27 年度は、4 月から佐々木洋先生が総長に、星田四朗先生が病院長に就任され、病院として新たな体制がスタートしました。また、新たに国から地域がん診療連携拠点病院に指定されたほか、昨年度から進められていた病院機能拡充のための施設整備が完了し、血管撮影装置や放射線治療装置など大型医療機器の更新も行われました。ハード、ソフトの両面で診療環境が充実してきており、今後のがんや循環器疾患をはじめとした診療の質の向上に取り組んでいきたいと思えます。

末尾にはなりますが、今回も年報発行にあたり病院内の各部署のみなさま方の多大なご協力をいただきました。編集委員一同、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

編集委員長 田中 一郎

年 報 編 集 委 員 会

編集 委員長	田 中 一 郎	副院長
編集 副委員長	山 内 雅 之	事務局次長
編集 委 員	大 江 洋 介	内科部長
	上水流 雅 人	中央手術部部長兼泌尿器科医長
	長 谷 圭 悟	薬剤部長補佐
	平 井 良 介	放射線技師長
	千 種 保 子	看護部次長
	山 本 恵 郎	S P C (MS)
	原 田 美永子	S P C (協力企業)
	坂 手 亜衣子	企画運営課主査
編集事務担当	坂 手 亜衣子	企画運営課主査
	山 本 恵 郎	S P C (MS)



平成28年（2016年）12月発行

- 編集・発行 八尾市立病院 年報編集委員会
〒581-0069 八尾市龍華町 1-3-1
TEL (072)922-0881(代)
- ホームページ:<http://www.hospital.yao.osaka.jp/>
刊行物番号 H 2 8—7 2